

花王
サステナビリティ
データブック

2018



kaO

目次

このPDFの使い方	3
編集方針	4
トップメッセージ	5
心地よく過ごすことがecoにつながる、 未来の容器	6
花王サステナビリティ ステートメント	8
主なサステナビリティ指標	15

2017年の活動報告

エコロジー

環境への取り組み	19
CO ₂	27
水	36
化学物質管理	43
生物多様性	55
廃棄物	60
容器包装	66
製品ライフサイクルと環境負荷	71
環境会計	73

コミュニティ

品質保証	76
ユニバーサルデザイン	82
消費者とのコミュニケーション	88
法人顧客とのコミュニケーション (コンシューマープロダクツ事業)	94
法人顧客とのコミュニケーション (ケミカル事業)	98
法人顧客とのコミュニケーション (プロフェッショナル・サービス事業)	103
社会貢献活動	108

コーポレート・カルチャー

企業理念の実践のために	117
インテグリティ	121
人権	130
持続可能で責任ある調達	134
人財開発の全体像	143
人財育成	145
ダイバーシティ&インクルージョン	148
社員との対話	155
健康	158
労働安全衛生	165
保安防災	170

ガバナンス




コーポレート・ガバナンス	176
レスポンシブル・ケア活動	184
リスクと危機の管理	191
情報開示	195
情報セキュリティ	200
知的財産の保護と権利活用	207

外部表彰	211
独立保証報告書	213
GRI Standards 対照表	214
ISO26000対照表	221
調査用インデックス	223



このPDFの使い方

ページ間を移動しやすいよう、各ページの右側にナビゲーションボタンとカテゴリータブ、目次ボタンを設けています。
本文には関連するページや外部サイトへのリンクボタンを設けています。

ナビゲーションボタン

	クリックすると1ページ戻ります
	クリックすると1ページ進みます
	クリックすると直前に表示していたページに戻ります

リンクボタン

	クリックすると本データブック内の関連するページに移動します
	クリックすると関連する外部サイトに移動します

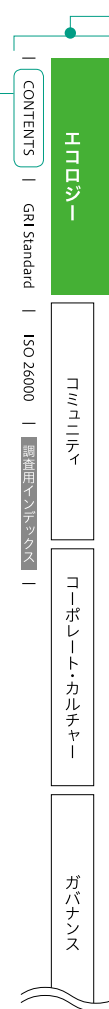
カテゴリータブ

クリックすると目次を表示します

目次
このPDFの使い方
編集方針
トップメッセージ
心地よく過ごすことがecoにつながる、未来の容器
花王サステナビリティ ステートメント
主なサステナビリティ指標
2017年の活動報告
エコロジー
コミュニティ
コーポレート・カルチャー
ガバナンス
外部表彰
独立保証報告書
GRI Standards対照表
ISO26000対照表
調査用インデックス

タイトルをクリックすると、該当のページの冒頭に移動します

クリックすると各カテゴリーの冒頭ページに移動します



エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

編集方針 102-48,102-50,102-51,102-52, 102-56

花王は、2017年より「花王統合レポート」を発行し、花王の価値を総合的に判断いただくことをめざしています。

「花王サステナビリティ データブック」は、「花王統合レポート」を補完するもので、社会のサステナビリティ(持続可能性)への貢献に向けたさまざまな取り組みを、詳細なパフォーマンスデータと共に記載しています。

対象範囲

花王グループ(花王株式会社および子会社、関連会社)を基本としていますが、環境・社会関連のデータについては花王株式会社および子会社を集計範囲としています。

掲載するデータについて、集計範囲が異なる場合は、文中に明記しました。

本データブック中の「花王」は、花王グループを示しています。範囲を特定する必要がある場合は、個別に対象組織名で記載しています。

対象組織



→花王グループ会社一覧
<http://www.kao.com/jp/corporate/about/outline/group-companies.html>

対象期間

2017年度


(2017年1月1日～2017年12月31日)

定性情報については、一部2018年度の活動内容を含みます。

国際会計基準(IFRS)の適用について

2016年度から国際会計基準(IFRS)を適用しています。データブック内の売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

第三者保証

2003年から継続して第三者保証を受けています。本データブックではKPMG あずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。なお、保証対象指標には  **マーク** を表示しています。保証対象指標の一覧は、「[GRI Standards 対照表](#)」に掲載しています。

発行時期

発行日 2018年4月17日

次回発行予定 2019年4月

(前回発行日 2017年5月1日)

参考にしたガイドラインなど

● GRI

「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」

※各ページのタイトルに、関連するGRI項目番号を記載しています

● 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

「環境会計ガイドライン2005年版」

● 一般社団法人日本化学工業協会

「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」

● ISO26000(社会的責任に関する手引)

花王のコーポレートコミュニケーションツール一覧



→花王統合レポート 2018
<http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/investor-relations/pdf/reports-fy2018j-all.pdf>

→花王サステナビリティ データブック2018(本データブック)
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/databook/>

→コーポレート・ガバナンスに関する報告書
<http://www.kao.com/jp/corporate/about/policies/corporate-governance/>

→有価証券報告書
<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/securities/>

→株主のみなさまへ
<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/business/>

グローバルで存在感のある 企業をめざして。

花王グループは、企業理念である「花王ウェイ」をすべての活動の根幹に据え、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ(持続可能性)に貢献することを使命としています。

1887年の創業以来、清潔で美しく健やかな暮らしに役立つコンシューマープロダクツ事業と、さまざまな産業界の発展に寄与するケミカル事業において、世界の皆さまに製品をお届けしてまいりました。

2017年度には、さらにグローバルで存在感のある企業となることをめざして、「特長ある企業イメージの醸成」「利益ある成長」「すべてのステークホルダーへの還元」の3つにこだわった、花王グループ中期経営計画「K20」をスタートさせました。あわせて、社会の持続的成長への貢献をめざし、環境(Environment)、社会(Society)、ガバナンス(Governance)のESGの取り組みも進めております。

花王グループは、これからも、時代や暮らしの変化を見据え、常に生活者に寄り添う、心をこめた“よきモノづくり”を通じて、人と地球の未来の“きれい”のために取り組んでまいります。

花王株式会社 代表取締役 社長執行役員

澤田道隆



Pick up story

心地よく過ごすことが ecoにつながる、未来の容器

花王が日本のご家庭一軒当たりにお届けする製品は、一年間に平均40個。これらの製品の容器を通じて、花王は、心地よい暮らしと環境へのやさしさを両立していきます。



「つめかえ」を「つけかえ」てバスタイムを演出

日本の暮らしにすっかりおなじみになったつめかえ用製品。本体に比べて手ごろな値段で入手できたり、手元にある本体容器を利用できるなどのメリットがあります。また、つめかえたら小さく丸めて捨てられるので、家庭のごみを減らすことにもつながります。

花王が最初のつめかえ用製品を発売したのは1991年です。その品数は年々増え、2017年12月時点で289品目にのぼっています。さまざまな改良を経て、2016年には、液残りが少なく、より簡単につめかえることができる「ラクラク eco パック」を発売しました。「ラクラク eco パック」は、バスルームで使う製品のつめかえ

として、いろいろなブランドで採用しています。

さらに、この「ラクラク eco パック」を差し込み、つけかえて使うスマートホルダーも登場しました。スマートホルダーはスリムボトルでごちゃごちゃしがちなお風呂場をスッキリ見せることができ、ホルダーのデザインを好みに合わせて選ぶこともできるので、バスタイムをさらに心地よく過ごすことができます。



スマートホルダーの使い方

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

環境にもやさしいつめかえ

製品の容器はプラスチック製のものが多く、プラスチックの原材料の多くは石油由来です。石油由来のプラスチックは、燃やすと発生する二酸化炭素が地球温暖化につながるなど、環境問題と密接に関係しています。そこで花王は、つめかえ用製品を通じて、石油由来プラスチックの使用量を少なくする努力を進めています。

つめかえ用製品は、本体容器より、容器に使うプラスチックの量を大幅に少なくすることができます。たとえば、つめかえ用製品が増えたことで、2017年は92.3千トンのプラスチックを削減することにつながりました。また、容器の原材料を植物由来に変えることで、石油由来のプラスチックを少なくする方法もあります。「ラクラクecoパック」では、容器の重量の15%に植物由来のプラスチックを使用しています。



環境配慮と使いやすさを両立した「ラクラクecoパック」

心地よく過ごしながら eco それが未来の容器

環境にやさしい容器だからといって、我慢して使うのでは長続きしません。「ラクラクecoパック」は、コンパクトで倒れにくい形なので収納しやすい、注ぎ口にボトルがしっかりとハマって安定するからこぼさずにつめかえしやすいなど、使い勝手も両立しています。さらに、スマートホルダーを使えばつめかえ用製品がそのまま使えてつめかえの手間すら省くことができます。

自分の好みに合わせて選んだ容器でバスタイムを楽しみながら、環境にもやさしい暮らしにつながります。



心地よい暮らしを、環境にやさしい容器で実現

花王の製品は、バスルーム以外にも、ご家庭のさまざまな場面で使用されています。「ラクラクecoパック」もスマートホルダーも、まだまだ進化の途中で、ゴールではありません。心地よく過ごすことが実はecoになる。花王は今後も、さまざまな容器を通じて、そんな未来を実現していきます。

Voice

開発担当者の声

日本では多くのつめかえ・つけかえ容器が店頭に並んでいますが、世界ではまだそれほど多くありません。プラスチック使用量を減らし、大切な資源を有効に使いたい。そのためにも、この未来の容器を世界にも広げていきたいと考えています。



「Pick up」バックナンバーはこちらをご覧ください

→ Pick up Vol. 1 「毎日の暮らしの中で、子どもたちを守る清潔習慣づくり」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/pickup/pickup-1/>

→ Pick up Vol. 2 「6年分のありがとう。小学校卒業前の大そうじ。」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/pickup/pickup-2/>

花王サステナビリティ ステートメント 102-15,102-16

花王は2018年に「花王サステナビリティ ステートメント」の見直しを行ないました。

「エコロジー」「コミュニティ」「コーポレート・カルチャー」の3つの領域において、重点取り組みテーマを選定し、花王が取り組む社会的課題を明確にしました。

サステナビリティ活動を支える理念

花王ウェイ

企業理念である花王ウェイでは「心をこめた“よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献すること」を花王の使命としています。

この使命のもと、私たちは全員の熱意と力を合わせ、清潔で美しく健やかな暮らしに役立つ商品と、産業界の発展に寄与する工業用製品の分野において、消費者・顧客と共に感動を分かち合う価値ある商品とブランドを提供していくことを宣言しています。



→「花王ウェイ」

<http://www.kao.com/jp/corporate/about/policies/kaoway.html>

花王サステナビリティ ステートメント

これらに基づき、社会のサステナビリティへの貢献に向けた花王としての考え方、何に取り組むのかを示した「花王サステナビリティ ステートメント」を2013年に策定しました。

サステナビリティに関する国際社会の変化や中期経営計画「K20」の達成に向け社内を進めてきた議論を踏まえ、2018年に「花王サステナビリティ ステートメント」を見直しました。社会のサステナビリティへの貢献に対する基本的な考え方をよりわかりやすく伝えており、取り組む社会的課題を明確な形で示しています。

花王サステナビリティ ステートメント

花王は、世界の人々の喜びと満足のある豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティ(持続可能性)に貢献することを使命としています。

私たちは、現在も、そして未来も人々の暮らしに寄り添い、

企業活動全体を通して誰もが気持ちよく暮らせる社会をめざします。

さらに、さまざまなステークホルダーと共に社会的課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

9つの重点取り組みテーマ



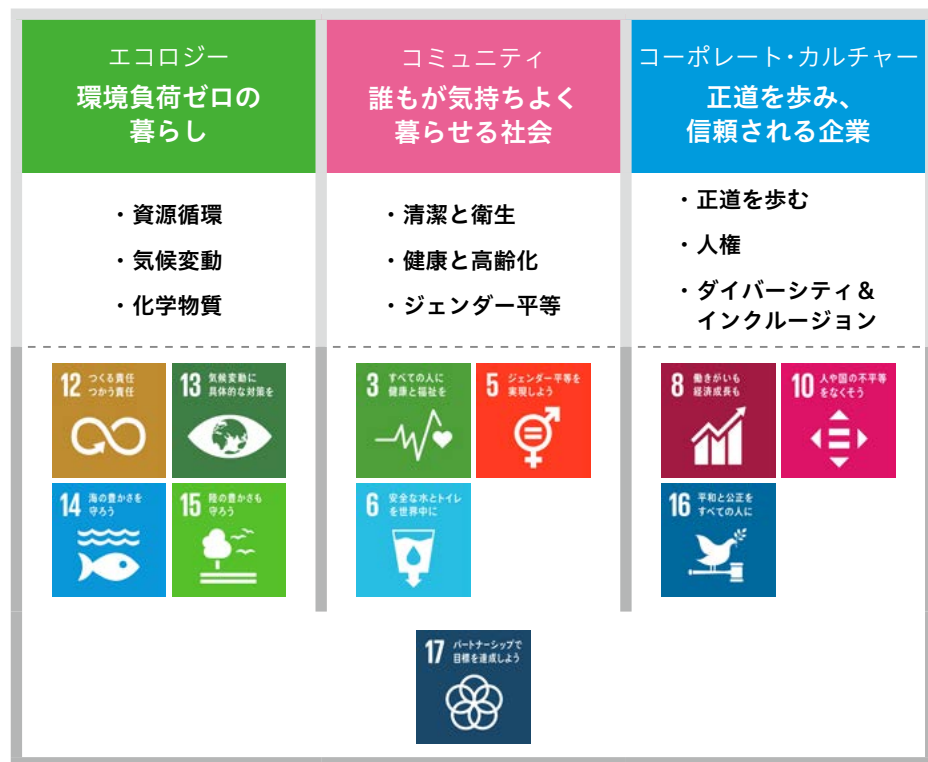
花王サステナビリティ ステートメント 102-11,102-12

SDGsへの貢献

2030年に向け、持続可能な社会を実現するための指標として国際社会で合意された「持続可能な開発目標(SDGs)」は、経済、社会、環境の統合的向上を打ち出しており、企業の貢献は非常に重要であると考えられています。

花王が定めた重点取り組みテーマは、SDGsの17の目標のうち、下記の目標の達成への寄与をめざしています。

9つの重点取り組みテーマと貢献するSDGs



具体的な活動

9つの重点取り組みテーマにつき、次のような活動項目を定め、活動を推進しています。

エコロジー 環境負荷ゼロの暮らし	コミュニティ 誰もが気持ちよく暮らせる社会	コーポレート・カルチャー 正道を歩み、信頼される企業
資源循環 <ul style="list-style-type: none"> バイオマスの高度使用 プラスチック使用量の削減 水使用量の削減 リサイクルの推進 	清潔と衛生 <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに向けた清潔習慣の啓発 飲食店、病院、学校、施設における衛生管理の啓発と支援 	正道を歩む <ul style="list-style-type: none"> 法令・ルールの遵守 持続可能で責任ある調達
気候変動 <ul style="list-style-type: none"> 自社活動の低CO₂化 ライフサイクルCO₂排出量の削減と削減貢献の最大化 さまざまなステークホルダーとの環境に関するエンゲージメントの推進 	健康と高齢化 <ul style="list-style-type: none"> 誰もが使いやすい製品デザインの推進 健康増進や病気予防のための情報提供や啓発 高齢者の生活を支援する製品やサービスの開発と提供 	人権 <ul style="list-style-type: none"> 人権デュー・ディリジェンスのレベルアップと対象拡大 事業に関連する人権状況改善への支援
化学物質 <ul style="list-style-type: none"> 製品ライフサイクルを通じた化学物質による人の健康や環境影響の最小化 ステークホルダーとの化学物質に関するリスクコミュニケーションの推進 	ジェンダー平等 <ul style="list-style-type: none"> 多様な人々にとって、家事を容易にする製品やサービスの提供 女性がすべてのライフステージにおいて、自信を高められるよう支援 	ダイバーシティ&インクルージョン <ul style="list-style-type: none"> 人材開発と組織開発 多様で効率的な働き方 社員の多様性 社員の健康、労働安全衛生

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

花王サステナビリティ ステートメント 102-29,102-46

重点取り組みテーマ選定

花王は、社内外の環境変化や社会的課題の変化を踏まえ、9つの重点取り組みテーマを選定しました。

1. 社会の状況の認識

2015年に国連総会においてSDGsが採択されました。2030年に向け、持続可能な社会の実現に向けた指標として国際社会が合意したものであり、国際社会全体が取り組むべき社会的課題であると認識されています。

2. 中期経営計画「K20」の策定

花王においても2017年に中期経営計画「K20」がスタートしました。「事業活動を通じた社会的課題の解決や社会貢献活動による“社会のサステナビリティへの貢献”と持続的な“利益ある成長”との両立により、グローバルで存在感のある会社「Kao」をめざします。」と宣言しています。

3. 課題の分析

花王は、こうした社会の変化や花王の事業計画、またステークホルダーからの期待や要請などのさまざま視点から、取り組むべき社会的課題を選定しました。

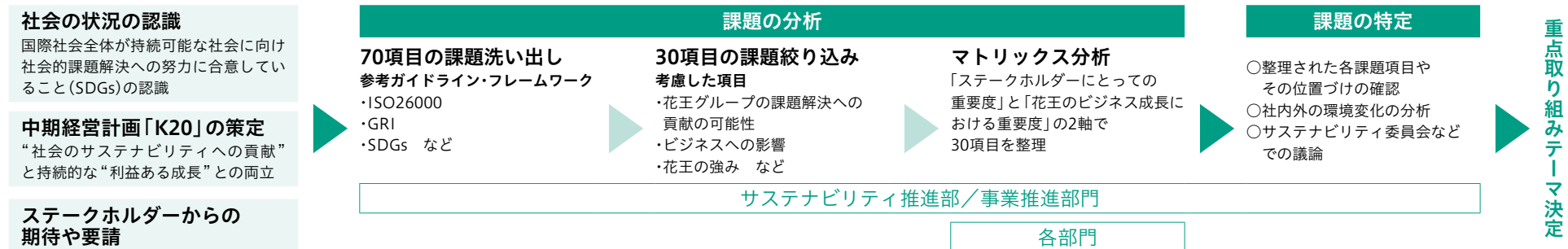
分析に当たっては、ISO26000(社会的責任に関する手引)、GRI(サステナビリティ・レポート・ガイドライン)、SDGsなど、さまざまな国際的ガイドラインやフレームワークが示す社会的課題をベースに約70項目をリストアップし、花王グループの課題解決への貢献の可能性、ビジネスへの影響、花王の強みなどを踏まえ、30項目に絞り込みました。

さらに、これらの項目を、事業部門、経営戦略、研究開発、購買、販売など社内の幅広い部門との議論と、事業成長やリスク管理、環境・社会面を踏まえ、「ステークホルダーにとっての重要度」と「花王のビジネス成長における重要度」の2軸で整理しました。

4. 課題の特定:9つのテーマを選定

整理された各課題項目やその位置づけの確認、さらには社内外の環境変化の分析、サステナビリティ委員会などでの議論を通じ、3つの領域それぞれで3つずつの社会的課題を選定し、重点取り組みテーマとしました。

重点取り組みテーマの選定プロセス



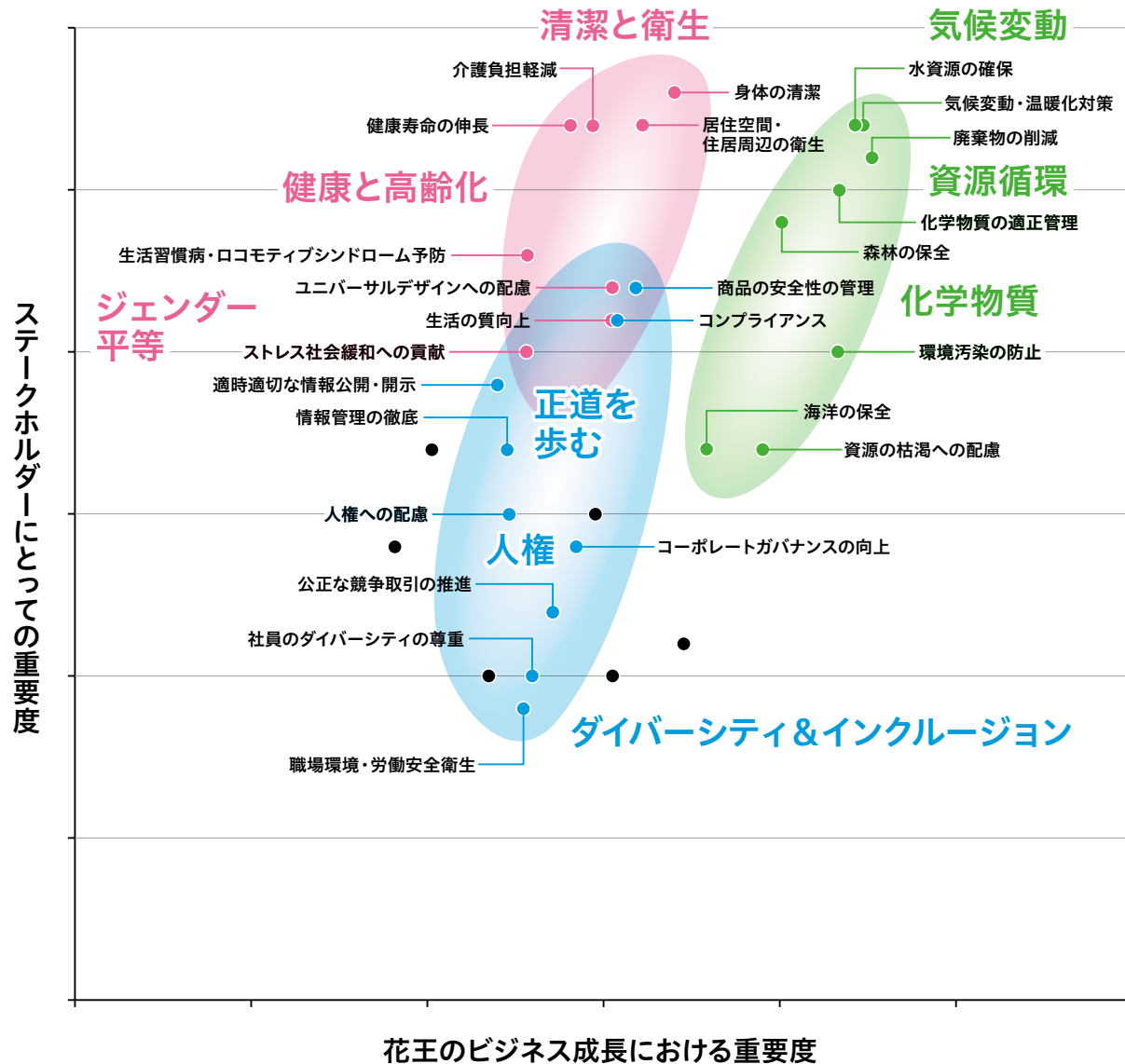
花王サステナビリティ ステートメント 102-47

エコロジーにおいては、天然資源の有効な活用や容器リサイクル、廃棄物削減などをめざす「資源循環」、温室効果ガスの削減に関わる「気候変動」、また化学物質を扱う会社としての責任を果たすため「化学物質」というテーマを選定しています。

コミュニティにおいては、1890年に発売した「花王石鹸」に示される花王グループの原点の一つ「清潔と衛生」、世界の人々の健やかな毎日を応援する「健康と高齢化」、そしてジェンダー格差の解消に貢献する「ジェンダー平等」を選定しました。

コーポレート・カルチャーにおいては、花王ウェイの基本となる価値観でもある「正道を歩む」、事業活動全体を通じてステークホルダーの人権を尊重する責任を果たす「人権」、多様な社員が能力を最大限発揮できる場を提供する「ダイバーシティ&インクルージョン」を選定しました。

重要項目マトリックス



→ Study on returns to Kao's stakeholders 2017
<http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/study-on-returns.pdf>
 ※2018年6月公開予定

花王サステナビリティ ステートメント 102-18,102-19,102-20,102-26

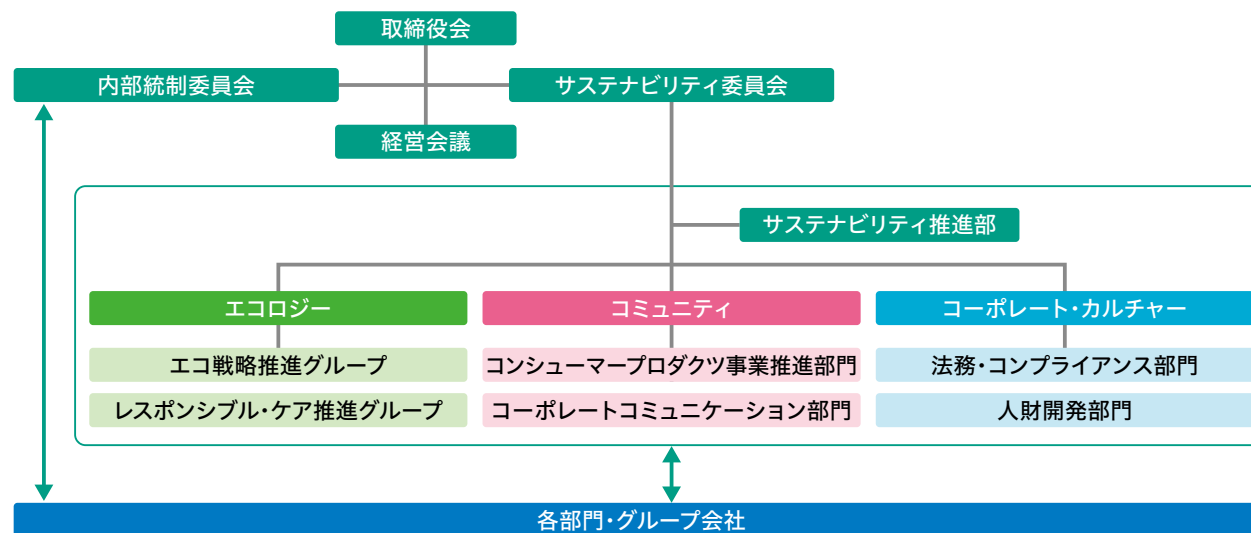
サステナビリティ推進体制

代表取締役 社長執行役員を委員長とするサステナビリティ委員会を設置して、花王グループのサステナビリティに関する活動の方向性を定めて推進しています。委員会では、必要に応じて体制の整備や推進計画の策定・更新を行ない、定期的なそれらを評価することで、グループ全体の活動も向上させています。

2017年のサステナビリティ委員会は、1月、4月、7月、11月に計4回開催しました。代表取締役3人に加え、研究開発部門、SCM部門、人財開発部門、品質保証本部、国際事業統括部門、会計財務部門、コーポレートコミュニケーション部門、経営サポート部門の各執行役員も委員として出席し、最適な花王グループのサステナビリティ方針・戦略および取り組みについて討議を行いました。

3つの重点領域においては、それぞれの担当部門が責任を持って目標を設定し、PDCAサイクルの運用により、グループ全体の活動をマネジメントしています。

サステナビリティ推進体制



エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

花王サステナビリティ ステートメント 404-2

社員への啓発

花王サステナビリティ ステートメントに基づいた活動を進めるためには、グループ社員全員がその考え方を十分に理解する必要があります。そのために2013年の花王サステナビリティ ステートメント発表以来、さまざまなアプローチで社員への啓発活動を行なっています。

2013年からイントラネットに、花王サステナビリティ ステートメントの理解を促進する情報を掲載しています。

各部門のリーダーがサステナビリティについての考えを寄稿する「サステナビリティ リレーエッセイ」を年4回、サステナビリティに関連する社会動向や自社他社の取り組みをわかりやすく紹介する「サステナ3分ウォッチング」を毎月、掲載しています。

2015年からは、これらを海外グループ会社のイントラネットでも英語で閲覧できるようにし、グループ全体でのサステナビリティ活動推進に向けた土台づくりのため、情報共有を進めています。

人財開発部門主催の研修を通じた啓発

花王のサステナビリティの考え方は、日々の業務を行なう上で周知しておかなくてはならない事項であるとの認識から、人財開発部門が主催する各種研修のプログラムにサステナビリティの単元を組み込んでいます。

2014年より、海外へ赴任する前の海外トップマネジメント研修で、サステナビリティの講義を実施しています。2017年までに13人が個別に受講しました。

さらに2016年より、新入社員導入時研修および中途入社社員向けのキャリア研修のプログラムで、サステナビリティの講義を実施しています。2017年の新入社員導入時研修では、日本のグループ会社の4月入社社員498人が受講しました。キャリア研修は年2回実施し、9月には32人、2018年2月には47人が参加しました。

また、海外グループ会社へ入社する社員向けのグローバル入社オリエンテーションプログラムにも、サステナビリティの考え方に関するコンテンツが組み込まれています。

社内報での紹介

花王グループの全社員向けに日本語・英語併記で年4回発行している社内報「KAO FAMILY」で、社員の花王サステナビリティ ステートメントの理解に役立つ記事を掲載しています。

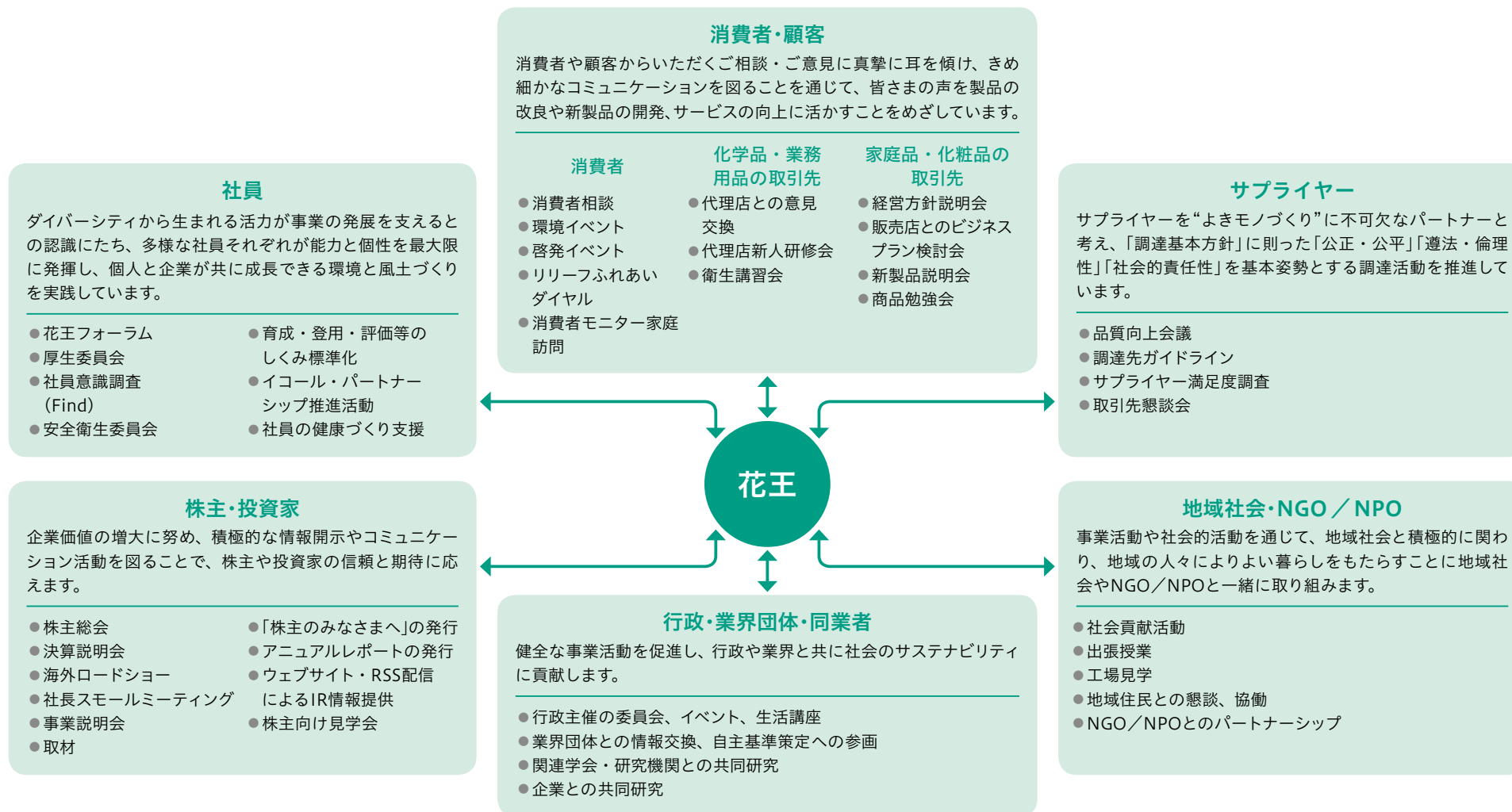
2013年のステートメント発表直後には、策定の背景や詳細内容の特集。2014年から毎年継続し、2017年も具体的な活動事例を紹介しました。



社内報「KAO FAMILY」での紹介

ステークホルダーコミュニケーション

花王はステークホルダーとの対話を通じて社会の要請をより深く理解し、活動内容と目標の策定に反映しています。



エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

主なサステナビリティ指標 103-2,103-3

花王はサステナビリティ指標を以下の通り定め、活動を推進しています。

エコロジー

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	目標	SDGs※7
			2013	2014	2015	2016	2017	2020		
環境	事業活動による環境負荷を最小化し、地球1個分の暮らしの実現に貢献									
		CO ₂ 排出量の削減率※1								
		(スコープ1・2)	▲27%	▲28%	▲29%	▲30%	▲31%	▲31%	▲35%	
		(全ライフサイクルベース)	▲14%	▲15%	▲17%	▲14%	—	▲14%	—	12 13
		(日本、全ライフサイクルベース)	▲18%	▲16%	▲17%	▲16%	—	▲15%	▲35%	
		水使用量の削減率※1								
		(花王グループ工場、オフィス全拠点)	▲33%	▲38%	▲43%	▲42%	▲38%	▲43%	▲40%	
		(全ライフサイクルベース)	▲16%	▲18%	▲21%	▲17%	—	▲19%	—	6 12
		(日本における消費者向け製品、製品使用时)	▲22%	▲22%	▲24%	▲22%	—	▲24%	▲30%	
		廃棄物等発生量の削減率※1								
		(花王グループ工場、オフィス全拠点)	▲28%	▲27%	▲27%	▲25%	▲31%	▲25%	▲33%	12
		“いっしょにeco”マーク表示製品売上比率※2	25%	27%	28%	29%	—	29%	—	6 9 12 13
		持続可能なパーム油の調達活動※3	—	—	PKO※3ミルまで追跡完了※4	PKO※3ミルまで追跡完了	PO※3ミルまで追跡	PO※3ミルまで追跡97%完了	農園まで追跡	15
	持続可能な紙・パルプの調達比率※5	—	—	96%	99%	—	99.8%	100%	15	
	社会への環境コミュニケーションにより環境活動を推進									
	環境コミュニケーション累積人数※6	—	24万人	46万人	69万人	82万人	91万人	100万人	12	
	SAICM推進活動を通して化学物質の適正な管理を推進し、持続可能な社会に貢献									
	花王優先評価物質の安全性要約書の公開件数	—	—	7件 (累計7件)	3件 (累計10件)	3件 (累計13件)	3件 (累計13件)	累計20件	3 12	
	ケミカル製品のGPS安全性要約書の公開件数	18件 (累計30件)	47件 (累計77件)	12件 (累計89件)	18件 (累計107件)	16件 (累計123件)	18件 (累計125件)	累計150件	3 12	

※1 原単位(売上高)、2005年基準

※2 日本における消費者向け製品、“いっしょにeco”マーク表示基準を満たした製品の売上比率
“いっしょにeco”マーク：
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/eco-friendly-products/eco-together-logo/>

※3 花王グループで使用使用するパーム油を農園まで追跡可能とする活動の進捗、PKO:パーム核油、PO:パーム油

※4 他社より購入せざるを得ない誘導体の中には、2015年末時点でミルまでのトレーサビリティが確認できていないものが残った

※5 花王グループで使用使用する再生紙または持続可能性に配慮した紙・パルプ、包装材料および事務用紙の購入比率

※6 出張授業、工場見学、環境イベントなどを通じた啓発者数、2014年からの累積人数

※7 SDGsの17目標中、花王グループの取り組みが寄与する目標の番号

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

主なサステナビリティ指標 103-2,103-3

コミュニティ

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	目標	SDGs
			2013	2014	2015	2016	2017	2020		
健康	健康啓発人数※8	肥満・生活習慣病を予防・改善し、健康的な社会の実現に貢献	—	161万人	261万人	231万人	290万人	292万人	—	3
		感染症などを予防し、衛生的な社会の実現に貢献	—	611万人	752万人	761万人	1,000万人	867万人	1,200万人	3 6 12
高齢化	ユニバーサルデザイン視点での改良品の累積数※10	高齢者の生活を支援し、心身共に健やかに年を重ねられる社会の実現に貢献	1,303	2,066	2,876	3,585	—	4,666	—	12
		ユニバーサルデザイン視点での改良実施率※10	79%	80%	91%	71%	—	63%	—	
コミュニティとのパートナーシップ	社員に対するボランティア活動や情報の提供件数	社会的活動を通じて地域の人々のより良い暮らしに貢献	126件	79件	71件	67件	70件	50件	80件	17
		社外向け情報発信を通じた啓発件数	100件	71件	99件	59件	60件	60件	80件	

※8 ウォーキングイベント・内臓脂肪測定イベント参加者数、QUPIO利用者数
 QUPIO:100万人分に及ぶ経年の健診データの集積と、東京大学との共同研究で得られた知見をもとに、健康増進・生活習慣病予防をサポートするためのプログラム

※9 日本およびアジアにおける、おむつ、手洗い、洗髪、清掃、洗濯、初経に関する啓発(啓発サンプリングや教育セットの配布含む)の対象者数

※10 ユニバーサルデザイン視点での改良品とは、接しやすさ(Accessibility)、安全(Safety)、使いやすさ(Usability)などの視点から改良した製品を表す。改良実施率は、新製品・改良品アイテム全数(品)に占めるユニバーサルデザイン視点での改良品数(品)比率。2015年までは日本国内、2016年は日本および米州、2017年は日本、米州、欧州(サロン、モルトンブラウン社を除く)が集計範囲

コーポレート・カルチャー

マテリアリティ	めざす姿	項目	実績				目標	実績	目標	SDGs
			2013	2014	2015	2016	2017	2020		
健全な事業活動	花王グループ全体への「正道を歩む」精神の浸透・定着	BCGテスト実施率	86.5%	87.2%	96.4%	97.5%	100%	97.1%	100%	16
		重大なコンプライアンス違反件数※11	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
ダイバーシティ&インクルージョン推進	社員の多様性尊重による、社員が生み出す価値の最大化	女性管理職比率	27.7%	27.6%	27.5%	25.4%※12	—	25.1%	30%※13	5
		女性管理職比率(日本)	10.5%	10.1%	10.4%	13.1%※12	—	14.6%	15%※13	5
		ダイバーシティ・マネジメント力の強化:マネジャー研修の累積受講率(日本)	—	—	—	8.2%	100%	55.7%	200%※14	10
社員の健康づくりと安全な職場づくり	社員全員の健康意識(ヘルスリテラシー)、安全意識の向上	健康増進プログラム参加のべ人数	—	—	—	31,885人	32,900人	36,259人	35,900人	8
		休業度数率※15	0.74※16	0.54	0.61	0.67	0.26以下	0.55	0.10以下	8

※11 花王グループの業務運営における重大な法令違反を社内にて定義して管理

※12 グループ一体運営の推進に伴い、2016年にマネジメントの定義を見直し

※13 特に2020年目標として設定しているものではないが、次のマイルストーンとして速やかに達成したい目標

※14 2016年からのマネジャー研修の累積受講率

※15 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

※16 グローバル生産・研究部門

2017年の活動報告

エコロジー	18
コミュニティ	75
コーポレート・カルチャー	116
ガバナンス	175
外部表彰	211
独立保証報告書	213
GRI Standards 対照表	214
ISO26000対照表	221
調査用インデックス	223

2017年の活動報告

エコロジー

環境への取り組み	19
CO ₂	27
水	36
化学物質管理	43
生物多様性	55
廃棄物	60
容器包装	66
製品ライフサイクルと環境負荷	71
環境会計	73

花王のアプローチ

花王は、原材料調達から開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルの全段階において、環境の保全と人の安全に十分な配慮をし、社会のサステナビリティに貢献しています。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は、「環境宣言」において4つの環境領域への対応を重要課題としています。CO₂、水、化学物質、生物多様性です。

これらの環境領域の選定にあたっては、次の要素を考慮しています。

- ①地球規模の人類共通の社会課題
- ②花王の事業が外部に及ぼす影響の大きさ

花王の製品は、製品ライフサイクルの全段階にわたって環境に影響を及ぼしています。そこで、上記の4つの環境領域を中心に、全段階での環境保全活動に取り組

むことが、本質的に重要だと考えています。

たとえば、使用段階の環境負荷を低減する節水型製品の提供は、この方針に基づいた代表的な取り組みです。このような全ライフサイクルの取り組みには、消費者、ビジネスパートナーや社会の皆さまとの協働が大切です。花王は“いっしょにeco”というスローガンを掲げ、皆さまとのコミュニケーションや協働を展開しています。

このライフサイクル視点に立った取り組みは容易ではありませんが、花王は社会に貢献する大きな価値を

生むと考えており、業界をリードする先進的な活動を推進していきたいと考えています。



→環境宣言 中期目標

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement/medium-term-objectives/>

貢献するSDGs



4つの重要課題



方針

花王は、製品ライフサイクル全体にわたり、ステークホルダーの皆さまと環境保全に取り組み、環境を経営の根幹に据える決意を「環境宣言」で表明しています。また、「環境・安全の基本理念と基本方針」で基本的方針を、「花王レスポンシブル・ケア方針」で活動方針を定めています。これらの方針はあらゆる事業活動に組み込まれています。



→環境・安全の基本理念と基本方針
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/philosophy-policies.html>

→環境宣言
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement.html>

→花王レスポンシブル・ケア方針
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html>

体制

花王レスポンシブル・ケア方針および推進体制や活動については、下記のページに掲載しています。



→P184「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動」

教育と浸透

花王の環境への取り組みについては、「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」にその行動規範を定めていますが、これを徹底し、さらに社員全員が自らの責任を自覚して行動していくために、さまざまな機会を通じた教育や啓発活動を継続的に実施しています。

環境教育講座は、「環境宣言」の周知・浸透も含めて実施。新入社員研修として160人、他に階層別・部門別の集合研修においても302人に実施しています。

さらに、社員啓発の一環として、社員が説明スタッフとして環境展示会に参加し、花王の環境への取り組みへの理解につなげています。2017年は日本とベトナムで約100人の社員が参加しました。

また、広く環境意識の向上のために、地域社会での環境活動ボランティアの奨励や環境啓発映画の鑑賞奨励なども実施しています。

レスポンシブル・ケア(RC)推進体制下においても、RC推進事務局や各推進部門の担当者が社員や協力会社の社員を対象に随時教育を実施しており、RC推進事務局は50回のべ756人(日本625人、アジア84人、米州39人、欧州8人)に対し、教育を実施しました。

ISO14001などの環境マネジメントシステムを導入している事業場においては、新入社員や配転者をはじめすべての社員を対象に年1回以上の教育を行なっています。

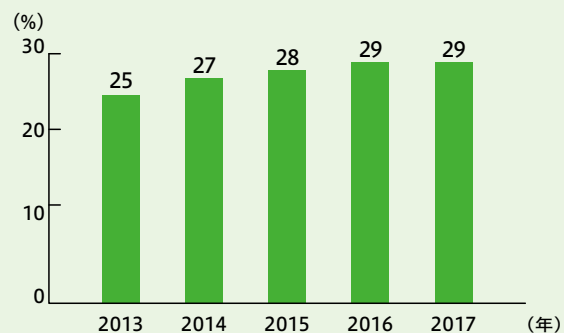


→P121「コーポレート・カルチャー>インテグリティ」

2017年の実績

花王は、独自の厳しい認定基準をクリアした環境負荷の少ない製品に“いっしょにeco”マークを表示しています。

“いっしょにeco”マーク表示製品売上比率
(国内消費者向け製品)



→ “いっしょにeco”マークの表示基準
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/eco-friendly-products/eco-together-logo.html>

→ “いっしょにeco”マーク表示製品一覧
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/phase/eco-together-products.html>

CDP*による評価

花王は環境への取り組みが高く評価され、複数の分野でCDPからA-ないしAリスト企業に選定されています。



※ CDP
機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行っている。

CDPによる評価

分野	評価
気候変動	A-
水	A-
森林(木材)	A-
森林(パーム油)	A-
サプライチェーンエンゲージメント	A

→ CDP回答結果
CDP2017 気候変動 回答
<http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2017-001.pdf>
CDP2017 水 回答
<http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2017-002.pdf>
CDP2017 森林 回答
<http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/global/en/sustainability/pdf/cdp2017-003.pdf>

ステークホルダーとの協働

花王は、原材料調達から開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルまでの、製品のライフサイクル全体を通じて、消費者をはじめ、さまざまなステークホルダーとの“いっしょにeco”を推進していくために、積極的なコミュニケーションを実施しています。花王の環境活動の社会への開示はもちろん、CDPサプライチェーンプログラムを通じたサプライヤーとの情報交換、行政や業界団体との情報交換や協働を行なっています。環境省主催の「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」や、「九都県市 容器&包装ダイエット宣言2017キャンペーン」などにも参加しています。

また、花王の製品の多くは家庭で日常的に使っていただく製品であることから、特に、「使用」や「廃棄」の段階での協働が不可欠である消費者に向けては、製品を通じた積極的な情報提供のみならず、環境意識啓発のための下記のようなさまざまな活動を実施しています。

- P141「「コーポレート・カルチャー」> 持続可能で責任ある調達/具体的な取り組み: サプライヤーとの連携/CDPサプライチェーン」
- P23「具体的な取り組み: 「花王国際子ども環境絵画コンテスト」を通じた環境啓発」
- P25「具体的な取り組み: 体験型環境教育プログラムの開発と実施」

具体的な取り組み

環境に配慮した製品の設計

花王は、花王製品の環境配慮性を確実にするため、2つの仕組みを持っています。製品が世の中に出る前に環境負荷を確認するしくみと、厳しい環境配慮基準をクリアした製品に“いっしょにeco”マークを表示し、消費者に環境に優しい製品であることを伝えるしくみです。また、主な製品分類について、多様な環境側面を一括して評価し、環境負荷特性を分析し、製品開発に役立てています。

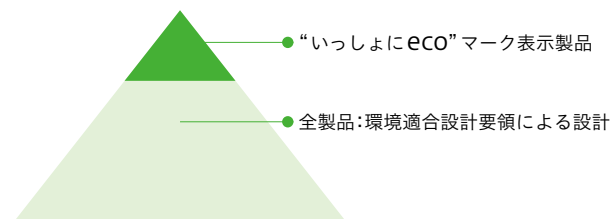
1. 環境適合設計要領

花王は、新製品や改良製品の発売を決定する際に、製品が環境に関する基準を満たすことを確認しています。その運用方法や基準は「環境適合設計要領」に定めています。本要領では、製品ライフサイクル全体のCO₂排出量削減に対する評価(LCA)の実施も定めています。

2. “いっしょにeco”マークの表示基準

花王は、環境負荷の少ない製品に、“いっしょにeco”マークを表示しています。消費者の皆さまに、高いレベルで環境に配慮した製品であることを明示し、購入に活用していただいています。認定基準は、基準製品よりライフサイクルCO₂排出量が低減し、同時に花王が定めた認定基準を一つ以上クリアする、という厳しいものです。

新製品・改良製品における環境基準



→環境適合設計要領

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/eco-friendly-products/designing.html>

→“いっしょにeco”マーク表示基準

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/eco-friendly-products/eco-together-logo.html>

LCAを用いた製品の環境影響評価

花王は、製品がさまざまな環境側面に及ぼす影響を包括的に評価しています。東京都市大学伊坪教授の助言を得て、環境影響を統合して数値化できるLIME※(第2版日本版被害算定型影響評価手法)を用いています。この手法により複数の環境側面を一括して評価でき、たとえばCO₂排出量が少なくても水資源への影響が大きい、などの問題点を洗い出すことができます。花王は、主要な35製品分類について環境影響評価を実施し、環境側面のバランスについて把握し、製品開発に役立てています。

※ ILCD Handbook, 33-36.

<http://eplca.jrc.ec.europa.eu/uploads/ILCD-Handbook-LCIA-Background-analysis-online-12March2010.pdf>

さまざまなステークホルダーと協働で消費者(お客さま)への環境啓発を実施

「花王国際こども環境絵画コンテスト」を通じた環境啓発

行政 他企業
ビジネスパートナー NPO
NGO

花王では、世界の子どもたちに身近な生活のエコと地球の環境・未来について真剣に考え、絵画として表現してもらい、それを多くの人たちに伝えることで、世界中の人々が暮らしの中で環境を考えて行動するきっかけになることを願い、2010年から「花王国際こども環境絵画コンテスト」を行なっています。

第8回コンテストの実施

2017年は、世界41カ国・地域の子どもたちから、11,048点(日本861点、アジア9,054点、米州115点、欧州370点、中東634点、アフリカ14点)の応募がありました。花王のデザイナーによる予備審査を経て、社内外審査員による最終審査が行なわれ、入賞作品32点が決まりました。12月の「エコプロ2017」の花王ブースにて、この32作品を展示し、上位入賞者9名の表彰式を行ないました。トークセッションでは、各国の受賞者から、自分が暮らす国・地域の環境や、絵に込めた思いなどが語られました。



表彰式に参加した受賞者の皆さん

行政・NPO・ビジネスパートナーと協働した絵画展示活動

子どもたちが絵に込めた思いやメッセージを、より多くの人たちに伝え、共感を広げるために、これまでの入賞作品の展示活動を積極的に進めています。

花王社内では、国内全10工場での常設展示や国内5事業場・研修所での展示を行ない、社員や6万人を超える来場者・見学者に鑑賞いただきました。

社外では、墨田区、港区施設での企画展示に加えて、

NPO法人ビッググッドカフェを事務局として、日本全国の行政が運営する環境関連施設やNPOなどに絵画を無料で貸し出す活動を開始し、2017年は、のべ11施設・団体に利用していただき、2万人超が来場しました。

花王グループカスタマーマーケティング(株)においても、ビジネスパートナーや行政と共同で開催する環境イベントのうち、10カ所で絵画展示を行ない、14,000人を超える来場がありました。

花王(中国)投資、花王(台湾)でも、各地域での環境啓発キャンペーン活動に、絵画展示を盛り込んでいます。



墨田区施設での絵画展示の様子

展示会やエコラボミュージアムでの消費者との直接対話 他企業 ビジネスパートナー

消費者の環境意識を高めることは、社会においても花王においても重要な課題です。

そのためには、わかりやすく楽しく印象的なコミュニケーションが大切だと考え、消費者と直接対話できる場での啓発活動を重視して推進しています。

エコプロダクツ国際展2017

(2017年5月 ベトナム・ホーチミンシティ)

アジア最大級の環境展示会に出展し、花王(ベトナム)社員が説明員として来場者と直接対話しながら、花王の環境方針、花王(ベトナム)のコンシューマー製品やアジアでの拡大をめざすケミカル製品の環境貢献を紹介しました。来場者に花王の環境への取り組みをご理解いただいただけでなく、参加社員の環境意識の向上にも寄与しました。



エコプロダクツ国際展での展示の様子

エコプロ2017(2017年12月 東京ビッグサイト)

日本最大級の環境展示会である「エコプロ」に10年連続で出展しています。2017年は、消費者とのコミュニケーションに目的を絞り、「身近なきれい」「街のきれい」「地球のきれい」の3つのテーマで、来場者に楽しい体験とともに環境意識を高めていただき、花王の環境活動を理解していただきました。また、「リサイクリエーション®」*コーナーでは、社内や地域の協力者の皆さまから集めた使用済みつめかえ容器でつくった再生樹脂ブロックの体験コーナーも設けました。さらに、環境サイトとの連動や各種サイトへの誘導も行ないました。3日間の来場者は1万人を超えました。



“きれい”って、しあわせ。を全体テーマにした花王ブース



体験/対話を重視したコミュニケーション

* リサイクリエーション®

使い終わったものを再び資源に戻す「リサイクル」と、新たに価値を創造する「クリエイション」を合わせた新しい言葉で、花王の登録商標です。

花王エコラボミュージアムでのコミュニケーション活動

花王エコラボミュージアムでは、体験型コンテンツを活用しながら、生活者をはじめとするあらゆるステークホルダーとの直接対話を年間を通じて行なっています。

2017年の年間来場者数は約12,700人でした。また2017年は、より効果的な体験/対話型の親子環境ワークショップを開発して地域住民を対象として開催し、9回の実施で378人が参加しました。

体験型環境教育プログラムの開発と実施

行政 他企業
ビジネスパートナー

花王と味の素(株)、(株)イースクエアは2011年に「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」を設立しました。

2017年は川崎市と協働で、川崎市の小学5年生とその保護者13組を対象に、体験型環境教育プログラム「食とくらしがつくる地球の未来 みんなでいっしょに考えよう～夏休み親子チャレンジ～」を開催しました。川崎市にある花王と味の素の工場での体験や日記・ワークショップを通じて、毎日のくらしと環境課題とのつながりを考え、ライフスタイルを見直す内容です。2016年から開始した本プログラムの活動は、2017年8月に「第11回キッズデザイン賞(子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門)」を受賞しました。

本活動の他地域や他企業への展開を図るため、ウェブサイトでの情報公開、雑誌等への掲載、講演活動を積極的に進めています。



グループワークの成果をみんなと共有

中国政府機関と協働で6年目の節水キャンペーンを実施

行政

花王(中国)投資は、中国環境保護部宣伝教育センターと共催で2012年から「中国清潔・節水全国運動」を実施しています。

この活動は、中国国内において「1世帯1年間1万リットルの節水(中国語表記:一家一年一万升)」をスローガンに節水を呼びかけるものです。中国では水資源の不足が大きな社会問題となっており、節水の大切さを喚起したい中国政府と、節水型衣料用洗剤を販売するなど、中国においても消費者といっしょにできるエコ活動を推進している花王の思いが一致し、6年連続の共催となりました。

毎年3月からはじまるキャンペーンでは、各都市で節水や水資源の大切さを紹介しています。2015年からは活動を拡大し、中国国内の大学での啓発も推進しています。2017年は広州、西安、瀋陽、安徽省、浙江省、内モンゴルなど13の省、53の大学で啓発活動を実施しました。

また、2015年から中国国内の大学生向けに環境保護コンテストを実施しており、2017年は公益広告コンテスト445件、環境保護教育用PPTコンテスト90件の応募がありました。

6月には、北京の大学で閉幕式を行ない、入選者を表彰しました。

店頭での消費者に向けたコミュニケーション

行政 他企業
ビジネスパートナー

花王グループカスタマーマーケティング(株)は、花王製品の環境価値を消費者に伝え、“いっしょにeco”を推進していくために、「節水・節電・ごみ削減」をテーマに、流通や行政とともにさまざまな環境イベントを実施しています。「国際こども環境絵画コンテスト」の入賞作品の展示や、エコラボミュージアム見学企画等も盛り込み、多彩で楽しい体験型イベントで、消費者の関心を高めています。2017年は、日本全国210カ所の店頭や行政施設で開催し、来場者は約9万人に上りました。うち札幌市、愛媛県、沖縄県などの38店舗では、流通企業と行政と花王の3者協働での実施となり、より地域に影響のある活動となりました。



札幌市と流通企業との3者で共催した環境フェア

小学校での環境・衛生教育活動 NPO NGO

花王(インドネシア)では2016年より、NGO(YCAB foundation)と共同で、小学校での「Anak Kao」という環境・衛生教育を実施しています。ジャカルタと、工場のあるチカラン、カラワン地域の小学校を訪れて、「クリエイティブ、アクティブ、オプティミスティック」をキーワードに、手洗い・歯磨きなどの身体の衛生の大切さに加えて環境をきれいにすることまでを考える授業を行なっています。2016年は3,070名、2017年は2,660名の子どもたちが参加しました。



訪問した小学校の子どもたち

花王「環境サイト」をリニューアル 専門家

2017年6月に花王の「環境サイト」を一般向けにリニューアルしました。

新サイトでは、花王がこれまで進めてきた原材料の調達から、開発・生産・販売、輸送、使用、廃棄・リサイクルに至る全段階でのエコを、具体的な取り組みとともにわかりやすくご紹介しています。また、「地球温暖化」や「生物多様性」などといった環境に関するトピックについても、専門家の監修のもと、「花王環境講座」ページにてQ&A形式で解説しています。動画やイラストを用いることで、子どもから大人まで花王の環境への取り組みを楽しく学べる内容になっています。



→花王 環境サイト
<http://www.kao.com/jp/environment/>

→花王「Let's eco together!」リーフレット
http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/environment/index/index-article-h-data-pdf_01-s.pdf



「環境サイト」の内容の一部をまとめたリーフレット

社員による地域環境保全活動

花王では事業所の周辺や地域の環境保全活動を通じて、社会への貢献と社員の意識向上に努めています。

たとえば花王USAでは、社員のボランティア20数名で組織されたチームが、シンシナティ事業所の環境影響の最小化をめざして、「Kao Zero」活動を行なっています。

2017年は、LEDの導入、食堂からの食品廃棄物の削減を進めました。4月のアースデイ週間では社員の家庭から資源となるゴミを持ち寄って回収したり、場内・近隣水路の清掃活動などを行なったりしました。

同社では社員の意識向上に伴い、環境保全活動が活性化し、その範囲も拡大しています。



事業所周辺の清掃活動に参加した社員

花王のアプローチ

2015年のパリ協定締結により、地球の気温上昇を産業革命以前に比べ2°C未満に抑える目標に向かい、全地球市民が協力して取り組むことが合意されました。花王は地球市民の一人として、製品ライフサイクルの全段階でCO₂削減活動をビジネスパートナーや消費者といっしょに進めています。

社会的課題と花王が提供する価値

2017年はNASAの観測史上2番目の暑さとなり、異常気象による被害も多く報告された年でした。

気候変動に伴う「リスク」の管理は、花王の重要な経営課題です。気候変動による自然災害増加や関連規制への対応は、リスクになりうると考えています。自然災害による操業停止や原材料調達停止は事業機会を損ない、また各種規制への対応はコストや投資を増加させ、財務に悪影響を及ぼします。しかし同時に事業の「機会」でもあります。花王は事業活動を通じて、温暖化の原因となるCO₂の排出削減に貢献できると考えています。

花王は、これら「リスク」と「機会」を次の通り認識し、事業活動の戦略に組み込んでいます。

規制によるリスクと機会

各国・地域の規制や政策の中には、省エネルギー基準、炭素税や排出量取引など、企業の事業活動そのものに影響を与えるものがあります。また、製品へのカーボンフットプリント表示など製品に影響を与えるものもあります。花王は、このような規制や政策そのものが、事業継続・成長におけるリスクになると考えています。

これら規制に対応するために、花王では各企業で行なわれているさまざまな省エネ活動や省エネに寄与する製品の提案を、各国・地域に行なっていくことで、事業の拡大を図っています。また、製品の環境負荷を算出するシステム導入を実施しています。

物理的影響によるリスクと機会

温暖化に伴い夏場の高温期間の長期化、気候変動の影響による台風の大型化や降水量の極端化などが、昨今顕在化してきています。こうした自然の変化に伴う対応や避けられない被災などは、事業運営におけるリスクです。

一方、物理的影響による機会は多く存在すると考えています。たとえば夏場の高温期間の長期化や降水量の極端化は、気温上昇に伴い消費が増える製品や節水型製品の需要増につながります。このように、顕在化しつつあるニーズに対応する製品を各国・地域で提案していくことで、事業の拡大を図っています。

その他のリスクと機会

気候変動への取り組みが不十分であった場合、環境対応製品市場への参入が困難となったり、さまざまな

ステークホルダーの信頼が得られないなど、事業継続や成長におけるリスクになると考えています。

一方、より高価値の環境対応製品の提案を継続的に行ない市場を拡大していくことは、事業の拡大につながります。また、積極的な情報公開は、さまざまなステークホルダーの信頼感向上につながり、中長期的には、事業の拡大に寄与すると考えています。

リスクと機会

	リスク	機会
規制	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出に関連する税制や規制 省エネ基準の設定 温室効果ガス排出量取引制度 製品のカーボンフットプリント表示制度 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂削減、省エネ規制対応に寄与する製品の提供 省エネによるコストダウン
物理的影響	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害による操業停止 自然災害による原材料調達停止 異常気象、自然災害への設備・運用対応費用の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 気温上昇により需要が増加する製品の提供 自然災害に対応する製品の提供
その他	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への対応不足や情報公開不足によるレピュテーション悪化 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的な気候変動対応と情報公開による信頼性向上

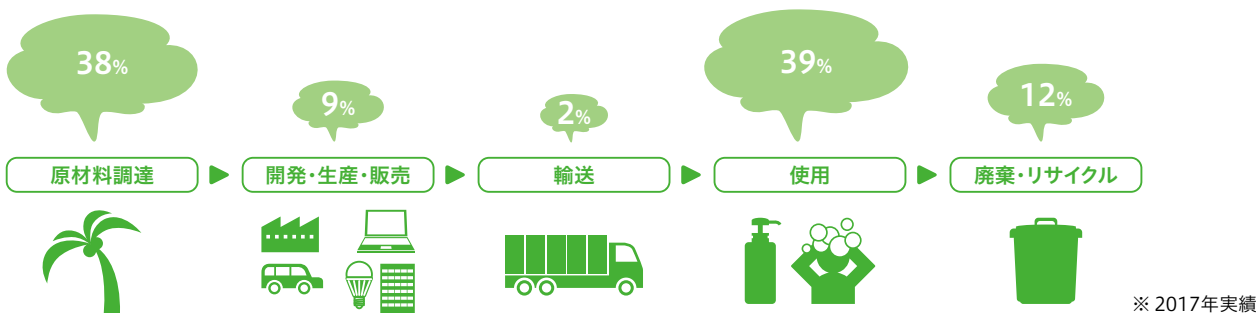
貢献するSDGs



方針

花王は、製品ライフサイクルの各段階に応じたCO₂削減活動を、技術の導入や開発、ビジネスパートナーや消費者との協働により進めています。

花王の製品ライフサイクル各段階で排出されるCO₂の割合



最も大きい割合を占めるのが使用段階で39%、2番目が原材料調達段階で38%です。花王の工場等から直接排出するCO₂の割合は9%と比較的小さく、直接排出量以外の排出量が多くを占めることが特徴です。2009年に花王が「環境宣言」で製品ライフサイクルの全段階で環境保全に貢献する決意を表明したのは、当時この解析結果が得られたからです。

使用段階のCO₂は、たとえば衣料用洗剤では洗濯機の電力、シャンプーや食器用洗剤ではそれらを使用する際に使うお湯をつくる時に発生します。花王は、すすぎ回数を減らす衣料用洗剤、お湯を削減するシャンプーや食器用洗剤を提供し、使用段階のCO₂排出量を削減しています。

次に大きい原材料調達段階のCO₂の削減は、原材料納入量・納入頻度の最適化や、同じ量でもCO₂排出量が少ない原材料の選択などにより進めています。

廃棄・リサイクル段階のCO₂削減は、消費者が使用したあとに廃棄物となる容器等の削減や、焼却しても温暖化に寄与しないとみなされるバイオマスの利用などにより進めています。

生産・販売段階のCO₂削減は、エネルギー量の削減、クリーンエネルギーの使用、冷媒等の温室効果ガスの漏えい抑制などにより進めています。

輸送段階のCO₂削減は、製品のコンパクト化、輸送効率の向上、輸送距離の短縮化、CO₂排出が少ない交通手段への転換などにより進めています。

体制

製品ライフサイクル全体でCO₂等を排出する活動は、レスポンシブル・ケア(RC)推進体制で管理しています。

製品ライフサイクルの各段階に応じ、さまざまな花王の部門やステークホルダーの皆さまが関係しています(下表)。

たとえば生産段階については、SCM部門が省エネ部会を開催し、各工場の省エネ活動の進捗管理をしたり、新技術を社内展開しています。また、ライフサイクル間の連携を強化するため、部門横断的な体制も構築しています。エコアクションSCM会議では、原材料調達、生産、輸送の各段階を管理する部門が一堂に会して情報交換し、連携について議論し合い、全体最適化を図っています。

また花王は、環境関連データを一元管理するデータベースを用いて、データの信頼性を確保し、業務を標準化・効率化することで、的確な活動展開につなげています。

製品ライフサイクル段階別の管理部門と関連するステークホルダー

製品ライフサイクル段階	花王における管理部門	関連するステークホルダー
原材料調達	研究開発部門、購買部門	サプライヤー 製造委託先
開発・生産・販売	マーケティング部門、研究開発部門、SCM部門、販売部門	地域社会 販売店
輸送	SCM部門、ロジスティクス部門	輸送会社 販売店
使用	研究開発部門	消費者
廃棄・リサイクル	研究開発部門	行政・処理業者

中長期目標と実績

花王グループの全拠点におけるエネルギー使用量と温室効果ガス排出量の2020年削減目標は、毎年1%の削減を目標に、2013年に設定しました。

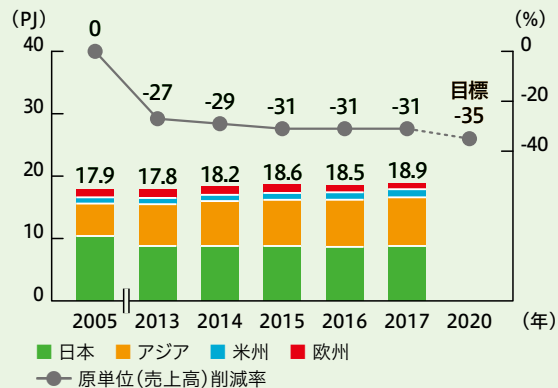
日本花王グループ製品ライフサイクル全体を対象としたCO₂排出量の2020年削減目標は、当時の日本国がめざした削減目標に準じ、2009年に設定しました。

エネルギーと温室効果ガスに関する目標

項目	対象範囲	2017年目標	2018年目標	2020年目標
エネルギー使用量	花王グループ全拠点	32%削減	33%削減	35%削減
温室効果ガス排出量		31%削減	32%削減	35%削減
CO ₂ 排出量	日本花王グループ 製品ライフサイクル全体	—	—	35%削減

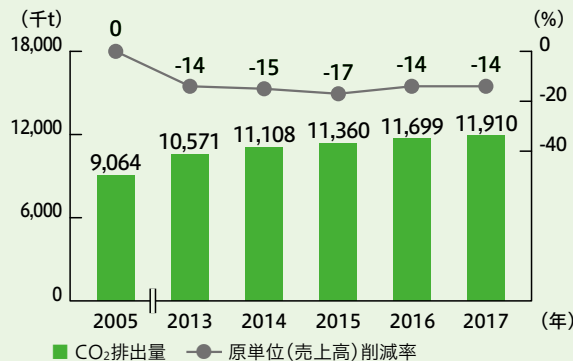
2017年の実績

エネルギー使用量の推移 (全拠点)



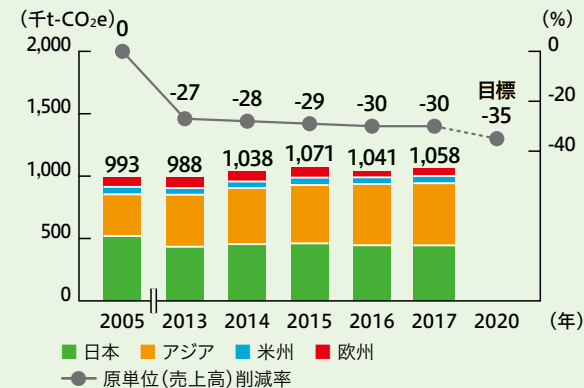
※ 集計対象拠点: 花王グループの全拠点、営業車含む
 ※ 保証対象はエネルギー使用量
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

製品ライフサイクル全体のCO₂排出量の推移 (花王グループ)



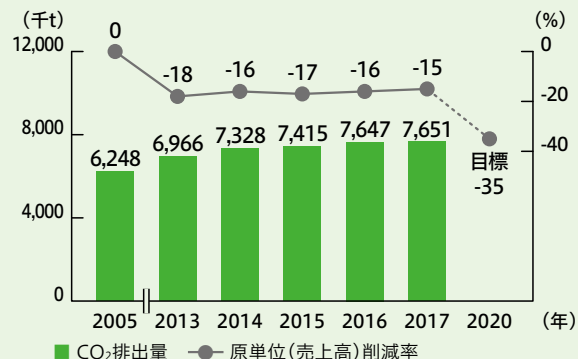
※ 日本国内および海外で販売した製品の単位数量当たりの製品ライフサイクル(ただし、自社グループの生産工程、物流工程を除く)を通じたCO₂排出量に当該製品の年間の売上数量を乗じて算出した値に、自社グループの生産工程、物流工程を通じたCO₂排出量の実績値を合算したものです。ただし、産業界向け製品の使用および廃棄に関するCO₂排出量は含んでいません。
 ※ 保証対象はCO₂排出量および原単位(売上高)削減率
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

温室効果ガス排出量の推移 (全拠点)



※ 集計対象拠点: 花王グループの全拠点、営業車含む
 ※ 集計対象ガス: 京都議定書に定める7ガス(日本以外の拠点はCO₂のみ)
 ※ 保証対象は温室効果ガス排出量
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

製品ライフサイクル全体のCO₂排出量の推移(日本花王グループ)



※ 日本国内で生産された製品1個当たりの製品ライフサイクル(ただし、生産工程、物流工程を除く)を通じたCO₂排出量に当該製品の年間の売上個数を乗じて算定した値に、自社の生産工程、物流工程を通じたCO₂排出量の実績値を合算したものです。ただし、産業界向け製品の使用および廃棄に関するCO₂排出量は含んでいません。

※ 保証対象はCO₂排出量および原単位(売上高)削減率

※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

スコープ1 CO₂排出量の推移(千t-CO₂e)

	2015年	2016年	2017年
日本	276	272	271
アジア	286	291	290
米州	37	39	43
欧州	68	47	49
合計	667	649	653

スコープ2 CO₂排出量の推移(千t-CO₂e)

	2015年	2016年	2017年
日本	185	169	173
アジア	181	200	208
米州	22	14 ^{*1}	14
欧州	17	8	9
合計	405	391	405

※ スコープ別排出量はGHGプロトコルイニシアティブの定義に従う

スコープ1: 企業・組織が自ら排出するGHG排出量

スコープ2: 購入した電力・熱等の間接的なGHG排出量

※ 排出係数

スコープ1: 原則として地球温暖化対策推進法で定める係数を使用しています。

スコープ2: 原則として各国法規等の固有の係数を使用し、固有の係数を把握できない場合は、国際エネルギー機関(IEA)で公表されている国別係数を使用しています。

※1 2016年は電力の排出係数の見直しによる影響(前年比9千t-CO₂e減少)があります。

電気・蒸気等購入量の推移(TJ)

	2015年	2016年	2017年
電気	7,447	7,272	7,648
熱	0	0	0
蒸気	88	132	140
冷却	0	0	0

※ 電気は、一次エネルギー換算熱量で算定しています(日本は受電端、日本以外は発電端基準)

燃料種別消費量の推移(TJ)

	2015年	2016年	2017年
天然ガス	9,204	8,915	9,047
軽油	1,282	1,375	1,383
ガソリン	153	162	149
その他	123	111	128
廃植物油(熱回収)	555	517	486

スコープ3 CO₂排出量の推移(千t-CO₂e)

	2015年	2016年	2017年
1. 購入した製品・サービス ^{*1}	2,037	4,134	4,496
2. 資本財の建設・建造	252	262	239
3. スコープ1・2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	27	22	29
4. 輸送、配送(上流) ^{*1}	95	242	253
5. 事業から出る廃棄物 ^{*1}	24	47	58
6. 出張	4	4	4
7. 雇用者の通勤 ^{*1}	13	18	18
8. リース資産(上流)	0	0	0
9. 輸送、配送(下流) ^{*1}	59	94	97
10. 販売した製品の使用者による加工	100	113	119
11. 販売した製品の使用 ^{*1}	3,715	4,965	4,687
12. 販売した製品の使用者による廃棄 ^{*1}	1,106	1,317	1,415
13. リース資産(下流)	0	0	0
14. フランチャイズ	0	0	0
15. 投資	8	7	8
合計	7,450	11,225	11,423

※ 花王は、拠点の省エネ・廃棄物等削減活動と製品のライフサイクルに関するカテゴリ1・3・4・5・11・12に重点を置いています。

※1 2016年から、集計範囲を日本花王グループから花王グループに拡大しました。

全ライフサイクルCO₂排出量は、前年より211千トン増加し、原単位(売上高)削減率は前年と同じ14%削減となりました(2005年比)。日本の全ライフサイクルCO₂排出量は、前年より4千トン増加し、原単位(売上高)削減率は1ポイント悪化の15%削減となりました(2005年比)。食器用洗剤の節水性能が向上したことで、全ライフサイクルCO₂排出量改善に貢献しましたが、全体製品構成等の影響により上記の結果となりました。

花王グループの全拠点におけるエネルギー使用量原単位は前年と同じ31%削減、温室効果ガス排出量原単位も

前年と同じ30%削減となり、それぞれ目標の32%削減、31%削減を達成できませんでした。エネルギーを多く消費する製品の生産量増加が要因の一つです。

花王は、使用段階のCO₂を削減する節水型製品等を家庭用製品の分野で幅広く展開していますが、産業界向け製品でも使用段階のCO₂を削減できる各種製品を提供しています。産業界向け製品の使用段階以降のCO₂排出量はビジネスパートナーの最終製品の範囲のため、P29に掲載のライフサイクルCO₂排出量には加えていません。この削減貢献も含めた全ライフサイクルでCO₂排出削減

に貢献した量は、3,884千トン※でした。

課題はライフサイクルCO₂排出量の低減です。全体への寄与が大きい、使用段階のお湯の使用量や電力使用量の少ない製品のさらなる拡大や、原材料使用量の削減、再生可能原料への転換等を進めていきます。

※ 2005年時点の標準的な製品に比べた、当社製品の日本国内の全ライフサイクルCO₂排出量の削減量を算出した値です。産業界向け製品と家庭用製品を対象としています。

ステークホルダーとの協働

花王は各ライフサイクル段階で、さまざまなステークホルダーと協働してCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



→詳細はP28「花王のアプローチ:製品ライフサイクル段階別の管理部門と関連するステークホルダー」

- ・ 環境省が運営する「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」に、花王の取り組み事例を提供し、企業の皆さまのサプライチェーン排出量算定に貢献しています。

- ・ 一般社団法人日本化学工業協会のLCAワーキンググループに委員として参加しています。その活動の一環で、自社のカーボンライフサイクル分析(c-LCA)事例を公開し、化学製品によるCO₂削減貢献を社会に発信しています。

- ・ CDPサプライチェーンプログラムに参加し、サプライヤーにCO₂削減活動について回答いただいています。活動内容を評価した結果はサプライヤーにフィードバックしています。

- ・ 容器包装のサプライヤーと協働し、CO₂削減に貢献する容器包装を開発しています。

- ・ 輸送段階での取り組み



→詳細はP34「具体的な取り組み:輸送における取り組み」

具体的な取り組み

原材料購入における取り組み

サプライヤー

製造委託先

- 花王は、2009年に日本企業として初めてCDPサプライチェーンプログラムに参加しました。2017年は、サプライヤーに回答いただいたCO₂削減活動状況を評価し、その結果をサプライヤーにフィードバックする取り組みを開始しました。



→ P134「コーポレート・カルチャー」持続可能で責任ある調達」

- 再生可能樹脂、リサイクル樹脂、薄い段ボールを利用することで、容器包装の製造によるCO₂排出量をサプライヤーと協働で削減しています。
- 原材料の納入量や納入頻度を最適化することで、原材料輸送におけるCO₂排出量を削減しています。
- サプライヤーに原材料の調達および加工の過程で発生するCO₂排出量の回答に協力いただいています。この取り組みにより、CO₂排出量算出の精度の向上だけでなく、各サプライヤーのCO₂排出量を把握することでさまざまな対応を行なうことができ、花王の製品ライフサイクルCO₂排出量削減に反映しています。

開発・生産・販売における取り組み

地域社会

販売店

開発段階における取り組み

花王は、新製品や改良製品の発売を決定する際に、製品が環境に関する基準を満たすことを確認しています。同時に全ライフサイクルCO₂排出量も評価しています。評価結果は発売の判断だけでなく、次期製品の開発に反映されます。

花王は、環境負荷の少ない製品に“いっしょにeco”マークを表示しています。認定基準は、基準製品より全ライフサイクルCO₂排出量を低減し、同時に花王が定めた認定基準を一つ以上クリアする、という厳しいものです。

生産(工場・事務所・ロジスティクスセンター)における取り組み

下記の活動などを進めてきましたが、花王のスコープ1・2CO₂排出量は、前年に対しそれぞれ6.0千トン、12.9千トン増加しました。

1. 使用するエネルギーを削減する取り組み

- 高効率機器の導入、機器の効率的運用

2017年も前年に引き続き、冷凍機、空調機、コンプレッサーなどを、BPT (Best Practice Technologies) 機器に更新しました。花王インドネシア化学の工場に、コジェネレーション設備(ガス)を追加導入しました。

空調機やコンプレッサーを複数台で最適制御し、変動する需要に応じた効率的運用も進めています。

また、照明のLED化をグローバルで進めています。日本の各工場、ロジスティクスセンター、事務所全体の進捗率は86%で、年間約4.0千トンのCO₂を削減しています。日本以外の関係会社各社でも積極的なLED化を推進しています。

・ムダなエネルギーの排除

2017年も前年に引き続き、ムダなエネルギーを見つけ出して必要最小限な量に抑えたり、利用されないエネルギーを別のプロセスに有効利用するなどの対策を講じました。たとえば、花王インダストリアル(タイランド)では、反応装置の高温排熱をボイラーに再利用して省エネに貢献しました。

蒸気利用の効率化をめざし、スチームトラップのメンテナンス強化や蒸気の回収量向上などを継続的に実施しています。また、タンクを保温する設定温度を低くしたり、運転時間を短縮するなど、必要なエネルギー自体を少なくするよう現場の改善活動も積極的に推進しています。

事務所でもムダなエネルギーの排除に努めています。不要な照明の消灯の推進、人感センサ設置による自動点灯・消灯化、空調温度設定の最適化の推進、階段利用推進による不要なエレベーター利用の削減の推進などです。

2017年の日本工場・事務所におけるこうした省エネ活動は204件あり、CO₂削減量とコスト削減額はそれぞれ年間で約7,558トン、約3.79億円となりました。

2. よりクリーンなエネルギーを利用する取り組み

・燃料のクリーン化

気体燃料、特に天然ガスがクリーン燃料であることから、インフラの整っているすべての工場において、天然ガスを使用しています。石炭を使用している工場はありません。

・再生可能エネルギーの利用

花王(株)和歌山研究所や厚木ロジスティクスセンターなど花王所有の施設に太陽光発電用パネルの導入(総発電量459MWh)を開始しています。2017年は、愛媛工場の新設建屋への太陽光発電の導入を検討し、2018年に稼働予定です。



ロジスティクスセンターの屋上に設置された太陽光発電用パネル

再生可能電力の購入も欧州各社から開始しています。ドイツ花王化学やイギリスのモルトンブラウンなど4子会社において、すべての購入電力(30.3GWh)を再生可能エネルギー由来に置き換えています。これらの再生可能エネルギー電力の利用により、15.4千トンのCO₂排出量を削減しました。

・低GHG排出係数電力の利用

購入電力の使用に伴うCO₂排出量を削減するために、電力の購入先を選定する際、GHG排出係数を考慮しています。

3. 冷媒等の温室効果ガス漏えい量の削減

空調機や生産に使用する冷凍機には、温暖化係数が非常に大きいフロンを充填し運転しています。フロンが機器から漏えいする量を削減するために機器の定期点検を強化しています。

また、新規導入する冷凍機では、温暖化係数が低い冷媒に切り替えるようにしています。日本において、温暖化係数が低い機器を3台導入しています。

これらの機器に使われている冷媒 R-1233zd(E) (HFO) は、大気中で分解しやすいため、冷凍機用の標準的な冷媒 R-134a (HFC) の温暖化係数が1,300であるのに対し、CO₂と同じ1と優れた性能を持っています。

輸送における取り組み

輸送会社等

販売店

1. 一度に輸送する量の拡大

積載率の向上、製品のサイズ変更、車両の大型化などを積極的に進めています。

2. 輸送距離の短縮化

輸送ルートの見直し、生産工場の最適化やロジスティクスセンターの移設などの検討を継続的に実施しています。

3. よりクリーンな輸送手段の利用

トラックから鉄道・船などのCO₂排出量の少ない輸送手段への転換(モーダルシフト)などの取り組みを進めています。

4. 実車率の向上

輸送先で荷下ろし後トラックが戻るとき、空車でなく荷物を積むこと(=実車率の向上)が、さらなる輸送エネルギー、CO₂排出改善に寄与します。イオン株式会社の連結子会社で物流を担うイオングローバルSCM株式会社との間で、首都圏と中部圏でトレーラー(積荷)を交換し出発地に戻る中継輸送方式を、異業種企業間としては日本で初めて採用しました。



企業活動を広く知っていただくため、イオンと花王のコーポレートカラーを用いたデザインコンテナの運用を開始

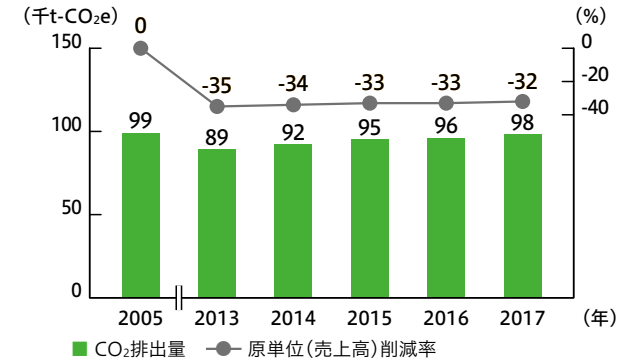
5. 日本以外での輸送エネルギー・CO₂排出量の見える化

2018年からの日本以外での輸送エネルギー、CO₂排出量の算定開始に向け、2017年は算定ツールの開発、各関係会社への算定方法の説明会実施等、準備を進めました。現在、日本以外での輸送のCO₂排出量は推定により算出し報告していますが、2019年は実際の輸送実績に基づく量を報告する予定です。



→ P71「エコロジー>製品ライフサイクルと環境負荷」

輸送時のCO₂排出量の推移(国内)



※ 集計対象: 花王(株)および(株)カネボウ化粧品

※ 保証対象はCO₂排出量

※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

2017年の日本国内における輸送時のCO₂排出量は98千トンとなり、排出量原単位は、32%削減(売上高原単位、2005年比)となりました。重量に対する容積が大きい製品の売上比率が増加したことが、要因の一つです。

使用における取り組み

消費者等

花王は使用段階のCO₂を削減する幅広い製品群を提供しています。

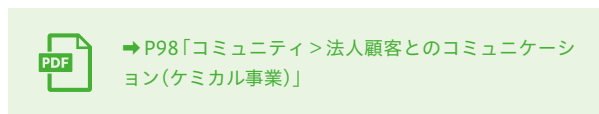
代表的な製品としては、すすぎ1回を可能にした超濃縮タイプの衣料用洗剤、すすぎのお湯を削減するシャンプー、全身洗剤、食器用洗剤などがあります。

全ライフサイクルCO₂排出量を削減した製品の例として、洗たく1回当たりの全ライフサイクルCO₂排出量を約22%削減できる「ウルトラアタック Neo」があります。初めてすすぎ1回を提案した衣料用洗剤で、いまや洗濯機に「すすぎ1回」ボタンが標準装備されるまでになり、洗濯スタイルそのものを変化させた製品です。この製品はすすぎが1回で済み、洗剤が通常製品の2.5倍にコンパクト化されています。すすぎ1回を可能にする衣料用洗剤は、日本、中国、香港、マレーシア、シンガポール、オーストラリアで提供しています。

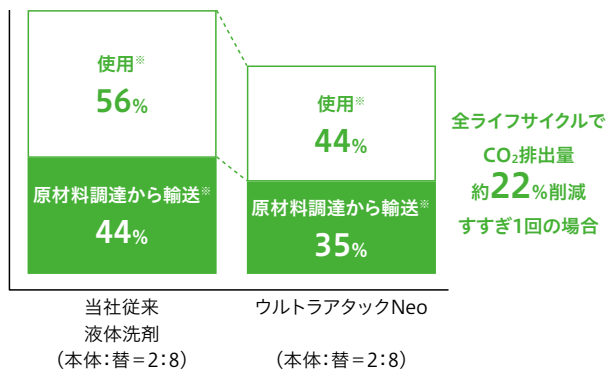
また、新発想の製品に、ドライヤーの電力消費量を削減できるシャンプーがあります。このシャンプーは、髪の毛のからまりを防ぐことができ、ドライヤーの風通りがよくなり乾燥時間を短縮できます。

産業界向け製品でも、顧客の皆さまが使用する段階のCO₂を削減できる幅広い製品群があります。低温で

定着しコピー機の電力消費を削減するトナー、低温で銅板を洗浄・リンスでき燃料のCO₂を削減する洗浄・リンス剤、フロンを代替する水性の精密基盤洗浄剤、自動車のワイヤーハーネスの被覆重量を削減し燃費向上に貢献する被覆材用添加剤、低燃費タイヤの性能を発揮するのに必要な素材の分散確保に必須の添加剤などです。



洗たく1回あたりに使用する洗剤のCO₂排出量の比較



※一部の廃棄・リサイクルを含む

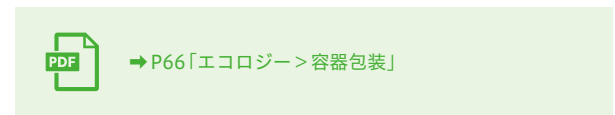
(全自動洗たく機(容量8Kg)を使用し、衣類量4Kg、水量47Lに設定。すすぎ2回設定時は水量計130L、電力計67Wh、すすぎ1回設定時は水量計102L、電力計52Whとし、当社従来液体洗剤を100として指数化)

廃棄・リサイクルにおける取り組み

行政・処理業者

廃棄・リサイクル段階のCO₂は、主に2種類あります。1つは、消費者が使用した後に廃棄した容器包装やおむつ等を焼却したり、洗剤成分などを下水処理したときに、石油でつくられた材料や成分が分解して発生するCO₂です。もう1つは、焼却・リサイクル設備、下水処理設備の運転に必要なエネルギーを使うことにより発生するCO₂です。

花王は、容器包装やおむつの原材料の削減や洗剤成分の削減を進め、これらのCO₂削減に努めています。また、バイオマスやバイオプラスチックの利用も進めています。これら素材が分解して発生したCO₂は温暖化に寄与しないとみなされています。



花王のアプローチ

花王の事業活動にとって、水は不可欠です。生産においては、液体の洗浄用製品の原料として水を使うだけでなく、加熱、冷却、洗浄などにも使います。消費者が花王製品を使うときにも水が必要です。さらに、使用された水は、工場やご家庭の排水として、下水処理などを経て河川や海に流れていきます。そこで花王は、工場における排水水質管理や、排水による環境負荷が小さい製品の開発などを進めています。

社会的課題と花王が提供する価値

水は地球上のすべての動植物を育むためになくてはならないものです。すでに地域によっては渇水や水をめぐる紛争が問題化していますが、今後は人口増加や温暖化により、ますます深刻化することが予想されています。

事業活動にかかわる水の使用量を減らすことで、世界中で使える水の量を確保していくことは、花王の責務です。自然災害による操業停止や原材料調達停止は事業機会を損ない、また各種規制への対応はコストや投資を増加させ、財務に悪影響を及ぼします。同時に花王の水使用量削減活動は、社会的課題の解決に貢献し、花王の存在意義を確実にしていく「機会」であると考えています。

花王は、これら水に関する「リスク」と「機会」を次の通り認識し、事業活動の戦略に組み込んでいます。

規制によるリスクと機会

各国・地域の規制や政策には、取水制限や排水規制など、製造業の事業活動そのものに影響を与えるものがあります。また、製品使用時の水使用量制限や製品へのウォーターフットプリント表示など、製品に影響を与えるものもあります。花王は、このような規制や政策そのものが、事業継続や成長におけるリスクになると考えています。

これら規制に対応するために、花王では自社工場における水使用量の削減活動をいち早く開始するとともに、節水型製品の提案を、各国・地域に広く行なっていくことで事業の拡大を図っています。また、製品の環境負荷を算出するシステム導入を実施しています。

物理的影響によるリスクと機会

都市部の人口増や、気候変動の影響に伴う降水量の極端化による渇水など、1人当たりの水の利用可能量の減少が昨今顕在化しています。また気候変動による台風の大規模化や、降水量の極端化による洪水、津波などの

避けられない自然災害は、事業運営におけるリスクです。

一方で、物理的影響による機会は、コンシューマー事業で多く存在すると考えています。たとえば水利用可能量の減少に対応するための節水型製品など、顕在化しつつあるニーズに対応する製品を、各国・地域で提案していくことで、事業の拡大を図っています。

その他のリスクと機会

花王は、製品使用後の排水による水質汚染を極小化する製品提案と、上述の水リスクへの取り組みを事業継続や成長に不可欠なものとしてとらえています。それらの取り組みが不十分であれば、環境対応製品市場への参入が困難となり、ステークホルダーからの信頼を得られないなどのリスクが生じると考えています。

一方、より高価値の環境対応製品の提案を継続的に行ない、市場を拡大していくことは、事業の拡大につながります。また積極的な情報公開は、さまざまなステークホルダーの信頼向上につながり、事業の拡大に寄与すると考えています。

リスクと機会

	リスク	機会
規制	<ul style="list-style-type: none"> ・取水制限 ・排水規制 ・製品の水関連環境性能表示制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・節水、排水規制対応に寄与する製品の提供 ・節水、排水水質改善によるコストダウン
物理的影響	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害による操業停止 ・自然災害による原材料調達停止 ・異常気象、自然災害への設備・運用対応費用の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・渇水により需要が増加する節水型製品などの提供 ・自然災害に対応する節水型製品などの提供
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源保全対応不足や情報公開不足によるレピュテーション悪化 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な水資源保全対応と情報公開による信頼性向上

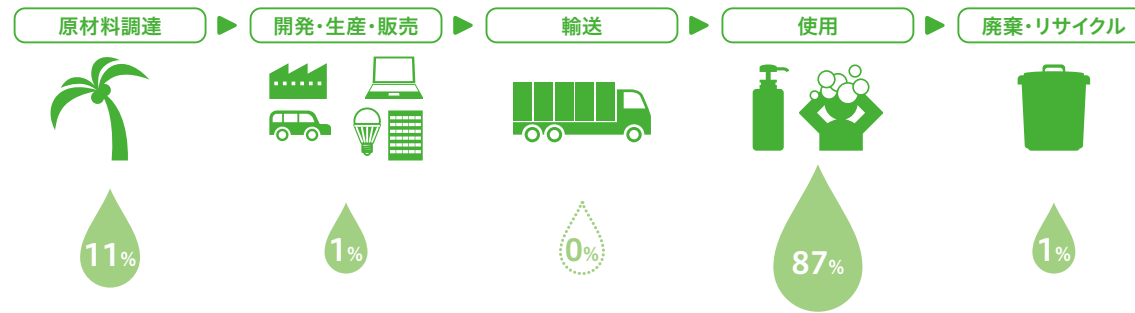
貢献するSDGs



方針

花王は、製品ライフサイクルの各段階に応じた節水活動や水質保全活動を、技術の導入や開発、ビジネスパートナーや消費者との協働により推進しています。

花王の製品ライフサイクル各段階で使用される水の割合



※ 2017年実績

最も大きい割合を占めるのが使用段階で、製品ライフサイクルのほぼ全体にあたる87%を占めることが特徴です。この理由は、花王が使用時に水を必要とする洗浄用製品を多く提供しているためです。CO₂と同様に、2009年に「環境宣言」で製品ライフサイクルの全段階で環境保全に貢献する決意を表明したのは、当時この分析結果が得られたからです。

最も大きい使用段階での水使用量を削減する中心的な取り組みは、節水型製品の提供です。花王は、自社の洗浄剤開発技術を活かし、節水型製品を開発し、各分野の製品をグローバルに展開しています。花王の強みである「本質研究」で、さまざまな社会課題を解決していく、これは花王の特徴的なアプローチです。

全ライフサイクルの11%を占める原材料調達段階で

使用する水は、サプライヤーの工場で使用される水であるため、サプライヤーとの協働で取り組みを進めることが大切です。

開発・生産・販売段階で使用する水の割合は1%と小さいですが、工場が立地する地域では一定の影響を与えています。花王の工場における節水活動は古く、1980年代初頭には当時の九州工場での水のクロード化を実現し、運用を開始していました。現在も各工場において目標を掲げ、節水活動に取り組んでいます。

各段階の排水管理についても積極的に取り組んでいます。生産段階では排水の水質管理を実施しています。廃棄段階では使用後排水の環境負荷が小さい製品の提供により、ご家庭の排水の環境負荷低減を進め、水質汚染防止に努めています。

サプライヤーとの取り組み

事業リスクが大きいサプライヤーについて、水リスクをWRI※のAQUEDUCTなどを用いて、評価しています。水リスクが一定基準より高いサプライヤーについては、CDPサプライチェーンプログラムを通じ、サプライヤーの水使用量、管理状況等を調査・確認しています。サプライヤーにおける水使用量の削減、管理の促進の機会ともなっています。

※WRI
世界資源研究所。World Resources Institute
天然資源・環境問題を研究し、政府・民間部門・環境専門家などともに活動する米国の政策センター。

工場での取り組み

花王の各工場では、製品への配合や設備の洗浄・冷却などに水を使用しています。工場ごとに水使用量の削減目標を設け、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の視点で水使用量削減や再利用に取り組んでいます。

排水処理技術の導入にも取り組んでいます。和歌山工場は、和歌山県工業技術センターが開発した、イトミミズを活用した工業排水処理技術の実証実験を実施し、処理場から発生する汚泥を最大8割削減することが確認されました。花王は社外の技術も積極的に導入し、廃棄物削減やコスト削減に努めています。

水リスク調査

各工場の水リスク評価を、WRIのAQUEDUCTや社内の知見を使用して定期的に行なっています。また、

新規工場を開設する際は、長期的な水資源の利用可能性や排水による影響を確認するようにしています。

水質汚濁防止への取り組み

花王は、多くの工場に排水処理設備を設置し、高いレベルで維持管理しています。工場から出る排水は適切に処理した後、場外へ排出しています。法令および周辺自治体との協定に基づき、排水の水質を監視しています。

地下水・土壌汚染の調査

花王は、過去の化学物質の使用履歴を踏まえ、毎年、各工場敷地内の地下水中の環境基準物質を測定しています。

環境法規制の遵守

花王は、工場排水や廃棄物などの各種環境法規制を遵守すべく、設備管理や公害防止管理システムを運用しています。毎年厳しくなる規制に対応できるよう、高いレベルで維持管理しています。

製品での取り組み

製品使用後の排水が水環境に与える影響が小さい製品の開発に努めています。また、河川の汚染状況の調査・研究を、専門家・工業会との協働により実施しています。

体制

製品ライフサイクル全体の水使用量に関する活動は、レスポンシブル・ケア (RC) 推進体制で管理しています。

製品ライフサイクルの各段階に応じ、さまざまな花王の部門や、ステークホルダーの皆さまが関係しています (下表)。

たとえば生産段階については、SCM部門が全工場の環境担当者が参加する環境部会を開催し、各工場の環境活動の進捗管理をしたり、新技術を社内展開しています。また、ライフサイクル間の連携を強化するため、部門横断的な体制も構築しています。エコアクションSCM会議では、原材料調達、生産、輸送の各段階を管理する部門が一堂に会し、情報交換し、連携について議論し合い、全体最適化を図っています。

また花王は、環境関連データを一元管理するデータベースを用いて、データの信頼性を確保し、業務を標準化・効率化することで、的確な活動展開につなげています。

製品ライフサイクル段階別の管理部門と関連するステークホルダー

製品ライフサイクル段階	花王における管理部門	関連するステークホルダー
原材料調達	研究開発部門、 購買部門	サプライヤー 製造委託先
開発・生産・販売	マーケティング部門、 研究開発部門、 SCM部門、販売部門	地域社会 販売店
輸送	SCM部門、 ロジスティクス部門	輸送会社 販売店
使用	研究開発部門	消費者
廃棄・リサイクル	研究開発部門	行政・処理業者

中長期目標と実績

花王グループの全拠点を対象とした水使用量の2020年削減目標は、毎年1%の削減を目標とし、2013年に設定しました。

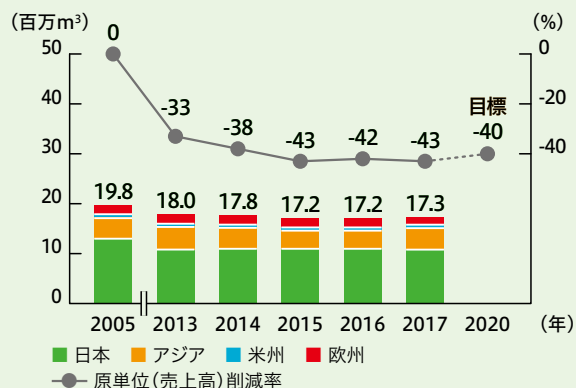
日本花王グループ製品使用段階を対象とした水使用量の2020年削減目標は、2009年に設定しました。

水に関する目標

項目	対象範囲	2017年目標	2018年目標	2020年目標
水使用量	花王グループ全拠点	38%削減	39%削減	40%削減
	日本花王グループ消費者向け製品使用時	—	—	30%削減

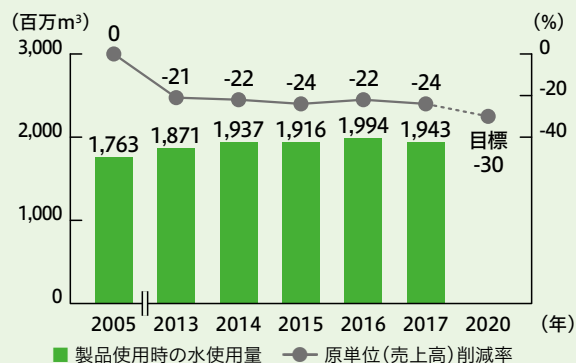
2017年の実績

水使用量(取水量)の推移(全拠点)



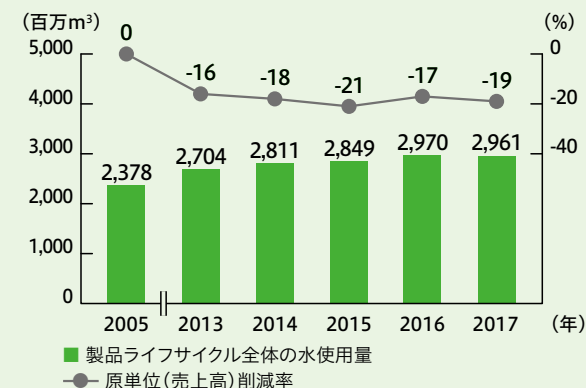
※ 集計対象は2014年までは花王グループ全生産拠点、日本国内の非生産拠点が対象。2015年は一部の、2016年以降はすべての非生産拠点を含みます。
 ※ 保証対象は水使用量(取水量)
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

製品使用時の水使用量の推移(日本花王グループ)



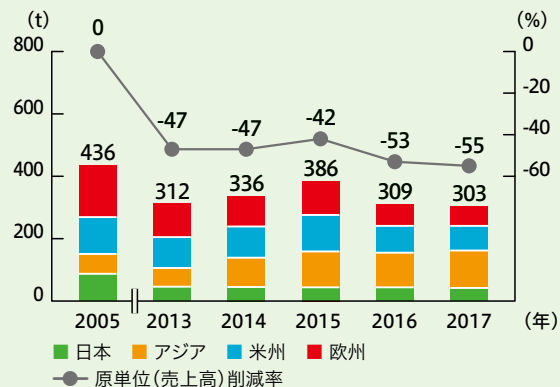
※ 製品使用時の水使用量は、主に日本国内の消費者向け製品1個当たりの製品使用時の水使用量に、当該製品の年間の売上個数を乗じて算出した値を集計したものです。
 ※ 保証対象は水使用量および原単位(売上高)削減率
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

製品ライフサイクル全体の水使用量の推移(花王グループ)



※ 主に日本国内および海外で販売した製品単位数量当たりの製品ライフサイクル(ただし、自社グループの生産工程、物流工程を除く)を通じた水使用量に当該製品の年間の売上数量を乗じて算出した値に、自社グループの生産工程、物流工程を通じた水使用量の実績値を合算したものです。ただし、産業界向け製品は、調達に関する水使用量は含みますが、使用および廃棄に関する水使用量は含んでいません。
 ※ 保証対象は水使用量および原単位(売上高)削減率
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

COD汚濁負荷量の推移 (全生産拠点)



※ 下水道への排水に対するCOD汚濁負荷量は下水道除去率を加味しています。
 ※ 保証対象はCOD汚濁負荷量
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

水源別取水量の推移 (百万m³)

	2015年	2016年	2017年
地表水	0	0	0
半塩水・海水	0	0	0
雨水	0	0	0
地下水(再生可能)	4.7	4.9	5.0
地下水(再生不可能)	0	0	0
油汚染水・プロセス水	0	0	0
市水	12.5	12.3	12.2
他の組織からの排水	0	0.1	0.1

※ 集計対象は2014年までは花王グループ全生産拠点、日本国内の非生産拠点が対象。2015年は一部の、2016年以降はすべての非生産拠点を含まれます。

放流先別排水量の推移 (百万m³)

	2015年	2016年	2017年
河川・湖沼	2.0	2.1	2.3
半塩水取水源・海	6.3	6.0	5.8
地下水	0	0	0
下水道	2.7	2.7	2.8
他の組織への排水	0	0	0

※ 集計対象は2014年までは花王グループ全生産拠点、日本国内の非生産拠点が対象。2015年は一部の、2016年以降はすべての非生産拠点を含まれます。

水使用量(全拠点)は、前年と同等の17.3百万m³で、2005年を基準とした原単位(売上高)削減率は前年より1ポイント改善の43%となり、2017年目標の38%削減を達成し、2020年目標の40%削減を前年に続き達成しています。また、取水リスクのある生産拠点の水使用量は3.6百万m³でした。

製品ライフサイクル全体の水使用量(花王グループ)、製品使用時の水使用量(日本花王グループ)は、それぞれ9百万m³、52百万m³減少し、原単位(売上高)削減率は2ポイント改善の19%削減、2ポイント改善の24%削減となりました。食器用洗剤の節水性能が向上したことで、これら水使用量の改善に貢献しました。

COD汚濁負荷量は、前年より7トン減少し、原単位(売上高)削減率は2ポイント改善しました。

課題は使用段階での水使用量の低減です。節水型製品のさらなる拡大を進めていきます。

ステークホルダーとの協働

・ CDPサプライチェーンプログラムに参加し、水リスクが一定基準より高いサプライヤーに、水使用量・管理状況等の調査・確認に協力いただいています。

・ 中国政府と協働で継続実施している節水キャンペーンは、2017年で6年連続の開催となりました。活動エリアを拡大し、今回は中国の53大学で節水の啓発を行ないました。

具体的な取り組み

原材料購入における取り組み

サプライヤー 製造委託先

CDPサプライチェーンプログラムに参加し、水リスクが一定基準より高いサプライヤーに、水使用量・管理状況等の調査・確認に協力いただいています。

開発・生産・販売における取り組み

地域社会 販売店

花王の各工場では、製品への配合や設備の洗浄・冷却などに水を利用しています。工場ごとに水使用量の削減目標を設け、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の視点で水使用量削減や再利用に取り組んでいます。

Reduceの取り組みとして、ボイラー用水や冷却用水の再使用回数を増やし使用量削減を図る取り組みを、ドイツ花王化学をはじめ複数の工場で行なっています。

Reuseの取り組みとしては、雨水の緑地の散水などへの活用を、すみだ事業場や上海花王化学、ファティケミカル(マレーシア)などで行なっています。

さらに、Recycleの取り組みとしては、使用後の蒸気

を積極的に回収したり、プロセスで利用した水を浄化して再使用する活動を、多くの工場で実施しています。

生産拠点を対象に水ストレスに関するリスクアセスメントを実施した結果では、新たに6拠点にリスクがあることがわかりました。現在、各拠点のリスクを詳細に評価しており、今後必要な対応を実施しています。

上海花王化学では、ある製品の反応プロセスで使用した水を、別の製品の製造プロセスに再利用し、水使用量を削減しています。花王(ベトナム)では、タンクの洗浄・滅菌プロセスにスプレーを利用した方式を導入して水や蒸気の削減に成功し、水やエネルギー、CO₂を削減しています。花王インダストリアル(タイランド)では、冷却水のオーバーフローを冷却水プールに戻して、ムダを無くす努力をしています。

地下水・土壌汚染の調査

和歌山工場、すみだ事業場、酒田工場、川崎工場、栃木工場、小田原事業場で自主的に地下水、土壌汚染の調査を実施し、いずれの測定項目も定量下限値未満であることを確認しました。

環境法規制の遵守

2017年は、環境法規制の逸脱件数は11件、罰金額は699千円でした。日本花王で水質汚濁防止法に関する逸脱が3件、花王コーポレーション(スペイン)で廃ドラム保管に関する逸脱で1件、米国の花王USAで行政報告遅延が1件、花王スペシャルティーズアメリカズで排水基準超過5件と排気フィルター検査の遅延が1件ありました。花王USAで昨年と同じ理由による逸脱が発生し、花王スペシャルティーズアメリカズで多くの逸脱が発生してしまいました。各工場において、再発防止策を策定し、実行しています。

環境法規制 遵守状況

区分	単位	2015年	2016年	2017年
逸脱件数 ^{※1}	件	1	3	11
内漏出	件	0	0	0
罰金総計 ^{※2}	千円	0	2,590	699
内漏出	千円	0	0	0

※1 報告期間において当局等が覚知したすべての事象

※2 報告期間において支払った罰金

使用における取り組み

消費者等

コンシューマープロダクツ事業における取り組み

使用段階の水使用量が全ライフサイクルでの水使用量のほとんどを占めているため、さまざまな取り組みを実施しています。節水型製品の提供と、その使用方法のコミュニケーションが代表的な取り組みです。

花王は、すすぎ1回を可能にする衣料用洗剤「アタック Neo」を2009年に日本で発売以来、すすぎ1回を可能にする衣料用洗剤を、日本、中国、香港、マレーシア、シンガポール、オーストラリアで提供しています。

さらに、2010年より従来品よりすすぎ水を20%減らすことができる「メリットシャンプー」を、2014年よりすすぎ水を20%減らすことができる食器用洗剤「キュキュット」を、2015年からは、すすぎ水を10%減らすことができる浴室用洗剤「バスマジックリン」を提供しています。このように幅広い製品群で、節水型製品を展開しています。

また節水方法についても、さまざまなアプローチで消費者に伝えています。たとえば、より少ない水で洗髪できる「エコシャンプー術」を開発し、消費者への啓発も行なっています。節水型製品の提供と同時に、節水方法をお伝えしていくことは、「環境宣言」のスローガン“いっしょにeco”をまさに具現化した取り組みです。

ケミカル事業における取り組み

ケミカル事業におけるセメント用添加剤「ビスコトップ」は、水辺の工事において、セメントが周囲の川や海などへ分散するのを防ぐ効果があり、福島第一原子力発電所の汚染水を取り除く工事でも使用されています。

2017年「ビスコトップ」は、一般社団法人日本化学工業協会(日化協)の第49回日化協技術賞のうち、独創的で、かつ科学技術の進歩に寄与した技術・製品に与えられる、「技術特別賞」を受賞しました。



→詳細はP101「コミュニティ>法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業)/Topic「水性インクジェット用顔料インク」と高機能特殊増粘剤「ビスコトップ」が受賞」

花王は、引き続き水使用量が少なく、水環境に及ぼす影響がより小さい製品の提供を続けていきます。

製品使用後の排水への取り組み

行政・処理業者

花王は、製品使用後の排水が水環境に与える影響に配慮した製品づくりに取り組んでいます。具体的には、下水処理場で使用する活性汚泥や河川から採取した河川水を用いて、環境に排出される可能性のある原料の分解されやすさ(生分解性)や代表的な水生生物への影響などを調べることにより、環境負荷のより少ない原料の開発や使用を積極的に進めています。

製品使用後の実態把握にも目を向け、河川環境モニタリングなど独自のフィールド調査も継続して行なっています。また、グローバル化に対応し、海外でのモニタリング活動や河川水中濃度を予測するシミュレーションモデルの開発を専門家と協働で進めることにより、各地域の環境に配慮した事業活動をめざしています。

さらに、日本石鹼洗剤工業会においても、代表的な4種の界面活性剤を対象とした環境モニタリングを都市河川にて19年間にわたって実施し(4河川7地点、年4回測定)、生態系に及ぼす環境リスクを評価しています。その結果、これまでの調査ではこれらの界面活性剤の水生生物に対するリスクは定常的に低いことが示されています。

花王のアプローチ

花王は、科学的根拠に基づくリスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用・生産されるように、SAICM(国際化学物質管理戦略)に沿って、開発、製造、および使用から廃棄に至るライフサイクル全体にわたって化学物質を適切に管理し、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしています。

社会的課題と花王が提供する価値

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議(WSSD^{※1})」では、「予防的取組方法に留意しつつ、透明性のある科学的根拠に基づくリスク評価手順とリスク管理手順を用いて、化学物質が人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用・生産されることを2020年までに達成する」との国際目標、いわゆるWSSD2020年目標が合意されました。その後、この目標の達成に向けて、2006年の第1回国際化学物質管理会議(ICCM^{※2})において「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ(SAICM^{※3})」が取りまとめられ、国連環境計画(UNEP)において承認されました。

花王では、原料から最終製品まで、多くの種類の化学物質を取り扱っており、以前から、使用または製造している化学物質の適切な管理に努めてきました。2001年には、「化学物質総合管理システム」を独自に構築し、原料・製品の品質管理や各国法規制遵守、安全性確保等の化学物質の適正管理を行なっています。さらに、SAICMの採択など、世界的な化学物質管理強化の動き

を踏まえ、2009年に公表した「環境宣言」の中期目標で「SAICMに沿って積極的に化学物質の管理に努める」ことを掲げ、2012年には「SAICM推進委員会」を発足させ、化学物質の管理をさらに強化しています。

花王は、SAICM推進活動を通して、開発、製造、および使用から廃棄に至るライフサイクル全体にわたって化学物質の適切な管理を推進し、持続可能な社会の実現に貢献することをめざしています。

※1 WSSD

持続可能な開発に関する世界首脳会議。World Summit on Sustainable Development

※2 ICCM

国際化学物質管理会議。International Conference on Chemicals Management

※3 SAICM

国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ。Strategic Approach to International Chemicals Management

貢献するSDGs



方針

花王では、家庭用製品から工業用製品まで幅広く化学物質を取り扱っており、以前から、積極的に化学物質管理を進めてきました。さらに、より安全かつ適切に化学物質を使用するために、国際的に合意されたSAICMに沿って化学物質管理を推進・強化しています。2013年に策定した「SAICM推進の基本方針」は、花王の化学物質に関する全社的な管理方針を規定したものであり、花王の化学物質管理のベースとなっています。

SAICM推進の基本方針

1. より安全性にすぐれ、価値のある化学物質の開発と使用、環境負荷の少ない製造プロセスの開発
2. 科学的なリスク評価とライフサイクル全体を通じた化学物質管理
3. 化学物質に関わる法規制・自主基準の遵守と国際協力・国際協調の推進
4. ステークホルダーとのリスクコミュニケーションの推進



→詳細は「SAICM推進の基本方針」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement/saicm-policy.html>

体制

花王は、SAICMの目標に向けた取り組みを具体的に加速させるため、社長が委員長を務めるサステナビリティ委員会のもとに「SAICM推進委員会」を2012年に発足させました。SAICM推進委員会には、品質保証本部、ケミカル事業部門、研究開発部門、SCM部門、経営サポート部門のトップマネジメントが参加しています。

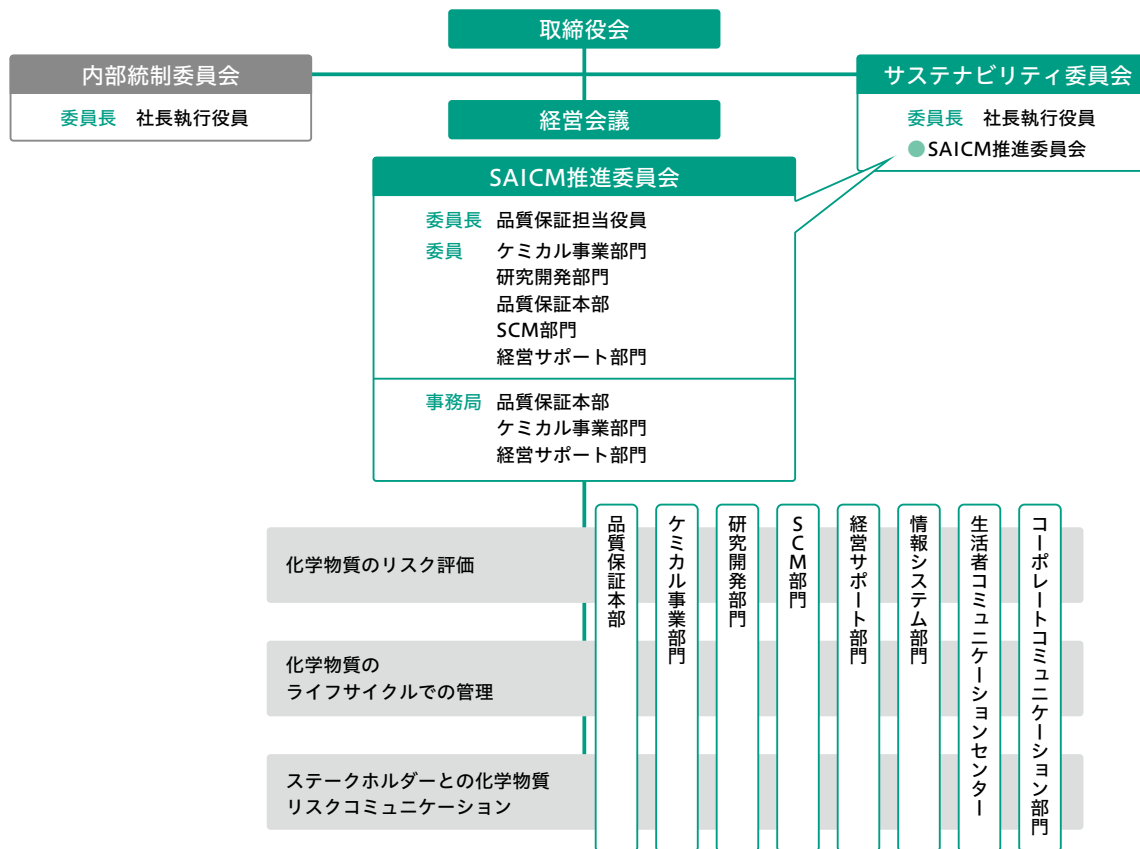
委員会では、

1. 化学物質のリスク評価
2. 化学物質のライフサイクルでの管理
3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

の3つを花王における主なSAICM推進活動として掲げ、それぞれに対応するプロジェクトを設置し、各活動を推進しています。

また、レスポンシブル・ケア推進体制のもと、PRTR法対象物質や揮発性有機化合物(VOC)などの排出量削減活動を推進しています。

SAICM推進体制



※2017年12月現在



→ P185「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動/体制」

化学物質総合管理システム

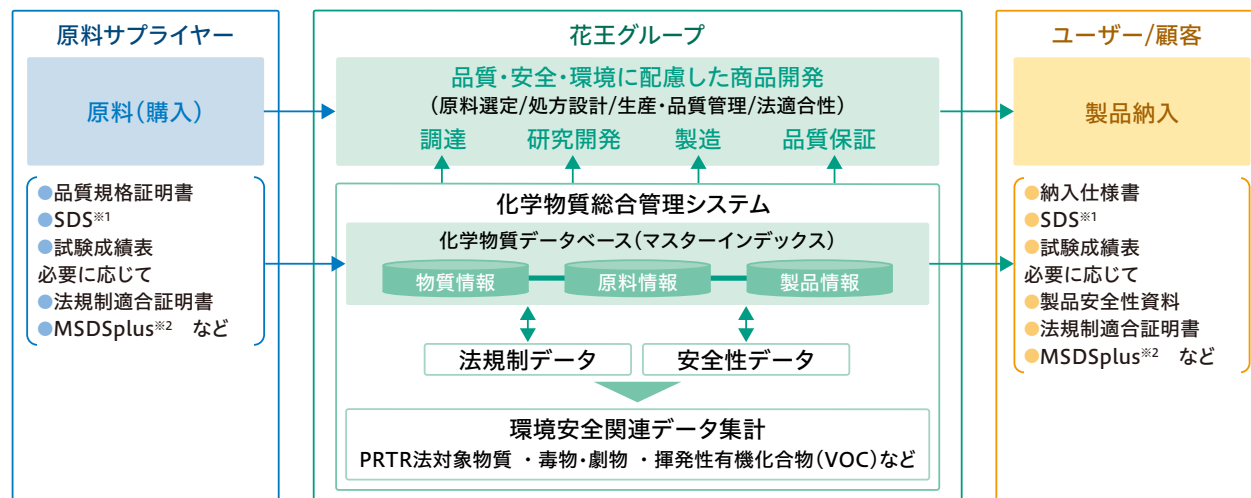
花王では、家庭用製品および工業用製品の安全・安心を確保するために、個々の原料・製品に「マスターインデックス(Master Index)」というグループ共通コードをつけた「化学物質総合管理システム」を2001年に独自に構築し運用しています。製品に含まれる種々の原料について、その構成成分にまで分解して登録しており、製品ごとにどのような品質、安全性、防腐性、法規情報などを持った原料が使われているかを瞬時に確認することができるため、万一原料に問題が発生した場合や、新たな懸念物質などのリスクが発生した際は、影響範囲を即座に特定し、適切な対応ができるようになっていきます。

2017年はシステムの大幅な機能拡張を行ないました。これにより、適正かつ確実な化学物質の一元的な管理をシステム内で実現し、コンプライアンスのさらなる強化を図っています。

幅広い製品分野をカバーするコンシューマープログラム事業と、素材開発を基盤としたケミカル事業を併せ持つ花王グループは、数多くの化学物質を取り扱っています。グローバル・ボーダレス化する各種法規制、環境規制に対応するべく、「使用禁止物質」「使用削減物質」「取扱注意物質」などの自主基準を策定し、データベースへ登録する際のゲート管理を徹底しています。

社内専門スタッフによる一元的な管理のもと、「化学物質総合管理システム」に蓄積されたデータは、グループ全体の各部門で共有し、グループ一体となった化学物質の適正管理を積極的に進めています。

花王化学物質総合管理システム



※1 SDS
化学製品を安全かつ適切に取り扱うために、製品に含まれる物質名、危険有害性情報、取り扱い上の注意などに関する情報を記載した書類。Safety Data Sheet

※2 MSDSplus
特定の化学物質の情報伝達シート。

教育と浸透

花王は、SAICM 推進の活動内容や花王がリスク評価を行なった花王優先評価物質の安全性要約書を、花王および花王ケミカルウェブサイトに掲載し、社内外への浸透に努めています。

SCM 部門では、入社時・配転時の教育から専門分野・経験に応じた教育プログラムを構築しており、その中で化学物質の危険性・有害性に関する教育を行なっています。

また、消費者向け製品、化学品および素材開発に携わる研究者や生産に携わる花王および協力会社の従業員に対する教育も行なっています。化学物質管理に関する説明会を毎年実施しており、2017年は274人が参加しました。

ステークホルダーとの協働

花王では、化学物質管理における社会情勢やステークホルダーの企業への要望等について理解を深め、SAICM 推進活動にフィードバックするために、SAICM 推進委員会に定期的に外部有識者をお招きし、講演会や意見交換会を実施しています。2017年も講演会および意見交換会を実施しました。

また、化学業界による SAICM への貢献活動として、国際化学工業協会協議会 (ICCA) が提唱し一般社団法人日本化学工業協会が2009年から進めているプロダクトスチュワードシップに基づく化学物質管理強化のための自主的活動 (JIPS[※]) に、花王も積極的に参画しています。

さらに、行政によるアジア諸国との化学物質管理に関する取り組みにも協力し、国内外の行政当局との意見交換などを積極的行なっています。

※ JIPS

化学物質管理強化のための自主的活動。Japan Initiative of Product Stewardship

SAICM の合意を受けて、国際化学工業協会協議会 (ICCA) が推進している「グローバルな化学物質管理を強化する行動指針 (GPS)」に基づいた取り組み。

中長期目標と実績

中長期目標

花王は、持続可能な社会の実現をめざして、以下の中長期目標を掲げています。

1. 化学物質のリスク評価

花王での製造・使用数量、人や環境へのばく露量や、花王の企業活動における重要性などを考慮して花王優先評価物質を選定し、そのリスク評価を行ない適切に管理するため、以下の目標を設定しています。

- ・花王優先評価物質(19カテゴリー)のリスク評価の2020年までの実施と継続

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

化学物質を取り扱う現場で化学物質が作業者の健康に悪影響を及ぼさないように、以下の目標を設定しています。

- ・化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントおよび対策の2020年までの実施と、新規取り扱い物質のリスクアセスメントおよび対策の継続

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

花王が製造・使用している化学物質の安全性情報をサプライチェーン全体に伝達し、化学物質に関わる安全を確保し適切に使用、対応できるように、以下の目標を設定しています。

- ・花王優先評価物質の安全性要約書20件の2020年までの公開と継続
- ・ケミカル製品のGPS安全性要約書*150件の2020年までの公開と継続

※ GPS 安全性要約書

一般社会に対して化学物質の安全性情報の概要を提供する書類。物理化学的特性のほか、リスクが適切に管理される使用・加工の取扱条件、リスク管理措置などが記載された書類で、川下ユーザーへの情報伝達にも利用される。

2017年の実績

SAICM 推進委員会では、2017年の各プロジェクトの目標として以下を掲げ、計画通り活動しました。

1. 化学物質のリスク評価

- ・中期計画に沿った花王優先評価物質のリスク評価とリスク評価書の作成
- ・化学物質ライフサイクル管理システムの基盤構築

2. 化学物質のライフサイクルでの管理

- ・化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策の立案と実施
- ・化学物質を取り扱う現場でのGHS*に従った危険有害性表示

※ GHS
化学品の分類および表示に関する世界調和システム。Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals

3. ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

- ・SAICM 推進活動成果物の一般公開
- ・ステークホルダーコミュニケーションの検討



→詳細はP48-49「具体的な取り組み：化学物質のリスク評価／化学物質のライフサイクルでの管理／ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション」

- 化学物質に関わる規制遵守、化学物質の安全、環境に関わる課題への対応として、グローバルな化学品法規制への対応、ケミカル製品の情報提供によるサプライチェーン全体での化学物質適正管理に向けた活動、ケミカル製品の輸出入管理の強化を行ないました。

- PRTR 法対象化学物質やVOCの排出量管理、大気汚染防止への取り組みなども継続して活動を推進しました。

具体的な取り組み

化学物質のリスク評価

1. 中期計画に沿った花王優先評価物質のリスク評価とリスク評価書の作成

2017年は中期計画に沿って、2017年に予定していた花王優先評価物質3カテゴリーのリスク評価を終了（累計15カテゴリー）し、結果をリスク評価書としてまとめました。3カテゴリーともにリスクは許容できるレベルでした。

2. 化学物質ライフサイクル管理システムの基盤構築

花王の化学物質総合管理システムをベースとして、グローバル化学物質数量管理システムの構築および既存の安全データシート（SDS）作成・管理システムの再構築を中心として、より進化させた化学物質ライフサイクル管理システムの基盤構築を検討しています。

化学物質のライフサイクルでの管理

1. 化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに基づいたリスク低減対策の立案と実施

化学物質を取り扱う現場でのリスクアセスメントに関しては、従来のコントロールバンディング法^{※1}による作業場での定性的なリスク評価に加え、欧州REACH^{※2}でのリスク評価にも採用されている、定量的なリスク評価手法であるECETOC TRA^{※3}を組み合わせで行なっています。

2016年6月施行の改正労働安全衛生法で義務化された通知対象物質については、新規作業・手順が変更された作業のリスクアセスメントおよびリスク低減対策の立案を継続しています。

2017年は、新規作業のリスクアセスメントが確実に行なわれるように、リスクアセスメントを商品開発プロセスへ組み込む検討を開始しました。

既存作業についても、製造エリアごとの最大リスクランクを決定し、それに応じたリスク低減対策の実施を開始しました。

2. 化学物質を取り扱う現場へのGHSに従った危険有害性表示

2016年から、作業者が作業前に、取り扱う化学物質の危険有害性を確認できるように、工場内のサンプリングや充填などの化学物質を取り扱う場所へGHSに従った危険有害性表示を継続しています。2017年までに、国内9工場のうち、2工場で表示を完了しました。今後、国内全工場への展開を進めていきます。

※1 コントロールバンディング法

化学物質の健康有害性についてのリスクアセスメント手法の一つ。国際労働機関（ILO）が、開発途上国の中小企業を対象に、有害性のある化学物質から労働者の健康を保護するために、簡単で実用的なリスクアセスメント手法を取り入れて開発した化学物質の管理手法。化学物質を取り扱う作業ごとに、化学物質の有害性、物理的形態（揮発性・飛散性）、取扱量の3つの要素によって、リスクの程度を4段階にランク区分し、管理のための一般的実施事項を区分ごとに示すほか、一般的に行なわれる作業については、より具体的な実施事項を示すことができるツールとなっている。

※2 REACH

EUの化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規則。Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals

※3 ECETOC TRA (European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals Targeted Risk Assessment)

EUの化学物質登録制度であるREACHでも用いられているリスク評価ツール。リスク判定とともにリスク管理の方向性も得られる。

ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション

1. SAICM 推進活動成果物の一般公開

花王では、実施したリスク評価結果を安全性要約書としてまとめ、公開する活動を行なっています。

2017年は、花王優先評価物質の安全性要約書3件を追加公開(累計13件)し、さらに、花王ケミカル製品のGPS安全性要約書を18件(累計125件)公開しました。



→GPS安全性要約書

<http://chemical.kao.com/jp/products/gps/>

2017年は、日本化学工業協会の化学品委員会から、JIPSについて顕著な取り組みを行ない、2016年最も多くのGPS安全性要約書を公開した企業として「JIPS賞」大賞を受賞しました。



→詳細はP52「具体的な取り組み:化学物質適正管理のためのケミカル製品の情報提供活動」/Topic 花王(株)のケミカル事業ユニットが「JIPS賞」大賞を受賞

2. ステークホルダーコミュニケーションの検討

花王では、ステークホルダーとの対面でのコミュニケーションも始めています。

2017年は、神奈川県が実施する子ども向け科学イベント「第17回かながわサイエンスサマー」のプログラムとして、川崎工場が「生活に役立つ製品のひみつ」というイベントを下記の項目をご理解いただくことを目的に実施しました。

- ・身の回りの製品は化学物質のさまざまな特徴を活かしてつくられている
- ・化学物質は、間違った使い方をすると人や環境によくない影響を与える場合がある
- ・花王では、それぞれの化学物質の影響がどのくらいの量で生じるか調べ、人や環境に有害な影響を及ぼさないか、製品ライフサイクルの各場面でしっかりと確認して製品をつくっている

2日間で100人の親子が参加し、実験を通じてボディウォッシュに配合されている成分の特徴、役割を学んでいただきました。「花王は地球環境や人のことも考えていることがわかりました。今度は私たちが使用量や方法を考えていきたいと思います」という感想もいただきました。身近なものを題材にして具体的な実験で化学物質の有用性を体感していただき、平易なことばで伝えることで、リスク管理の大切さをご理解いただくことができました。

今後もさまざまな活動を通して、化学物質への理解とリスク管理の大切さの啓発に取り組んでいきます。



→原料サプライヤー・法人顧客とのコミュニケーションについて詳細はP51「具体的な取り組み:化学物質適正管理のためのケミカル製品の情報提供活動」

化学物質に関する規制遵守、化学物質の安全・環境に関わる課題への対応

グローバルな化学品法規制への適合

花王グループでは、海外で製造もしくは海外に直接・間接に輸出している製品中の化学物質について、対象国での化学品管理制度に基づき、その数量や危険有害性に応じた登録を進めています。

欧州

EUでは、REACHにより年1トン以上製造・輸入される化学物質はすべて登録が義務付けられており、花王グループでは、欧州花王化学(KCE)と花王との緊密な連携のもと、毎年登録する物質を選定して着実に登録作業を進めてきました。

登録が必要な物質はすべて特定しており、登録を予定していた物質のうち87%の作業を2017年末までに完了しました。最終的な登録期限である2018年5月末までには、予定していたすべての登録を遅滞なく完了させる予定です。

米州

米国では、2016年6月にTSCA^{*1}が改正されました。新規化学物質の届出プロセス自体に大きな変更はありませんでしたが、審査の厳格化に対応し、必要な届出を着実に実施しています。

2017年8月には改正法の下、インベントリー見直し

の規則が発効しました。この規則に従い、花王グループが定められた期間に米国で製造・輸入した化学物質の届出を、2018年の期限までに実施する予定です。

アジア(中国・韓国・台湾・タイ・ベトナム)

中国をはじめアジアの国・地域でも、新規化学物質や危険化学品に相当する製品等の登録が急速に義務化されつつあります。花王グループでは、現地法人と連携し、製造輸入前の届出を行なっています。

中国では、2010年より新化学物質環境管理弁法で新たに製造・輸入される物質の登録が義務付けられています。また、危険化学品相当製品の登録もますます強化されています。花王グループでは、花王(中国)投資などの現地法人と連携し、製造・輸入前の登録を行ないました。2018年も、新たな関連法規制定や現行法改正の状況を把握し、関係部門と共有することで、滞りなく法規対応を行なっていきます。また、2018年以降、登記有効期限を迎える危険化学品製品について、現地法人と連携して更新登録を開始しています。

韓国では、2014年化評法(K-REACH)^{*2}施行後、新規化学物質および既存化学物質の登録対応・数量報告の実施など、法に基づく対応を実施しました。また、登録対象既存化学物質の協議体についても、韓国代理人を通して2協議体に参加し、登録期限である2018年6月に向け、取り組んでいます。さらに現在、化評法の一部改正案が公表されており(2017年12月現在)、年1トン以上のすべての既存化学物質に再登録が義務付けられる方向(EUのREACHに類似)であることから、状況を注視しながら対応する計画です。

台湾では、毒性化学物質管理法の下、製造・輸入量が年100キロを超える化学物質について、2カ月ごとに物質集計を行ない、花王(台湾)と連携しながら届出を行ないました。2017年末に公表された第1回の登録対象既存化学物質のドラフトのうち、該当物質については、花王(台湾)、ケミカル事業部と連携しながら対応する予定です。

タイでは、2015年8月、既存化学物質インベントリー
の構築と新規化学物質登録制度に関する発表がありま
した。新規化学物質登録制度の開始時期は未定ですが、
既存化学物質のインベントリーについては引き続き花
王インダストリアル(タイランド)と連携しながら届出
を行なっています。現在実績のある製品を中心に、必
要な製品をリストアップし、ほぼ予定どおり第一次の
届出を完了しました。引き続き、新規化学物質登録制
度と既存化学物質のインベントリー公表の状況を注視
しながら、二次対応として既存製品・化学物質の届出
準備、対応を行なっています。

ベトナムでも、化学品法の下、既存化学物質インベ
ントリーの構築が進められています。2017年3月にドラ
フトが公表され、その後も追加公表が予定されてい
ることから、花王(ベトナム)と連携しながら、追加届出
を計画しています。

そのほか、インドネシア、マレーシア、フィリピン、
シンガポールでも、製造、輸入、使用等に関する各種化
学品法令への対応を進めています。

※1 TSCA

米国の有害物質規制法。Toxic Substance Control Act

※2 化評法(K-REACH)

韓国の化学物質の登録および評価等に関する法律。Act on
Registration and Evaluation, etc. of Chemical substance
(K-REACH)

化学物質適正管理のための ケミカル製品の情報提供活動

花王では、サプライチェーン全体で化学物質に関わ
る安全を確保し適切に使用、対応できるように、ケミカ
ル製品の安全性情報の伝達を推進しています。

1. SDSおよび製品ラベルのGHS対応

ケミカル製品では、世界各国で導入されている各国
のGHSに対応したSDSの発行、製品ラベルの貼付を推
進しています。

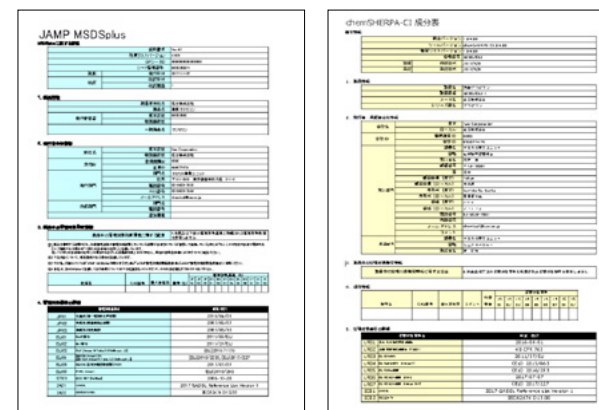
日本およびアジア関係会社におけるケミカル事業で
は、GHSに対応したSDSおよび製品ラベルの作成、化
学物質総合管理システムによる管理での一体運用を
2008年に開始しています。

2017年は、日本およびアジアの拠点からGHS実施
国・地域(日本、EU、米国、台湾、韓国、中国、シンガポ
ール、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア)へ販売
する製品のGHSラベル貼付を引き続き行ないました。
また、欧州の拠点からアジアへの輸出の際に、輸出国に
対応したラベル貼付の検討を開始しました。

2018年もGHS実施国などの動向を注視し、グロー
バルな取引を円滑に行なうため、GHSに対応したSDS
および製品ラベルの作成・発行を推進していきます。

2. 含有化学物質情報の提供と入手

ますます強化される各国法規制や業界基準に対応す
るため、花王はケミカル製品に含まれる化学物質の管
理(製品含有化学物質管理)を積極的に進めています。
JAMP※1の設立メンバーである花王は、JAMPが提案す
る共通書式を使用して、効率的な製品含有化学物質管
理や情報伝達を継続的に進んできました。



花王ケミカル製品のMSDSplus出力例(左)とchemSHERPA出力例(右)

2017年は1月にMSDSplusの改訂版(物質リスト
Ver.4.070)を発行し、販売代理店を通じて顧客へ配布
したほか、ウェブサイトでも公開しました。同様に、ア
ジア関係会社の製品について最新版MSDSplusを各関
係会社のウェブサイトにて英語・中国語で公開しました。

一方、経済産業省が主導して開発した新しい製品含
有化学物質情報伝達スキーム「chemSHERPA※2」は、

2016年4月からJAMPがその運営を担うことになり、花王は2017年9月に、業界に先駆けchemSHERPA-CI^{※3}の改訂版(物質リスト Ver.1.04.00)の切り替えを行ないました。現在chemSHERPA-CIは、各種ウェブサイトで公開(日本語・英語・中国語)していますが、販売代理店を通じて顧客へ積極的に自主配布も行ないました。

今後もサプライチェーンにおける製品含有化学物質管理の向上と普及に向けて、社内外の関連部門や関連団体と協力して積極的な活動に取り組んでいきます。

3. 化学物質のリスク情報(GPS安全性要約書)の公開

化学業界によるSAICMへの貢献活動として、国際化学工業協会協議会(ICCA)が提唱し、一般社団法人日本化学工業協会が2009年から進めているプロダクトステewardシップに基づく化学物質管理強化のための自主的活動(JIPS)に、花王も積極的に参画し、顧客との化学物質に関するコミュニケーションを推進しています。

従来より、花王は化学物質コミュニケーション活動として、国内外のケミカル製品について、SDS、chemSHERPAや欧州対応のeSDS^{※4}の公開を進めています。近年では、危険有害性情報や製品のリスクに関する情報などをわかりやすく記述したGPS安全性要約書を花王ケミカルウェブサイトおよびICCAのGPSケミカルポータルサイトに掲載しています。このGPS安全性要約書の公開活動は、花王におけるSAICM推進活動の重要な要素である「ステークホルダーとの化学物質リスクコミュニケーション」の推進活動として位置づけています。



- GPS安全性要約書
- ・花王ケミカルウェブサイト
<http://chemical.kao.com/jp/products/gps/>
- ・ICCAのGPSケミカルポータルサイト
<http://icca.cefic.org/en/Home/Global-Product-Strategy/global-product-strategy/chemical-information-search/?t=ByCompanyName&v=kao&ft=ByCompanyName&fv=kao>

2017年も花王が取り扱う複数の花王優先評価物質について、リスク評価の成果物として安全性要約書を花王ケミカルウェブサイトに公開し、これらに関連するケミカル製品についても日本語版と英語版のGPS安全性要約書を18件作成し、花王ケミカルウェブサイトとICCAのGPSケミカルポータルサイトに公開しました。また、REACH登録を行なった製品のGPS安全性要約書についても2件作成し、同様に公開しました。これにより、花王グループのグローバル公開件数は累計で125件となり、昨年に引き続き国内企業では最多の公開件数です。

2018年もGPS安全性要約書の公開を進め、顧客・社会とのリスクコミュニケーションをグローバルに推進していきます。

※1 JAMP
アーティクルマネジメント協議会。Joint Article Management Promotion consortium

※2 chemSHERPA
製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する法規制に継続的に対応するためのサプライチェーン全体で利用可能な新しい情

報伝達共通スキーム。

→ chemSHERPA ウェブサイト <https://chemsherpa.net/>

※3 chemSHERPA-CI
MSDSplusに相当する特定の化学物質情報を伝達するための化学製品データ作成支援ツール。

※4 eSDS
拡張安全データシート。従来のSDSにリスク評価やリスク管理にかかわる記載が追加されたもの。



→ P98「コミュニティ」>法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業)」

Topic 花王(株)のケミカル事業ユニットが「JIPS賞」大賞を受賞

2017年2月、花王(株)のケミカル事業ユニットが「JIPS賞」大賞を受賞しました。

「JIPS賞」は、一般社団法人日本化学工業協会の化学品委員会が2017年に創設した制度で、サプライチェーンを通じた化学品管理の自主活動GPS/JIPSで顕著な取り組みを行なった企業を表彰するものです。

花王は2016年に最も多くのGPS安全性要約書を公開した企業となっており、積極的に化学物質管理に努めていることが評価されました。

授賞式後の講演では、国内・アジア関係会社や欧米の関係会社でも公開を進めていくことなどをご説明しました。



授賞式

ケミカル製品の輸出入管理の強化

ケミカル事業のグローバル化が加速するなか、花王のケミカル関連会社での輸出入時の自動法規チェックの必要性や社内外からの法規遵守のためのチェック体制強化の要望など、輸出入管理のためのシステム導入の重要度は非常に高まってきています。

花王では、2018年までにすべてのケミカル関連会社へ新たな輸出入管理システムの導入を目標とし、準備を進めていましたが、こうした情勢を受け、2016年の米国ケミカル関連会社への導入に続き、2017年には、欧州およびアジアケミカル関連会社（計11カ国）への一斉導入を完了し、運用を開始しました。

国内法規制遵守に向けた活動

1. 化審法対応

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）では、用途ごとの数量報告が義務となっていることから、2017年も販売代理店の協力を得ながらケミカル製品の詳細用途情報を調査して、最新情報に更新し数量報告を実施しました。

また、2017年に追加された化審法優先評価化学物質については、顧客や販売代理店へ情報提供するために、対象となるケミカル製品のSDSを改訂しました。

2018年も販売代理店の協力を得ながらケミカル製品の用途情報の調査・更新を行なうとともに、該当するケミカル製品について優先評価化学物質に関する情報提供を行なっていきます。

2. 労働安全衛生法対応

2017年に追加された労働安全衛生法の表示・通知義務対象物質について、対象となるケミカル製品のSDSを改訂し、関係する顧客や販売代理店に配布しました。2018年も労働安全衛生法の追加物質について対応を行なっていきます。

化学物質の排出量管理

PRTR法対象化学物質の排出を把握・管理

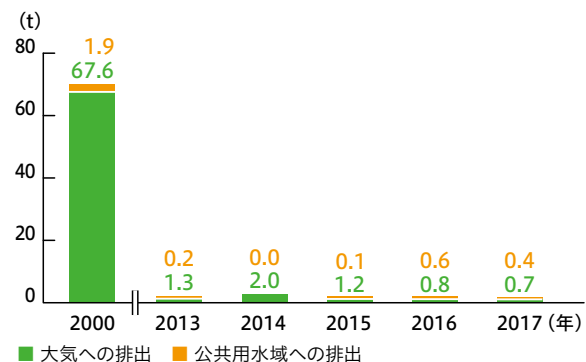
花王は、2000年度に各工場からの物質ごとの年間排出量を1トン以下に規制する自主目標を掲げて活動を開始し、2002年度にその目標を達成しています。その後、フロンガスの漏えいなどを除いて、自主目標を守り続けています。

花王が2017年に1トン以上取り扱ったPRTR法対象化学物質は75種で、大気および公共用水域への総排出量は1.1トンでした。また、一般社団法人日本化学工業協会が自主調査対象として定めた化学物質についてもPRTR法対象化学物質と同様に排出量や移動量等を把握し管理しています。



→詳細は「PRTR法対象物質の排出量」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/activity-data/chemical-management.html>

PRTR法対象化学物質の総排出量の推移



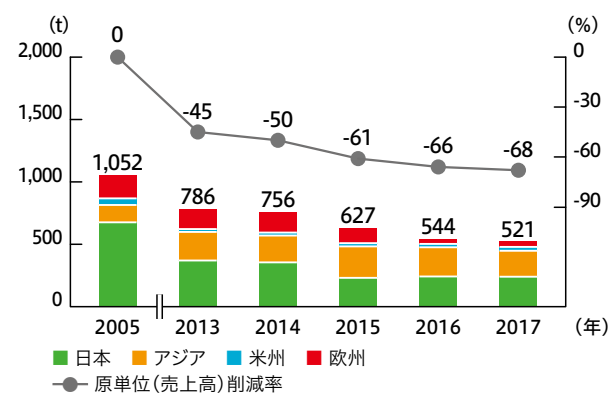
揮発性有機化合物(VOC)の排出量管理を実施

花王には、大気汚染防止法におけるVOC排出規制の対象となる設備はありませんが、自主的にVOC排出量の削減に取り組んでいます。

環境省環境管理局长通知の100種類を対象物質とし、各工場からの物質ごとの年間大気排出量を規制する自主目標(2005年5トン以下、2009年3トン以下、2010年1トン以下)を掲げ削減活動を進め、目標をクリアしてきました。現在は活動を維持することを目標とし、管理しています。

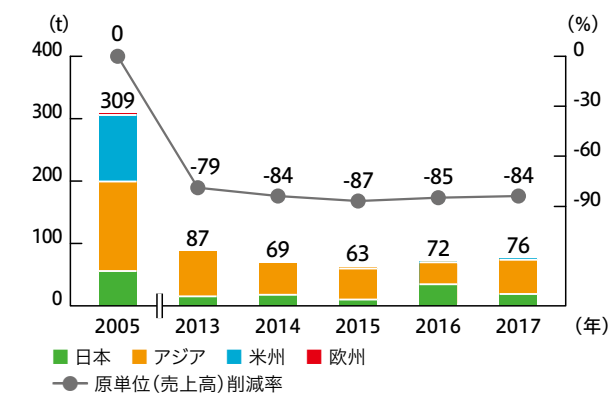
日本花王グループの工場で2017年に1トン以上取り扱ったVOCは34種であり、大気中への総排出量は9トン[☑]でした。

NOx 排出量の推移[☑]



※ 集計対象は花王グループの全生産拠点
 ※ 保証対象はNOx排出量
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

SOx 排出量の推移



※ 集計対象は花王グループの全生産拠点
 ※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

使用における取り組み

ケミカル事業における取り組み

PDF → P101「コミュニティ>法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業)/具体的な取り組み:グローバルで環境保全に寄与する製品」

PDF → P101「コミュニティ>法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業)/具体的な取り組み:Topic「水性インクジェット用顔料インク」と高機能特殊増粘剤「ピスコトップ」が受賞」

花王のアプローチ

花王の事業は、製品のライフサイクル全般において生物多様性からさまざまな恵みを受けていることで成立しています。生物多様性の保全が世界的な課題になっている中、花王は自社の事業による生物多様性への影響を低減するとともに、その恵みを使いつくすことなく持続的に利用していくことを、事業活動と社会活動双方の活動を通じて進めていきます。

社会的課題と花王が提供する価値

パーム油や紙、パルプは花王の主要原材料です。とりわけパーム油は、その生産地において森林破壊や現地に住む方々の人権侵害等、深刻な社会的課題を抱えています。花王はこの問題を真摯にとらえ、認証品の購入や原産地までのトレーサビリティ確保について具体的な目標を定め、その達成に向けて活動を推進しています。それにより、森林破壊や人権侵害のない持続可能な原材料調達に努めています。

貢献するSDGs



方針

花王は、事業活動の生物多様性に関わるリスク分析を踏まえて、2011年に「生物多様性保全の基本方針」を策定し、①事業との関わりの把握、②影響の低減、③独自の技術開発、④国際的な取り決めの遵守、⑤地域生態系に配慮した事業活動、⑥社員の意識向上、⑦社外関係者との連携の7つの方針を掲げました。詳細な行動指針と各方針に対応する具体的な活動事例をウェブサイトにて公表しています。



→詳細は「生物多様性保全の基本方針」と「行動指針と活動事例」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/statement/biodiversity-policy.html>

体制

花王では、生物多様性保全活動をグループ全社で中長期にわたって確実に推進していくため、生物多様性に関する方針、目標、計画、活動等についてレスポンシブル・ケア推進体制で管理しています。



→P185「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動/体制」

教育と浸透

「生物多様性保全の基本方針」を策定した2011年から2012年にかけて、日本花王グループの全社員を対象としたeラーニングを実施しました。2013年からは、新入社員に対し生物多様性を含む環境教育を毎年実施しています。海外については、毎年開催しているグローバルRCミーティング等を通じて生物多様性に関する啓発を行なっています。また、生物多様性に配慮した緑地保全活動の全社での推進を開始しており、この活動への参画を通じて、全社員に生物多様性への理解を深めてほしいと考えています。

中長期目標と実績

2020年中期目標

原材料の調達などの面で、生物多様性保全に努めます。
原材料調達については、主要原材料であるパーム油や紙・パルプについて、2020年目標を詳細に設定しています。



→詳細はP134「コーポレート・カルチャー> 持続可能で責任ある調達」

2018年目標

生物多様性に関するレスポンシブル・ケア目標として、以下を掲げています。

1. 持続可能な原材料調達の推進

2020年目標の達成に向けて、活動の着実な推進に努めます。

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

拠点の生物多様性保全状況評価：
工場を有するグループ全拠点における生物多様性保全活動の現状レベルを把握し、今後改善すべきポイントの明確化および活動目標・計画を立案する目的から、グローバル共通の生物多様性評価指標を導入しました。

3. コピー用紙削減

削減方法の周知と啓発／目標進捗管理と削減の推進

4. グリーン購入の推進

グリーン購入の周知と啓発／目標進捗管理とグリーン購入の推進

2017年の実績

1. 持続可能な原材料調達への推進



→P134「コーポレート・カルチャー>持続可能で責任ある調達」

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

各拠点における生物多様性保全活動の推進

・和歌山工場

公益財団法人都市緑化機構が認定する、SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)において、認定レベルとして5段階評価の最高位を取得しました。

和歌山市内の小学4年生を対象に、水軒堤防の取り組みを通じて和歌山の歴史と環境について学ぶことができる学習教材「水軒堤防ものがたり」を制作し、4,000部を和歌山市に寄贈しました。

和歌山県が主催する「企業の森」事業に2007年から参画し、植栽や下草刈りなどの活動を行ってきました。活動地が健全な山林に育ってきたことから、和歌山県紀美野町に新たな活動地を契約し、活動を開始しました。



→詳細はP 59「具体的な取り組み:和歌山工場における環境保全活動」

・鹿島工場

「社員の森」において、地域住民や社員の家族を対象に、「自然とふれあう環境教室」を開催しました。木の実や落ち葉等を用いて子どもたちに自由に創作してもらった「森の芸術家」工作活動などの環境啓発イベントを行ないました。

「社員の森」育成活動によるCO₂削減効果とそれを題材にした環境教育活動が評価され、「クールアースいばらき大会2017」で最優秀賞を受賞しました。

・川崎工場

川崎市の臨海工業地域に位置する工場ですが、敷地内の緑地は地域有数のまとまった緑地として外部から高く評価されています。2017年は外部専門機関による生物調査を実施し、ジャコウアゲハ等、数多くの生物の生息を確認しました。現在、生物多様性に配慮した緑地管理方法の検証を進めています。

花王・みんなの森づくり

2017年3月に、2016年助成先として「森づくり活動」分野で11団体、「環境教育活動」分野で10団体、合計21団体の助成を決定しました。これまでにのべ432団体を支援しており、活動に参加した市民の方は32万人に上ります。

タイ北部“FURUSATO”環境保全プロジェクト

2012年から2016年の5年間で、目標としていた35ha

に42,500本の植林を達成しました。タイ北部の森林再生に寄与すると同時に、形成された森林をどのように生かすか共存していくかといった、住民主体の持続可能な森づくりへの意識も高まりつつあります。

第1フェーズのプログラムは終了しましたが、第2フェーズのプロジェクトを通じて地域住民の雇用創出や技術取得につながる森づくりのフォローアップを計画しています。

「東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト」を社員ボランティアがサポート

2017年は、10人の社員が現地に赴き、調査のサポートをしました。この調査で得られたデータは、生物多様性に配慮した復興の計画や、種の保全のために活用されます。

「花王・教員フェロシップ」で教員を野外調査プロジェクトに派遣

2017年は、5プロジェクトに10人の教員が参加し、現地で得られた経験を学校や地域での環境教育に活用いただいています。11月には、本年度およびこれまでの参加者が参加する活動報告会を実施し、環境教育の実践事例の情報交換を行ないました。これまでのべ75のプロジェクトへ148名の教員の皆さまに参加いただいています。



→詳細は「社会貢献活動報告書」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/social-reports/>

ステークホルダーとの協働

- ・花王の事業活動・社会活動全般について、生物多様性を含むサステナブルな視点から、今後も正道を歩み続けていけるように、定期的に外部コンサルタントの助言をいただいています。
- ・2008年の発足当初から参加している「企業と生物多様性イニシアティブ(Japan Business Initiative for Biodiversity:JBIB)」において、異業種のさまざまな企業と連携して、企業が生物多様性の保全にどのような形で貢献できるのかを検討する研究活動やイベント開催等、多様な活動を推進しています。
- ・国内外の各拠点において、地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動を推進するため、省庁、自治体、学術機関、NGO/NPO等のさまざまなステークホルダーと連携した生物多様性保全活動を推進しています。

具体的な取り組み

和歌山工場における環境保全活動

防潮林の保全

和歌山市には、江戸時代初期に地域の民家や農地を潮風から守る目的で作られた長さ約3kmにも及ぶ松林の堤防があり、その一部は「水軒堤防(すいけんていぼう)」という県の史跡に指定されています。この松林が敷地内を南北1kmにわたり縦断している和歌山工場では、長い間その保全に努めてきました。



和歌山工場と工場を縦断する松林



和歌山工場の松林保全ゾーン

2011年以降、和歌山工場は、他を牽引する「生物多様性モデル工場」として、松林を中心に、生物多様性に配慮した緑地づくりや管理・利用などの取り組みを行ってきました。松林保全ゾーンには遊歩道を設け、社員啓発や、工場内にある「エコラボミュージアム」と連携した社会とのコミュニケーション推進等にも有効に活用しています。

2017年には、水軒堤防を作った昔の人の知恵と工夫や現在の保全活動を地域の子どもたちに是非知ってもらいたいとの思いから、和歌山市の元小学校教員や和歌山市教育委員会等の協力を得て、郷土の歴史と環境について学ぶことのできる学習教材「水軒堤防ものがたり」を完成させました。本冊子は、和歌山市内のすべての小学4年生を対象としており、4,000部を和歌山市に寄贈しました。



和歌山市役所で行なわれた「水軒堤防ものがたり」の贈呈式

「企業の森」に社員が参加

地域で行なわれている森林保全や清掃等のさまざまな環境保全活動に一般の社員が積極的に参加しています。たとえば、和歌山県が主催する「企業の森」事業には2007年より参画し、多くの社員の手により、荒れていた山林に約700本の地元種を植栽し、以降も下草刈りを毎年継続しています。活動地が健全な山林に育ってきたことから、2017年は新たな活動地を追加し、植栽に備えた地拵えを行なうなど、活動の幅を広げています。

こうした活動が総合的に評価され、和歌山工場は公益財団法人都市緑化機構が認定するSEGES※「そだてる緑」において、認定レベルとして5段階評価における最高位である「Superlative Stage」を取得しました。



「花王の森 おいし」にて不要な雑木を伐採する社員

※ SEGES

社会・環境貢献緑地評価システム。緑を守り育てる活動を通じて社会や環境に貢献している企業の緑地を対象に、特に優れた取り組みを客観的に評価する。

事業と生物多様性との関わりの把握

花王は、環境影響を統合して数値化できるLIMEなど、さまざまな評価手法を用いて製品が環境側面に及ぼす影響を包括的に評価しています。



→詳細はP22「エコロジー>環境への取り組み/環境に配慮した製品の設計-LCAを用いた製品の環境影響評価」

花王のアプローチ

花王は、工場や事務所から発生する廃棄物の削減、再資源化、最終処分量の削減を進めています。また、お客さまが製品を使用した後に廃棄する、容器包装やおむつなどの重量の削減に努めています。さらに、工場や事務所から発生する廃棄物が適切に処分されていることを確認するため、廃棄物処理業者を訪問し現地監査しています。

社会的課題と花王が提供する価値

廃棄物の発生量の増大は世界の社会課題になっています。また、廃棄物処理システムの社会基盤の整備が不十分な地域では、廃棄物の放置や、処分場の管理が不十分なため人への健康被害や環境汚染を起こす例もあります。

花王は、工場や事務所から廃棄物を発生させているだけでなく、お客さまの使用後に廃棄物となる製品を提供しており、廃棄物に関する社会課題に取り組んでいく責任を負っています。

花王は、廃棄物の発生そのものを減らすことを最優先に考えています。それによって、製品の製造に用いる資源やエネルギーの保全、エネルギー消費に伴い発生するCO₂の削減、バイオマス原材料の使用削減による生物多様性保全にもなるためです。この「廃棄物削減」という課題解決に向け、花王は技術開発に取り組んでいます。たとえば、容器包装の減量化や、つめかえ化に必要な技術開発を進め、家庭から排出される廃棄物の削減に貢献しています。

また、家庭でやむなく発生した廃棄物を可能な限りリサイクルできるようにすることで、資源保全・循環型社会形成に貢献しています。リサイクルは社会との連携が不可欠です。家庭から排出される廃棄物は、行政など社外機関が回収し、処理やリサイクルしますが、日本や台湾では容器リサイクル法のもと、花王は容器包装のリサイクルを外部業者に委託して、リサイクルを実現しています。

近年では海洋を浮遊する廃棄物によるさまざまな影響にも注目が集まっています。不適切に投棄された廃棄物が海洋に流出して海洋ごみになると考えられています。この問題の解決には、社会全体での廃棄物回収・リサイクルシステムの構築と、製品供給事業者による容器包装等の削減が必要です。花王は、つめかえ用製品の普及等による容器包装の削減に取り組むことで、社会と協働して問題解決に貢献していきます。

貢献するSDGs



方針

事業活動に伴う廃棄物の削減

花王は、工場や事務所から発生する廃棄物等の発生量を削減し、発生した廃棄物等については社内外での再利用、リサイクルを進めています。廃棄物発生量の削減目標を掲げ、グループ全体で取り組んでいます。

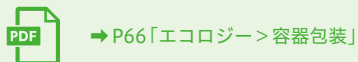
工場においては、原材料ロスや製品ロスの削減を進めています。たとえば、液体状の製品の場合、1つの生産設備で生産する製品を切り替えるときに、配合用タンクや貯蔵用タンクの洗浄で排水汚泥が発生します。シート状製品の場合は、材料を交換するときに使い切れない部分が発生します。このようなロスの発生内容に応じたロス削減対策を常に検討し改善を重ね、削減を進めています。

発生した廃棄物は、リサイクルが可能なように分別を徹底し、より適切な方法を選定し、委託業者と協力してリサイクルを進めています。リサイクル量や最終処分量も発生量と併せてモニタリングし、廃棄物処理方法全体の改善に取り組んでいます。

容器包装使用量の削減

花王は、容器包装使用量を削減するために、使用する樹脂量の削減、内容物の濃縮化等による容器包装の

コンパクト化、つめかえ用製品の提案等を行なっています。これらはISO18600シリーズ(環境配慮包装規格)に則った活動です。



製品の材料使用量の削減

花王は、おむつやシート製品など、お客さまの使用後に製品そのものが廃棄物になる製品を提供しています。花王は、製品機能を確保すると同時に、材料使用量を削減する技術を開発し、廃棄物削減に貢献しています。

廃棄物の不法投棄防止

工場や事務所から排出される廃棄物の処理を処理業者に委託する場合、不法に投棄されるリスクがあります。花王は、このリスクを低減するため、定期的に処理業者を訪問し、廃棄物が適切に処理されていることを確認しています。

日本花王グループにおいては、廃棄物処理業者の契約情報や適正処理調査結果などをデータベース化し、不法投棄防止を確保しています。このシステムは不法投棄を防止する「電子マニフェストシステム」に連動しており、併せて不法投棄防止を確実なものにしています。

PCB廃棄物を適正に保管・処理

ポリ塩化ビフェニル(PCB)は、絶縁油として変圧器や安定器等で利用されてきましたが、難分解性のため人の健康および生活環境に関わる被害が生じるおそれがあります。花王は、PCB廃棄物を処理業者に処理委託するまでの間、廃棄物処理法およびPCB特別措置法の基準に従って適切に保管し、適宜適切に処理を行なっています。

体制

廃棄物に関する活動は、レスポンシブル・ケア(RC)推進体制で管理しています。SCM部門は、全工場の環境担当者が参加する環境部会を開催し、各工場の廃棄物に関して進捗管理をしたり、ベストプラクティスを社内展開しています。

廃棄物処理業者の現地確認は、SCM部門、購買部門、ロジスティクス部門、情報システム部門、販売部門、関係会社で協働し、計画的に実施しています。

また花王は、環境関連データを一元管理するデータベースを用いて、データの信頼性を確保し、業務を標準化・効率化することで、的確な活動展開につなげています。

中長期目標と実績

中長期目標

花王グループの全拠点における廃棄物等発生量の2020年削減目標は、毎年0.5%の削減を目標に、2013年に設定しました。日本花王グループの全拠点における最終埋立処分率の目標は、段階的にレベルアップしてきました。2004年に0.5%以下で開始し2007年には0.2%以下、2010年以降は0.1%以下としています。

廃棄物に関する目標

項目	対象範囲	2017年目標	2018年目標	2020年目標
廃棄物等発生量※1	花王グループ全拠点	31%削減	32%削減	33%削減
最終埋立処分率※2	日本花王グループ全拠点	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下

※1 売上高原単位(2005年比)

※2 廃棄物等発生量に対する最終埋立処分量の割合

2017年の実績

1. 廃棄物等発生量

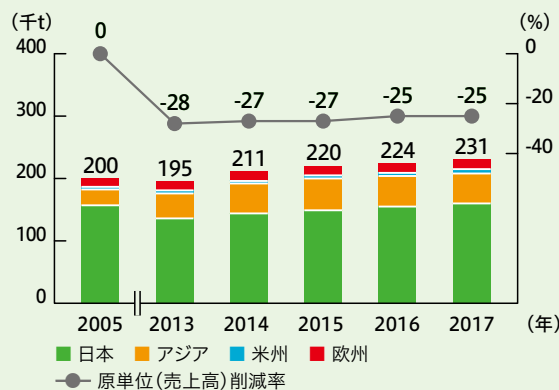
2017年は生産量が増加したことや生産ライン増設の影響等で、廃棄物等発生量は前年より7千トン増加、売上高(原単位)削減率は前年と同じ25%となり、目標の31%削減には到達しませんでした。引き続き、廃棄物等発生量の削減活動を強化していきます。

廃棄物等発生量のうち有害廃棄物量は19千トン、バーゼル法に定める国際輸送された有害廃棄物はありませんでした。再使用・リサイクル※された廃棄物等は214千トン□、リサイクル率は92%でした。

廃棄物等最終埋立処分率は目標の0.1%以下を維持し、ゼロエミッション目標を設定以来13年連続達成しています(日本花王グループの全事業場対象、廃棄物等発生量に対する最終処分量の割合)。

※ サーマルリサイクル(熱回収)を含む

廃棄物等発生量の推移□(全拠点)



※ 集計対象拠点:2014年までは花王グループ全生産拠点、日本国内の非生産拠点が対象。2015年からは海外の一部の非生産拠点も含めています。

※ 保証対象は廃棄物等発生量

※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

2017年は廃棄物発生量に改善の傾向が見られたものの、2020年目標との乖離を縮小することが課題であり、引き続き低減に向けた活動に努めていきます。

2. 処理業者施設の確認

2017年は、170社の処理業者にご協力いただき、212施設処理現場の確認を行いました(日本)。その結果、花王の評価基準で不適合だった処理業者はありませんでした。

3. PCBの適正な保管・処理

2017年は、高濃度PCB廃棄物を42台、低濃度PCB廃棄物を1台処理しました。現在、和歌山、川崎、小田原、KCMK熊本で保管しています(日本)。

廃棄物

ステークホルダーとの協働

廃棄物セミナーや講習会等での事例紹介

国内では、廃棄物を処理委託する際、処理委託者がその物理的・化学的情報を十分に処理業者に伝えないことによる事故が、処理業者で多く発生していると報告されています。

そこで花王は、過去、処理業者とのコミュニケーションにより改善を行ってきた事例を社会に広げるとともに、自ら行なっている伝達情報の改善点を見いだすために、さまざまな廃棄物セミナーで事例紹介を行なっています。

また、自治体の廃棄物行政に協力しており、2017年は東京都墨田区が開催した事業所の廃棄物管理責任者を対象とした講習会で、モデル企業として活動事例を紹介しました。自治体の活動を通じて、地域の廃棄物管理活動向上に貢献していきます。

これらの活動の結果、2017年も、花王から処理委託した廃棄物に伴う事故はありませんでした。

ヘアサロン事業におけるステークホルダーとの連携

ヘアサロン事業においては、ディスペンサータイプのヘアカラーを開発し、チューブタイプのヘアカラーに比べ化学廃棄物を約25%削減しました。

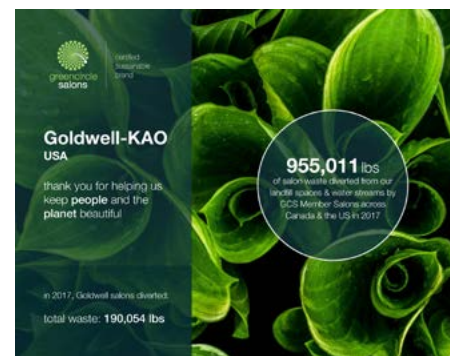
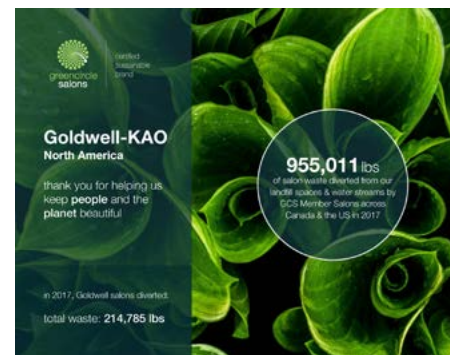
さらに、2012年からカナダ、2016年からアメリカにて Green Circle Salons, Inc.* と連携して、容器、紙、カラーリング剤などの化学廃棄物などを回収し、リサイクルする活動を行なっています。

この回収活動により、2017年は花王の北米地域の加盟サロンから出る廃棄物を前年と比較して184トン削減することができました。

* Green Circle Salons, Inc.
<https://www.greencirclesalons.ca/>

花王のアプローチ

具体的な取り組み



Green Circle Salons, Inc. による廃棄物削減の証明書

具体的な取り組み

廃棄物削減(発生量削減と再利用推進)の取り組みを推進

原材料調達における取り組み

一部の製品にリサイクル材料を利用し、廃棄物削減に貢献しています。フロア用そうじシート「クイックルワイパー」にはリサイクルPET樹脂、衣料用粉末洗剤「アタック」の計量スプーンにリサイクルPP樹脂、台湾で販売しているシャンプーなどの容器にリサイクルPET樹脂を利用しています。

花王の工場で発生する廃棄物を削減するために、サプライヤーと納入原料の量と納入頻度適正化の取り組みを実施しています。

開発・生産・販売における取り組み

廃棄物のリサイクル強化

2017年、花王USAはリサイクル用分別施設を新設し、稼働を開始しました。廃棄物を分別保管する専用エリアと、専用のトラック積み込みバース(スペース)を備えています。これにより、より高いレベルでのリサイクルを進めていきます。

さらに、花王USAは「Kao Zero Team」を組織し、社会的に廃棄物削減を促進しています。事務所での廃棄物の分別や紙コップの廃止等、従業員の意識向上にも努めています。

排水汚泥の削減

花王は、液体製品を多く扱うため、タンク洗浄による濃厚排水の処理により発生する汚泥の削減は大きな課題です。

花王インダストリアル(タイランド)では、排水のCOD濃度に応じて、別々の排水処理設備で処理することで排水処理場の汚泥発生量抑制に成功し、廃棄物削減に貢献しています。

サニタリー製品用材料のマテリアルリサイクル

花王は、各国でサニタリー工場を所有しています。生産では、最後まで製品化されない材料が発生しますが、各工場ですらった余った材料のマテリアルリサイクルを進めています。

おむつや生理用品の端材を、プラスチックパレットにマテリアルリサイクル化する取り組みはその一つです。花王のマトリックス運営組織の強みを活かし、研究所など関連部門が協力し合い、花王の工場内でテスト運用を2016年から開始しました。強度等を確認し、今後の実運用をめざしています。

箱使用量の削減

小売業者における廃棄物発生量削減に貢献するために、製品を小売業者にお届けするために使用される箱の利用量の削減を、小売業者の理解・協力のもと実施しています。

使用における取り組み

コンシューマープロダクツ事業における取り組み

お客さまが製品を使用した後で廃棄物となる容器包装に使用される原材料の削減を継続しています。



→ P66「エコロジー>容器包装」

また、花王が実施している容器・包装の3Rの取り組み事例を、日本石鹼洗剤工業会やプラスチック容器包装リサイクル推進協議会、紙製容器包装リサイクル推進協議会等を通じて、容器包装メーカーや同業他社などに紹介する啓発支援活動を積極的に進めています。

ケミカル事業における取り組み

パルプモールド成形技術と高温材料技術が融合した花王の紙製湯道管は、古紙を原料に利用しているため、原料重量が10分の1に、利用後の廃棄物量が16分の1に減少します。

人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学の推進に貢献した点が評価され、第16回「グリーン・サステナブル ケミストリー (GSC) 賞 経済産業大臣賞」を受賞しました。



→ ニュースリリース

花王の「紙ベース製造用湯道管の開発」が第16回「グリーン・サステナブル ケミストリー (GSC) 賞 経済産業大臣賞」を受賞

<http://www.kao.com/jp/corporate/news/2017/20170628-001/>



花王インダストリアル(タイランド)の廃棄物管理活動が表彰

花王インダストリアル(タイランド)は、タイ工業団地公社より「Best Waste Management Award」の最上位「Platinum」に認定されました。この受賞は、タイ工業団地公社の監査結果に基づいており、廃棄物の削減、再利用、再資源化に関する優れた管理手法と活動結果が認められたものです。



監査を受ける花王インダストリアル(タイランド)



表彰式

花王のアプローチ

容器包装は、運搬時における中身の保護や品質の保持、使用時のさまざまな情報提供など、製品の一部としての重要な役割・機能を担っています。花王は“いっしょにeco”活動の一つとして、環境に配慮した容器包装の取り組みを推進しています。

社会的課題と花王が提供する価値

家庭のごみの約55%が容器包装廃棄物であるという調査結果（環境省「容器包装廃棄物の使用・排出実態調査の概要（平成28年度）」）からも、環境に配慮した容器包装の取り組みの重要性が問われています。

花王は、より環境負荷の少ない容器包装のための技術開発に取り組むことで、社会の持続可能な生産消費形態の確保をめざします。

貢献するSDGs



方針

花王では、より環境負荷の少ない容器包装をめざし、Reduce（削減）、Renewable（再生可能）、Reuse（再利用）、Recycle（再資源化）の4Rの視点から技術開発に取り組んでいます。

Reduceでは、ボトルの薄肉化など徹底した軽量化を基本とし、製品の濃縮によるコンパクト化など、小型化による包装材料の使用量削減を進めています。

Renewableでは、ポリ乳酸や植物由来ポリエチレンなど再生可能な植物を原料とした素材を導入し、石油由来の樹脂からの転換を図っています。

Reuseでは、ボトルなどの製品容器を繰り返して使用できるよう、つめかえ・つけかえ用製品の開発を積極的に推進しています。

Recycleでは、再生紙や再生樹脂等、再生材料の導入・活用を積極的に推進しています。

体制

包装容器開発研究所が中心となり、SCM部門のメンバー、さらに関連部門、サプライヤー等と協力して推進しています。

容器包装開発推進体制



※事業ユニット名は2017年12月現在

教育と浸透

社内の理解と活動の推進のために、包装容器開発研究所では、新製品・改良品発売時には事業ユニット、SCM部門、生活者コミュニケーションセンター等の関連部門を集めて容器検討会を開催し、環境適応性を検討しています。2017年は、容器検討会を日本で70回開催しました。海外各社でも同様の会議を開催しています。

ステークホルダーとの協働

九つの自治体が容器包装の減量化に取り組む企業を応援し、ごみの減量化を推進する取り組み「九都府県市 容器 & 包装ダイエツト宣言2017キャンペーン」に参加しました。これは、家庭から発生する容器包装ごみを削減するため、事業者の「容器 & 包装ダイエツト」の取り組みとその商品を紹介し、容器包装ごみの削減に向けて消費者に呼びかけるキャンペーンで、花王は2010年から毎年参加しています。

中長期目標と実績

主な活動

- ・環境負荷に配慮した容器包装開発の推進
- ・容器包装の4Rの推進

2018年目標

- ・環境にやさしい未来型容器の推進
- ・再生プラスチックの有効活用



2017年の実績

Reduce(削減)

- ・「フレグランス ニュービーズジェル スパウトパウチ 1.46kg」のつめかえパウチの容量を変更せずに高さを最適化し、使用樹脂量を約6%削減
- ・「セグレタ 軽やかにまとまるオイル」にシュリンク台紙*を採用し、紙重量を約33%削減
- ・「ニュービーズ 850g」の紙箱カーターの重量を5.6%削減

Renewable(再生可能)

- ・「キュキュット大型つめかえ(7回分)ボトル」に植物由来ポリエチレンを35%ブレンド

Reuse(再利用)

- ・「キュキュット CLEAR 泡スプレー」につめかえ容器を採用し、プラスチックの使用量を23%削減
- ・「ピオレU」のつめかえパウチにつめかえ用ラクラク eco パックを採用
- ・「つめかえ用ラクラク eco パック」をつめかえずに直接セットして使用できるスマートホルダーのオンライン販売を開始

Recycle(再資源化)

- ・「クイックルワイパー ウエットシート」の袋に再生PETを採用
- ・「メリット ピュアン」と「エッセンシャル スマートスタイル」のシャンプー・コンディショナーボトルに再生PETを10%ブレンド

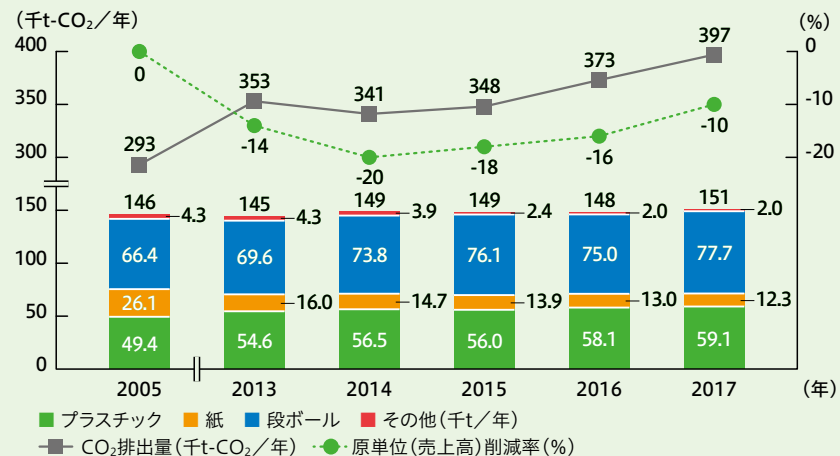
※ シュリンク台紙

熱するとシュリンク(収縮)するフィルムで製品をぴったりと包み、台紙に固定させるパッケージ。プラスチック成形品を使用した従来のパッケージと比較して、樹脂使用量・紙使用量が少なく環境適性に優れている。



→「つめかえ用ラクラク eco パック」「スマートホルダー」について詳しくは P6「心地よく過ごすことがecoにつながる、未来の容器」

容器包装材料使用量の推移



※ 集計範囲:花王(株)

※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

具体的な取り組み

Reduce : 容器包装材料の削減

花王はボトルの薄肉化や、製品の濃縮によるコンパクト化などによる容器包装材料の使用料削減を進めています。容器包装の材料削減は環境負荷低減と同時にコスト削減にもつながります。

2017年の環境負荷低減につながった容器包装材料のコスト削減事例は27件あり、CO₂排出削減量とコスト削減量はそれぞれ年間で約813トン、約1.2億円となっています。

Renewable : 再生可能原料への転換

植物を原料とした素材への転換を始めたのは、2012年のことです。当時導入されたつめかえパウチは、重量の10%を石油由来のポリエチレンから植物由来ポリエチレンに転換しました。植物由来ポリエチレンは、計画的に栽培されているサトウキビから砂糖を製造したあとに残る廃糖蜜を発酵して得られる再生可能なエタノールを原料として製造されます。焼却時に排出するCO₂をゼロとみなすことができるため、環境影響の少ないプラスチックとして注目されています。

また、「ヘルシア緑茶」350mlボトルのラベルには、トウモロコシからつくられたポリ乳酸(PLA)を50%以上含んだシュリンクフィルムを採用しています。

2017年は、新たに「キュキュット大型つめかえ(7回分)ボトル」で容器重量の35%を植物由来ポリエチレンに転換しました。これにより、CO₂排出量を従来品に比べて約25%削減することができます。

花王は、今後も植物由来ポリエチレンやポリ乳酸などの再生可能原料への転換を続けていきます。



容器重量の35%を植物由来ポリエチレンへ転換した大型つめかえボトル

Reuse : つめかえ・つけかえ製品の推進

花王が最初のつめかえ用製品を発売したのは1991年ですが、その品数は年々増え、2017年12月時点のつめかえ・つけかえ製品は289品目に上っています。さらに花王は、消費者がつめかえやすいように、ボトルの大きさや内容物の粘度などに合わせたさまざまな改良を加えています。

つめかえ用製品の販売数量比率は1997年から急速に増え、現在ではほぼ80%強で推移しています(本数ベース)。たとえば柔軟仕上げ剤や衣料用漂白剤のつめかえ用の比率は90%以上で推移しています。2017年に販売されたつめかえ・つけかえ用製品は、すべて本体容器(プラスチック容器に入った製品)の場合と比較すると5.8万トンで、製品のコンパクト化を加味すると9万トン強のプラスチック使用量を削減したことになります。

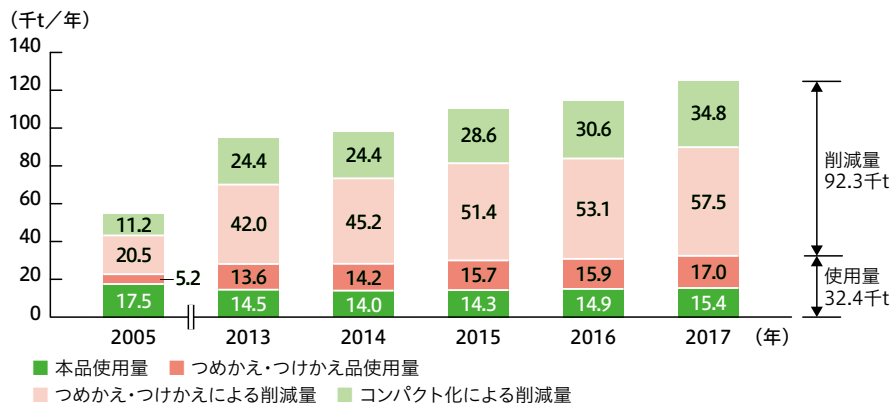
こうした継続的な4R視点での技術開発により、「環境宣言」を発表した2009年以降の樹脂削減総量は、約59万トンに上ります。

2017年は、環境配慮と使いやすさを両立した新容器「つめかえ用ラクラクecoパック」をさまざまなシャンプー・コンディショナーのつめかえ用製品に採用だけでなく、ボディソープの「ビオレu」にも採用しました。

ケミカル事業部門においては、販売した製品容器を再利用する(テイクバックシステム)活動を進め、環境負荷の低減に努めています。

2017年は顧客企業向けに使用している1トンコンテナ(IBCコンテナ)を18,130基回収し、再利用しました。

つめかえ・つけかえ製品のあるカテゴリーのプラスチック使用量と削減量の推移



※集計範囲:花王(株)

Recycle : 再生材料の導入

花王は再生紙や再生樹脂等の再生材料を積極的に導入・活用しています。1960年代から粉末タイプの洗たく用洗剤をはじめとした、多くの製品の紙箱や説明書に再生紙を使い続けてきたほか、1987年に発売した衣料用洗剤「アタック」の計量スプーンには、100%再生樹脂を導入しました。これによるCO₂削減量は、年間で約2,800トンです。

1994年発売のフロア用そうじ道具「クイックルワイパー」のドライシートの繊維やウエットシートの繊維には、リサイクルした再生PETを100%使用しています。これによるCO₂削減量は、年間で約1,400トンです。

2017年は、「クイックルワイパー ウエットシート」の袋に再生PETをPET樹脂重量の80%ブレンドしたものを導入しました。

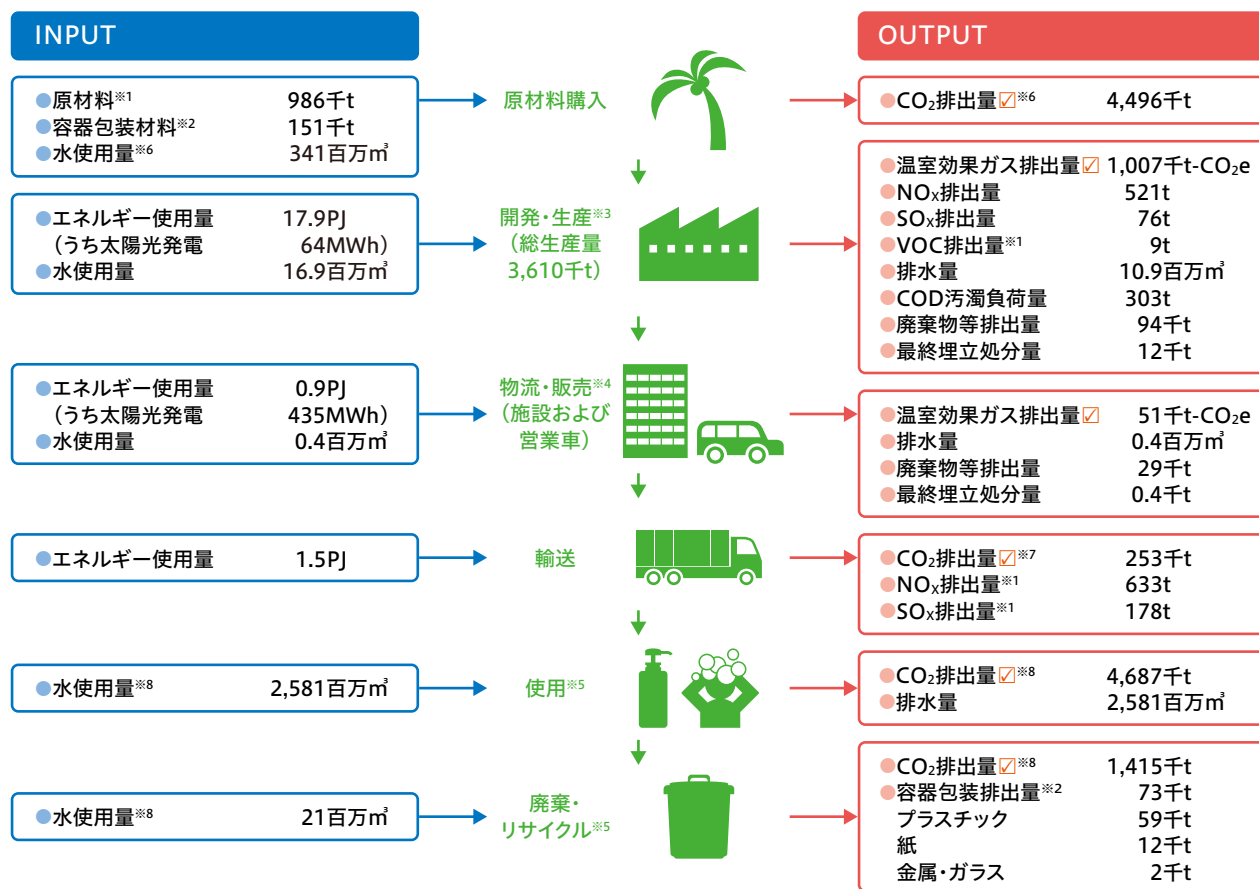


再生PETをPET樹脂重量の80%ブレンドした「クイックルワイパー ウエットシート」

花王のアプローチ

花王では製品のライフサイクル全体を通して資源をムダなく使用するとともに、さらなる省資源・省エネルギーを実現する技術を追求しています。

2017年事業活動と環境負荷



集計範囲

- ※1 日本花王グループ
- ※2 花王(株)
- ※3 全生産拠点
- ※4 全非生産拠点(研修所、寮等を含む)
- ※5 消費者向け製品
- ※6 消費者向け製品および産業界向け製品を対象として、製品1個当たりの原材料製造段階(自社グループの製造工程除く)のCO₂排出量および水使用量に当該年度の販売数量を乗じて算出しています。
- ※7 集計対象は消費者向け製品および産業界向け製品。日本は省エネ法に基づいて算定しています。海外は日本の実績に基づき算定した製品1個当たりの輸送時CO₂排出量と各国での販売数量と各国内での推計輸送距離を乗じて算定しています。
- ※8 消費者向け製品を対象として、製品1個当たりの使用時CO₂排出量および水使用量もしくは製品1個当たりの廃棄時CO₂排出量および水使用量に当該年度の販売数量を乗じて算定しています。

製品ライフサイクルと環境負荷

301-1,302-1,305-1,305-2,
305-3,305-7,306-1,306-2

花王のアプローチ

具体的な取り組み

INPUT

- **原材料**
製品を製造するために直接使用した原材料の量
(ただし、容器包装材料、燃料などは含まない)
- **容器包装材料**
販売された製品に使用した容器包装の量(段ボールを含む)
- **エネルギー使用量 [開発・生産]**
生産拠点で使用したすべてのエネルギー量
- **エネルギー使用量 [物流・販売(施設および営業車)]**
非生産拠点および自動車(営業用)で使用したエネルギー量
- **エネルギー使用量 [輸送]**
消費者向け製品と工業用製品および原材料その他の輸送で使用したエネルギー量
- **水使用量**
工業用水、市水、地下水、雨水の使用量

OUTPUT

- **温室効果ガス排出量**
拠点から排出された温室効果ガス(京都議定書で定められた7ガス)の量
(CO₂換算値・スコープ1+2)
- **CO₂排出量**
原材料の製造、エネルギーの使用と成分分解等に伴い排出した量
- **排水量**
各拠点からの排水量と消費者向け製品の使用に伴い排出された水の量
- **COD汚濁負荷量**
排水中のCOD汚濁負荷量
- **廃棄物等排出量、最終埋立処分量**
各拠点において発生した廃棄物等のうち、廃棄物、再資源化物として外部に処理委託あるいは売却した量および最終埋立処分量
- **容器包装排出量**
販売された製品に使用した容器包装の量(段ボールは含まない)
- **VOC排出量**
生産拠点からの大気へのVOC(揮発性有機化合物)排出量
- **NO_x排出量**
各ばい煙発生施設および輸送からの排出量
- **SO_x排出量**
各ばい煙発生施設および輸送からの排出量

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

花王のアプローチ

花王は、環境への取り組みを効率的かつ効果的に推進するために、環境保全活動にかかる費用とその効果を数値化しています。

2017年の環境会計報告

- ① 環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠しています。また、一般社団法人日本化学工業協会「化学企業のための環境会計ガイドライン(2003年11月)」も参考にしています。
- ② 集計範囲は、花王(株)、日本のグループ会社および海外の生産拠点を有するグループ会社です。
- ③ 環境保全効果(物量効果)については、「製品ライフサイクルと環境負荷」をご覧ください。



→ P71「エコロジー>製品ライフサイクルと環境負荷」

環境保全コスト(事業活動に応じた分類)

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	日本		海外	
		投資額	費用額*	投資額	費用額*
(1)事業エリア内コスト		1,493	3,844	1,362	3,407
内訳	①公害防止	264	1,442	635	1,277
	②地球環境保全	880	582	296	743
	③資源循環	349	1,820	431	1,387
(2)上・下流コスト	環境対応製品生産設備、容器包装リサイクル	579	2,618	0	77
(3)管理活動コスト	EMS取得・維持、環境広報、事業場内緑化	4	2,031	0	261
(4)研究開発コスト	環境対応研究開発	2,402	4,399	1	113
(5)社会活動コスト	事業場外自然保護・緑化、支援金	7	134	14	11
(6)環境損傷コスト		0	0	0	11
合計		4,485	13,026	1,377	3,880

環境保全コスト(環境保全対策分野に応じた分類)

(単位:百万円)

分類	主な取り組み内容	日本		海外	
		投資額	費用額*	投資額	費用額*
①地球温暖化対策に関するコスト	省エネルギー	880	582	236	357
②オゾン層保護対策に関するコスト	代替フロンへの切り替え	0	0	58	366
③大気環境保全に関するコスト	大気汚染防止、粉塵防止、悪臭防止	13	457	149	470
④騒音・振動対策に関するコスト	騒音防止	0	4	15	42
⑤水環境・土壌環境・地盤環境保全に関するコスト	水質汚濁防止	251	981	472	755
⑥廃棄物・リサイクル対策に関するコスト	省資源、産業廃棄物の減容化、リサイクル	928	4,438	431	1,460
⑦化学物質対策に関するコスト	製品・製造開発研究	2,402	4,399	1	112
⑧自然環境保全に関するコスト	事業場外自然保護・緑化、支援金	7	133	15	77
⑨その他コスト	EMS取得・維持、環境広報、事業場内緑化	4	2,032	0	241
合計		4,485	13,026	1,377	3,880

※費用額には減価償却費を含んでいます。

環境保全対策に伴う経済効果^{※1}

(単位:百万円)

効果の内容		日本	海外
		金額	金額
収益	有価物、固定資産の売却金額	539	231
費用節減 ^{※2}	省エネルギーによる費用節減金額	143	98
	省資源による費用節減金額	873	1,432
	経費節減金額(環境対策設備の保守費用等)	57	646
合計		1,612	2,407

※1 経済効果は有価物および固定資産の売却金額と費用節減金額を計上し、リスク回避等の仮定に基づく経済効果、いわゆる「みなし効果」は計上していません。

※2 費用節減金額は、当該年度に発生した項目の1年間の節減額を当該年度のみ計上し、複数年度にわたって計上はしていません。

2017年の活動報告

コミュニティ

品質保証	76
ユニバーサルデザイン	82
消費者とのコミュニケーション	88
法人顧客とのコミュニケーション	
コンシューマープロダクツ事業	94
ケミカル事業	98
プロフェッショナル・サービス事業	103
社会貢献活動	108

花王のアプローチ

花王グループの使命である、消費者・顧客の立場にたって、心をこめた“よきモノづくり”を行ない、世界の人々の喜びと満足のあふ豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献するために、原料から研究開発、生産、輸送、販売までのすべての段階において、徹底した消費者・顧客視点で、高いレベルでの商品の安全性を追求し、絶えざる品質向上に努めています。

社会的課題と花王が提供する価値

徹底的な基盤技術研究・商品開発研究・消費者ニーズの探索により、お客さまの心を打ち満足を実現する革新的な商品を提供します。さらに今後、環境・健康・高齢化・衛生などの社会的課題を解決する商品の開発を強化していきます。

品質保証活動の見える化と、全ステークホルダーとの品質保証に関するコミュニケーションを推進し、信頼と協働により社会的課題の解決に向けた変化を生み出せるように進めていきます。

方針

花王グループの品質保証活動の基本は、「花王ウェイ」にある消費者・顧客起点の心をこめた“よきモノづくり”です。原料から研究開発、生産、輸送、販売に至るすべての段階で、社員全員参加の消費者起点の品質保証活動を行なっています。

品質保証活動の基本方針

- 品質を評価するのは「消費者・顧客」
- 「使い続けていただける」商品の提供
- 「安心して使える」商品づくり
- 「法規制の遵守」
- 「透明性の高い」企業活動と説明責任

体制

花王グループでは、商品開発から発売後まで、研究開発～マーケティング～生産技術～物流～販売に至るグループ一貫の全社活動による品質保証マネジメント体制をとっています。

商品発売に際しては、探索～技術開発～商品化～生産の各段階での品質維持と、総合的なエビデンス検証のゲート管理を導入しており、高い安全性と品質を十分確保しています。

発売後は、消費者・顧客の声を真摯に受け止め、絶えざる品質向上を追求する全社活動を推進し、常に公正で透明性の高い企業活動を行ない、社会的責任を果たせるように努めています。

このように花王グループは、日々“よきモノづくり”に努めていますが、予期せぬ事故やトラブル、事件性のある品質問題が発生する可能性はゼロではありません。そのため、「花王グループ緊急重大問題対応体制」を定めており、国内外の花王グループ各社もこの体制を強化しています。

一方、内部統制システムを含むコーポレート・ガバナンス体制を整備しており、社長を委員長とする内部統制委員会の下部組織として品質保証委員会を設置しています。品質保証委員会では、全社品質保証活動の有効性と信頼性を確認しています。品質保証委員会で決

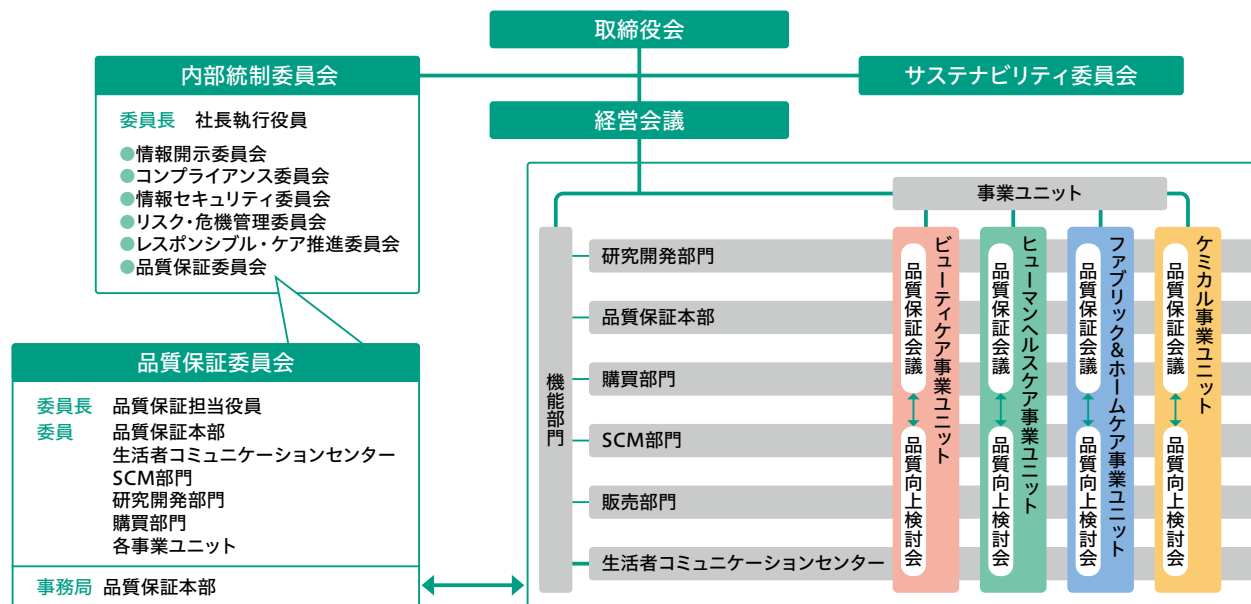
まった方針に従い、各事業分野で品質保証会議を開催し、品質保証活動方針や品質課題、品質保証活動の進捗などを確認しています。

さらに、毎月の品質向上検討会では、事業部門の責任者のもとに関連部門（事業・生産・研究・消費者対応・品

質保証など）が一堂に会してお客さまの声を検討し、商品や情報・サービスの改善に活かします。今後、この活動をグローバルに展開していきます。

これらの全社活動を花王品質保証本部が統括・推進しています。

品質保証体制



※2017年12月現在

教育と浸透

社内では、花王グループの品質保証活動の拠りどころである「花王ウェイ」や「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン」について、研修などを通じ、全社に浸透するよう図っています。

また、実際の品質保証活動の中で、各種の教育や啓発に努めています。海外グループ会社も含めて、花王グループの品質向上検討会では、品質保証活動方針の浸透・徹底を図っています。生産部門の現場では消費者からの指摘件数を指標とする花王独自のQCサークル活動を行なうなど、消費者視点の品質向上意識の浸透を図っています。

また、GMP(Good Manufacturing Practice) 基準や各種ISOなどの教育にも努めています。優れた品質保証活動に対しては、品質保証活動表彰を実施するなど、モチベーションの向上も図っています。

社外の委託先や原材料メーカーなどとは、品質関連会議を開催して消費者起点の品質向上活動を進めています。

今後はさらに幅広くパートナーの皆さまと協働して消費者起点の品質保証活動を展開していきます。

中長期目標と実績

中長期目標

花王グループでは、品質保証活動に関して以下のような中長期目標を定めています。

1. 徹底した消費者・顧客起点と、総合力と、花王グループの資産の最大活用により、世界最高レベルの品質を追求します。
2. 「正道を歩む」を貫き、高度で責任ある危機管理を深めていきます。
3. グローバル化、情報化への戦略的対応モデルやeコマース、新領域・新事業の品質保証体制を構築します。

2017年の実績

海外のお客さまがインターネットで日本の商品を直接購入されたり、訪日された海外のお客さまが日本で商品を購入し自国へお持ち帰りになるなどボーダーレス化・商品の流通の変化が進む中、下記のような品質保証体制の強化を行ないました。

中国のお客さまへの対応強化

これまででも、日本から中国に輸出している商品について、お客さまのお問い合わせ事例を共有するなど、日中共同でお客さま対応の向上に取り組んできました。2017年はより多くの日本商品の情報を中国側に提供し、インターネットで直接日本の商品を購入されるお客さまへの対応を強化する取り組みを始めました。

航空危険物(UN(国際連合)危険物)情報の公開

花王では、お客さまからの「花王商品を海外へ輸送したい」というお問い合わせに対し、機内への持ち込みや航空荷物として取り扱う際の注意事項として、商品が航空危険物(UN(国際連合)危険物)に該当するかの情報を、2017年10月より花王のウェブサイトで公開しています。



→ P92「コミュニティ>消費者とのコミュニケーション/ウェブサイトを活用した情報の発信」

品質保証

ステークホルダーとの協働

お客様の声を“よきモノづくり”へ活用

花王グループでは、お客さまから寄せられた声を「花王エコシステム」を通じて社内で速やかに共有し、商品や情報・サービスの改善に活かしています。



→ P89「コミュニティ>消費者とのコミュニケーション/体制」

業界としての取り組みに参加

花王グループは、世界各国どこでも安心して商品をお使いいただけるよう、各国で業界活動に積極的に参画し、商品の品質・安全性に関する各国基準との調和を図るとともに、新たな規格や試験法の設定、化学物質の管理などについての国際的な取り組みなどで、精力的に活動しています。

具体的な取り組み

消費者・顧客起点の 全社品質保証活動

花王グループの化粧品などの製品を、迅速に広く世界各国のお客さまにお届けできるように、各国の法規制の確認など、商品開発を支援する情報システムの開発に取り組んでいます。2017年はアジア地域に導入しました。

お客さまの声を全社で共有し、相談対応や事業活動に活かす「花王エコシステム」は、迅速で的確な相談対応、“よきモノづくり”を実現する商品開発の基盤となっています。2017年には国を超えて花王グループに寄せられるお客さまの声を一元的に集約できるよう新たな仕組みや体制を整えました。今後、グローバルな品質向上活動のさらなる強化に活かしていきます。

お客さまの声を商品に活かす取り組みも継続しています。2017年は、「ブローネ ヘアスカラ」の新発売時に、従来品の「ブローネ ポイントカバー」に寄せられていたお声を参考に、容器が倒れにくい、液がこぼれにくい、液はねしにくいように、液と容器の改良を行ないました。

また、ヘアカラーに関しては、日本ヘアカラー工業会のかぶれ等に関する注意事項の自主基準改正に伴い、2017年中にほぼすべての製品において、外箱・使用説明書の注意表示を改定しました。



→ P89「コミュニティ>消費者とのコミュニケーション/体制」

監査・自己点検による 品質保証活動の確認

花王グループでは、日本のほかアジアや欧米のグループ会社も ISO9001やGMPの認証を維持するとともに、外部監査・内部監査、委託製造先や原材料メーカーに対する自主監査、品質会議を行なっています。

2017年は日本・アジア・欧米のグループ会社に対する前年の外部監査の実施状況を品質保証委員会で報告しています。



→ ISO等認証取得一覧

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/activity-data/certification/>

また、品質保証監査・自己点検の体系強化として、品質保証本部だけでなく、他部門も含めたメンバーで構成する品質監査推進会議を開催し、監査テーマを設定しながら監査活動を推進しています。

2017年は海外においてもお客さまからのお申し出が間違いなく社内で共有されているかを点検しました。

直近3年間のリコール状況*

年	2015年	2016年	2017年
件数	0	0	0

※ 社告を伴う消費者・流通からの商品回収

商品ライフサイクル全般にわたる安全性の確保

花王グループでは、商品を安全に快適に安心して使用していただけるよう技術開発～商品化～生産～販売に加え、商品発売後の安全管理に至るまでの全社活動で、商品の高い安全性と品質を確保しています。

商品開発段階での原料選択、商品化後の配合成分に関しては、国内外の法規、安全性に関する情報を日々収集しています。業界やNGO／NPOなどからの幅広い情報についても、科学的な視点と社会的な懸念など、多面的な視点で評価して必要な対策をとっています。

また、商品発売後は一つひとつのお客さまの声に真摯に耳を傾け、内容を確認して常に詳細に安全性を点検し、医療関係者や行政などのネットワークとも連携して安全管理を行なっています。

国内だけでなく各国で寄せられるお客さまの声に関して、欧州・米州・アジアなど各国の花王グループ担当者とも定期的に情報を交換し、グローバルな視点で常に安全性を高めていく活動を行なっています。

花王グループでは家庭品、化粧品、食品のそれぞれについて、お客さまの「安全・安心」を最優先に、徹底して高いレベルの安全性確保をめざした安全基準が定められています。

化粧品については、2014年4月に、花王グループとして新しい安全基準を定めました。それ以前から運用していた花王の基準をもとに、より広範囲なデータベース、

より幅広い使用テスト、より詳細な安全性点検となるように発展させています。



→家庭品の花王安全基準

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/safety-quality/kao-quality/houseware-quality/>

→化粧品の花王安全基準

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/safety-quality/kao-quality/cosmetics-quality/>

→食品の花王安全基準

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/safety-quality/kao-quality/food-quality/>

動物実験に対する方針

動物実験の廃止に向けた動きは世界的なものであり、花王グループはこの考え方に賛同しています。

花王グループは、化粧品(医薬部外品を含む)の商品開発に際し、外部委託を含めて動物を用いた試験は行なっておりません。また、今後も行なう予定はありません。^{※1}

化粧品以外の分野についても、動物実験は行なわない方針です。ただし、適切な代替法がない場合、法規制上求められた場合等、動物実験が避けられないこともあります。^{※2}

商品の安全性確保は何よりも重要であり、花王グループの安全基準を定めて遵守しています。すなわち、安

全性情報を広く収集し、今までの知見を含めた情報データベースを活用するとともに動物実験代替法を積極的に取り入れています。また十分な安全性を確認した後、人が実際にその製品を使う場面でも製品に問題がないことを確認するために実使用評価も行なっており、これらにより製品の安全性を確認しています。

動物実験代替法の技術開発に関しては、花王では1980年代後半から取り組んでいます。動物実験代替法はグローバルに広く使える公的な試験法であるべきと考え、国際的な試験法ガイドライン化に向けた取り組みを研究機関と連携して積極的行なっています。また欧州化粧品工業会(Cosmetics Europe)が推進する動物実験代替法のプロジェクトにも参加しています。今後も、国内外の業界団体、他社等とも共同し、動物実験代替法の技術開発に積極的に取り組んでいきます。

※1 万一、社会に対して安全性の説明責任が生じた場合や、一部の国において行政から求められた場合を除きます。

※2 動物実験を行なう場合には、動物愛護での3Rs(Replacement, Reduction, Refinement)の基本理念のもと、その実施は最小限にとどめます。



→詳しくは「動物実験に対する方針」

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/safety-quality/animal-testing-policy/>

花王のアプローチ

より多くの人にとって、わかりやすく安心して使いやすい「人にやさしいモノづくり」を推進すると同時に、製品を通じて人と人、人と社会をつなぐ役に立つ「人や社会とつながるモノづくり」をめざしています。また、消費者の多様性に配慮した情報発信にも努めています。

社会的課題と花王が提供する価値

近年、高齢化や女性の社会進出、男性の家事・育児参加など、人口構成や生活スタイルの変化により消費者のニーズも多様化しています。そのような状況のなか、花王の製品を初めて使う方から、長く使っていただいている高齢の方まで、すべての人が購入前の製品情報の取得から購入、使用、廃棄に至るまでストレスを感じることがないように、消費者の皆さまの声をもとに製品やサービスの改善に努め、皆さまの暮らしをサポートします。

貢献するSDGs



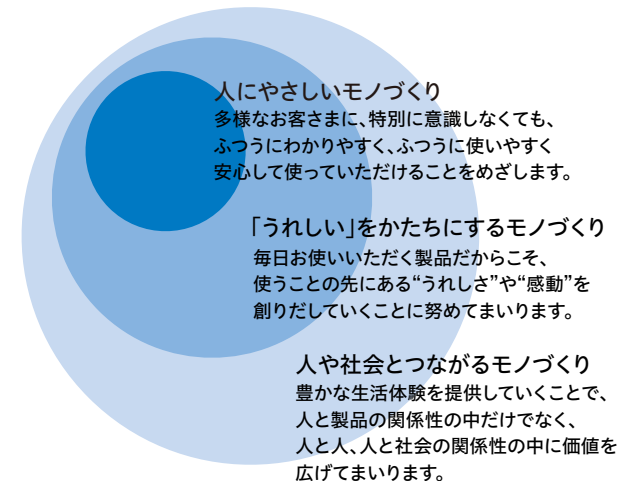
方針

花王ユニバーサルデザイン(UD)指針「人にやさしいモノづくり」「『うれしい』をかたちにするモノづくり」「人や社会とつながるモノづくり」に基づいて、人々の暮らしや思いに配慮した製品やサービスを提供していきます。赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代の方々に日々の暮らしの中で使っていただくことで、人々のつながりや、社会とのつながりのお役に立てるよう努めています。

このような花王UD指針の思想を、多様な価値観や文化を持つ人々に対して製品を提供している花王グループの社員と共有しながら日本国内だけでなくグローバルに展開し、シナジー効果を発揮することをめざします。

すべての人に使いやすい製品を提供することは、多様性への対応であると認識しており、SDGsの最も基本的な理念である「誰一人取り残さない」を実現するものと考えています。

花王ユニバーサルデザイン指針

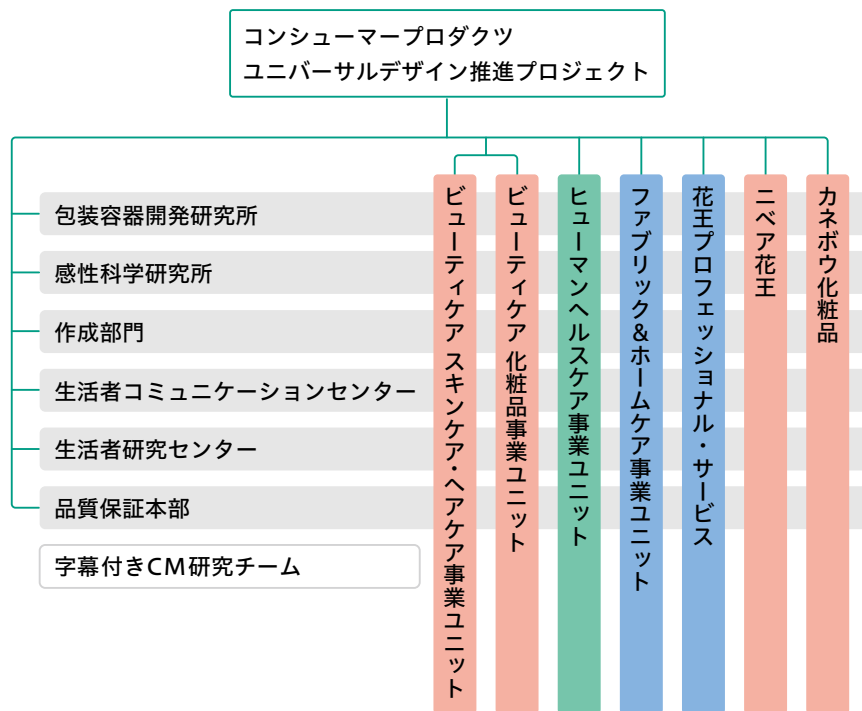


体制

花王UD指針のもと、お客さまからのご要望やご意見を直接うかがう消費者相談窓口である生活者コミュニケーションセンターを事務局とし、関連部門および日本国内のグループ会社の代表メンバーで構成される

UD推進プロジェクトにおいて各部門間で改善実施事例を共有し、継続的にUD視点での改善を加えていくよう取り組んでいます。

ユニバーサルデザイン推進プロジェクトの体制



※2017年12月現在

教育と浸透

高齢者体験ワークショップの実施

花王グループの社員を対象に、高齢者への共感力の向上を目的として、高齢者体験ワークショップを実施しています。戸建住宅のスタジオで、社員が要介護1に相当する疑似体験装具をつけて家事などの日常生活を行なうものです。半日の家庭生活を通じて、体に不自由さを感じ始めた高齢者に共感するとともに、製品の使い勝手や製品情報の表示の課題を発見します。

● 高齢者体験ワークショップ 計9回開催 98名参加

ステークホルダーとの協働

- ・ 公益財団法人共用品推進機構との定期的な情報交換
- ・ 社会福祉法人日本点字図書館の音声情報誌「ホームライフ」への協力
- ・ 日本石鹼洗剤工業会における新しい製品安全表示図記号の開発に参画
- ・ 花王ハートポケットクラブを通じた支援(NPO法人日本ブラインドサッカー協会など)

中長期目標と実績

多様性に配慮した製品の開発や、情報の開発を推進します。

主な活動

1. UD視点での製品の継続的な改善の実施
2. UD視点を活かした情報発信や店頭づくり
3. UD視点での“よきモノづくり”の海外展開
4. 日本国内における字幕CMの普及に向けた活動
 - ・複数社提供番組でのトライアル放送の実現をめざす
5. 社外に向けたUD啓発活動
 - 社外に向けた啓発活動の継続
 - (出張授業(UD講座)・講演会・セミナーなど)

2017年の実績

1. 製品におけるUD視点での継続的な改善の実施

- ・新製品・改良品におけるUD視点での改善実施率
日本:82%、791アイテム
欧米:39%、290アイテム
- ・「つめかえ用ラクラクecoパック」の採用
2017年はボディウォッシュへも採用し発売しました。

2. 社外に向けたUD啓発活動

- ・小学生向けUD授業(UD講座)(1回)
- ・セミナー(1回)、イベント(3回)
- ・がん患者さんの日常生活に役立つ製品紹介イベント(2回)

3. 視覚に障がいのある方への取り組み

- ・社会福祉法人日本点字図書館が発行する会員向け音声情報誌「ホームライフ」に、社員ボランティアがナレーターとして録音に参加し、生活情報を提供(12月)
- ・「第49回九州盲女性指導者研修会」にて花王製品のご紹介(7月)

4. 日本国内における字幕CMの普及に向けた活動

2011年から字幕付きCMの本格放送への推進に取り組んでいます。これまでに字幕付きCM(ウェブサイトへの公開を含む)を約1,700本制作。テレビで放送機会がなかった動画も、ウェブサイトで公開しています。



→ You Tube 花王公式チャンネル
字幕付きCMを公開
<https://www.youtube.com/user/KaoJapan/>

具体的な取り組み

「つめかえ用ラクラク eco パック」の広がり

2016年1月、シャンプーやコンディショナーのように内容液の粘度が高いものでも簡単につめかえができる新つめかえ容器「ラクラク eco パック」を「エッセンシャル」から発売し、他のシャンプー・リンス/コンディショナーのつめかえ用製品でも順次発売しました。

ボディウォッシュでも発売

「ボディウォッシュはいつもつめかえ時に液をこぼしてしまう。シャンプーと同じようなつめかえを発売して欲しい」という声に応え、2017年7月には、ボディウォッシュ(ビオレuシリーズ)のつめかえ用製品もラクラク eco パックで発売しました。

つめかえ時に、シャンプー・リンス/コンディショナー・ボディウォッシュの入れ間違いを防ぐために、それぞれのキャップの色を変え、さらにシャンプーのキャップには「ぎざみ」、ボディウォッシュのキャップには「ライン」の触覚識別表示を入れて、視覚障がいのある方にもわかりやすい工夫を取り入れています。

使いやすく環境にさらにやさしいスマートホルダー

さらに、ラクラク eco パックにポンプヘッドを差し込

んで使うスマートホルダーも、一部限定で販売しています(2018年4月現在)。これは、ラクラク eco パックをホルダーに差し込み、直接ポンプを差し込むことで、最後まで衛生的に使い切りやすくするためのつけかえ用容器です。

ラクラク eco パックを簡単につめかえることができ、繰り返し使用することで、容器に使用する樹脂量も少なくなります。今後、多くのアイテムでご利用いただけるように取り組んでいます。



⇒「つめかえ用ラクラク eco パック」「スマートホルダー」について詳しくは P6「心地よく過ごすことがecoにつながる、未来の容器」

Topic 「つめかえ用ラクラク eco パック」などが「ワールドスター賞」を受賞

「つめかえ用ラクラク eco パック」は、ドイツ・デュッセルドルフで開催された世界包装機構(WPO)主催のパッケージコンテストで「ワールドスター賞」を受賞しました。

「ワールドスター賞」は世界で最も権威があるパッケージコンテストで、1970年にスタートし、毎年開催されています。



権威ある賞を受け、喜ぶ開発担当者

ユニバーサルデザイン

家事の負担を軽減し広く支持される「キュキュット クリア泡スプレー」

「キュキュット クリア泡スプレー」は、スポンジでは洗にくい形状の食器の汚れを、スプレーの泡の力で落とすという新しいタイプの製品で、2016年9月に発売されました。

発売以降、「スプレーの泡がとても強く、すき間まで届く。子どもがシュッとスプレーしたくて、自分のお弁当箱をすすんで出してくれるようになった」「介護で使っているストロー付きのコップの洗浄に便利」「スポンジを使わないので楽」といった好評の声を多くの皆さまからいただいています。

さらに「抗がん剤治療で爪や手指が荒れているが、これなら食器洗いができる。病気になり今まで何気なくできていたことができない不自由さに落ち込んでいたので、泡スプレーを使ったときは涙が出そうになった」「脳出血で半身不随になった娘が、これを使って左手だけで食器を洗えた。私もこれなら食器洗いを頼める。本人と子ども本当に喜んでいる」といった、病気のために不便さを感じていた方からのうれしいお声も寄せられています。



スプレーして流すだけで食器の汚れが落とせる「キュキュット クリア泡スプレー」

「第49回九州盲女性指導者研修会」にて花王製品をご紹介

2017年7月30日、長崎県で開催された第49回九州盲女性指導者研修会において、「日常生活の向上をめざして」というテーマで新しくなった家庭品点字シールや災害時にも役立つ製品など、視覚障がいの方にも便利な花王製品や、花王のユニバーサルデザインの考え方などについて紹介しました。

また、参加者の皆さまには、環境配慮と使いやすさを両立した「つめかえ用ラクラクecoパック」を使って、こぼれてしまうと敬遠されがちなシャンプーのつめかえに挑戦していただきました。

ラクラクecoパックでのつめかえ実習では、「これまで、つめかえ用はこぼしてしまって、残念に思うことが多かったが、これなら簡単」といった声や、災害時にも役立つ花王製品の紹介では「身体を拭くシート製品はとても便利。利用したい」などの声をいただきました。

研修会では、参加者から熊本地震での被災体験をお話しいただき、防災についての意見交換も行なわれました。

花王UD指針の「人とつながるモノづくり」にもあるように、緊急時にも、すべての方にも寄り添うモノづくりをしたいと、一同、気持ちを新たにしました。



つめかえ体験とともに、ボディウォッシュを示すラインを確認する参加者

新しい製品安全図記号の開発に貢献

日本石鹼洗剤工業会は、消費者にとってわかりやすく、より適切な注意喚起につながる製品安全図記号(10種類)を新たに開発しました(2017年6月公表)。花王からは、品質保証本部、ファブリック&ホームケア事業ユニット、研究開発部門、生活者コミュニケーションセンターなどの社員が、2014年に日本石鹼洗剤工業会内に設立した製品安全表示検討ワーキンググループ(リーダー:花王株式会社)に参加し、開発に貢献しました。

新安全図記号は、グローバルでの展開も考慮し、ISO 3864-3:2012やJIS S 0101:2000(消費者用警告図記号)に基づいてデザインされ、JIS S 0102:2000(消費者用警告図記号 - 試験の手順)に準拠した消費者の理解度と視認性試験をクリアし、消費者にとってわかりやすい安全図記号になっています。

この安全図記号の使用・適用方法等に関しては、日本石鹼洗剤工業会で自主基準(ガイドライン)を定めています。同様に、この安全図記号を採用する洗浄剤・漂白剤等安全対策協議会でも自主基準を作成し公開済みです。

花王でも、この安全図記号を2018年より発売の家庭用製品ラベルに逐次適用するとともに、消費者への周知に努めていきます。

新たに開発された製品安全図記号 ※注意書きは一例です

やってはいけません【禁止】



子供に注意



目に注意



飲むな 危険



他の容器に移し替えない



まぜるな 危険

必ずこうしてください【指示】



使用後は手を水でよく洗う



手袋着用



マスク・手袋着用



必ず換気



目に入った時は、流水でよく洗う

花王のアプローチ

生活者とのきめ細かなコミュニケーションを通じて、お客さまからの声を“よきモノづくり”やサービスの向上に活かすとともに、幅広い世代の方々に必要とされる生活情報を提供しています。高齢化、高度情報化、グローバル化が進む中、生活者にどう対応していくかは、相談対応においても大きな課題です。花王は、生活者をとりまく環境変化、コミュニケーション手段のデジタル化加速への対応などを見据えて、今後も新たな取り組みを推進していきます。

社会的課題と花王が提供する価値

社会の変化は、消費者の相談にも色濃く反映されます。たとえば、高齢の消費者からの相談は、増加の一途をたどっています。一方で、若い方々を中心に、ソーシャルネットワーキングサービス(SNS)を使ったコミュニケーションが一般化しており、SNS上でさまざまな情報がやり取りされています。また、昨今のインバウンド消費は、新たな影響を及ぼしています。

そのような社会においては、消費者と企業との間で情報格差が生まれやすく、消費者が主体的に判断することがますます難しくなっています。

そこで花王では公正でわかりやすい情報の開示に努めており、このことが消費者の社会・環境に配慮した消費行動の実現にもつながると考えています。

消費者相談窓口である生活者コミュニケーションセンターでは消費者視点の行動原則のもと、生活者の声を真摯に受け止め“よきモノづくり”を支えています。どなたでもご利用いただけるよう、聴覚障がいのある

方に配慮した手話専用の相談窓口や、視覚障がいのある方のために、花王ウェブサイトの「製品カタログ」の図や表に音声読み上げソフトに対応できる説明文を加えるなど、さまざまな対応を行なっています。

また、生活者とのコミュニケーションを幅広く促進するために、SNS(「Yahoo!知恵袋」)を活用した能動的支援を強化するなど、消費者とのコミュニケーション方法の多様化を推進しています。

貢献するSDGs



方針

花王の消費者相談窓口である生活者コミュニケーションセンターは、製品に関するご意見やご要望をうかがうだけでなく、その背景にある意識や習慣などの生活現場の状況、「生活者」としての思いをも敏感に感じ

とりながら、ご相談いただいた方々のお役に立てるよう「正確・迅速・親切」をモットーに対応することをめざしています。

消費者志向宣言

2017年1月、「消費者志向宣言」を公表しました。花王グループの企業理念である「花王ウェイ」のもと、経営トップのコミットメントを全社員に浸透させ、コーポレートガバナンスを確保し、お客さまの満足を実現します。また、社会のサステナビリティに役立つ商品とブランドを提供する“よきモノづくり”を全員参加で行なうことで、お客さまの声を真摯に受け止め、商品やサービスの改善に活かし、お客さまの立場にたった情報提供や、お客さまと積極的に交流することを宣言しました。



→消費者志向宣言

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/approach/issues-solve/customer-first/>

体制

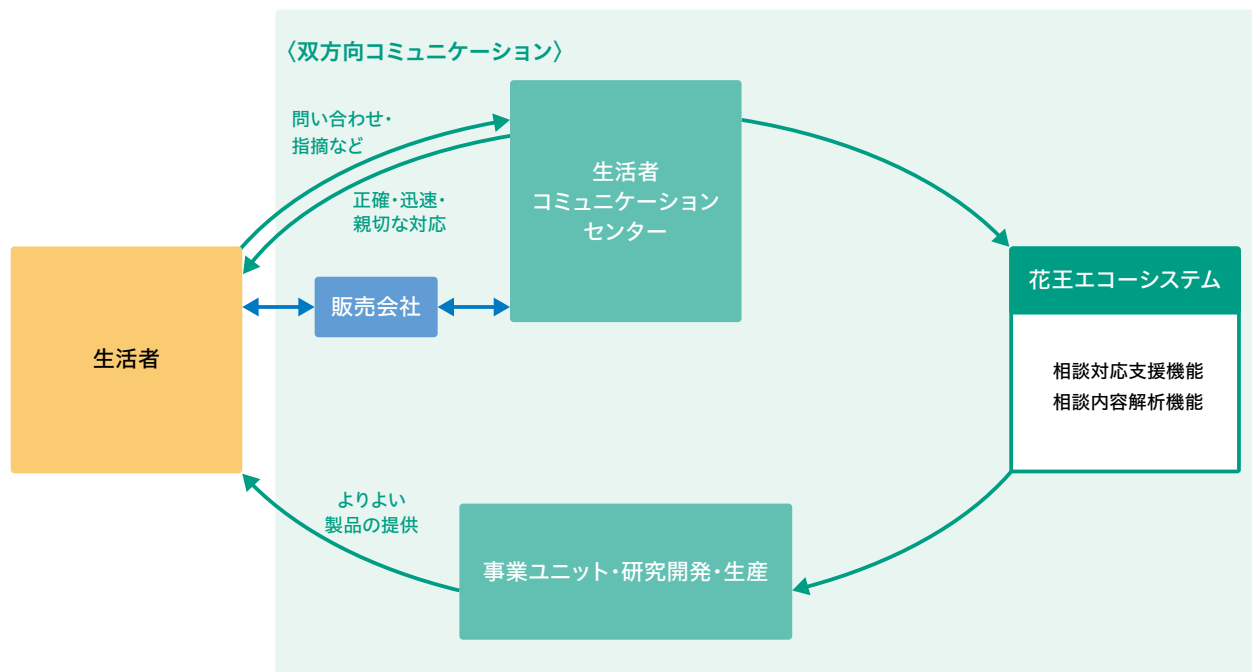
生活者と花王の懸け橋として、生活者の声を全社で共有・活用する基盤になっているのが、1978年に開発して以来、バージョンアップを重ねてきた「花王エコシステム」です。

このシステムには、花王製品の改良履歴を含む製品情報から生活に関する情報に至るまで、多岐にわたる情報が蓄積されており、迅速で的確な相談対応を支えています。また、相談内容は、個人情報の取り扱いに十

分配慮しながら逐次データベース化し、全社で閲覧・共有できるようにしています。

関連部門では、このシステムを活用して、製品別の相談傾向などを解析し、商品開発やマーケティング、品質向上活動などに活かしています。

生活者の声を製品に活かすしくみ



教育と浸透

- ・相談対応力評価を定期的に行なうとともに、さらなる向上を図るため、外部講師による研修や外部研修受講の推奨など、積極的に研修機会を設けています。
- ・生活者視点をより深く理解し、業務に活かすための研修を部門ごとに実施しています。2017年は昨年実施したSCM部門に続き、機能部門や販売部門など相談対応で連携している部門に向けて行ないました。研修を受講した社員からは、「日々の窓口対応がお客様の指摘の本質を探るキャッチボールだということを実感できました」「お客様の窓口での生の声を聴くことで、よりリアルに生活の場で起こっている事象とそれに対するお客様の感情や思いを把握することができました」といった声がありました。
- ・アジア各国においても花王ウェイに基づいた適切かつ迅速な消費者対応が行なわれるよう、各国の活動状況を把握し、日々のメールや電話による情報交換や定期的に開催するウェブ会議などを通じて、相談対応のプロセスと価値基準の共有を図るための支援をしています。
- ・アジア各国の消費者相談担当者が一堂に会する会議を年1回実施しています。花王グループの対応方針への理解を深めるとともに、各国での相談業務と“よきモノづくり”の活動を共有することで、各国の消費者相談対応のスキル向上と、グローバルでの活動推進につなげています。

中長期目標と実績

中長期目標

花王の強みである消費者・顧客起点、一貫体制による現場力と総合力を、パートナーとの協働も含めてグローバル水準でより高くレベルアップし、事業戦略の実現を加速していきます。そのために、生活者のよきパートナーとして常に情報交流を行ない、生活者のさまざまな困りごとに、時間と場所を選ばずに最適な解決策を提供していきます。

また、消費者とのコミュニケーションを推進することで、リスクをいち早く察知し、迅速かつ適切な対応をするとともに、生活者の声を収集・解析し、花王グループの“よきモノづくり”に活かします。

消費者とのコミュニケーションに関する主な活動

1. 電話やeメールなどによる消費者相談
2. ウェブサイトを活用した情報の発信
3. SNS(「Yahoo! 知恵袋」)に投稿された質問へのアクティブサポート
4. 消費者団体、消費者行政などの情報交換
5. 消費者向けイベントでの交流活動

2017年の実績

1. 電話やeメールなどによる消費者相談(グローバル)

2017年、日本において電話やeメールなどで寄せられた相談件数は、花王(株)およびニベア花王(株)、(株)カネボウ化粧品との合計で約22万件(前年比99%)です。日本では高齢化社会を反映し、60代以上が相談者の4割を占めており、特にご高齢の男性の方からの製品の相違点や使い方への相談が増えています。

アジア・米州・欧州においても、「グローバルエコシステム」を活用しており、品質保証活動につながっています。

2. ウェブサイトを活用した情報の発信(日本)

製品の表示情報を花王ウェブサイトで確認できるよう、製品カタログサイトで公開しています。製品カタログサイトでは、製品画像、製品特長に加え、基本的な表示情報(成分、液性、使い方、注意表示等)の公開を進めており、アイテム全品(通常品のみ)の表示情報を公開しています。

3. SNSに投稿された質問へのアクティブサポート(日本)

「Yahoo! 知恵袋」上で、「花王公式サポート:kao_official」として、生活者が投稿した悩みに回答する活動を2015年7月より開始し、2017年は約2,200件に回答しました。ソーシャルメディアの特徴として、回答したQAが継続公開されることで、投稿者だけでなく同じ疑問を持つ多くの生活者に閲覧されるため、正しい情報の拡散に役立っています。

ステークホルダーとの協働

消費者団体、消費者行政などとの情報交換

消費者団体の皆さまを工場やミュージアムにお招きし、意見交換会を開催しました。

消費者向けイベントでの交流活動

行政からの要請に応じて、「子ども霞が関見学デー」や「すみだ消費生活展」などに引き続き参加し、幅広い生活情報を提供しています。

相談者を対象とした対応評価

花王の相談対応に満足いただけたかどうかを確認するために、相談者を対象に、花王の対応に関する評価を定期的に調査しています。

2017年も電話またはeメールでの対応における品質評価と満足度をうかがいました。その結果、約9割のお客さまに満足していただけたことがわかりました。

いただいた評価は、当社の相談対応のさらなる改善・改良に活かし、相談者の満足度向上に努めていきます。

具体的な取り組み

ウェブサイトを活用した情報の発信

製品カタログサイトで通常品全品の表示情報を公開

製品カタログサイトでは、製品画像、製品特長に加え、基本的な表示情報（成分、液性、使い方、注意表示等）の公開を進めており、アイテム全品（通常品のみ）の表示情報を公開しています。

表示情報の公開にあたっては、視覚障がい者が製品に記載された情報を読み上げソフトで聞くことができるよう、図表に添えて文字データも掲載しています。

航空危険物（UN（国際連合）危険物）に該当する製品の情報を掲載

「海外の友人・知人にこの製品を送りたいが問題ないか」など、海外への航空機輸送に関するお問い合わせが増加しています。2017年には、花王製品を消費者が海外へ輸送する際に参考となる情報が確認できるよう「製品を航空便で送る際のご注意」を掲載しました。

航空法で定める航空危険物（UN（国際連合）危険物）に該当する製品には「製品を航空便で送る際のご注意」を掲載し、クリックすることで詳細な説明と連絡先が表示されるようにしています。

「製品カタログ」サイトでの掲載例

ビオレ UV さらさらブライトミルク SPF50+



毛穴・凹凸・くすみもカバーするUVミルク。強力紫外線から肌をしっかり守り、日焼けによるシミ・ソバカスを防ぎます。汗・水に強いスーパーウォータープルーフタイプ。（80分間にわたる耐水試験で確認済み）紫外線カット効果が長続きます。透明UVカットパウダー（超微粒子酸化亜鉛）配合。白くなりません。ヒアルロン酸（保湿成分）配合。日差しや冷房で乾燥しがちな肌にうるおいを与えます。さらさらパウダー配合。汗をかいても素肌さらさら。光補正パウダー配合で肌色を明るく整えて、肌の凹凸や毛穴、くすみをカバー。化粧下地効果で化粧くずれを防ぎます。落とすときは、メイク落としなどでよく洗ってください。

- ◆ SPF50+ / PA++++
- ◆ 無香料

【日焼け止め（顔用）】

30ml

- ▼ 製品特長
- ▼ 成分・使い方・ご注意など
- ▼ 紫外線防止剤の種類
- ▼ 製品を航空便で送る際のご注意

製品を航空便で送る際のご注意

- 本品は、航空法で定める航空危険物に該当します。
 - 輸送業者（郵便局など）に発送を依頼する場合は、この製品が航空危険物に該当することをお伝えください。
 - 輸送業者から、製品に関する詳しい情報を求められた場合は、花王 消費者相談室まで、お問い合わせください。
- メール：お問い合わせフォーム
お電話：0120-165-692
受付時間 9:00～17:00（土曜・日曜・祝日を除く）



▶ お問い合わせ「製品を航空便で送りたいのですが、航空危険物に当たりますか？」
http://www.kao.com/jp/soudan/topics/topics_103.html

「ウェルカムベビープロジェクト おむつ自動販売機」の運用に参画

花王は自社製品を通じて、生活者が抱えるさまざまな問題の解決の一助を担っています。さらに、地域社会や行政、NGO／NPOとの協働を積極的に行なうことで、事業では直接アプローチできない問題の解決にも取り組んでいます。

NPO法人こまちぷらすは、子育てで孤立することなく、子どもの誕生が歓迎される社会をつくるために、さまざまな事業を提案している団体です。育児中の方・自治体・企業を集め、こまちぷらすが主催となつて行なつたワークショップの中で、育児中の方から「紙おむつを忘れた時、お店で購入するとかさばるので、少量を自動販売機で購入できれば便利だ」という声がありました。そこで、こまちぷらすでは、東京キリンビバレッジサービス株式会社の自動販売機を活用し、飲み物とともに子ども用紙おむつ「メリーズ」を販売するプロジェクトをスタートさせました。こまちぷらすと花王の関連部署が連携を図り、横浜市戸塚区にある店舗内のおむつ替えスペースにて、当自動販売機を設置することが実現しました。

「メリーズ」パンツタイプのM／Lサイズの各2枚入りと一緒に、使用済おむつを入れるビニール袋をセットしたのも、育児中の方の意見を参考に検討した結果です。

当自動販売機設置のニュースは、メディアで広く取り上げられ、多くの反響がありました。他のエリアにも当自動販売機の設置を望む声が寄せられています。

育児と仕事の工夫をまとめたパターン・ランゲージ※を制作

花王は生活者一人ひとりの「おもしろい」や「くらし」を見つめ、変化の兆しをいち早くとらえようと、生活者研究に取り組んでいます。

20～30代の働く女性のインタビューから感じたことは、働き続けたい意志はありながら、周囲の期待に応えられないことを恐れ、先を見通すあまり、プライベートと仕事の両立を諦めてしまっている方が多いということ。彼女たちが自分らしく働くことを応援するために、慶應義塾大学井庭研究室との共同研究により、パターン・ランゲージ「日々の世界のつくりかた」を作成しました。育児と仕事を両立するための秘訣を34の短い言葉にまとめたもので、このパターン・ランゲージを使ったワークショップも社内外で実施しています。

一般社団法人日本家政学会の年次大会や、オーストラリアで開催されたPURPLSOC World Conference 2017に参加して口頭発表をしたほか、茨城県龍ヶ崎市のハローワークでの求職者向けセミナーなどでも発表しました。

働くくらしを見つめ直し、明日から前向きに働くヒントを見つける機会を提供するとともに、働く人たちの声に耳を傾け、よりよいあしたの「働くくらし」を、生活者とともに考えていきたいと思っています。

「日々の世界のつくりかた」は生活者研究センター「くらしの研究」サイトからダウンロードできます。



→生活者研究センター「くらしの研究」サイト
<http://www.kao.co.jp/lifei/>



「日々の世界のつくりかた」

※パターン・ランゲージ

建築家のクリストファー・アレグザンダーが提唱した知識記述の方法。ここでは、ある状況で生じる問題をどのように解決すればよいのかという実践的な知を記述しています。

花王はコンシューマープロダクツ事業(一般消費者向け製品)、ケミカル事業(工業用製品)、プロフェッショナル・サービス事業(業務用製品)において、法人顧客ときめ細かなコミュニケーションを行ない、製品の改良や新製品の開発、サービスの向上につなげています。

花王のアプローチ

花王グループカスタマーマーケティング(株)(KCMK)は、花王グループの販売会社です。流通業と協働して消費者に花王製品とその価値を届ける役割を担っています。私たちは、カスタマーである「消費者と流通業」を最もよく知り、消費者と流通業の支持と信頼を得る「カスタマー満足 No.1企業」となることをめざしています。

社会的課題と花王が提供する価値

KCMKでは、eコマースに代表される新たな業態・形態の小売業の出現と普及、消費者のライフスタイル・買い物場の場面の多様化、環境意識や健康志向の高まり、高齢化の進行を、いち早く対応していくべき社会の変化ととらえています。

このような変化に対応するだけでなく、変化の先を読み、変化に先んじて対応していくことをめざしています。

貢献するSDGs



方針

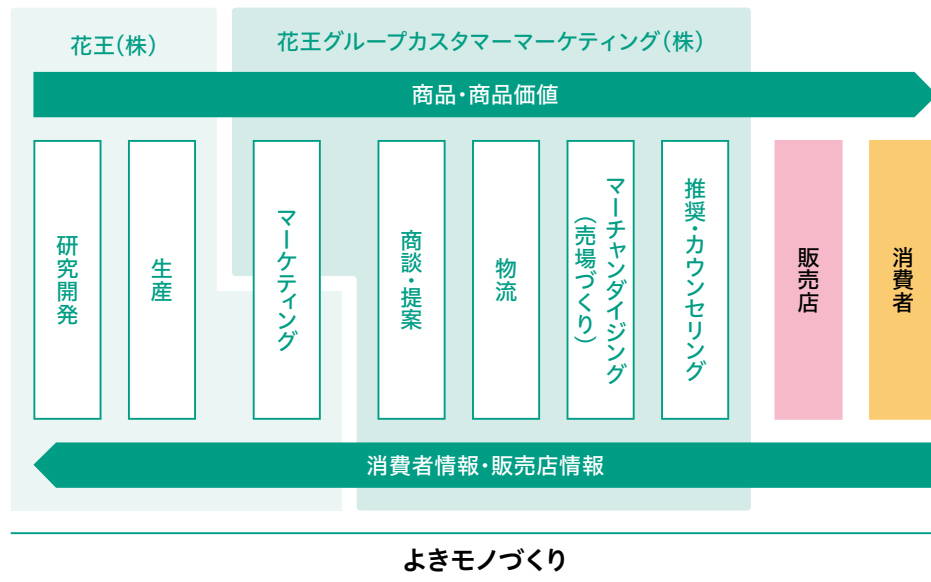
さまざまな調査・研究から消費者の購買意識・購買行動を具体的に把握し、消費者視点に立った売場や企画の開発を進めるとともに、販売店とのより強固な信頼関係を築くために販売店の戦略や課題をうかがい、サプライチェーンの効率化も含めた総合的な提案をカスタマイズして行なうなど、市場創造と市場活性化をめざしています。

体制

研究開発から消費者の手に商品が渡るまでの流れを一貫して行なうことにより、情報の質・量・伝達のスピードにおいて、他社にはない強みが生まれる体制を実現しています。

消費者の手に商品が届き、実際に使っていただいて商品の価値を認めていただくためには、花王グループの“よきモノづくり”は完成しません。そのためにKCMKは、商品と消費者をつなぐ「売場」において花王製品の持つ価値を消費者に正しく伝えるため、陳列、売場演出、プロモーション手法、推奨・カウンセリング方法などを各販売店の特性やニーズに沿って提案し、販売店との協働を推進しています。

コンシューマープロダクツ事業 コミュニケーション体制



教育と浸透

消費者視点に立った売場提案の教育と浸透

KCMKには、消費者視点に立った売場のあり方や、プロモーション手法を科学的アプローチで研究しノウハウを構築するための専門部門があります。また、構築されたノウハウは標準化した資料やITツールに展開し、販売店への提案に活用しています。

買いやすい売場実現の教育

主に日用品・化粧品の売場フォローと販売促進支援サービスを目的とする花王フィールドマーケティング(株)(KFM)を2001年に創立し、多くのスタッフが活躍しています。消費者にとって「見やすく手取りやすく買いやすい」売場を素早く正確に実現するだけでなく、消費者がどの商品を選べばよいか悩んでいる時には、希望に沿った花王製品の特徴や魅力をお伝えしています。

そのためKFMでは、日々変化する消費者に合わせて進化し続ける花王製品や売場のあり方を学ぶためにきめ細かな研修を行っており、スキルアップのための検定(筆記試験、実技試験)も年2回実施しています。

化粧品に対する顧客満足度を最大化するための教育

店頭で消費者と接する美容販売員が、消費者視点に立ったカウンセリングを通じて顧客満足度を最大化できるよう、カウンセリングスキルと商品知識の研修を定期的に行っています。

さらに、カネボウ化粧品とソフィーナのそれぞれのブランドの世界観をさらに際立たせ、独自性や価値をより鮮明に伝えるとともに、真の顧客満足度を追求したカウンセリングの実践をめざし、2018年1月、カネボウビューティカウンセリング株式会社(KBC)、ソフィーナビューティカウンセリング株式会社(SBC)を設立しました。

中長期目標と実績

2020年に向け、「花王・カネボウ化粧品の販売機能の一体化による販売店への提案レベルの向上」「消費者視点に立った売場提案・コミュニケーション」「アジアにおける消費者視点の売場のあり方のノウハウの共有・浸透」によって、「カスタマー満足 No.1企業」をめざします。

2017年の実績

1. 花王・カネボウ化粧品の販売機能の一体化による販売店への提案レベルの向上

花王・カネボウ化粧品の販売機能の一体化による販売店への提案レベルの向上のため、2016年から開始したKCMKへの統合をさらに進めました。2017年は全国8支社を統合し、また、2018年の全支店の統合への準備を進めました。

2. 消費者視点に立った売場提案・コミュニケーション

消費者の消費行動が「モノ」の消費から体験型の「コト消費」にシフトしていることに着目し、従来のライフスタイル型の売場提案に加え、消費者の「体験」や季節行事に軸を置いた「トライアル&トラベル売場」のご提案や五感に訴える陳列等の開発を実施しました。小売業の皆さまとご意見を交わし、さらに良いものへと進化させていきます。

3. アジアにおける販売支援活動の拡大

- ・越境eコマースに関しては、各国市場での主要な小売業者に対する積極的な提案と販売体制の強化などの戦略的な取り組みを進めています。
- ・グローバルリテイラーの動向を注視し、限定商品の販売など取扱商品の差別化やオムニチャネル化などの変化するニーズを機会ととらえ、各国の販売組織と日本本社との連携を密にし、グローバルでの提案活動を行なっています。
- ・グローバルでの販売人財育成プログラムの体系構築に着手しました。2018年1月からは、国単位でのエクステンジプログラム*を実施しています。

* 社員が一定の期間、勤務地を交換し合うことで、各地域における販売活動の違いを学ぶ人財育成プログラム

ステークホルダーとの協働

製・配・販連携協議会

製・配・販連携協議会は、消費財分野におけるメーカー(製)、中間流通・卸(配)、小売(販)の各企業の連携により、サプライチェーン・マネジメントの改善を図り、産業競争力を高め、豊かな国民生活に貢献することを目的とした協議会です(主催:一般財団法人流通システム開発センター、公益財団法人流通経済研究所)。花王グループは2011年の協議会設立時より参加し、積極的に意見発信を行なっています。

2017年は訪日・在日外国人向けに商品情報の多言語表示化を検討する「商品多言語フィジビリティ・スタディ・プロジェクト」において座長を務めました。当プロジェクトでは、小売店の店頭で商品のバーコードをスマートフォンでスキャンすることで商品情報を多言語で表示するアプリの開発および商品情報のデータプール構築を進めています。また、実店舗において訪日中国人のお客さまに本アプリをご利用いただき、アンケート調査を実施し、その結果を7月に行なわれた総会にて報告しました。



→ 詳細は「製・配・販連携協議会」
<http://www.dsri.jp/forum/index.html>

具体的な取り組み

コラボレーションフェアを春・秋の年2回開催

KCMKでは、国内外の小売業の皆さまをご招待して、主に新商品を体験・体感し、その価値を深くご理解していただくため、「コラボレーションフェア」を開催しています。これまでは春の東京のみの開催でしたが、2017年は秋も開催し、大阪にも会場を設けました。

春の5月、秋の11月ともに約2,000人のお客さまにご来場いただき、花王独自の技術に基づく付加価値の高い商品を体験していただきました。お客さまからは、花王グループが一体となった提案力に深くご理解・共感されるお言葉を多数頂戴しました。



「アタックNeo 抗菌EX」シリーズのデモンストレーション



コラボレーションフェア2017

花王のアプローチ

価値あるエコケミカル製品を創出し、環境負荷低減のメリットを顧客と共有することで、社会に貢献します。

社会的課題と花王が提供する価値

人口増加や経済の成長に伴い世界的に環境汚染が進行し、特に新興国を中心とする国々で環境問題が深刻化しています。それらの課題に対応するために、化学業界では、環境負荷の低減が重要なコンセプトとなります。花王は、製品を製造するうえでの環境負荷低減と顧客企業先でのケミカル製品使用時における環境負荷低減に注力します。

花王は、「グリーン・イノベーション」と「エコ・テクノロジカルソリューション」の2つを両輪として、環境負荷低減に取り組み、社会のサステナビリティに技術革新で貢献します。

グリーン・イノベーション

グリーン・イノベーションとは、低環境負荷で競争力のある素材(原料)を創出することです。

具体的には、花王の特長を活かし、付加価値の高い天然油脂誘導体を拡大するための投資をグローバルに行なうことに加え、その川上と川下の領域をさらに開拓していきます。

たとえば、食糧問題という大きな社会的課題解決に向け、非可食原料の活用や化石原料代替となるバイオマス原料から特長ある川下素材開発を行なっています。

エコ・テクノロジカルソリューション

特に環境負荷低減の観点から顧客のニーズや課題を把握し、顧客の価値向上につながる画期的な製品開発を行ないます。

代表的な製品

- ・水性インクジェット用顔料インク LUNAJET
- ・低温定着トナー
- ・高機能特殊増粘剤 ビスコトップ



→詳細はP101「具体的な取り組み:グローバルで環境安全に寄与する製品」

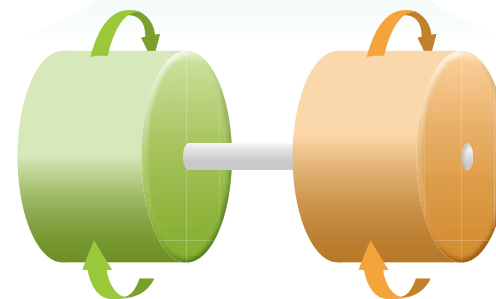
貢献するSDGs



「グリーン・イノベーション」と「エコ・テクノロジカルソリューション」

サステナブルな社会に
技術革新で貢献

事業の両輪として、花王のコア技術を活かし、
または補完してシナジーが発現する技術の
M&Aと設備投資を積極的に実施



グリーンイノベーション

- 特長ある素材を内製化
- 競争力を高めてグローバル展開

エコ・テクノロジカルソリューション

- 顧客ニーズを把握し課題解決
- 画期的な新製品開発

方針

エコケミカル製品販売を通して、社会のサステナビリティに技術革新で貢献します。

広く産業界の環境負荷低減につながる“よきモノづくり”に邁進し、環境価値向上製品比率をグローバルにさらに高めていきます。それを実現するために、市場や顧客との信頼関係をさらに強化するとともに、さまざまな業種の企業や工業会とも連携して、社会のサステナビリティに技術革新で貢献できるように取り組んでいきます。

体制

1. エコケミカル製品の開発・生産体制

- ・物質や現象のしくみを解き明かす基盤技術研究を通じた本質解析による「ナノ界面制御」「高分子機能制御」「油脂精密変換」等のコア技術を最大限に活用
- ・環境負荷低減に配慮したグローバル生産体制の構築

2. エコケミカル製品をグローバルに販売するための体制

- ・国内販売:専門性の高い販売代理店を起用し、顧客との緊密なコミュニケーションを実現する販売体制
- ・海外の運営体制:各主要国に整備された販売生産拠点と、それらを効果的に運営するネットワーク体制
- ・品質保証本部との協働によるグローバルな化学物質管理や輸出入管理の強化等によるグローバルビジネスの支援体制

教育と浸透

社内向け

- ・年2回開催のケミカル事業全体会議で確定する「ケミカル事業のめざす事業像」をケミカル事業担当者全員に周知
- ・ISO14001を含む環境関連情報のケミカル事業担当者全員への周知
- ・グローバルRC活動による海外関係会社への化学物質法規制遵守の強化
- ・新入社員に対する環境教育やケミカル製品の販売代理店への啓発活動の実施

販売代理店向け

- ・販売代理店へのchemSHERPA説明会:30社74名
- ・販売代理店新入社員研修会:20社79名
- ・販売代理店経営者懇談会:11社22名
- ・販売代理店との情報交換会:11社約50名

中長期目標と実績

ケミカル製品の製造段階やケミカル製品使用時に環境負荷を低減できる製品を「エコケミカル製品」と位置づけています。今後、「グリーン・イノベーション」と「エコ・テクノロジカルソリューション」を推進して、ケミカル事業に占めるエコケミカル関連製品の比率が80%以上になることをめざします。

2017年の実績

- ・環境負荷を低減したフィルムパッケージ用途への展開に向けて、VOCレス水性インクジェット用顔料インクを開発
- ・土木・道路用分野での環境負荷低減、長寿命化対応製品で事業を拡大

ステークホルダーとの協働

ビジネスパートナー

- ・「グリーン・イノベーション」を推進するための油脂原料のサプライヤー等を含む東南アジア企業との連携強化を行なうために、関連企業との面談を通じて花王の姿勢を明確に伝えています。
- ・「エコ・テクノロジカルソリューション」を推進するための新規パートナーを探索しています。

- ・国内外の化学物質法規制やエコ関連情報に関し、国内では販売代理店と、海外では関係会社と定期的な情報交換を実施しています。

行政機関

- ・環境省、経済産業省、厚生労働省などが幹事会メンバーとなっている化学物質国際対応ネットワークに参加し、国際的な化学物質対策について、国内の企業・団体・行政機関や海外の行政機関・産業界等と交流・対話を年数回行なっています。

業界団体

- ・一般社団法人日本化学工業協会が推進しているGPS/JIPS推進部会やワーキンググループの月例会議に参加し、GPS活動の推進とGPS安全性要約書の発行に貢献しています。2017年は同協会のJIPS大賞受賞講

演や化学品管理セミナーで講演を行ないました。

- ・アーティクルマネジメント推進協議会(JAMP)の運営委員会や各技術委員会の月例会議に参加し、製品含有化学物質情報の業界共通様式(MSDSplusやchemSHERPA)の運営や改訂に貢献しています。なお、6月のJAMPの総会において、花王の執行役員がJAMP議長に就任しました。
- ・日本界面活性剤工業会や化粧品原料協会等の各種定例委員会や定例部会に参加し、化学物質管理規制を含めたさまざまな活動やセミナーの開催運営などに貢献しています。



→ P43「エコロジー>化学物質管理」

国際的イニシアチブ

- ・RSPOなどのサステナビリティ活動を推進するための国内外の組織との連携を強化しています。



→ P134「コーポレート・カルチャー>持続可能で責任ある調達」

具体的な取り組み

グローバルで環境保全に寄与する製品

水性インクジェット用顔料インク LUNAJET

これまで培ってきた「顔料ナノ分散技術」をさらに応用し、軟包装用フィルム基材への印刷に対して、VOCレス設計※で環境負荷を低減した世界初の水性インクジェット用顔料インク開発に成功しました。その結果、高品質で環境負荷を低減した、軟包装用フィルム印刷物を提供できました。さらに、この水性インクジェット用顔料インクの技術は、水性グラビアインクに展開できることも確認しています。

低温定着トナー

コピー機が使用する電力の半分以上が、トナーを溶かすための熱エネルギーに消費されています。コピー機やプリンターの環境負荷低減には、より低温で定着可能なトナーバインダーの開発が重要で、こうしたニーズに対して開発されたのが花王のポリエステル樹脂トナーバインダーです。花王のポリエステル樹脂を使用したトナーは、従来のトナーに比べ、30℃以上低い温度で溶かすことが可能で、紙との定着性に優れ、印刷の高速化と省エネルギーの両立を実現しています。

高機能特殊増粘剤 ビスコトップ

河川や海岸などの水辺で行なわれる工事では、環境や水質を汚さないように、水質汚濁を防止するための対策も必要となります。長大な橋や海峡に建設されるつり橋などの橋脚工事では、河川や海の中に橋脚を構築するために、粘性が高く水に分散しない水中コンクリートが使用されます。また、地下水脈の付近で行なう工事では、地下水の水質汚濁を防ぐ配慮も必要となります。このような水に関わる環境では、注入材やコンクリートなどの無機材料に増粘剤を添加して、水中不分離性を付与する必要があります。

花王が開発した高機能特殊増粘剤「ビスコトップ」は、従来品にない優れた高粘性の注入材やコンクリートが得られ、水辺の環境を壊すことなく施工が可能となりました。また、福島第一原子力発電所ではトレンチ内の高濃度汚染水を除去する工事にも使用されています。

※ VOCレス設計

印刷工程において排出されるVOCが(炭素換算で)700ppmC以下のものをVOCレスと定義。
VOC(volatile organic compounds):揮発性を有し、大気中で気体となる有機化合物の総称。日本では改正大気汚染防止法により、VOC排出が規制されている。

Topic 「水性インクジェット用顔料インク」と高機能特殊増粘剤「ビスコトップ」が受賞

全国発明表彰は、日本の科学技術の向上と産業の発展に寄与することを目的に、公益社団法人発明協会が、多大な功績をあげた発明を表彰するものです。花王は、平成29年度全国発明表彰において、「水性インクジェット用顔料インク LUNAJET」の特許で、「発明賞」を受賞しました。

日化協技術賞は、社会全体の発展や環境の改善に大きく寄与した革新的で優れた科学技術や製品の創出を表彰する制度です。技術特別賞は、独創的で、かつ科学技術の進歩に寄与した製品や技術に授与されます。花王は、「高機能特殊増粘剤『ビスコトップ』の開発」で、第49回日化協技術賞「技術特別賞」を受賞しました。



全国発明表彰



日化協技術賞表彰式

販売代理店との連携

近年、販売代理店の役割はますます拡大し、重要になってきています。たとえば、顧客との受発注時の納入調整対応や震災等の災害時における情報の共有などに加え、強化される国内外の化学物質関連法規制対応、サプライチェーン全体で適切に対応する製品含有化学物質管理、輸出入時の法令の遵守(GHS対応)などが挙げられます。

花王では、ケミカル事業に関わる主な販売代理店向けにさまざまな情報交換の場を提供しています。

2017年は2年に一度実施される販売代理店の新入社員向けの研修会「販売代理店新入社員研修会」を和歌山事業場で開催しました。20社79名の方にご参加いただき、ケミカル事業や製品、受発注、関連法規に関わる講義を行ないました。さらには生産現場や研究所、エコラボミュージアムの見学も実施するなど充実した内容で2日間にわたり実施しました。

10月には経営者向けに「経営者懇談会」をすみだ事業場で開催しました。

11月末から12月にかけては、販売代理店の担当者向けにケミカル製品に関する国内外の各種法規制の最新動向やサプライチェーンにおける販売代理店の役割などを話し合う「情報交換会」を各社に訪問して行ないました。

特に製品含有化学物質情報の伝達書式については、花王は2017年9月、業界に先駆けMSDSplusからchemSHERPAに切り替えたことから、販売代理店には大阪と東京で切り替え前の3月に説明会を実施し、切り替え後は自社ウェブサイトだけでなく販売代理店と花王をつなぐエクストラネット上でも公開するなど、積極的な情報公開に努めました。

今後もこれらの活動を通じて、販売代理店との緊密なコミュニケーションを推進します。



販売代理店新入社員研修会



chemSHERPA説明会

花王のアプローチ

すべてのプロフェッショナルニーズに応え、安全・安心はもちろん、顧客企業のさらなる価値向上に貢献するクレンリネス&サニテーションサービスの実現をめざします。
 外食産業や医療介護施設など、業務用現場の衛生管理をトータルでサポートします。

社会的課題と花王が提供する価値

食中毒の発生、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の蔓延対策は、依然として大きな社会的課題です。

また、世界に先駆けて超高齢社会となった日本では、介護が必要になった高齢者の生活の質(QOL)の向上および介護者をケアする方を支えるためのさまざまな取り組みが求められています。

花王プロフェッショナル・サービス(株)(KPS)は、製品(ハード)と衛生セミナー・製品の使い方の提案(ソフト)の組み合わせで、このような社会的課題の解決に貢献します。

貢献するSDGs



方針

お客さまのニーズに合った効果的な製品、環境に配慮した製品の開発・提供に加えて、お客さまの状況に合わせた「クレンリネス&サニテーション オペレーションシステム」を提案することで、衛生管理課題のトータルな解決を図ります。

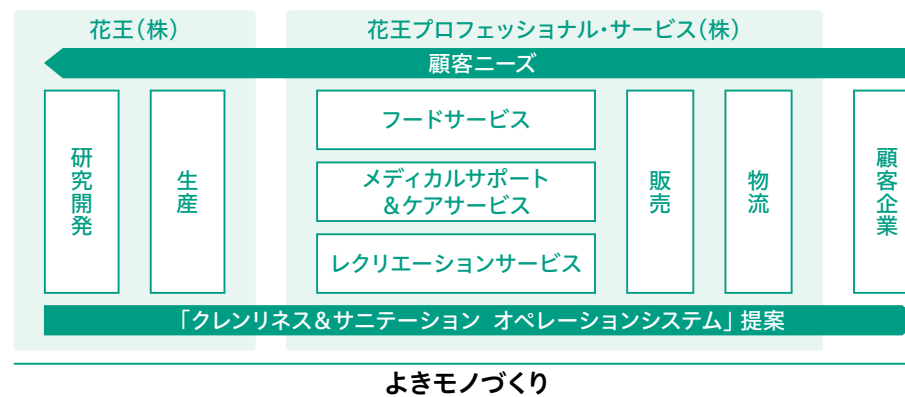
「フードサービス分野」(レストラン・食品加工)では、総合的な衛生管理を通じて、食の安全・安心や快適な環境づくりの実現をめざします。

「メディカルサポート&ケアサービス分野」(病院・介護施設)では、専門的な感染管理によるリスク回避や、スキンケア技術をベースとした製品群と介護用おむつを組み合わせた、人にやさしい介護環境をめざします。

「レクリエーションサービス分野」(ホテル・旅館)では、清潔による快適さやおもてなしによる最高のホスピタリティをめざします。

体制

プロフェッショナル・サービス事業 推進体制



教育と浸透

社内において、顧客や社会の課題に対して「トータルなソリューションの提案、課題解決に貢献」ができる人材を育成すべく、社内独自のソリューション研修を毎年実施しています。

各分野において、「洗浄と除菌・殺菌の基礎」「手指衛生」「環境衛生」「HACCP※」「排泄・高齢者スキンケア」等のテーマを取り上げ、さらに、業務経験に応じた研修内容とすることで、ソリューション知識・スキルの浸透と、ステップアップを図っています。

入社1年目対象の基礎研修、入社3～4年目対象の応用研修を毎年実施しており、2017年はそれぞれ約30人、約40人が受講しました。2016～2017年の累計では、基礎研修受講者・応用研修受講者はそれぞれ約60人になりました。

※ HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point) 国連の国連食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)の合同機関である食品規格(コーデックス)委員会から発表された衛生管理の手法。

中長期目標と実績

真のプロフェッショナル・サービスをめざして、お客さまそれぞれの現場課題の発掘から解決まで、一体的な課題解決のためのソリューション提案を行ないます。

衛生に対する社会的課題の解決に向け、「家庭外のさまざまな生活場面で人々が安心して生活できる環境づくりに取り組む」「花王独自の研究開発・技術で衛生の新しい価値を創出する」ことを目標としています。

2017年の実績

1. 衛生管理トータル・ソリューションシステム提案

衛生管理トータル・ソリューションシステム提案に加え、衛生講習会を170回実施しました。(2016～17年累計372回)

飲食店はじめ、ホテル、食品スーパー、食品・惣菜工場など、幅広い業種の従業員、調理師、栄養士の方々が参加しました。

主な活動

1. 衛生管理トータル・ソリューションシステム提案
2. 医療・介護従事者への感染管理・排泄ケア支援活動

2. 医療・介護従事者への感染管理・排泄ケア支援活動

ワーキンググループ活動を34エリアで計103回開催。805の病院・介護施設・医療施設で、看護師・介護福祉士等医療従事者約2,030人が参加しました。



→ P106「具体的な取り組み:衛生管理トータル・ソリューションシステム提案」

→ P107「具体的な取り組み:医療・介護従事者への感染管理・排泄ケア支援活動」

ステークホルダーとの協働

感染管理や排泄ケアの向上をめざして、メディカル系卸流通会社と協働で、「皮膚・排泄ケアセミナー」を開催しています。

これは、WOCナース(皮膚・排泄ケア認定看護師)の方々を中心に、ふだん接する機会の少ない、排泄ケア製品(おむつ等)やスキンケア製品の関連知識についてご説明し、理解を深めていただくことで、よりよい看護・介護に役立ててもらうことを目的としています。

2017年は約70人のナースの方々の参加がありました。2016～17年の累計では、14都道府県でセミナーを開催しました。

毎年各県を巡回して開催し、将来は全都道府県での実施、全国のWOCナースの方々とのコンタクトをめざします。

エコロジ

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

具体的な取り組み

フードサービス

衛生管理トータル・ソリューションシステム提案

フードサービス分野では、現場での衛生管理向上と食中毒予防に取り組んでいます。

「製品+使い方・オペレーション提案(ハード+ソフト)・教育」のトータル・ソリューション提案を行ない、ユーザー顧客と協働で実践・推進しています。

以下の3ステップで、新たな衛生管理のしくみ(システム)を協働で構築する場合があります。

1. 食中毒に直結する根本的課題の探索

現場において、個人衛生・食品衛生・機器や器具の洗浄除菌・環境衛生など、食中毒に直結する根本的課題を見つけ出します。

たとえば、厨房のエリア分け(汚染エリア・清潔エリア・準清潔エリア)、従業員の動線(交差汚染)、食材の交差汚染や温度管理の確認などを行ない、事故につながる可能性のある課題を明確にします。

また、食中毒には直結しないものの美観に関するガラスやテーブル周りの清掃方法なども課題がないか確認します。

2. 課題を解決するためのソリューション提案

顧客の課題に対して「どの製品を用いて、どのように使えば効果的に洗浄・除菌を実践できるか」を具体的な使用方法・管理方法・手順にして示します。これらの提案内容を現場で試してみて、効果を確認します(現場テスト・チェック)。

製品や実践方法を変えて、最善の効果が出るまで繰り返し現場テストを行ない、PDCAサイクルのもと、ソリューションを確立します。

3. オペレーションマニュアルの提供・衛生講習会の実施

それぞれの現場に合ったソリューション内容やテストを通じて確立した方法を、現場でバラツキなく標準オペレーションとして実践するために、誰にでもわかりやすいイラストマニュアルを提供します。また、現場で実際に作業する方への衛生講習会なども行ない、継続的な衛生レベルの向上を推進しています。



クリーンネス&サニテーションマニュアル例



厨房の現場確認、課題探索の様子

衛生講習会実施回数

年	実施回数	累積実施回数 (2012年~)
2013年	207回	381回
2014年	195回	576回
2015年	219回	795回
2016年	202回	997回
2017年	170回	1,167回

メディカルサポート&ケアサービス

医療・介護従事者への 感染管理・排泄ケア支援活動

メディカルサポート&ケアサービス分野では、病院や介護施設で感染管理や排泄ケアに従事される方々への支援活動を行なっています。その一つとして、「日本感染管理ベストプラクティス“Saizen”研究会」のワーキンググループ活動やセミナー開催の事務局として活動を行ない、医療・介護現場の感染管理・排泄ケアのレベル向上をめざしています。

感染管理ベストプラクティスとは、医療介護処置の手順の中で、感染対策上重要な部分のリスク分析を行ない、それに対する科学的根拠のある解決策を検討した手順書とチェックリストを作成し、実践することで、感染管理レベルの向上をめざす手法の一つです。

ワーキンググループ活動では、「排泄ケア：おむつ交換時のケア等」「環境整備：病室・居室清掃等」などのテーマで、感染管理ベストプラクティス手法を用いて、それぞれの病院・介護施設に合った感染対策の最善策を検討しています。

研究会では2017年度は、ワーキンググループ活動が34エリアで計103回開催され、病院・介護施設 計805医療施設の看護師・介護福祉士等医療従事者 2,025人が参加しました。

ワーキンググループ活動

	開催エリア	実施回数	参加施設数	参加人数
2013年	17	51	583	1,472
2014年	30	90	801	2,008
2015年	30	89	770	1,900
2016年	32	96	813	2,047
2017年	34	103	805	2,025



感染管理ベストプラクティス研究会(ワーキンググループ) セミナーの様子

メディカルサポート&ケアサービス

看護大学・専門学校での 講義・体験演習支援

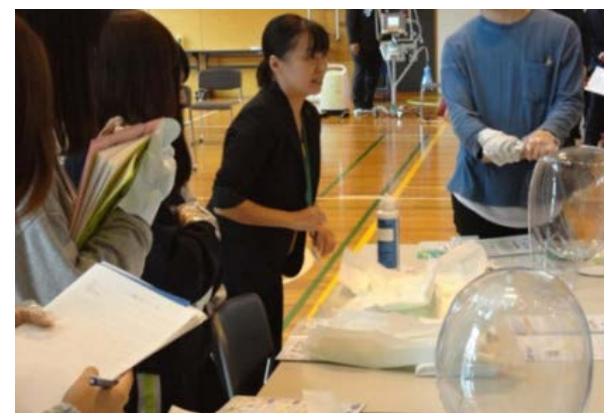
メディカルサポート&ケアサービス分野では、看護大学・専門学校での講義(講師派遣)、体験演習の支援活動も行なっています。

その一つとして、2017年も日本赤十字 秋田看護大学での「在宅看護論～体験演習」の支援を行ないました。

当日は、まず「高齢者のスキンケア」をテーマに、高

齢者の皮膚の特徴やスキンケア・排泄ケア時に留意すべきポイントの講義を行ないました。その後、体験演習として、実際に大人用おむつ製品に触れていただき、吸水性実験や、おむつのあて方を体験いただきました。また、感染予防の基本として、手指衛生の重要性を認識いただく体験(ブラックライトを用いての手洗い後の洗い残し部位の確認)や、擦式アルコール製剤の正しい使い方について説明しました。

この体験演習は2年生全員(約120名)が参加しました。学生からは「最新の製品に触れ、おむつ製品が看護介護される人・する人の両方の事を考えて作られている事を知り、これからの活動に非常に参考になりました」との感想を、先生方からは「学生が企業と関わる事によって多様性を理解しながら学べる。本大学は社会貢献をする人間を育てる場なので、このような体験の場を持ってうれしい」との感想をいただきました。



大人用おむつ製品 体験演習の様子

花王のアプローチ

花王は、豊かな生活文化の実現と社会のサステナビリティにつながるよう、「次世代を育む環境づくりと人づくり」をテーマに、「環境」「教育」「コミュニティ」の3つを重点分野として、社会貢献活動を推進しています。

事業で直接アプローチできない課題については、地域社会や

NGO/NPOと連携しながら、長期視点で取り組んでいます。

また、社会との接点をつくり、社員の学びの場をつくるため「社員参加型の活動」や、モノづくりの基盤を支える文化の発展のための「メセナ支援」、公益財団法人 花王芸術・科学財団による活動も行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は、“よきモノづくり”を通じて社会のサステナビリティに貢献するとともに、SDGsを踏まえ、貧困や教育など地球規模の社会的課題や、事業でアプローチできない課題に向けた活動を通じ、誰もが豊かで快適な生活を実現できるよう、よき企業市民として広く社会に貢献していきます。

自社の持つリソースや強みを活かし、特に、衛生・清潔を中心とした子どもたちの正しい生活習慣の定着、科学技術を担う人財の育成などの教育支援を行なっています。

また、多様なコミュニティとともによりよい社会を築くことをめざし、各地域のコミュニティが抱える社会的課題の解決や社会の活性化への貢献に関わる支援を行なっています。

さらに、メセナや財団の活動を通じてモノづくりの基盤を支える文化の発展を支援します。

これらの活動を通じて、社会や事業へのさらなる貢献をめざします。

貢献するSDGs



方針

社会貢献活動方針

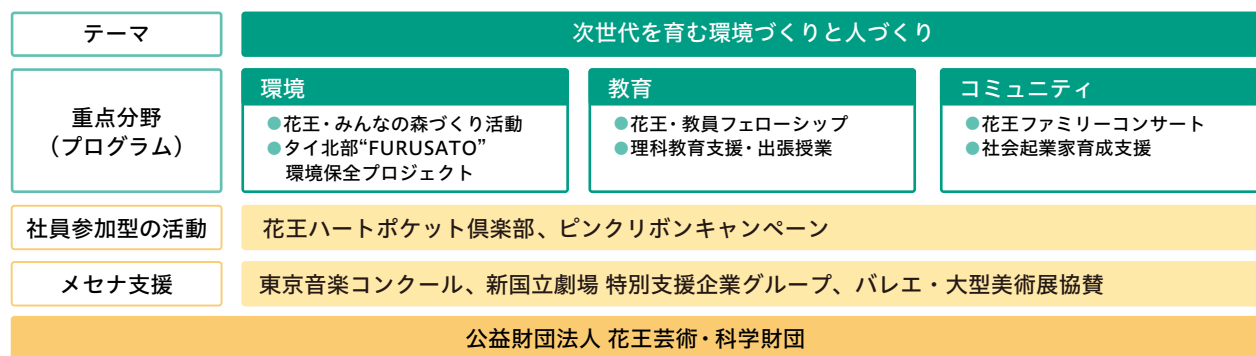
- 次世代の育成に役立つ活動を行ないます。
- 地域の社会・文化の発展に貢献することを目指した活動を行ないます。
- 持続可能な社会に向けて、環境を守り育てる活動を行ないます。
- 社会的支援として、バリアフリー社会を推進する活動を行ないます。
- 花王の持つ資源を有効に活かせる活動を行ないます。
- 一人ひとりの社員が良き市民として、社会的活動に参加できるような風土をつくります。



→詳細は「社会貢献活動の考え方」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/approach/>

社会貢献活動 103-1,103-2,404-2

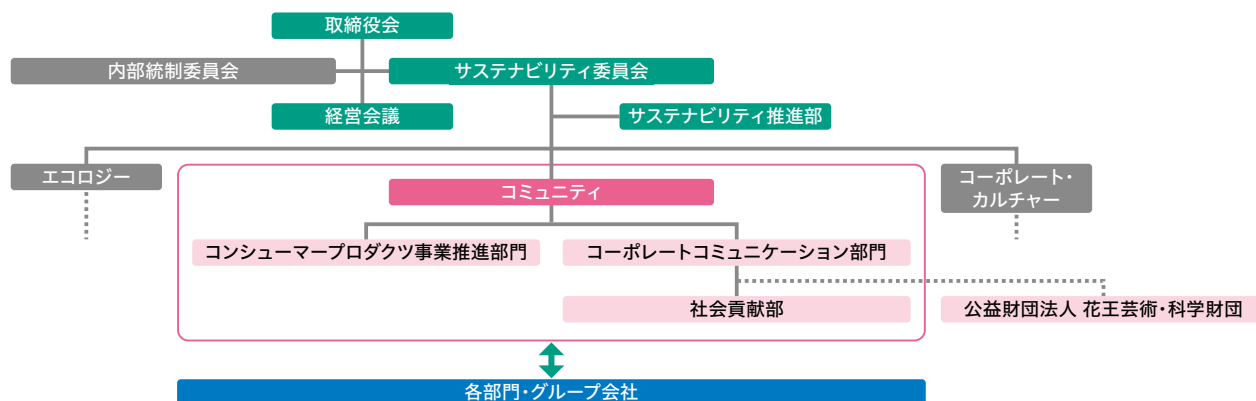
社会貢献活動の全体像



体制

サステナビリティ ステートメントの重点領域「コミュニティ」に向けた取り組みを中心に、コンシューマープロダクツ事業推進部門や、コーポレートコミュニケーション部門、社会貢献部が中心となり、関連部門、国内外のグループ各社と連携して、取り組みを進めています。

社会貢献活動推進体制



花王のアプローチ

具体的な取り組み

教育と浸透

花王では、広く社内外に情報発信を行なうことで、活動への理解を深めてもらうことに努めています。

社内向けには、イントラネットや社員研修の場を通じて事例を共有し、社員が参加できる活動機会を設けています。

社外向けには、活動を紹介する小冊子やウェブサイトを通じて、活動概要や実施したイベントの紹介を行っています。

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

中長期目標と実績

中長期目標

事業活動ではアプローチできない人々やテーマでの社会的活動を通じて、グローバル各地域のコミュニティの発展をめざします。グローバル各地域の社員がボランティアとして企業市民活動に参加することで、社会との接点をつくり、社員自身が成長し学びを業務に生かすことをめざします。

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着:

ベトナム学校衛生プロジェクト:2016-2020年の5年間で60校35,000人への支援を目標

2. 科学技術を担う人財の育成:JSEC:毎年3校最大9名の高校生を支援

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援:社会起業家育成支援:毎年3団体を支援

4. 社会的活動への社員参加の推進

2017年の実績

社会貢献プログラムの実施

1. 子どもたちの正しい生活習慣の定着

- ①ベトナム学校衛生プロジェクト(ユニセフと連携)
 - ・アンザン省の小学校18校約5,000人に対してトイレや衛生設備の改善を完了
 - ・約170名のボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成

②手洗い啓発

- 日本
 - ・手洗い講座:36都道府県の99校、約7,040人の児童・生徒を対象に啓発
(出張授業全体では、37都道府県145校、10,834人、2009年の活動開始から累計約103,000人が受講)

- ・社員のべ572人が参加
- ・教材提供2,155件(全体で3,188件)
- ・教育関係者への研修会5回

- 台湾、インドネシア、タイ
- ・65,909人の児童に手洗い啓発実施

③初経教育

- ・日本で約763,200人、日本以外で約530,300人の女子小中学生に初経セット配布

2. 科学技術を担う人財の育成

- ①科学技術に関する自由研究コンテスト(JSEC)への協賛
 - ・JSEC2017受賞校を招きスタディツアーを開催(3月)
 - ・JSEC2018に特別協賛し、花王賞と花王特別奨励賞を3校7名の高校生に贈呈(12月)

②東京理科大学と産学連携の協力協定を締結

- ③日本科学未来館と連携し、研究員による対話イベント「サイエンティストクエスト」を実施(2回)

3. コミュニティへの参画と課題解決に向けた支援

- ①事業場地域でのファミリーコンサート(日本)
 - ・山形県酒田市、栃木県益子町、和歌山県和歌山市、愛媛県西条市で実施
- ②社会起業家育成支援(日本)
 - ・3団体への支援を決定。事業成長のための機会を提供
 - ・2016年支援団体の成果報告と2017年支援団体のキックオフを目的とした花王社員との意見交換会を実施
- ③災害支援・復興支援活動(グローバル)
 - ・九州北部大雨災害被害に対して緊急物資支援と義援金の寄付(福岡県朝倉市、大分県日田市、中央共同募金会)
 - ・アメリカハリケーン「ハービー」に対して、被災地支援として寄付金(アメリカ赤十字社)
 - ・熊本県仮設住宅、みなし仮設住宅入居者への製品寄贈

4. 社会的活動への社員参加の推進

- ①花王ハートポケット倶楽部(日本)
 - ・定期的な運営委員会、臨時運営委員会で支援内容を決定
 - ・事業場地域の市民活動を応援する「地域助成」を栃木県、和歌山県、茨城県で実施
 - ・大規模支援「みらいポケット基金」を通じた助成実施
- ②ピンクリボンキャンペーン(グローバル)
 - ・10月～11月に、計9カ国・地域の化粧品カウンセリングコーナー等で美容部員など社員が啓発活動を実施
 - ・特設ウェブサイト開設による情報提供
 - ・製品購入数に応じた寄付
 - ・啓発イベントへの協賛:ピンクリボンウオーク(東京)、ピンクリボンプラザ(大阪)
 - ・社員のピンクリボンバッジ着用、イントラネットでの社員啓発
 - ・社員参加型の寄付プログラム:フォト募金

社内外に向けた情報発信

社内

- ・イントラネットなどで活動概要や社員参加型イベントの情報提供(50件)
- ・新入社員導入研修で社会貢献活動について説明し、社員285人が参加
- ・社員参加型のボランティア企画:東日本大震災の被災地ボランティア、活動報告会、花王グループ社員の寄付組織「花王ハートポケット倶楽部」を通じたボランティア活動、地域事業場での地域貢献活動など

社外

- ・ウェブサイトやFacebookで60件の情報を発信



→詳細は「社会貢献活動報告書」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/social-reports/>

→サステナビリティサイト>社会貢献の取り組み
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/society/>

ステークホルダーとの協働

花王の社会貢献活動は、NGO/NPOをはじめ、多くのステークホルダーと協働で実施しています。主な社会貢献プログラムの運営パートナーとは、定期的な

情報交換の機会を持ち、プログラムの進捗確認や運営の改善につなげています。

一方、活動を支援しているNPOなどの団体からも、定期的に活動報告をいただき、活動の背景にある社会的課題と、実施された活動による社会的インパクトへの

理解を深め、花王がめざす豊かな生活文化の実現への寄与をさらに進める一助にしています。定期的に情報交換を行ない現場の声を聴くことは、現場のニーズや社会の動きに沿ったプログラムへとブラッシュアップされることにもつながっています。

具体的な取り組み

清潔習慣の向上をめざすベトナム学校衛生プロジェクト

花王は、中期事業戦略としてアジアでの事業拡大を図っています。

事業展開国の一つであるベトナムは経済格差が大きく、事業ではアプローチできない人々が多く存在します。特に山間部や農村部、少数民族が多い地域では、衛生環境が整っておらず、慢性の下痢疾患などで子どもたちの健康な発育が阻害されています。それらの人々の生活向上の支援として、2016年から、国連児童基金(ユニセフ)による学校衛生プロジェクトの活動を支援しています。

2017年の実績

2016年のアンザン省3地区の6自治体の住民と10校約3,000人に実施した衛生教育に続いて、2017年は18校でトイレや衛生設備のリノベーションを完了し、安心してトイレに行ける学習環境に貢献しました。また、約170名の教員、ボランティア指導員、コミュニティリーダーを育成しました。

衛生への意識は、学校で学んだ子どもたちから各家庭やコミュニティに広がり、トイレのない家庭が自宅に新たにトイレを設置するきっかけにもなっています。これらの活動は、アンザン省の140村以上の屋外排泄撲滅宣言を後押ししています。

今後の取り組み

2018年は、持続的な衛生促進活動の運営管理に向けた教職員への研修や、新たな22校への支援を計画しています。



児童たちと正しい手洗い方法を確認



イラストを使って正しい手洗い方法をゲームで楽しく学習

ベトナムユニセフからのメッセージ



Nguyen Thanh Hien

Water and Sanitation, Hygiene Specialist
United Nations Children's Fund
Viet Nam Country Office

この10年、ベトナムは毎年平均して6%近くのみぞましい経済成長を遂げました。経済の変化は、子どもや女性の生活状況に大幅な改善をもたらしましたが、2千6百万人の子どもすべてが、この新たな「富」を享受しているわけではありません。富める者と貧しい者、ジェンダー、多数民族であるキン族と多くの少数民族の間にある格差は歴然としています。

こうした不平等は「水と衛生」の分野に顕著にあらわれており、最も貧しい人々は著しい発展に見合ったサービスを受けていません。多くの人々が依然として屋外で用を足すか、あるいは非衛生的なトイレを使用している状況です。人々はまた、排泄物などから保護されていない水源を利用し、水質基準に満たない水を消費しています。2014年に実施された影響評価では、適切なタイミングで石けんを使った手洗いを実施する人の割合はわずか13%で、貧困世帯や少数民族では、さらに低い数値でした。

80%以上の学校が水と衛生設備を備える一方で、設備が衛生的に機能し、使用できる状態かどうかには問題が残っています。特に支援が届きにくい遠隔地農村部の学校設備が機能していません。そのため、子どもの手洗い習慣や衛生行動を促進する妨げとなるほか、女の子のプライバシーの面で課題となっています。

そこでユニセフはベトナム中央政府とともに、国全体の学校における水と衛生改善、および地域から屋外排泄をなくす政府の取り組みを強化する活動を展開しています。

花王からのサポートを受け、2016年以降、メコン川流域のアンザン省が重点を置く「学校での水と衛生環境の改善およびコミュニティでの衛生促進」を支援しています。

過去2年間で、それまで衛生状態が良くなかった18校の水と衛生設備が改良されたほか、40校170名の教員に対して設備の使用維持と衛生促進活動に関する研修を実施しました。

現在、研修を受けた先生の指導のもと、子どもたちは適切なトイレの使用や石けんを使った手洗いを学んでいます。また、指導を受けた児童による衛生促進チームは、モニタリングおよび水と衛生設備の適切な使用、石けんを使った手洗い、安全な水を飲むよう他の児童を手助けしています。

このプロジェクトは、子どもたちが学校で健康的な習慣を身につけることを目的としています。習慣は家庭に、そしてコミュニティに広がります。

花王からの資金は、アンザン省の地域コミュニティにおいて屋外排泄を根絶する活動も後押ししています。2017年末時点で22万人の住民が住む省内140の村が、ベトナム保健省の基準に基づき屋外排泄根絶を達成した村に認証されました。

アンザン省行政は、花王の学校とコミュニティの両輪での衛生状況改善への支援を高く評価しています。

これらアンザン省の学校を通じた衛生教育と屋外排泄を根絶した村々の事例は、事業モデルとしてユニセフの他の活動重点省にも広がっています。

プロジェクトは2018年、住民の大多数が少数民族で構成されるベトナム北部の山岳地帯、ディエンビエン省へと拡大します。同省では、人口の7割以上が衛生的な設備にアクセスできていないと推定されています。2016年から2020年の5年間で60校3万5千人の子どもたちを支援する計画です。

多大な貢献をお寄せいただく花王に、心から感謝の意を表します。

高校生の理科教育支援としてJSECに協賛

花王は、“よきモノづくり”の基盤は科学技術からうまれる革新的なイノベーションであると考え、よりよい未来に貢献するために、若い研究者の育成を応援しています。その一環として、全国の高校生・高等専門学校生を対象として開催される科学技術に関する自由研究コンテスト「高校生科学技術チャレンジ(JSEC)」(主催:朝日新聞社、テレビ朝日)に協賛しています。

毎年優れた作品に、花王賞および花王特別奨励賞を贈呈しています。賞の選定にあたっては、花王の研究員が論文を読み、実際に高校生のプレゼンテーションを聞いて審査を行ないます。

JSECの上位入賞者は、米国で行なわれるインテル国際学生科学技術フェア(Intel ISEF)への出場資格が与えられます。

また、受賞校を花王に招き、施設見学と、研究員との交流を図るスタディツアーを開催して高校生のキャリア教育支援にもつなげています。

2017年の実績

JSEC2017:花王賞および花王特別奨励賞を贈呈

- ・花王賞:
“副実像”の写像公式化の研究～定式化のための行列の特定と可視化～
成松紀佳さん、小佐井彩花さん、高田晶帆さん
(熊本県立宇土高等学校)
- ・花王特別奨励賞:
「巨大単細胞生物オオバロニアの生存するための工夫」
岡部菜々子さん
(横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校)
「不思議な集団生活をいとむカスミカメムシから謎の器官を発見～長崎市RDB希少種ソデフリカスミカメをめぐる生態学と形態学的新知見～」
池田菜々子さん、本村佳凜さん、田川晶悠さん
(長崎県立長崎西高等学校)

Intel ISEF2017:優秀賞、特別賞を受賞

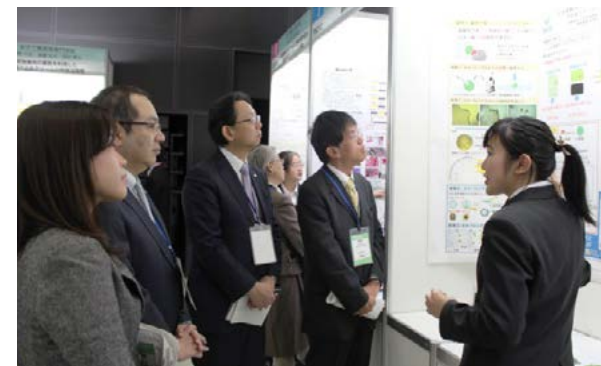
JSEC2016の花王賞、花王特別奨励賞受賞者の皆さんがIntel ISEF2017の日本代表に選ばれ、南山学園南山高等学校男子部の田淵宏太郎さんが優秀賞の機械工学部門で2等受賞、長崎県立長崎西高等学校の野辺愛耶さん、近藤紀香さん、福澤咲知子さんが特別賞のアメリカ音響学会賞佳作を受賞しました。(2017年5月)

スタディツアーを開催

JSEC2016の花王賞を受賞した南山学園南山高等学校男子部、花王特別奨励賞を受賞した長崎県立長崎西高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校を招いてスタディツアーを開催。研究者との交流を深めました。(2017年3月)

今後の取り組み

今後は、JSEC2017受賞校を招いたスタディツアーの開催、およびJSEC2018への特別協賛を予定しています。



最終審査で高校生の熱のこもったプレゼンテーションを聞く花王研究員

女子小中学生に向けた初経教育の支援活動を拡大

花王は、1978年の生理用品の発売以来、30年以上にわたって、初経を迎える女の子たちとその家族や小学校に向けた初経教育の支援活動を行なっています。

1. グローバルでの初経教育セットの配布活動

初経教育セットは、月経やからだの変化についてまとめた啓発用小冊子と生理用品のサンプルをポーチに入れたもので、無償配布しています。

アジア各国・地域でも、現地の小中学校、NGOと連携してさまざまな初経教育プログラムを実施しています。

2017年、日本では公益財団法人日本学校保健会との連携を開始し、初経教育の教材・生理用品の学習用として初経教育セットを活用していただけるよう、全国2万校への配布をめざして活動を拡大しました。その結果、配布数は2016年より大幅に増加しましたが、告知方法や期間が限定されていたことから、目標の6割程度に留まりました。

2018年度は告知回数を増やし、FAXでも応募できるようにするなどして、2万校への配布をめざします。

2. 日本での情報サイトの運営

日本では、2003年から情報サイト「からだのノート おとなになるということ」を運営し、思春期の体や月経についてわかりやすく解説し、医師や専門家による豊富な情報も発信しています。



ロリエ初経教育セット



ウェブサイト「花王ロリエからだのノート おとなになるということ」
<http://www.kao.co.jp/laurier/karada/>

2017年の活動報告

コーポレート・カルチャー

企業理念の実践のために	117
インテグリティ	121
人権	130
持続可能で責任ある調達	134
人財開発の全体像	143
人財育成	145
ダイバーシティ&インクルージョン	148
社員との対話	155
健康	158
労働安全衛生	165
保安防災	170

花王のアプローチ

「花王ウェイ」は、花王グループの企業活動の拠りどころとなる、企業理念 (Corporate Philosophy) です。中長期的にわたる事業計画の策定から、日々のビジネスにおける一つひとつの判断に至るまで、花王ウェイを基本とすることで、グループの活動は一貫したものとなります。花王グループの各企業・各メンバーは、花王ウェイをマニュアルや規則としてではなく、それぞれの仕事の意義や課題を確認するための拠りどころとして共有しています。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は創業以来“豊かな生活文化の実現”を使命に、“よきモノづくり”を通じて社会に貢献してきました。この“よきモノづくり”という言葉には、高い品質が保たれているか、価値に見合う価格で提供できているか、環境に十分に配慮されているかなど、さまざまな花王の思いが込められています。同時に、その意味するところは時代の変化とともに発生するさまざまな社会的課題への対応という側面からも変化していきます。

「利益ある成長」と「社会のサステナビリティへの貢献」との両立を図る花王は、企業の持続的成長だけでなく、サステナビリティという観点からも“よきモノづくり”の意味を常に問い直し、世界の人々に新しい価値を提案していきます。

貢献する SDGs



方針

「花王ウェイ」を実践するには、理念という抽象的な考え方と日々の仕事との結びつきを理解することが重要です。そのために重視しているのが職場単位で実施するワークショップです。同じ仕事に取り組む職場の仲間が仕事のやりがいや、時には悩みを、花王ウェイをベースに共有することで、理念と仕事への理解を深め、現状の改善点を見いだします。また互いを尊重する風通しのよい組織風土をつくっています。

ワークショップは、グループで画一的に行なうものではなく、各部門やグループ会社各社が、花王ウェイ事務局によるプログラムを参照したうえで、それぞれの事業や組織運営の課題に合わせて調整し、自主的、自律的に取り組んでいます。

また海外のグループ会社では、本社や子会社・関連会社との円滑なコミュニケーションに、花王ウェイをグループの共通言語として活用しています。

体制

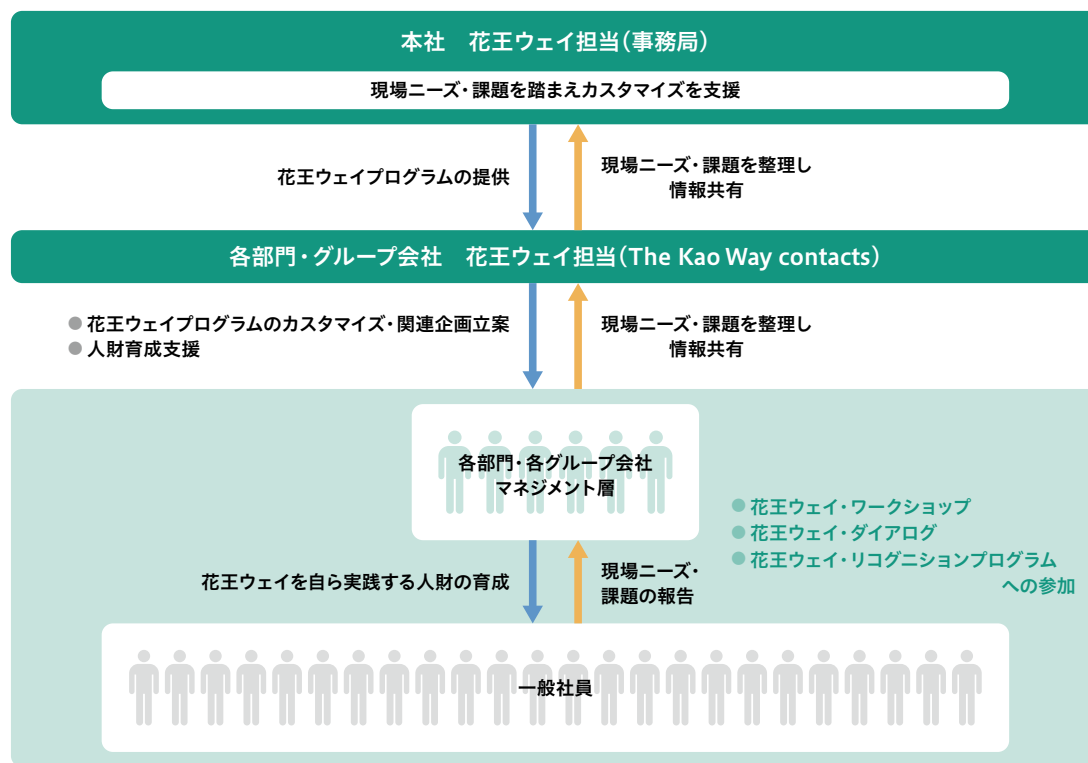
花王の『人財開発基本方針』には「花王グループにおいてはラインによる人財マネジメントが基本であり、人財開発は各級マネジャーが主体となり、花王ウェイを共有し自ら実践する人財を現場で育成することが大切です。」と掲げられています。

この方針に則り、花王ウェイの活動の主体は各部門・

グループ会社それぞれのマネジメントラインと位置づけています。

本社の花王ウェイ担当(事務局)と、各部門・グループ会社各社の花王ウェイ担当(The Kao Way contacts)は、相互のネットワークによって、その活動をサポートしています。

花王ウェイ活動の推進体制



教育と浸透

新入社員を対象に国内外で花王ウェイの導入研修を実施しています。2017年はグループ全体で対象1,216人に対し100%実施しました。

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

中長期目標と実績

中長期目標

花王ウェイに基づいたリーダーシップの醸成に重点を置いています。

花王ウェイに基づいたリーダーシップとは具体的には次のような行動を指しています。

- ・ 率先垂範、自らが理念の実践者であること
- ・ 花王ウェイについて自分の経験等を踏まえて、自分の言葉で語るができること
- ・ 判断(Decision making)の背景や目的を、花王ウェイに基づいて説明することができること
- ・ 大きな課題に直面した時、花王ウェイまで戻って考える習慣があること

こうしたリーダーが職場のメンバーを育て、エネルギーに満ちた組織風土をつくり、次世代に継承していくことをめざしています。

2017年の実績

- ・ 国内では、2014年より導入した、職場のリーダーを対象とした「花王ウェイ・ダイアログ」プログラムおよびそれに準じるプログラムを継続して実施。
 - ・ 海外では、シンガポール、インドネシア、タイで同じプログラムを実施。
 - ・ 周囲の模範となるような花王ウェイの実践が見られたチームや個人を顕彰する「花王ウェイ・リコグニションプログラム」を職場ごとに実施。
- 2017年は国内2部門、海外12社が実施し、顕彰人数は784人。

具体的な取り組み

ダイアログを通じた課題の抽出

花王ウェイに基づいたリーダーシップの開発を目的とした「花王ウェイ・ダイアログ」プログラムを、日本国内に引き続き2017年は、シンガポール、インドネシア、タイの3社で実施しました。

同じ仕事をするメンバーが集まり、花王ウェイの「正道を歩む」「よきモノづくり」「絶えざる革新」の3つの基本となる価値観に基づいて、職場の課題と展望について話し合います。日々の忙しい仕事の棚卸をするとともに、気持ちをリセットし、未来に向かう活力を醸成するのがねらいです。

一連のダイアログでは、こうした対話を通じて、「風通しの良い企業風土をつくる」「長期ビジョンと短期成果のバランスを実現する」といった、各部門・各社に共通するテーマが浮き彫りになってきました。

今後は、こうしたテーマに花王ウェイを活用してどのように取り組むのか、活動の探索と深化を続けていきます。

未来に向けての花王ウェイの実践

花王ウェイは「使命」として“豊かな生活文化の実現”を掲げています。「豊かな生活文化」とは、どのようなものなのか？それはまず、社員各自にとってのハピネスを問うことから始まるのではないかと考えた考え方から開発した、新しいプログラムが「花王ウェイ・フューチャーセッション」です。

来たるべき未来はどのようなものか、社会はどのように変化しているか、花王グループとそこに働く社員の仕事と生活はどのように変わっているか、私たちは未来に向けて、誰のどのような幸せを願うのかなどの、さまざまな視点から、望ましい花王ウェイの実践について話し合います。

こうしたプロセスを通じて、企業活動についての新しい視点や発想が生まれ、イノベーションの創出につながることを期待しています。今後、職種や年代を問わず部門横断でメンバーを集め開催する予定です。



「花王ウェイ・ダイアログ」をアジア各国で実施(シンガポール)



部門を越えたメンバーが集う「花王ウェイ・フューチャーセッション」

花王のアプローチ

花王は、持続的な成長をめざし「グローバルで存在感のある会社」となるために、法と倫理に則って行動し、社会の変化に対応しながら誠実で清廉な事業活動を行なっています。
「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」の継続的な教育やコンプライアンス通報・相談への適切な対応等の活動を通じて、花王グループ全社員のコンプライアンス意識を醸成し定着させ、健全な企業風土が維持・改善されることをめざします。

社会的課題と花王が提供する価値

業務上のリスク発生の機会を低減し、公正な取引を行なうために、贈収賄防止、人権の保護、利害の対立の回避などを重点課題ととらえて取り組みを進めるとともに、事業活動のベースとなる「正道を歩む」の実現に取り組んでいきます。

貢献するSDGs



方針

花王は、企業理念「花王ウェイ」の「基本となる価値観」の中で、創業者が遺した「正道を歩む」という言葉を掲げています。「正道を歩む」とは、法と倫理に則って行動し、誠実で清廉な事業活動を行なうことです。花王は、この言葉をコンプライアンスの原点と位置づけ、すべてのステークホルダーの支持と信頼に応えていくための指針としています。

中長期的な課題抽出と課題に向けた取り組みの検討

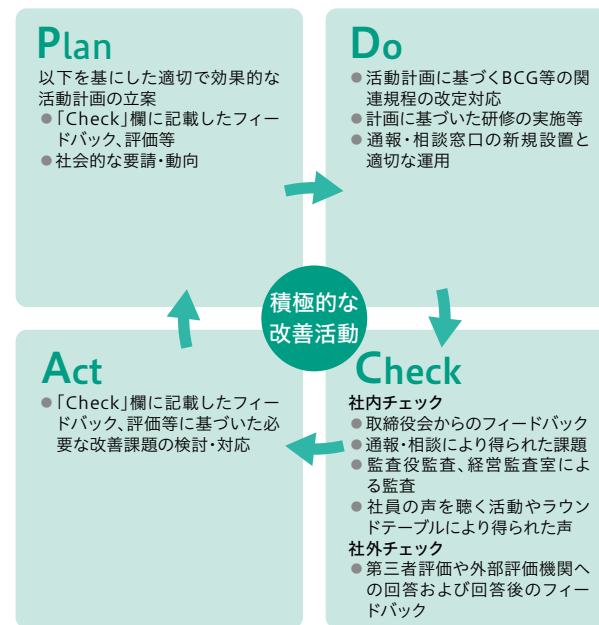
花王では中長期や年間の活動計画に基づき、

1. 「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」等の関連規程の定期的な改定
2. コンプライアンス教育活動
3. コンプライアンス通報・相談窓口の整備・運用を行なっています。

翌年の活動計画を策定するにあたり、現在の活動の妥当性・適切性を確認し、効果的なコンプライアンス推進活動につなげるために、毎年社内の各部門の推進担当者や社員の意見を聴き(社員の声を聴く活動・コン

プライアンスラウンドテーブル)、また定期的に社外のコンサルティング会社からの検証・助言や、外部評価機関への回答および回答後のフィードバックを受けています。

コンプライアンス活動のPDCA



体制

花王は、代表取締役 専務執行役員を委員長とし、各部門や関係会社からの代表者で構成する「コンプライアンス委員会」を設けています。

同委員会では、

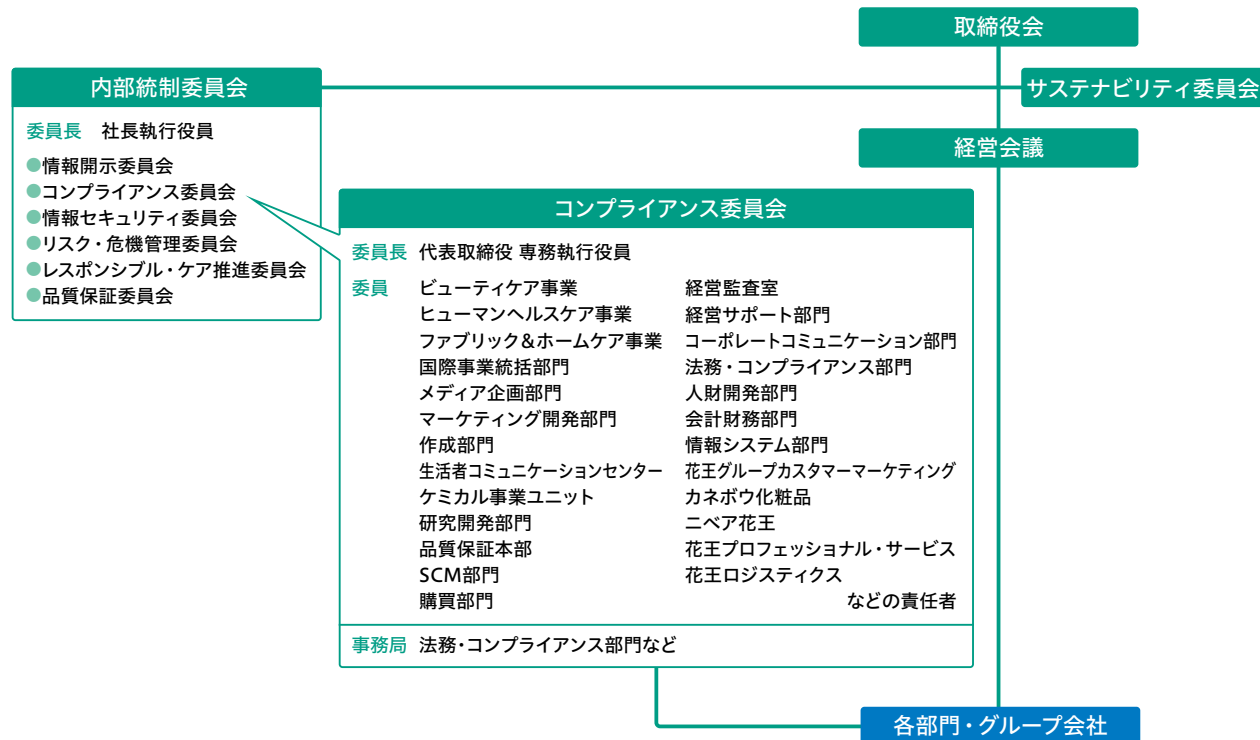
1. 「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」等コンプライアンス関連社内規程の制定・改定の審議
2. 企業倫理の浸透・定着のための国内外での教育啓発活動の審議
3. コンプライアンス通報・相談窓口の運営・対応状況の確認

等を半年に1回実施し、規程の改定などの重要事項や活動概要を年次報告として適宜、取締役会に提案・報告しています。

また、同委員会では事務局を置き、毎月開催する事務局会議において、国内外の通報・相談窓口に寄せられた通報・相談の対応状況を確認するほか、コンプライアンスに関する新たな取り組みの検討や、教育推進活動の企画立案などを行なっています。

これらの活動はモニタリングや評価も行ない、PDCAサイクルによる改善を続けています。

コンプライアンスの推進体制



※2017年12月現在

監査とモニタリング

花王ではコンプライアンスについて、内部監査に加え、さまざまな形でのモニタリングを実施しています。

年次確認

毎年1回、国内外の役員・社員を対象に、利害の対立の回避に関するガイドライン・贈収賄防止ガイドラインに該当する事項に関するコンプライアンス委員会事務局への届出に関して、状況を確認しています。

また、輸出代理店選定・契約更新時に確認している贈収賄防止チェックリストの運用状況について毎年確認しています。

内部監査

定期的に全社・全部門に対し業務監査が行なわれており、その監査項目には、接待・贈答に関するガイドラインに基づいた行動の確認など、コンプライアンスに関わるものがあります。

社員の声を聴く活動

研修実施時等に国内外グループ会社の社員と対話の機会を設け、既存の取り組みへの意見や新たな取り組みへの要望等を収集しています。

社員意識状況調査

2年に1回、全社で実施される社員意識調査「Find」の回答を通じて、社員へのコンプライアンス意識の浸透状況を確認しています。

また、コンプライアンスに関わる具体的な行動や意識、浸透度に関する調査を、2016年は国内で、2017年は海外のグループ会社で行ないました。

研修でのセルフチェック

キャリア入社者向けのコンプライアンス研修の参加者に「コンプライアンス意識のセルフチェック」を実施しています。2017年は46人に実施しました。



→ P141「コーポレート・カルチャー>持続可能で責任ある調達/サプライヤーへの満足度を調査」

中長期目標と実績

中長期目標

1. 「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン (BCG)」の教育啓発活動の継続強化
2. コンプライアンス通報・相談窓口の適切な運営
3. 社会的要請や社内の要請、その他モニタリング・効果測定活動に基づいた活動の課題抽出と改善策の検討・実施

2018年目標

- ・ 重大なコンプライアンスリスク低減に向けた法令遵守体制の強化等の実施
- ・ 2019年に向けた「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン (BCG)」の改定検討
- ・ 継続的なコンプライアンス教育
 - 特に、「正道を歩む」の自分ごと化に資する教育の実施検討
- ・ コンプライアンス通報・相談への対応の改善
- ・ 社員の声を聴く活動の継続

2017年の実績

1. 「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン (BCG)」の教育啓発活動の継続強化

社会的な要請を踏まえたBCGの運用

2017年は、BCGの想定する留意すべき場面や事例を紹介する「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン ケースブック」を改定しました。国内外共通の26事例を見直し、イラストを交えてわかりやすく説明しています。

BCGを社員へ浸透させるための施策

①社員への教育啓発活動

BCGをはじめとするコンプライアンス関連規程の理解を深めるために、新入社員、新任マネジャー、国内管理職、海外グループ会社管理職を含む社員等を対象に集合

研修を実施しています。また、年1回、BCGの内容を振り返る確認テストを実施しています。

2017年は以下の3つの項目について目標値を設定し、以下の実績となりました。

社員へのコンプライアンス教育啓発の目標と実績

BCG浸透施策	目標	実績
BCG確認テスト	100%	97.1% (36,270人/ 対象37,363人)
国内管理職対象 コンプライアンス研修	2018年までの 累計目標:100%	72.2% (1,182人/ 対象1,637人)
海外管理職研修	2019年までの 累計目標:100%	34.0% (474人/ 対象1,393人)

②コンプライアンス月間の実施



→詳細はP126「具体的な取り組み:コンプライアンス月間の実施」

2. コンプライアンス通報・相談窓口の適切な運営



→詳細はP127「具体的な取り組み:コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用」

2017年の実績

3. 社会的要請や社内の要請、その他モニタリング・効果測定活動に基づいた活動の課題抽出と改善策の検討・実施

年次確認

海外では、主に利害の対立の回避に関するガイドライン・贈収賄防止ガイドラインに該当する事項の届出に関して確認を行ないました。国内では、コンプライアンス委員が選定されていない部署や子会社を含めて、活動に関する確認を行ないました。

社員意識状況調査

コンプライアンスに関わる具体的な行動や意識に関す

る調査(6問)を、昨年の国内グループ会社社員に引き続き、2017年は海外グループ会社社員に対して行ないました。調査結果を受けて、BCG 冊子や通報・相談窓口を記したヘルプカードの保有率、通報・相談窓口への信頼性、職場の雰囲気(相談のしやすさ)に関し、職種別等で確認し、必要な対応を行ないました。今後もBCG改定などの機会をとらえて定期的に確認をしていきます。

社員の声を聴く活動

国内外グループ会社を含めた16部門・組織の社員と対話の機会を設け、既存の取り組みへの意見や新たな取り組みへの要望等を収集しました。

第三者評価を踏まえたコンプライアンス推進活動

社外のコンサルタントから前年に受けた当社のコンプライアンス体制に関する評価を改善するため、中長期的な活動計画を再考し、コンプライアンス意識の浸透活動を引き続き行ないました。

また、毎年回答しているDow Jones Sustainability Indices (DJSI)の調査・分析会社であるRobecoSAM社や、Ethisphere Instituteなどの第三者評価機関からのアンケート回答を通じて、自社の課題を認識し、2018年の年間活動計画に反映しました。

ステークホルダーとの協働

・2017年6月、法務・コンプライアンス部門の責任者が、文部科学省から委託を受けて、再就職の際のコンプライアンスの徹底を図るための有識者会議の中で、花王グループのコンプライアンス活動に関する講演を行ないました。

・2017年11月、米国の企業倫理シンクタンクEthisphere Institute主催の東京Executive Roundtableにおいて、日本で事業を行なう企業(外資系企業を含む)のコンプライアンス活動に関する会合のなかで、法務・コンプライアンス部門の責任者が、トップマネジメントの役割に関する講演を行ないました。

具体的な取り組み

コンプライアンス月間の実施

コンプライアンス活動を身近に自分ごととしてとらえるきっかけとして、10月をコンプライアンス月間と定め、活動の浸透を図っています。日本では2015年に開始し、2016年には海外にも対象を広げました。

2017年は、イントラネットやポスターによるコンプライアンス委員会委員長のメッセージの掲示、海外の地域統括・各社社長のメッセージポスターなどによるコンプライアンスメッセージ発信、ケーススタディー発信、BCG確認テスト等を実施しました。また、BCG確認テスト受講終了の証としてコンプライアンスロゴシールを配布しました。

「各社の社長のメッセージは現場の社員に響く言葉でした」「常に意識すべきことではあるが、年に1度コンプライアンスを振り返る機会は今後も継続してほしい」などの声がありました。



コンプライアンス月間ポスターを19言語で作成・掲示

「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン ケースブック」の改訂ほか コンプライアンス関連規程の運用

花王では、企業行動規範である「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」を全世界の花王グループに導入しています。また、BCGに関連する事例をQ & A形式でまとめた「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン ケースブック(以下、BCGケースブック)」を日本語・英語のほか17言語で作成しています。

さらに、相手先の属性を問わず贈収賄を行わないこと、公務員個人に支払う少額の支払いである「円滑化のための支払い」を行わないことを明記しているBCGの考え方にに基づき、花王グループでは政治献金を行わないことをBCGおよび「寄付ガイドライン」で定めています。さらに、接待・贈答を提供・受領する際の承認手続きや運用に関する各社のルールや公務員を招請する際の届出手続き等にも言及した「花王贈収賄防止ガイドライン」は海外グループも含めて各地域・会社ごとに作成し導入しました。

上記に加え、花王グループ会社との競争行為、取引行

為、金銭貸借と個人的投資等の場面において、具体的な事案に応じて許可・届出等を求めることを規定する「花王利害の対立の回避に関するガイドライン」を国内外グループ会社に導入しています。

2017年は次の取り組みを実施しました。

1. BCGケースブックを改定しました(2017年7月)。

改定の主な内容は、①身近に起こりうるケース(国内外共通)を見直し、26ケースを作成したこと②モデルとなる社員を登場させ、ケースをイラスト化して紹介したことです。

日本語・英語のほか、17言語の翻訳を作成し、各社に配布しました。



花王 ビジネス コンダクト ガイドライン ケースブック

2. 「花王贈収賄防止ガイドライン」に記載している取引先管理の運用にあたり、輸出代理店選定に加え、公務員との仲介者選定・契約の更新の際に、贈収賄リスクの有無を担当者が把握するために、「贈収賄防止チェックリスト」を作成し、個別に状況を確認する実務を開始しました。

3. 2017年においても、政治献金は行っていないことを確認しました。

コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用

花王グループの運営方針

花王グループでは各国・各地域のニーズに合わせて、コンプライアンス通報・相談窓口を社内と社外、もしくは社外のみを設置しています。

窓口の運営に際しては、会社は通報・相談者の望む対応内容をきちんと確認したうえで、通報・相談者のプライバシーを保護し、通報・相談したことで不利益を被ることがないように最大限の配慮をするとともに、第三者に確認が必要な場合も、原則として、通報・相談者の承諾を得て行なっています。匿名の相談も受け付けていますが、調査に限界もあることからできるだけ実名で相談することを奨励しています。

2017年は、285件(海外グループ会社含む)の通報・相談が寄せられました。そのうち、事務局からの回答または通報・相談者のみへの面談等により解決・終了に至った軽微なものが約8割、残り2割が複数関係者への面談等の調査により当事者への注意など何らかの対応を行なったものでした。この結果、退職に至る懲戒処分が10件発生しました。

その中で、事業遂行に影響を及ぼすような案件が1件発生しました。(次項「コンプライアンス違反時の対応および2017年の法令違反について」をご覧ください)これにより、通報・相談進捗対応のフォロー強化、推進体制の見直しなどに取り組みました。

なお、通報・相談内容の内訳は、セクハラ・パワハラなどのハラスメント、いじめ等に関連するものが約3割、職場におけるコミュニケーションの問題や労働条件・勤務等に関する通報・相談といったコンプライアンス事案以外が約4割と、この2つのカテゴリーで約7割を占めています。相談者の所属する組織・事業所・職種については、特段の傾向は見られませんでした。

日本花王グループ

日本花王グループでは、コンプライアンス委員会事務局が運営する「社内通報・相談窓口」と、弁護士・臨床心理士など社外の専門家に委託している「社外通報・相談窓口」を設けています。社内窓口および弁護士に委託する社外窓口については、お取引先など社外の方からの通報・相談も受け付けています。

海外花王グループ

海外花王グループにおいては、社外の委託会社が受ける社外窓口を全社に設置し、さらに一部の地域を除き、各社の人事部長等に相談できる社内窓口を設置し、運営しています。

社外窓口である「Integrity Line」は、各国グループ会社に設置され、24時間365日、母国語で相談できる窓口です。

2017年は、新しく花王グループに入った欧州のケミカル会社向けの通報・相談窓口を設置しました。



花王チミグラフ社のIntegrity Lineリーフレット

コンプライアンス違反時の対応 および2017年の法令違反について

花王は、花王グループの事業運営にかかわる会社の法令違反については、公表することを原則としています。*

※ただし、法令・契約等により秘密保持義務がある場合、公益を損なうおそれのある場合、プライバシーに配慮が必要な場合、そのほかこれに類するような制限がある時には、公表できない場合があります。

2017年の花王グループの事業運営において、小田原工場の化粧品生産の一部に消防法不適合があったことが判明し、該当の生産を停止いたしました。すでに行政からの指導を受けて是正しております。なお、製品の品質・安全性には問題ありません。本件に関しては、2017年9月28日付のニュースリリースにおいて公表しております。

なお、窃盗・横領などの不正行為、ハラスメントや道路交通法違反などにより退職に至る事案(諭旨退職を含む)が国内外合わせて10件発生しました。そのうち、海外のグループ会社において、複数の社員がかかわる会社資産の横領案件が発生し、あらためてコンプライアンス活動の徹底が求められる事案となりました。その他においては、社員個人に依拠する事案で、会社の事業運営を大きく損なうものではありませんでした。

これらについては、経営トップの再発防止に向けたメッセージの発信や社内教育活動等を通じて、「正道を歩む」を貫くことを徹底しました。

日常業務におけるコンプライアンス 徹底のしくみ

花王では、「法令エキスパート」と呼ばれる社内担当者が、業務に関連する法令等の施行・改正動向をフォローしており、必要に応じて社内説明会等の情報発信・啓発を行なっています。

また、日本花王グループでは「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」実践のため、各種の社内規程をイントラネットで参照できるようになっています。

2017年に法令エキスパートにより 改正の対応がされた法令等

- 飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律
 - 農薬取締法
- など

2017年12月末現在の「法令エキスパート」 登録法令数、社内規程登録数の状況

「法令エキスパート」宣言※数: 71人の法令エキスパートによる342宣言

社内規程登録数: 450件

※ 法令エキスパート宣言
各所管部門が特定の法令等に対して自主的に「法令エキスパート」としての宣言を行なうもの

「World's Most Ethical Companies(世界で最も倫理的な企業)」に12年連続選定

花王は、米国のシンクタンク「Ethisphere Institute (エシスフィア・インスティテュート)」が2018年2月に発表した「World's Most Ethical Companies 2018」に選定されました。これは2007年の初回選定以来、12年連続となります。12年連続の選定は日本の企業の中でも、世界の日用消費財企業・化学企業の中でも唯一です。

この賞は、①企業倫理と法令遵守に関する取り組み、②企業市民としての責任ある活動、③倫理的企業風土④コーポレートガバナンス、⑤リーダーシップ・イノベーション・社会からの評価の5軸から評価を行なうものです。

この受賞は、花王グループの社員一人ひとりが、日々の業務を遂行するにあたって、創業から伝わる「正道を歩む」の精神を「花王ウェイ」や「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」に沿って実践してきた姿勢が高く評価されたものと受け止めています。



授賞式

花王のアプローチ

花王は、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づいて「花王人権方針」を策定し、“よきモノづくり”のプロセス全体において人権の尊重をめざして取り組みを進めています。

社会的課題と花王が提供する価値

企業活動のグローバル化が進展し、サプライチェーンが拡大していくなか、人権に関わるリスクが高まっています。

花王では、「花王ウェイ」で使命とする「世界の人の豊かな生活文化を実現するとともに、社会のサステナビリティに貢献する」ために、国際的な基準に則り、多様なステークホルダーと連携し、人権尊重の取り組みを進めています。

貢献するSDGs



方針

花王は2015年に「花王人権方針」を制定・公表し、国際人権章典などの人権に関する国際的な規範を尊重すること、人権デュー・ディリジェンスや社員の教育を実施し、事業活動全体において人権尊重の責任を果たす努力をしていくことを宣言しています。

「花王ウェイ」を実践するための行動規範である「花王ビジネスコンダクトガイドライン(BCG)」の中でも、人権を尊重し、児童労働や人身売買など、あらゆる形態の強制労働を行わないことを明記しています。サプライチェーンにおいても、「調達基本方針」で人権に配慮した購買行動を行ない、社会的責任を果たすことを表明するとともに、「調達先ガイドライン」でサプライヤーの社会的責任の配慮項目として、調達先での「強制労働、児童労働、不法労働の禁止措置」を要請しています。

また、2005年に人権、労働、環境、腐敗防止の4分野における10原則を定めた国連グローバル・コンパクトに支持を表明しています。



→花王人権方針

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/approach/issues-solve/humanrights/kao-humanrights/>

→花王ビジネスコンダクトガイドライン

<http://www.kao.com/jp/corporate/about/policies/compliance/business-conduct-guideline.html>

→調達基本方針

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/policy.html>

→調達先ガイドライン

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/supplier-guidelines.html>

体制

人権の問題は多岐にわたるため、人財開発部門、サステナビリティ推進部、コンプライアンス推進室、購買部門等の部門が中心となり、関連部門、国内外のグループ会社と連携して取り組みを進め、サステナビリティ委員会へ報告しています。

花王グループ内の人権デュー・ディリジェンスに関しては、サステナビリティ推進部が事務局となり、人財開発部門、コンプライアンス推進室と連携して推進しています。社員がコンプライアンス上の問題を通報・相談できるよう、各社に通報・相談窓口も設置しています。



→ P127「コーポレート・カルチャー>インテグリティ /コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用」

サプライチェーンにおける人権への取り組みに関しては、取引先との対応窓口である購買部門が中心となり、取引先への働きかけを行なっています。

教育と浸透

グローバルでは、人権尊重の考え方を表明している「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)」に対する社員の理解を深めるため、グループ会社各社でワークショップを実施しています。また、新入社員研修や新任マネジャー研修などで集合研修を実施するとともに、年に1度、全社員向けに確認テストを実施しています。

日本では、12月を「人権啓発月間」として、ニュースレターの配信やポスターの掲示等による啓発活動を実施しています。また、セクハラ防止のための社内ガイドライン「セクシュアル・ハラスメント防止のために」をイントラネットに公開し、社員のための相談窓口を社内外に設置して体制を整えています。

広告や表示における人権尊重

広告やパッケージ等の制作に携わる社員を対象に、広告/表示における人権視点での確認について教育を実施しました。

中長期目標と実績

人権デュー・ディリジェンスや啓発活動を通じて、ステークホルダーの人権への理解を深め、花王の事業活動における人権リスクの特定・防止・軽減を継続して行ないます。

2017年の実績

花王およびサプライチェーンにおける人権デュー・ディリジェンス

社内

- ・花王グループ会社を対象に「人権チェックリスト」による調査を実施。(対象会社回答率100%)
- ・花王グループ生産拠点(41工場)を対象に Sedex※1の「自己評価アンケート」による調査を実施。(対象工場回答率100%)
- ・2015年に英国において制定・施行された、「強制労働等現代における奴隷労働や人身取引を防止するための現代奴隷法(英国現代奴隷法)※2」に対応し、花王グループにおける取り組みを記載した声明をウェブサイトに掲載。

※1 Sedex(Supplier Ethical Data Exchange)

グローバルサプライチェーンにおける倫理的かつ責任あるビジネス慣行の促進を目的に、労働基準、健康と安全、環境、ビジネス慣行に関する情報の共有と確認を行なう世界最大規模の協働プラットフォーム

※2 英国現代奴隷法

英国で事業活動を行なう営利団体・企業のうち、年間の売上高が一定規模を超えるものに対して、奴隷労働と人身取引がないことを担保するために実施した取り組みについて、年次でステートメントを作成・公開することを求める法律。



→英国法 "Modern Slavery Act 2015" への対応
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/approach/issues-solve/humanrights/modern-slavery-act-statement/>

サプライチェーン

- ・2017年6月、取引先にも花王と同様の人権・環境への配慮を求めため、「調達先ガイドライン」を改訂。また、「調達先ガイドライン」遵守状況の確認に Sedex を活用することを表明。
- ・昨年に引き続き、サプライヤーに対し Sedex 登録を働きかけ。

花王とのアクセス権が設定されたサイト数:908

人権啓発活動

人権啓発のための情報発信

花王グループ内の人権デュー・ディリジェンスに合わせてリスク調査の回答担当者に対して啓発資料を共有したほか、日本において、広告やパッケージ等の表現における人権視点での確認について自主的にチェックできる

しくみを整え、事業部門や広告制作に携わる部署の社員279名に啓発しました。

「人権啓発月間」における啓発活動

12月にポスター掲示およびニュースレターの発信を実施。ニュースレターでは人権に関わるさまざまなテーマや、相談窓口について紹介しました。

LGBTに関する社員の理解促進のために

多様な社員の活躍支援の一環として、D&Iの方針のもとLGBTについてさまざまな情報発信を継続して実施しています。



→P148「コーポレート・カルチャー>ダイバーシティ&インクルージョン」

具体的な取り組み

人権デュー・ディリジェンス プロセス

花王をとりまく人権リスクの調査・特定に向けて、以下の取り組みを行なっています。

1. 社内での取り組み

毎年、花王の世界中の拠点に対してリスクアセスメントを行なっています。工場においては、世界的な企業倫理情報共有プラットフォームである Sedex を活用し、また、工場以外の花王グループ各社においては、人権チェックリストを作成し回答しています。

2017年は、41工場が Sedex の自己評価アンケートに回答、人権チェックリストには56のグループ会社が回答し、回答率はいずれも100%でした。これらの結果、工場、花王グループ各社において、人権侵害に関連するリスクは発見されず、人権デュー・ディリジェンスの結果として、改善を実施している事案はありません。

2. サプライチェーンでの取り組み

花王はサプライヤーとさまざまな機会・手段を通じてコミュニケーションをとり、花王の考え方や倫理的な基準について理解を得られるよう努めています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約

においては、2012年に環境や人権に配慮する条項を追加し、新規契約や契約更新時には原則として、この取引基本契約を締結しています。

2008年から「調達先ガイドライン」の遵守状況についてはセルフアセスメントを要請し、その結果をモニタリングしてきました。セルフアセスメントで遵守状況が基準に満たないサプライヤーに対しては、訪問して課題を共有し、改善に向けて協議しています。

また、2014年に Sedex に加盟後は、サプライヤーに対し Sedex に関する説明を行ない、さらに Sedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。これまでにグローバルで908サイトとのアクセス権が設定されました。



→P134「コーポレート・カルチャー」持続可能で責任ある調達」

人権に関するステークホルダーエンゲージメントに参加

2017年6月1日から7月13日までの5回にわたり、特定非営利活動法人 経済人コー円卓会議日本委員会

(CRT)が主催する「ステークホルダー・エンゲージメントプログラム」に参加しました。人権有識者・人権 NGO/NPO といったステークホルダーの提言を受け、さまざまな業種の企業との議論を通じ、企業がビジネスと人権について取り組むべき課題の抽出および人権に配慮した企業活動の推進について検討しました。議論の成果として「業界毎に重要な人権課題(第6版)」が公開されました。

また、日本でのプログラムに先立ち、2017年5月24日に CRT とグローバル・コンパクト・ネットワーク・マレーシアとの共催によりクアラルンプールで開催されたワークショップにも参加しました。NGOからの問題提起を受け、企業としてどのような課題を優先とし、どのような対応がありうるのかを議論しました。パーム油の小規模農家とのダイアログも実施しています。2017年9月14日には上記の日本やマレーシア等でのワークショップへの参加者と、国内外の主要団体の人権専門家のダイアログが開催されました。花王もワークショップでの議論の内容や気づき事項を報告し、人権専門家と積極的な意見交換を行ないました。

花王のアプローチ

花王は法を遵守し、高い倫理観を持って公正・公平な購買活動を推進しています。持続的発展が可能な社会の実現をめざし、資源保護・環境保全や安全、人権などに配慮し、企業としての社会的責任を果たします。

社会的課題と花王が提供する価値

花王は企業の社会的責任を果たすため、「調達基本方針」に則った「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」を基本姿勢とする持続可能で責任ある調達活動を推進しています。

購買取引を行なうにあたり、国の内外を問わず合理的な基準に基づき公正に競争の機会を提供し、法の遵守と倫理の尊重を実践します。

また、持続的発展可能な社会の実現への貢献をめざし、省資源、地球温暖化防止、生物多様性保全などの環境側面、安全・衛生、労働環境、人権などの社会側面に十分配慮し、企業としての社会的責任を果たしていきます。



→詳細は「調達基本方針」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/policy.html>

貢献するSDGs



方針

花王は「調達基本方針」に則った調達活動を具体的なものとするため、「調達先ガイドライン」および「原材料調達ガイドライン」を制定しています。

花王はサプライヤーを“よきモノづくり”に不可欠なパートナーと考え、「調達先ガイドライン」に基づき、調達活動に取り組んでいます。また、法令や社会規範の遵守、人権の擁護、安全衛生の確保、公正な取引等、社会的責任に配慮されているサプライヤーや、環境マネジメントシステムをはじめ、花王が配慮すべき環境項目にご協力いただけるサプライヤーからの調達を優先しています。さらに、環境に配慮した原材料や包装容器の調達を優先しています。

花王とサプライヤーとの間で締結する取引基本契約書においては、上記の環境・人権・労働等に関する条文を明記しています。

また、地球温暖化、生物多様性の劣化などの環境問題、資源制約や人権などの課題を踏まえ、「原材料調達ガイ

ドライン」に基づいた持続可能な調達に取り組んでいます。

さらに花王は、事業が自然資本に依存していることを認識し、パーム油や紙等の調達に関しては原産地での森林破壊ゼロを支持しています。中長期的には、原材料の徹底的な使用量削減や、藻類のような非可食バイオマス由来の原材料等への転換に取り組むとともに、グローバル化により顕在化してきた倫理的な課題にも配慮して、持続可能で責任ある調達を推進します。



→詳細は「調達先ガイドライン」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/supplier-guidelines.html>

→詳細は「原材料調達ガイドライン」
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/procurement/raw-materials-guidelines.html>

体制

購買部門では、企画部サステナビリティグループとともに、購買部門サステナビリティ戦略部会を設け、持続可能で責任ある調達を実行するための戦略を策定しています。

その戦略のもと、原料部および包材部は「原材料調達ガイドライン」に則った調達を進め、間接材部は文具・事務用品などのグリーン購入、機器部は環境に対応した設備・機器の導入を推進しています。

教育と浸透

従業員研修や啓発を実施(日本)

花王では、新たに購買部門に配属された従業員に対し、「公正・公平」「遵法・倫理」「社会的責任」などの購買基本姿勢について教育しています。教育を通じてISO26000や国連グローバル・コンパクトで求められている、人権・労働などグローバルな社会的課題についての認識を持つようにしています。

2017年は、新たに購買部門に配属された従業員7人に対し購買基本姿勢について教育しました。

検定受験の推進(日本)

購買部門の社員一人ひとりが社会や環境との関係を認識し、行動を変革するための教育として、2012年度より環境社会検定試験®(eco検定®※1)の受験を推進しています。また、2015年からは、ビジネスコンプライアンス検定®※2の受験を推進しています。

2017年の部門在籍者の累計合格者はeco検定が71%、ビジネスコンプライアンス検定が64%でした。

グローバル調達会議(グローバル)

関係会社の購買担当マネジャーが出席するグローバル調達会議を年一回開催しています。この会議において、花王グループの調達方針や持続可能で責任ある調達について教育と確認を行なっています。

※1 eco検定

環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進をめざした検定試験。東京商工会議所により2006年から運営されている。

※2 ビジネスコンプライアンス検定

コンプライアンスを法令の背後にある「社会的要請に応えること」ととらえ、企業にとって重要な法令を体系的に理解するコンプライアンス・スキルの養成をめざした検定試験。サーティファイ コンプライアンス検定委員会により2005年から運営されている。

中長期目標と実績

中長期目標

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

花王は森林破壊ゼロに向けた取り組みとして、パーム油、紙・パルプについて2020年までの持続可能な原材料の調達への切り替えをめざしています。

パーム油・パーム核油の調達においては、RSPO^{※1}に加盟して関連工場のSCCS^{※2}認証取得と認証油の調達を進めるとともに、2020年までの、原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達へ向けた取り組みを進め、2015年末にはそれぞれのミル(搾油工場)まで追跡可能であることを確認しています。ミルまで追跡可能であることが確認できていない誘導体については、引き続き確認を進めるとともに、RSPO 認証原料を購入するなどの補完措置を講じます。

紙とパルプの調達においては、2020年までに花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙または持続可能性に配慮したものみの購入をめざすとし、特にパルプは2020年までに原料木材産出地の追跡可能なパルプのみの購入をめざします。

天然植物資源の持続可能な調達

天然植物資源の枯渇や資源収奪の問題を認識し、ABS^{※3}を考慮した天然植物資源の調達を推進しています。また、原産地の自然環境やコミュニティに配慮しながら、調達ルートの多様化・変更や人工栽培品への切り替えにも取り組んでいます。

2. 人権への取り組み

さまざまな人権問題のリスクに対応するため、2015年に「花王人権方針」を定め、花王の活動に加えサプライヤーへも「調達先ガイドライン」に基づく人権のための行動を要請し、人権デュー・ディリジェンスを実施する方針です。

このリスクを評価するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームであるSedexに加盟し、サプライヤーにも加盟を要請しています。2020年までにサプライヤーのSedex加盟率70% (国内: 購入金額ベース)をめざします。

また、2017年よりSedexを活用したサプライヤーリスクアセスメントを進めています。

3. グリーン購入

文具・事務用品など間接材の購入においては、環境省が提唱するグリーン購入を推進するため、「グリーン購入基準」を定め、環境に配慮した物品を優先的に購入しています。

機器・設備の導入においても、LED照明の導入、電力のCO₂排出係数が小さい電力会社との契約など環境対応を推進しています。

※1 RSPO (Roundtable on Sustainable Palm Oil)

持続可能なパーム油の生産と利用を促進するための円卓会議
<http://www.rspo.org/>

※2 SCCS (Supply Chain Certification System)

生物多様性保全のための厳しい条件をクリアし、RSPOに認められた農園で収穫した持続可能なパーム油を使った製品を生産・販売し、消費者に届ける目的でつくられたサプライチェーンシステム

※3 ABS (Access and Benefit Sharing)

先進国や多国籍企業による原産国(主として途上国)の生物資源(遺伝資源)の収奪問題などに対応し、遺伝資源の探索・開発とその利用から生じる利益の公正・衡平な配分のことで、生物多様性条約の目的の一つとして規定されている

2017年の実績

1. 持続可能な原材料の調達

認証原材料の調達

- ・パーム油・パーム核油の調達
- ・紙・パルプの調達



→詳細はP138「具体的な取り組み:持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み」

→詳細はP139「具体的な取り組み:持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み」

天然植物資源の持続可能な調達

化粧品・医薬部外品に使用しているグリチルリチン誘導体は、マメ科植物である甘草から製造されます。生物多様性の保全と持続可能な利用に努めるため、2016年から自生甘草由来から栽培地が特定された栽培甘草由来のグリチルリチン誘導体への切り替えを進めています。

2. 人権への取り組み



→詳細はP140「具体的な取り組み:サプライヤーとの連携/Sedex(人権への取り組み)」

3. グリーン購入

2017年の「グリーン購入基準」達成率は84%でした。

ステークホルダーとの協働

持続可能な調達

パーム油および紙・パルプの持続可能な調達を、認証品の購入とトレーサビリティの確認の2つの方法で進めています。認証パーム油および認証紙については、国内のサプライヤーにも認証取得を求め、調達を開始しました。

トレーサビリティの確認については、原材料サプライチェーン情報の第三者機関による検証およびリスクアセスメントを実施しています。

サプライヤーとの協働

花王は、Sedex、ベンダーサミット、品質向上会議、CSRセルフアセスメントのモニタリング、CDPサプライチェーンプログラム等さまざまな取り組みを通じて、サプライヤーとの連携を強化し、グローバルな調達の推進に取り組んでいます。



→詳細はP140「具体的な取り組み:サプライヤーとの連携」

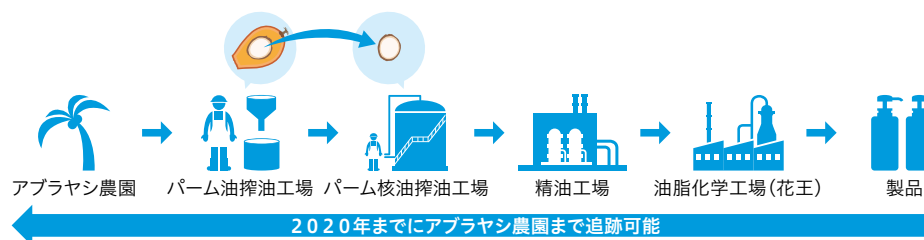
具体的な取り組み

持続可能なパーム油・パーム核油の調達に向けての取り組み

花王は、基本原料の一つであるパーム油・パーム核油の調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

また、RSPOのメンバーとして活動し、追跡可能なサプライチェーンの構築に努めています。

パーム油・パーム核油の調達



「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績

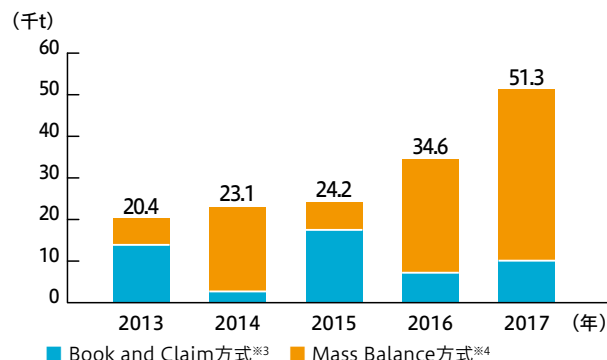
パーム油・パーム核油の調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明し、4つの目標を掲げて取り組んでいます。

目標	2017年実績
① 2015年末までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、ミル(搾油工場)まで原産地追跡可能なもののみを購入することをめざします。	サプライヤー(精油工場)情報によるパーム核油搾油工場までのトレーサビリティの確認:100% 第三者機関による上記サプライヤー情報の検証:2社
② 2020年までに、農園(プランテーション)、サプライヤー(ミル、リファイナー)および第三者機関との協働により、原産地の森林破壊ゼロを十分に確認します。私たちは、保護価値の高い(HCV※1)森林、炭素貯蔵量の多い(HCS※2)森林および泥炭湿地林の開発に加担しません。	トレーサビリティ確認済みの一部パーム油搾油工場に対しての第三者機関リスクアセスメント: サプライヤー4社のサプライチェーン上のパーム搾油工場(のべ約900工場) 要観察パーム油搾油工場の現地調査:1工場
③ 2020年までに、花王グループの消費者向け製品に使用するパーム油は、持続可能性に配慮した、農園まで原産地追跡可能なもののみを購入します。	サプライヤー情報によるパーム油搾油工場までのトレーサビリティの確認:購入量の約97% 第三者機関によるパーム核油搾油工場の検証:地域を代表する7工場 トレーサビリティの確認にBluenumberを活用:詳細はP140「サプライヤーとの連携」参照
④ 2020年までに、花王グループ工場のRSPO SCCS 認証取得をめざし、花王グループの追跡可能なサプライチェーンの構築に努めます。	RSPO SCCS 認証取得数:国内外のグループ工場およびオフィスの28サイト

目標①と目標③の過去5年間の実績

項目	実績					目標		
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
花王グループで使用するパーム核油・パーム油を農園まで追跡する活動の進捗								
パーム核油搾油工場	—	—	追跡完了	継続して確認	継続して確認	継続して確認	継続して確認	継続して確認
パーム油搾油工場	—	—	追跡中	追跡中	追跡中	追跡完了	継続して確認	継続して確認
アブラヤシ農園	—	—	追跡中	追跡中	追跡中	追跡中	追跡中	追跡完了

花王グループの認証油購入実績



※ 消費者向け製品におけるパーム油・パーム核油およびその誘導体の合計
 ※ 一部データを見直し、2016年の数値を変更しています。

IOIグループのRSPO認証停止に対する対応

2016年に発生したパーム油サプライヤーであるIOIのRSPO認証停止問題に対しては、同社からの購入を停止し改善を求めてきました。2017年は改善の進捗を面談等において確認し、購入再開に向けた協議を継続しています。

- ※1 HCV(High Conservation Value)
- ※2 HCS(High Carbon Stock)
- ※3 Book and Claim方式
RSPO認証のパーム油のクレジットを取引するシステム。RSPOにより認証された農園が生産、登録したパーム油の量に応じて発行された「認証クレジット」を購入することで、クレジットに応じた量の認証パーム油を購入したとみなすことができる。本方式では、農園での認証油の生産を促進することができる。
- ※4 Mass Balance方式
RSPO認証パーム油と非認証パーム油が混じることが許された認証システム。

持続可能な紙・パルプの調達に向けての取り組み

花王は、紙・パルプの調達において「原材料調達ガイドライン」に基づいた持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。

FSC認証紙の導入については、2013年より自社製品の容器包装へのFSC認証紙の導入を開始し、携帯用リセッシュのシュリンク台紙に始まり、ヘアカラー、蒸気が出る温熱シート、入浴剤、歯磨き等の個装箱や化粧品の紙器への導入を進めてきました。また、2016年には日本で初めてFSC認証を受けた段ボールを導入しました。2017年は、7月に衣料用粉末洗剤(アタック、ニュービーズ)の本体箱およびフタにFSC認証紙を導入しました。

「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績

紙・パルプの調達において、生物多様性の保全への配慮と、森林破壊ゼロへの支持を表明しています。

目標	2017年実績
2020年までに、花王製品に使用する紙・パルプ、包装材料および事務用紙は、再生紙、または持続可能性に配慮したもののみを購入します。古紙パルプ以外のパルプ(バージンパルプ)を使用する場合は、原料木材産出地の追跡可能なパルプのみを購入し、サプライヤーおよび第三者機関との協働により、原料木材の産出地の森林破壊ゼロを十分に確認します。	追跡可能な紙・パルプ:99.8%(認証品の購入含む) 2017年7月に衣料用粉末洗剤(アタック、ニュービーズ)の本体箱およびフタにFSC認証紙を導入

サプライヤーとの連携

Sedex(人権への取り組み)

サプライヤーのモニタリングを標準化された方法でグローバルに推進し、人権デューデリジェンスにおけるリスクの潜在個所を特定するため、2014年に世界的な企業倫理情報共有プラットフォームである Sedex に加盟し、サプライヤーに対しても Sedex への加盟、質問への回答、データへのアクセス権の設定の要請を進めています。2017年末時点で、グローバルで908サイトとのアクセス権が設定されました。日本では408サイトとのアクセス権が設定され、購入金額の65%をカバーしています。

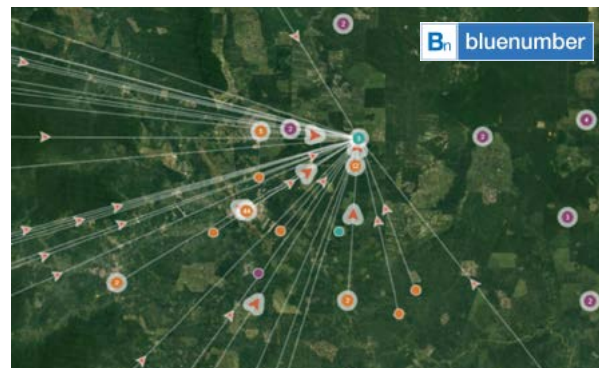
また、Sedexを利用したサプライヤーリスクアセスメントを開始しました。回答率が90%以上のサプライヤーの中、リスク発生の可能性が高いと判定されたサプライヤーは0.4%でした。これらのサプライヤーに対してはリスクの詳細確認を行なった上で、必要に応じて改善を求めています。

Bluenumberへ参画

2017年7月にパーム油のトレーサビリティと透明性の確立をめざしてブルーナンバー(Bluenumber)※に参画しました。ブルーナンバーは、グローバルでの農作物のトレーサビリティ確立をめざす仕組みです。パーム油においては、農園、パーム油搾油工場、パーム核油搾油工場、精製工場に自身や労働者の属性、生産拠点、生産物、活動内容に関する情報の登録を働きかけることにより、トレーサビリティの確認に活用していきます。

※ Bluenumber

「国連持続可能な開発サミット」において2015年9月29日に発足。労働者・生産者・地方の農村地域に住む人々のデジタル経済への参画を促す。ニューヨーク、クアラルンプール、東京、ダッカにオフィスを置く。



Bluenumberでのミルの登録状況(イメージ)

調達先ガイドライン遵守状況

環境、安全、法令と社会規範の遵守、人権・労働問題の取り組みなどを定めた「調達先ガイドライン」を制定し、その遵守状況のセルフアセスメントをモニタリングしています。このセルフアセスメントでは、法令遵守・人権・取引慣行等の社会的責任の項目と汚染防止(大気、水等)を含めた環境方針・環境目標・各種管理等の環境保全の項目を確認しています。

基準に満たないサプライヤーには、訪問して課題を共有するとともに、改善に向けた取り組みを実施しています。

なお、2017年6月、サプライヤーにも花王と同様の人権・環境への配慮を求めため、「調達先ガイドライン」の改訂を行ないました。今回の改訂では、取引先の「調達先ガイドライン」遵守状況の確認を新たに定めており、この確認に Sedex を活用していきます。

社会面 モニタリング企業数と基準を達成している企業比率

	花王(株)取引先企業	アジア花王グループ取引先企業
2013年	883社(99%)	726社(98%)
2014年	906社(99%)	823社(98%)
2015年	1,168社(96%)	994社(98%)
2016年	1,602社(92%)	1,166社(98%)
2017年	1,705社(92%)	1,198社(98%)

環境面 モニタリング工場数と基準を達成している工場比率

	花王(株)取引先工場	アジア花王グループ取引先工場
2013年	818工場(99.5%)	541工場(98%)
2014年	879工場(99%)	608工場(97%)
2015年	1,254工場(97%)	750工場(97%)
2016年	1,616工場(94%)	838工場(97%)
2017年	1,689工場(94%)	842工場(96%)

ベンダーサミットを実施

花王では、国内外で毎年サプライヤーとの情報共有・意見交換の場として「お取引先懇談会」を開催し、年度ごとにテーマを決めてコミュニケーションを図っています。

2017年の国内のベンダーサミットにおいては、2016年実施の「お取引先満足度調査」の結果報告、持続可能で責任ある調達の取り組みであるCDPサプライチェーンプログラム^{※1}への積極的な協力およびSedexへの加盟を依頼しました。また、2016年からお取引先表彰制度を開始しており、「品質」「価格」「納入」「情報提供」「経営・サステナビリティ」の観点で優秀なお取引先を表彰しました。

2017年は、(株)レスポンスアビリティの足立直樹氏に「経営課題としての持続可能な調達」と題し持続可能な調達に取り組む意義、今後企業に求められる取り組み等について講演していただきました。

ベンダーサミット出席会社数（単位：社）

	国内開催	海外開催	合計
2013年	184	151	335
2014年	183	233	416
2015年	214	285	499
2016年	246	279	525
2017年	245	258	503

CDPサプライチェーン

花王は、資源制約、生物多様性の劣化や地球温暖化などの環境問題、人権問題などを踏まえ、持続可能な開発におけるリスクを認識し、持続可能な原材料の調達に取り組んでいます。これらの取り組みは、サプライチェーン全体で管理することが重要であり、気候変動および水についてCDPサプライチェーンプログラム^{※1}に参加し、主要なサプライヤーに情報開示を依頼しています。2017年の回答率は気候変動が74%、水が65%でした。

また、森林資源に関わる項目はCDPフォレスト^{※2}に回答することを通じ、リスク評価を行なっています。

※1 CDPサプライチェーンプログラム

CDPとは、機関投資家の運営による、ロンドンに本部を置く非営利団体であり、気候変動、水、森林に関する情報開示を企業等に求める活動等を行なっている。サプライチェーンプログラムとは、メンバー企業が自らのサプライヤーに対し、気候変動・水に関わる情報開示をCDPプラットフォームを用いて求める取り組み。

※2 CDPフォレスト

CDPによる森林資源の管理・利用状況等の情報開示を企業に求める取り組み。

サプライヤーへの満足度を調査

花王は、公正・公平な調達活動が行なわれているかを確認するため、「お取引先満足度調査」を3年ごとに実施しています。直近では、2016年に調査を実施し、「発注先選定」「品質」「発注」「接客」「コミュニケーション」等についてお取引先より貴重なご意見をいただき、課題も確認されました。

購買部門は「コンプライアンス通報・相談窓口」の周知、生産部門との発注に関する意見交換および設問対象の明確化を実施します。

NGO・機関投資家との円卓会議

2017年9月19日、花王は、NGOの一般社団法人CSRレビューフォーラム[※]と機関投資家のりそな銀行アセットマネジメント部と共に、調達活動についての円卓会議を行いました。

これは花王にとってNGO・機関投資家と共に行なう初めての会議で、花王からは購買部門に加え、IRやサステナビリティの担当者が出席しました。調達活動における環境・社会両面からのさまざまな課題認識の共有と、課題解決に向けた花王の取り組みについて2時間にわたって話し合う、意義深いものとなりました。

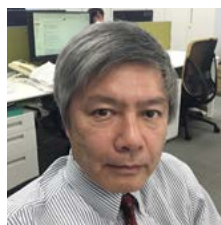


会議での活発な意見交換

[※] CSRレビューフォーラム

持続可能な社会に向けて、社会の最前線で課題解決に取り組む複数の市民組織（NGOや消費者団体等）とそこに所属する個人がアライアンスを組んで設立した民間の非営利組織

<http://www.csr-review.jp/>



一般社団法人
CSRレビューフォーラム
共同代表
山口 智彦氏

CSRレビューフォーラムと機関投資家であるりそな銀行は、NGO／NPOと機関投資家がチームを組んで企業と対話することでステークホルダー・エンゲージメントを深化させていこうと考え、議論を進めてきました。最初のテーマを「パーム油」とし、生産地における状況などを学ぶなか、取り組みがもっとも進んでいる花王からお話を伺おうと考えて三者の対話を実現しました。

花王の調達活動は高い目標を掲げており、それをまっすぐにマネジメント化されています。特にパーム油については、アブラヤシ農園から油脂化学工場での生産までの全体像を会議の中で深く理解することができました。ここでの一番の成果は、りそな銀行が機関投資家としてパーム油課題の深層を理解することにつながったことでした。

次に花王への期待をパーム油の調達に絞って述べさせていただきます。

2020年までに消費者向け製品に使うパーム油の全量を原産地追跡可能で、かつ社会・環境に配慮したもののみを購入すると決断されたことに深く敬意を表し

ます。一方、業務用パーム油に目を転じると調達コストが障壁となっているであろうことも想像でき、その状況を具体的な数値等を挙げて解説すれば消費者の理解を一步深めることができるのではないのでしょうか。花王はシャンプーや洗剤など日常生活で使用する商品を多く扱っており、広く消費者に直接訴える力を持っています。持続可能な調達を進めつつ、消費者への啓発活動を継続されることを期待します。

花王のアプローチ

「人」は会社にとって最大の資産です。社員一人ひとりが持つ無限の可能性を引き出し、仕事の達成や社会への貢献を通じて、個人と企業が共に成長する環境と風土づくりを推進しています。

社会的課題と花王が提供する価値

日本における重要な社会的課題である「働き方改革」を企業として推進するために、育児・看護・介護支援施策の拡充、女性の活躍推進、定年退職後のシニア世代の継続雇用と活躍の場の拡大、柔軟な働き方の推進、業務効率化と意識改革による長時間労働の削減等に取り組んでいます。

同時に、社員の健康は個人生活の基盤であるだけでなく、会社にとっても財産であり、成長の源泉でもあるという認識のもと、社員の自主的な健康づくりを奨励し、積極的に支援しています。

また、企業活動を通じて広く社会に貢献できる人財を育成するための施策をグローバルで強化・推進しています。そして、社員一人ひとりの多様な個性と能力を最大限に発揮できるよう、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)をグローバルで推進しています。

貢献するSDGs



方針

花王では、多様な社員それぞれが能力と個性を最大限に発揮して個の成果を追求することが、組織としての成果に結びつき、企業の総合力となっていくと考えており、そのような環境や風土づくりをめざしています。

そのため、こうした考えを「人財開発基本方針」として定めるとともに、「ありたき組織像」「求められる人財像」を掲げています。また、これらを実現するために、社員の意欲や組織の目標などに応じた能力開発の機会をさまざまな手法で提供し、ラインマネジメントを基本として、社員の成長を支援しています。

人財開発基本方針

花王グループが“よきモノづくり”を行ない永続的に発展するために、組織的な創造革新の活動によって、全体としての効果・効率性が常に向上することを目指します。

(効果・効率性の追求)

創造革新の源泉は、限りなく叡智を発揮したいという全社員の熱意にある、という考え方にに基づき、個々の尊厳が尊重され、自主性と多様性が活かされる環境をつくります。

(人間性の尊重)

社員一人ひとりが現場で思う存分叡智を発揮することが、花王グループの発展につながるよう、諸施策の改善に努め、創造革新の活動を通じて組織と個人の統合を図ります。

(統合への努力)

人財開発のビジョン

ありたき組織像

自由闊達な絶えざる革新の風土を継承し、透明性の高い役割責任体制のもとに花王ウェイに基づいた組織運営を行ないます。そして、常に変化に柔軟かつ機敏に対応する「生体機能的組織」の考え方にに基づき、グループ全社が一体的に運営される組織を目指します。

求められる人財像

1. 挑戦意欲を持ち続ける人財
Challenge & Change
2. 高い専門性を持つ人財
Professional Capabilities
3. グローバルな視点を持つ人財
Global Perspective
4. 協働により高い成果を生み出す人財
Communication & Collaboration
5. 倫理観に富む人財
Integrity

体制

「人財開発基本方針」に沿った活動をグループ全体で推進するために、グローバル共通のしくみを導入し、活用しています。たとえば、グローバル人財情報システムによる要員・人件費管理と人財情報の活用、社員意識調査「Find」による組織力の向上、グローバル共通な等級制度・評価制度・教育体系・報酬ポリシーによる人財マネジメント・育成の強化などです。

これらの活動は、花王のマトリックス運営のもと、国内外グループ各社の人財開発部門と連携をとりながら進めています。また、国内においては主要部門に人事機能を設置するとともに、現場の社員一人ひとりの育成とキャリア開発を担当するキャリア・コーディネーターを配置しています。

花王のアプローチ

一人ひとりの社員の無限の可能性を引き出すことが人財育成の最大の目的です。花王グループの多様な社員が、適性に応じたチャレンジングな仕事に挑戦し成長することが、花王のさらなる創造性の発揮へとつながります。

社会的課題と花王が提供する価値

2030年までに花王グループは、グローバルで存在感のある企業グループとなることをめざしており、そのキーワードは「変化とチャレンジ」です。生活者の気持ちに寄り添う企業として、社会やグループをとりまく環境の変化をとらえて対応し、グローバルに活躍できる人財をいかに育成していくかをテーマとしています。

貢献するSDGs



方針

ビジネスを強力に推進するとともに、花王グループの強みの源泉である行動・価値観を体現し、叡智を結集するリーダーを育成します。また、各組織において社員一人ひとりのキャリア開発を推進し、魅力ある育成機会を提供します。さらに、社員の能力・キャリア開発意欲を高め、会社がそれを支援し、意欲と能力ある人財をグループ全体から発掘・育成・登用し、その力を最大限に発揮する、この流れをグローバルに実現することをめざしています。

体制

花王 グローバル共通プログラム・部門専門プログラム

	マーケティング	販売	SCM	R&D	情報システム
SMP 職層	グローバルリーダーシップ開発プログラムII				
	海外トップマネジメント				
MP 職層	G3等級改定研修				Stage 3 IT総合研修
	グローバルリーダーシップ開発プログラムI	BLDP Advanced	SCリーダー 研修	専門塾 主幹・主席フォーラム	Stage 2 メソドロジー研修 (応用) アプリケーション 応用研修 テクノロジー 応用研修
LS 職層	マネージング・ヒューマン・パフォーマンス(MHPP)	MK Univ. (マスター)	BLDP Basic Sales		
	海外赴任者研修	MK Univ. (ベーシック)	Exchange Program	基礎科学塾	Stage 1 メソドロジー研修 (基礎) アプリケーション 基礎研修 テクノロジー 基礎研修
S 職層	ビジネススキル ファシリテーション、ネゴシエーション、 プロジェクトマネジメント	MK基礎 II	AC 研修	導入研修	
	花王ウェイ インテグリティ	MK基礎 I	フィールド セールス エクセレンス	フレッシュマン フォーラム	
	入社オリエンテーション				入社IT専門研修

SMP職層：シニアマネジメント/シニアプロフェッショナル職層

MP職層：マネジメント/プロフェッショナル職層

LS職層：リーディングスタッフ職層

S職層：スタッフ職層

中長期目標と実績

主な目標

1. 自ら学び、変化を先導することを促す研修プログラム

グローバルリーダーの育成

- ・グローバルビジネスを牽引するリーダー候補に対しては、世界的に著名なビジネススクールの協力のもと、集中的なトレーニングを実施します。経営スキルの向上を図るとともに、人的ネットワークの構築や花王の理念でもある“よきモノづくり”の体現、価値の伝承を進めます。

社員への多様な育成支援

- ・「花王ウェイ」や「インテグリティ」の浸透、ビジネススキルの習得に関しては、各拠点に社内講師を養成し、スピーディできめ細かい展開を行ないます。
- ・キャリアの節目における異業種交流の機会を拡充し、視野の拡大とネットワークの構築を通じて、知的創造活動への刺激を高めます。
- ・eラーニングやインターネットを使った語学学習等、新しい学習ツールも積極的に取り入れ、学びの「場」づくりを進めるとともに、社員自らが成長への努力を重ねることを積極的に支援します。
- ・日本において60歳以降の働き方を見据えたキャリア開発の重要性がより高まっていることを踏まえ、中高年の社員を対象としたライフプランセミナー等を実施します。

2. 公正かつ納得性の高い評価とキャリア開発支援

公正かつ納得性の高い評価

- ・社員の職務や役割、職責を明確にするとともに、一人ひとりの実績を公正に定期的に評価し、処遇・報酬に反映させるしくみをグローバルに運営します。
(2013年1月から日本、欧米、アジアの一部の関係会社の評価制度を標準化し、同じ基準・しくみで公正な評価を行なうためのインフラを整備し、本格稼働しました)

キャリア開発支援

- ・花王グループ全体での計画的な採用・配置・育成を実現するための総合的なキャリア開発計画、新たな雇用ポリシーを策定・実行します。
- ・所属会社や雇用形態にかかわらず、花王グループ全体での個別キャリア開発を推進し、各人が将来に向けた目標を持ってチャレンジングな課題に取り組む環境を創出します。
(2013年11月から能力・キャリア開発支援(SeEDS:Self Education & Development Scheme)を各国グループ各社に順次導入し、運用を進めています)

2017年の実績

「智創部」の新設

最も重要な資産である「人財」の開発・活性化をさらに強化するために、「キャリア開発部」の教育・研修機能とカウンセリング機能を独立し「智創部」としました。

「智創部」は、社員一人ひとりが「叡智」（誰もが本来持っている物事の本質を追求し、新しい価値を生み出す力）を発揮・結集し、組織的な「創造革新」を生み出すように、

- ①総合的な研修プログラムの充実（リーダーシップ開発、専門領域の深化、花王ウェイの伝承）
- ②「自ら学ぶ」風土の醸成と社外との知見の交流・融合の場づくり
- ③社員一人ひとりが能力を発揮していきいきと働くためのカウンセリング機能の充実を進めています。

これらを通じて、中期経営計画「K20」に向けて「自ら変わり、そして変化を先導する」人財の開発を推進します。

自ら学び、変化を先導することを促す研修プログラム

グローバルリーダーの育成

グループ各社から選抜されたメンバーが、より大きな視点から花王の経営課題を研究し経営幹部に提案する世界共通プログラムとして、「グローバルリーダーシップ開発プログラム」を実施しています。

2017年は37人（海外から17人、日本から20人）が参加しました。2016年からは、個々の課題意識に対応したビジネススクールの公開講座への参加や個人発表なども取り入れ、次世代を牽引するリーダー育成を強化しています。

さらに、世界各国でラインマネジメントを強化するため「マネージング・ヒューマン・パフォーマンス・プログラム」をグローバルに展開しています。

2017年は、日本では220人（男性166人、女性54人）が受講しました。海外各社でも2017年から改訂版プログラムで教育を再開しており、グループ全体で一層の連携と協働を進め、マネジメント強化に取り組んでいます。

それぞれのプログラムは、参加者からも高い評価を得ています。

社員への多様な育成支援

従来の45歳を対象とした「ライフキャリアデザインセミナー」、50代後半を対象とした「ライフプランセミナー」に加え、新たに50歳社員を対象とした「50歳キャリアセミナー」を2017年から実施（花王（株）から導入）しました。

社員1人当たり平均研修時間 2017年実績（連結）：
13.0時間

社員1人当たり教育訓練費（連結）

	2015年	2016年	2017年
教育訓練費	69,000円	66,000円	58,000円

花王のアプローチ

花王はダイバーシティから生まれる活力で社会に新しい価値をもたらしたいと考えています。そのために、社員一人ひとりの多様な個性・価値観を受け止め、全員が熱意と能力を最大限に発揮できる組織の実現をめざしています。

社会的課題と花王が提供する価値

ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の推進は、社員の創造性・革新性の発揮を後押しするとともに、組織のリスク対応力を高めると考えており、組織・人財開発の中期重点テーマの一つです。

貢献するSDGs



方針

社員が熱意と能力を最大限に発揮して活躍できる風土としくみを整えています。マネジメント層や同僚との円滑なコミュニケーションを通じて醸成された信頼関係を基盤に、安心して業務に打ち込める環境と、属性等にかかわらず、その力を発揮した人が報われる風土・環境づくりに取り組んでいます。

これらを通じて、組織と個人の成長の好循環をめざします。

体制

グループ全体の方針などについては、役員による人事委員会で議論します。また、日々のマネジメントにおいてD&I推進を浸透、定着させていくために、人財開発会議とD&I啓発活動会議の2つの会議体を通じて、広く情報共有と意見交換、議論を行なっています。

グループ会社・部門では、各組織の現状分析に基づいたD&I推進計画を立案・実行し、継続的なレベルアップをめざしています。

花王(株)の9事業場と主要関係会社6社の厚生委員会事務局責任者・担当者によるD&I啓発活動会議では、年に5回ある啓発月間に関する情報発信や、社員向けイベントの開催報告、最新トピックスに関する情報共有などを行なっています。

これらの会議間で、相互のトピックスを紹介することで重層的にD&Iを推進しています。

教育と浸透

D&Iの実践、浸透においては特にマネジャーが重要な役割を担うと考えており、国内各組織にて、マネジャーを対象としたダイバーシティ・マネジメントのトレーニングセッションを2016年から開始しました。2019年までにマネジャー全員が2回以上受講することをめざしています。

中長期目標と実績

国内では性別、障がい等の属性や育児・介護といった家族的責任の有無などによらず、社員が意欲を持って活躍しやすい環境整備と風土醸成に引き続き取り組みます。

これまでは各国・各社で取り組みを進めてきましたが、今後は海外を含めたグループ全体で一丸となって推進する体制を構築していきます。

こういった取り組みを通じて、属性などを越えた社員一人ひとりの個を尊重し、活かせる組織となることで、組織と個人の成長の好循環の実現をめざします。

2017年の実績

D&Iを花王グループ全体で一層、強化して推進するための体制構築に向けた検討を進めました。

社員数が多く、また課題の多い日本を最も注力して取り組むべき地域としながらも、組織の課題と文化が大きく異なる海外各社と一体となった取り組みについて、海外人事責任者と議論を行いました。

また、花王製品の販売を主務とする花王グループカスタマーマーケティング(株)(KCMK)では、活動の対象を営業職から店頭美容職に拡大し、女性活躍推進、キャリア支援、両立支援に取り組みました。

ステークホルダーとの協働

・2010年に国連機関UN Womenと国連グローバル・コンパクトによる女性の社会参画のための国際的なガイドライン「女性のエンパワメントのための指針」に署名しました。

・社会全体でのD&Iを推進していくために、行政やNPOなどの取り組み・研究会において事例紹介を行いました。

2017年の主な事例紹介

- ・東京都産業労働局「東京都 介護と仕事の両立支援サイト」
- ・第19回日本医療マネジメント学会学術総会
- ・東京労働局における「働き方改革」推進の取組
- ・独立行政法人国立女性教育会館主催「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」
- ・厚生労働省「仕事と育児の両立支援に係る総合的研究会」(2017年6月-2018年3月)に花王社員が企業実務をよく知るメンバーとして参加

・特例子会社花王ピオニー(株)では職場見学や特別支援学校生の職場訓練を受け入れることで、障がいのある人の就労を支援しています。また、障がい者の就労支援を行なう特定非営利活動法人と連携し、就労実習の場を茅場町本社内に設置しました。

具体的な取り組み

多様な人財の活躍支援

- ・2016年に実施した海外各国でのD&Iの現状と課題に関する調査結果をもとに、2017年は国内・海外でフォーカスする項目について、社内各関係者間で意見交換と議論を継続しました。
- ・花王(株)ではマネジャー向けのダイバーシティに関するトレーニング・セッション(基礎編)を35回開催しました(2017年受講者数1,781人)。また、未受講者を対象に、同内容をeラーニングで2018年に実施します。
- ・KCMKにおいてもマネジャー向けのダイバーシティに関するトレーニング・セッション(基礎編)を19回開催(2017年受講者数660人)。その他、店頭美容職のキャリア支援として、若手店頭美容職キャリアセミナーやリーダー候補育成セミナーを実施しました。
- ・シニア層が定年退職後も経験や専門性を活かして社内外で活躍・貢献できるように、新たな職務開発を行なうとともに、シニア職務相談窓口を設置しています。
- ・LGBTに関する社員の理解促進のため、日本では2015年から各事業場で講演会を開催しており、2017年の開催は1カ所(川崎事業場、68名参加)でした。これまでに5カ所で開催し、のべ300人が参加しました。国内グループ社員向けのニュースレターにおいては、当事者のインタビューの掲載に加えて、相談窓口の案内とALLY(アライ)※の募集開始を告知しました。

※ ALLY(アライ)
自身はLGBTではないが、LGBTを理解し、支援する人

花王グループ社員数(正社員)

	合計(人)	男性(人)	女性(人)	女性比率(%)
合計	33,560	16,970	16,590	49.4
日本	22,211	10,812	11,399	51.3
アジア・オセアニア(日本を除く)	7,191	3,957	3,234	45.0
欧米	4,158	2,201	1,957	47.1

花王(株)の状況(正社員)

	2015年	2016年	2017年
正社員(人)	6,970	7,195	7,332
男性	5,414	5,568	5,631
女性	1,556	1,627	1,701
女性社員比率(%)	22.3	22.6	23.2
女性管理職比率(%)	8.7	14.0	15.5
女性管理職数(人)	90	336	381
女性役員比率(%)	8.8	8.8	8.6
女性役員数(人)	3	3	3
平均年齢(歳)	41.7	41.2	41.0
男性	42.6	42.0	41.7
女性	38.6	38.5	38.6
平均勤続年数(年)	18.5	18.3	17.4
男性	19.8	19.4	18.4
女性	14.1	14.5	13.9
新卒採用者数(人)	264	283	269
男性	195	214	196
女性	69	69	73
離職率(%)	0.7	0.5	0.6

花王グループ女性社員の状況

		2015年	2016年	2017年
女性従業員				
グローバル	比率(%)	52.5	49.2	49.4
	人数(人)	17,340	16,332	16,590
日本	比率(%)	54.8	50.6	51.3
	人数(人)	12,120	11,130	11,399
女性管理職				
グローバル	比率(%)	27.5	25.4	25.1
	人数(人)	1,301	1,700	1,618
日本	比率(%)	10.4	13.1	14.6
	人数(人)	335	573	648
女性役員				
グローバル	比率(%)	6.5	6.7	7.7
	人数(人)	11	11	14
日本	比率(%)	3.1	4.1	4.5
	人数(人)	4	5	6

※ グループ一体運営の推進に伴い、2016年にマネジメントの定義を見直しました

※ 役員比率の対象は、花王グループ主要会社(2017年52社)

花王(株)再雇用者数

	2015年	2016年	2017年
定年退職者数*	125人	104人	93人
うち、再雇用者数	94人	86人	73人
再雇用者比率	75.2%	82.3%	78.5%

※ 定年退職者数 = 定年退職者 + 再雇用者数

障がいへの理解と雇用の促進

花王では障がいを多様性の一つと捉え、「障がいのあ
る人もない人も共に働き、共に生きる社会を目指して
障がいある社員も働きやすく、働きがいのある職場環
境をつくる」という基本方針を掲げています。

障がいを理解するための「障がい者雇用ガイドブック」
や聴覚障がい者のための「コミュニケーション支援ガ
イドライン」などを用意するとともに、個々の障がい特
性に応じた適切な合理的配慮ができるよう、相談窓口
として、全国の拠点に「障がい者サポーター」を配置し
ています。

一般職場での取り組み

- ・2月に「障がい者サポーターミーティング」を開催し、
サポーターのスキルアップと障がい者支援体制の強
化を図りました。
- ・9月を「障がい理解促進月間」と定め、厚生委員会での
情報共有やニュースレターの発行などの啓発活動
を行ないました。

特例子会社での取り組み

2005年10月、障がい者雇用促進を目的に特例子会社
花王ピオニー(株)を設立しました。

主に化粧品やパーソナルケア製品のセット・梱包を
行なうプロダクション部門と、2017年7月に新設した、

花王グループの会計モニター処理を行なうオフィスサ
ポート部門があります。

2018年1月現在、知的障がいのある社員20人を含む
総勢27人が働いています。



セット・梱包作業を行なう花王ピオニー(株)プロダクション部門社員

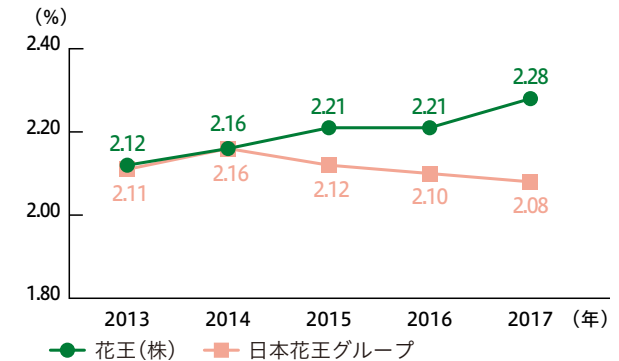


会計モニター処理を行なう花王ピオニー(株)オフィスサポート部門
(2017年7月新設)の社員

花王グループ 障がい者雇用率

日本花王グループの障がい者雇用率は2.08%となっ
ており、法定雇用率2.0%を上回っています(2017年6
月現在)。

花王グループ 障がい者雇用率※



2017年6月1日時点

※集計範囲

障がい者雇用義務のある国内関係会社12社(花王(株)、花王グループ
カスタマーマーケティング(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、
花王フィールドマーケティング(株)、花王プロフェッショナル・サー
ビス(株)、花王サニタリープロダクツ愛媛(株)、花王ロジスティクス
(株)、花王ビジネスアソシエ(株)、(株)カネボウ化粧品、(株)エキップ、
花王コスメプロダクツ小田原(株)、特例子会社花王ピオニー(株))

多様な働き方の実現

2017年の取り組み

多様な社員がさまざまな職場で活躍できる姿をめざし、より柔軟な働き方の実現に向けて、すでに導入してきた人事諸制度の活用促進と、交替勤務職場における多様な人財活躍の試行を開始しました。

現行の人事諸制度については「より活用できる風土醸成」が重要と考え、育児、看護・介護のテーマで講座を複数回開催しました。

2017年実績

- ・社員の家族の看護・介護のための特別休暇は、本人の私傷病のための特別休暇制度の中で使用を認めてきましたが、これを「看護・介護特別休暇制度」として独立・新設しました。(2017年1月～)
- ・看護・介護のための勤務時間短縮・時差出勤等の利用期間を延長しました。(2017年1月～)
- ・工場では、体力的負荷の大きい紙加工の生産ライン※において、女性でもシニアでも「誰でもオペレーションできるラインの実現」をめざし、設備の改善や作業方法の見直し等を進め、まずは女性オペレータによる運転を開始しました。
特に、酒田工場では女性みの交替勤務班を構成し、課題の抽出・対策を進めています。今後は、活躍の対象をシニア層まで拡大できるよう、検討を進めます。
- ・国内グループ会社社員を対象として、「ダイバーシティ時代の働き方を考える」セミナーを開催しました。14拠点をTV中継でつなぎ、マネジャーを含め300名を超える社員が参加しました。

※ 花王(株)の酒田工場・栃木工場、花王サニタリープロダクツ愛媛(株)

仕事と育児・介護の両立支援の主な取り組み

仕事と育児の両立支援

- F&M(Father&Mother) ミーティングの開催
(パパ・ママ社員向けの座談会やセミナーなど)
- 育児休職者復職前セミナー(タツノオシゴトセミナー)
※ パートナー同伴を推奨
- 企業内託児施設(メリーズガーデン)の設置
- 休職前・復職前面談
- 育児休職報告書
- eラーニング「仕事と育児の両立マネジメント」
(マネジャー向け)

仕事と介護の両立支援

- 介護セミナーの開催
- 介護ハンドブックの提供
- 社外介護相談窓口の設置

共通の取り組み

- 各種補助サービスの活用促進
- マネジャー研修・講習等におけるマネジャーの意識啓発
- 啓発ニュースレターの配信
- 仕事と家庭の両立支援ガイドブックの提供

多様な働き方のための主な就業制度(花王(株))

主な制度	内容	
	育児関連	看護・介護関連
休職	原則、子の1歳4月末日まで取得が可能 育児休職開始日からの5日については、有給扱い	最長1年間まで取得が可能 なお、取得可能期間内であれば、最大3回まで分割して取得が可能
短時間・時差勤務	子の小学校3年生修了まで取得可能 1日当たり2時間までの所定就業時間の短縮、もしくは所定就業時間の開始・終了時間の変更が可能	短時間・時差、週3日・半日勤務とあわせて最長3年間取得が可能、また3年間のうちに最大2回まで分割して取得が可能 1日当たり2時間までの所定就業時間の短縮、もしくは所定就業時間の開始・終了時間の変更が可能
週3日・半日勤務	原則、子の1歳4月末日までの間で会社が要請した場合に実施可能 週3日の勤務もしくは、週5日の半日勤務が可能	短時間・時差、週3日・半日勤務とあわせて最長3年間取得が可能、また3年間のうちに最大2回まで分割して取得が可能 週3日の勤務もしくは、週5日の半日勤務が可能
所定外労働の制限	小学校1年生の4月末日まで、時間外勤務・休日勤務・深夜勤務が制限および免除できる	2週間以上の看護・介護を要する家族を有する場合、必要な期間において、時間外勤務・休日勤務・深夜勤務が制限および免除できる
在宅勤務	育児のための半日勤務を行う場合、在宅勤務での実施を選択できる	看護・介護のための半日勤務を行う場合、在宅勤務での実施を選択できる
看護・介護特別休暇	家族の看護や介護の事由が発生した際に利用できる特別休暇(年間40日もしくは20日付与)	家族の看護や介護の事由が発生した際に利用できる特別休暇(年間40日もしくは20日付与) 取得の際には、終日・半日・時間の単位での利用が可能

主な制度	内容
	共通
フレックスタイム制	事由は問わず、一部交替・シフト勤務者を除き全社員が適用 フレキシブルタイム(7:00~20:00)を設けており、この範囲内で始業・終業を設定 なお、コアタイムは設定していない
時間単位休暇	年間5日分を上限に年次有給休暇の時間単位での取得が可能 利用に際しての事由は問わない
海外赴任同行休職	配偶者の海外赴任時に赴任先への帯同に際し、最短1年間から最長2年間の間で取得が可能
私傷病特別休暇	自身の私傷病の際に利用できる特別休暇(年間40日もしくは20日付与) 原則、8日以上休業を要する場合に利用が可能
ボランティア特別休暇	会社が認めたボランティアに参加する際に利用できる特別休暇(年間5日付与) 1日もしくは半日の単位での利用が可能
リフレッシュ休暇	勤続10・20・30・40年に到達した際に付与される(年間5日付与)

就業制度の利用状況(花王(株))

就業制度	2017年	単位
所定外労働時間平均(月)	19.5	時間
年次有給休暇 平均利用日数	13.7	日
年次有給休暇 平均取得率	72.8	%
時間単位休暇取得実績 平均取得時間	1.73	時間
育児休職取得者数(男性)	101	人
育児休職取得者数(女性)	90	人
育児による時短・時差勤務取得者(男性)	11	人
育児による時短・時差勤務取得者(女性)	85	人
看護・介護休職取得者(男性)	2	人
看護・介護休職取得者(女性)	2	人
看護・介護による時短・時差勤務取得者(男性)	1	人
看護・介護による時短・時差勤務取得者(女性)	0	人
海外赴任同行休職取得者(男性)	0	人
海外赴任同行休職取得者(女性)	6	人
ボランティア特別休暇取得実績 平均取得日数	0.9	日
ボランティア特別休暇取得実績 取得のべ人数	7	人

「プラチナくるみん」認定を取得

花王(株)は、優良な子育てサポート企業として、次世代育成支援対策推進法に基づき、2016年5月に「プラチナくるみん」認定を取得しました。



Topic

花王サニタリープロダクツ愛媛(株)が「ベストプラクティス企業」として
愛媛労働局長の職場訪問を受けました

2017年11月8日、愛媛労働局による「過重労働解消キャンペーン」の一環として、花王サニタリープロダクツ愛媛(株)への職場訪問が実施されました。これは、都道府県労働局長が、長時間労働の削減など「働き方改革」に積極的に取り組んでいる企業を訪問し、その具体的な取り組み内容を広く紹介することにより、過重労働解消につなげたいと実施されているものです。

職場訪問では、長時間労働の削減に向けた働き方改革、健康づくり活動について担当者から報告しました。さらに、ワーク・ライフ・バランスなどについての意見交換を実施しました。

職場での目標の掲示、退社時間の管理などの様子も実際に見ていただき、活動を知ってもらうよい機会となりました。

花王サニタリープロダクツ愛媛(株)での 具体的な活動例

コミュニケーション

- ・働き方改革に向けての代表者の思いをメッセージとして社員に発信
- ・「お互いに理解し、影響し合うことで『よき仲間づくり』につなげることを目的とした“クロストークミーティング”による、若手と管理職との意見交換を実施

労働時間短縮のアクション

- ・職場グループごとに労働時間の数値目標を宣言し、達成に向けて管理を実施
- ・各自のスケジュールに合わせた“残業しない日”の設定と確実な実施
- ・会議時間の短縮、頻度や出席者の見直し、“NO会議時間帯”の設定と確実な実施



愛媛労働局長に愛媛工場の活動を報告



実際に職場で掲示している行動目標をご紹介します

花王のアプローチ

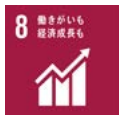
花王では、良好な社員関係は会社の最も重要な企業文化の一つという認識のもと、さまざまな社員との対話の機会を確保するとともに、定期的な社員意識調査を実施し、よりよい組織と職場環境づくりに取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

花王では権威主義を排し、経営幹部と社員が共に同じ目標に向かって努力するという企業文化を大切にしています。

会社の現況・方針や人財開発施策に関しては、社員代表と定期的に共有・議論の場を持ち、良好な労使関係の構築に努めています。

貢献するSDGs



方針

経営層と社員との相互理解を図り、グループ全体の一体感の醸成と、社員のモチベーションの向上をねらいとして、対話の機会を設けています。経営層から社員へ会社の現況と方針・人財開発の重点課題を説明し、また社員からの質問にも答える意見交換の場を設けることで、経営層と社員の相互理解を促進します。また、積極的な意見交換を行ない、本質的な社員の声を把握し、今後の人財開発施策や職場環境改善等に活かします。

よりよい組織と職場環境をつくるため、定期的に社員意識調査を実施しています。組織の状態を数値データで可視化することで各組織の強みや弱みを確認し、結果の分析に基づき課題を見つけ、改善方法を議論して改善計画を立案し実行するという、組織・職場改善のためのRPDCAサイクル※を徹底しています。

※ RPDCAサイクル

業務改善のPDCAサイクルにR(Research)「現状分析」を加え、変化する状況への対応力を高めたもの

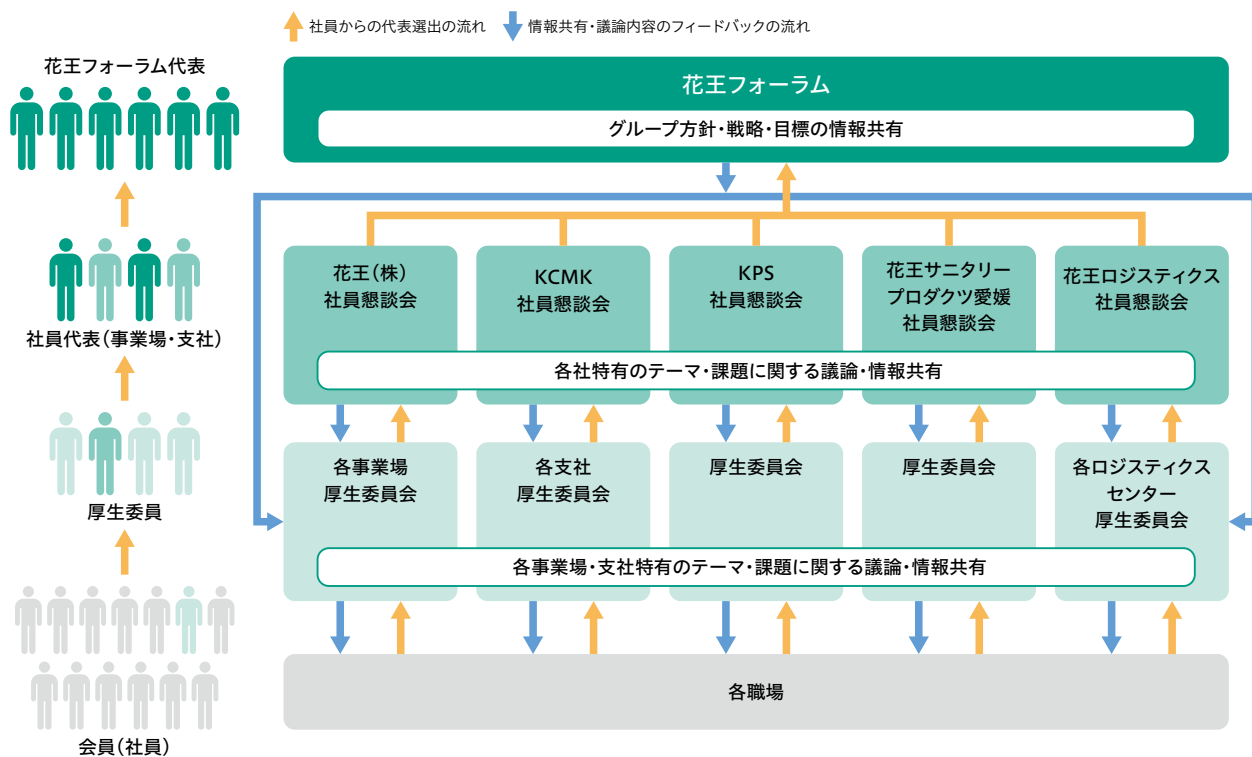
体制

定期的な社員との対話の場として、各事業場・支社における厚生委員会、各社における社員懇談会、花王グループ全体の花王フォーラムを設けています。

花王フォーラムには、花王(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)(KCMK)、花王カスタマーマーケティング(株)(CMK)、花王プロフェッショナル・サービス(株)(KPS)、花王ロジスティクス(株)、花王サニタリープロダクツ愛媛(株)の社員代表が参加します。

厚生委員会は月1回実施、社員懇談会・花王フォーラムは年2回実施しています。それぞれの会で議論・共有した内容は社員代表や厚生委員を通じて、社員への継続的・相互的な情報共有を実施しています。

社員の対話に関する体制



中長期目標と実績

社員意識調査の定期的な実施と組織改善に向けたRPDCAサイクルの強化・徹底

2017年の実績

- 2016年に実施した社員意識調査(社員の声・意識調査「Find」)の結果をもとに策定したアクションプランを推進しました。
- 2017年1月、7月に花王グループ各社社員懇談会、花王フォーラムを実施。2017年5月には欧州地域の従業員代表19人が参加し、Kao European Forumを実施しました。

花王フォーラムでは花王(株)15人、KCMK10人、KPS2人、花王サニタリープロダクツ愛媛1人、花王ロジスティクス1人の計29人の社員代表が参加。社員代表より中期経営戦略、各事業の方向性、商品開発・販売施策の展開、働き方改革等について質問が寄せられました。社員代表からは、「グループの一員としての意識が高まった」「方向性や考え方を知ることができ今後の指針となる」といった多数の意見が寄せられました。

具体的な取り組み

社員の声・意識調査「Find」の実施とアクションプラン策定

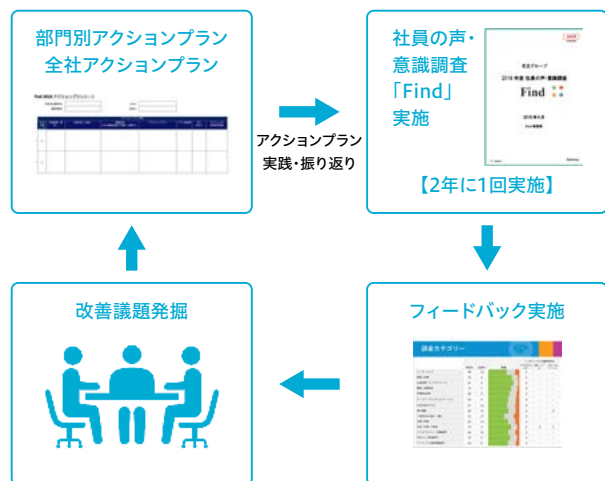
社員の声・意識調査「Find」を2年に一度、定期的を実施しており、1年目は調査実施、結果分析、およびアクションプラン策定を行ない、2年目はアクションプランを実行、その取り組みの結果を翌年の調査で確認するというRPDCAサイクルを回しています。

2017年は、2016年に実施した「Find」の調査結果を基に策定したアクションプランを、全社一丸となって推進しました。花王グループ全体のアクションプラン「K20達成に向けて、一人ひとりが変化を起こし、会社と社員が共にチャレンジしていく風土を強化する」を基本の考え方とし、各社・各部門の固有の課題を踏まえ、現場での議論を経て作成されたアクションプランに対

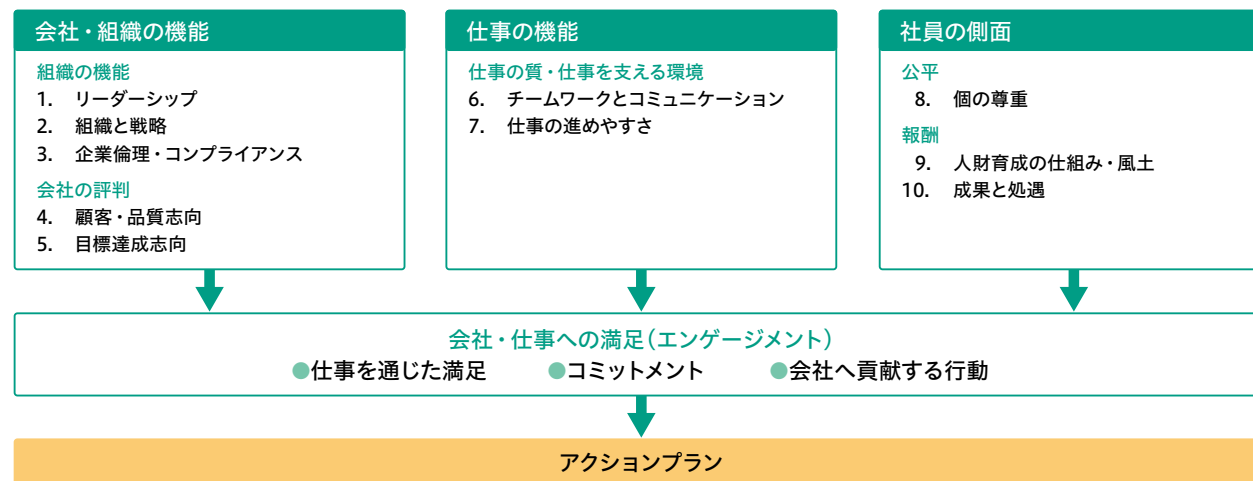
して全社員が当事者意識を持って取り組みました。アクションプランが確実に実行されるよう、進捗状況を会社と社員双方が定期的に確認しました。

2018年は第9回の調査を実施する予定です。これまで以上にアクションプランの策定と実行に注力し、花王グループの組織力向上に向けて全社員で取り組んでいきます。

組織力向上のRPDCA



「Find」の調査項目



花王のアプローチ

社員が公私共に充実した日々を過ごすベースとなるのは「健康」であり、健康な社員と家族があって初めて事業が発展し、社会に貢献できるものと考えています。

2008年に「花王グループ健康宣言」を社内外に発信し、「人財」活用のベースとなる健康支援、健康づくりを積極的に推進し、「健康経営」に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

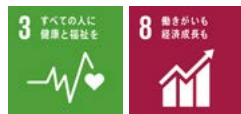
花王では、会社と健康保険組合が協働で社員と家族の健康支援に取り組むことで、健康な社員や家族を増やし、元気で活力ある職場を通して、よりよい企業活動を行なうことをめざしています。

また、生活習慣改善の奨励、積極的な保健指導を行なう等の予防的な取り組みにより、医療費の増加を抑制する努力を継続しています。

快適職場推進の観点から、メリハリのある働き方の推進による長時間労働の抑制、管理者向けのメンタルヘルス研修等に注力しています。

さらに、花王社員の健康づくりに活用しているプログラムは、社外にもサービス提供を行なっており、地域や職場の健康づくりに利用されています。花王での取り組みが、社会・地域へ波及し社会全体の健康寿命の延伸につながることを願っています。

貢献するSDGs



方針

いきいきとすこやかな毎日を
花王グループ健康宣言

私たちは、日々いきいきと健康づくりに取り組み、すこやかで心豊かな生活の実現をはかるとともに、元気で活力ある職場を通し、お客様と共に感動する会社をめざします。

健康意識(ヘルスリテラシー)の高い社員づくりをめざして

花王では「ヘルスリテラシーの高い社員を増やす」ため、健康づくり活動の見える化を進め、PDCAサイクルを回しながら社員の健康度を上げていく「健康経営」に取り組んでいます。

花王の考えるヘルスリテラシーの高い社員とは、以下の通りです。

1. 健康診断の結果を見て自分の生活習慣を見直し改善を図る社員
2. 産業医だけでなく、必要に応じて健康データを見てアドバイスをもらえる医師を持つ社員
3. 自分の心の状況を確認し、必要に応じて相談できる人を持つ社員

「健康づくり」5つの取り組み

会社として最低限行なうべき「健康管理」のみならず、社員が自ら健康を維持増進することを「健康づくり」と呼び、5つの取り組みを中心に実施しています。

1. 生活習慣病
2. メンタルヘルス
3. 禁煙
4. がん
5. 女性の健康

体制

健康づくりマネジメントシステムの「見える化」

「見える化」の取り組みとしては、2009年から前年の健康データ（問診、健診、就業、疾病等）を個人が特定できない形で統計的にまとめて全国18の健康相談室に提供しています。

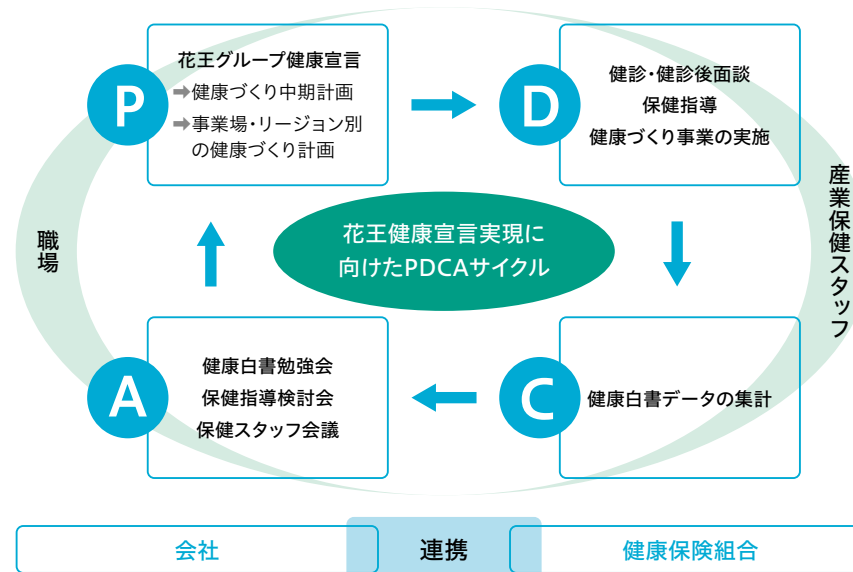
各健康相談室では、担当エリアの健康データをもとに、保健事業計画を立案・実施しています。

担当エリアの人事総務担当者と産業看護職が共に各種健康データを分析し対策立案を学ぶ健康白書勉強会は2009年から毎年開催しています。

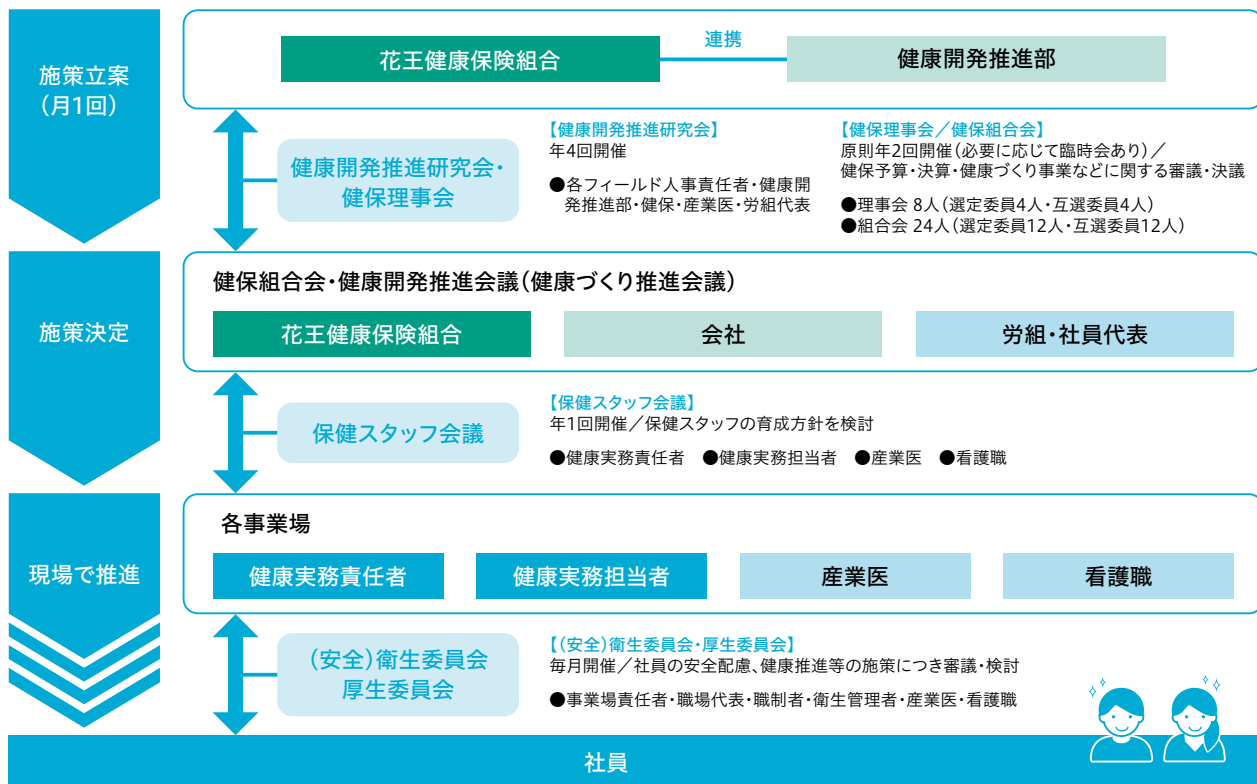
健康づくり推進体制の「組織化」

健康づくり施策の立案は、会社と健康保険組合が一体となっていない、月に一度、定期的なミーティングで議論しています。主要施策については、社員代表も交えた健保組合会議員等やワーキンググループで検討したうえで、全社の健康づくり推進会議で施策を決定します。推進施策は各事業場・支社の「健康実務責任者」「健康実務担当者」が、産業医・看護職と共に取り組んでいます。

健康づくりマネジメントシステム



健康づくり推進体制



教育と浸透

社員に向けて

- ・「花王グループ健康宣言」を全社員に配布するとともに、社長より説示等で「花王グループの成長には健康であることがベースであり、花王グループ全体として健康経営を推進する」「社長自らも健康目標を立てて実行する。社員一人ひとりも今年の健康目標を立てて、実行してほしい」等、折に触れ、健康経営に関し言及し、浸透を図っています。
- ・「健康づくり」の5つの取り組みを中心に社内さまざまなキャンペーン、セミナー、各種健康増進活動を展開しています。

全社健康推進活動展開

活動内容	2017年実績
健康宣言	15,704人 (うち新規445人)参加
春のウォーキングキャンペーン	4,590人参加(家族含む)
禁煙マラソンキャンペーン	273人参加
機関紙やポスター等による健康情報の提供	年2回約28,169人対象

各事業所での健康推進活動展開

(イベント型/セミナー型/キャンペーン型を企画)

活動内容	2017年実績
生活習慣病関連:運動・栄養セミナー、体力測定、健康フェア、産業医講話等	136回開催、 のべ16,480人参加
女性の健康:女性セミナー、更年期セミナー、30歳節目研修、食改善セミナー	19回開催、 のべ2,863人参加
メンタルヘルス:メンタルヘルス研修、BA(美容販売員)・新入社員・昇格者セミナーにおけるメンタルヘルス研修	11回開催、 のべ1,769人参加

保健スタッフの育成

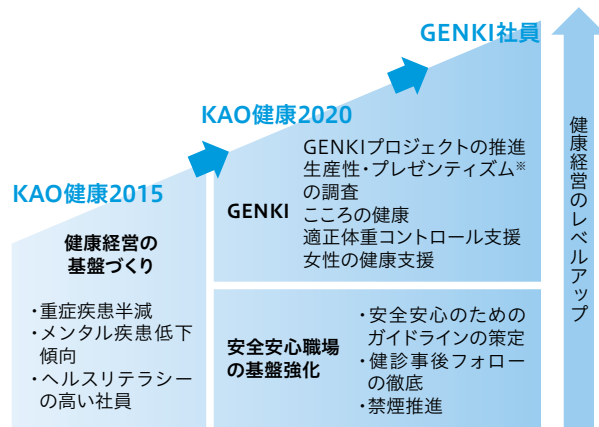
- ・年に一度、健康実務責任者・担当者と産業医・看護職が集まる「保健スタッフ会議」を開催し、方針に対する意思統一と情報交換を図ります。
- ・健康データの見方や産業保健計画の立案方法を学ぶ「健康白書勉強会」、看護職の保健指導力向上を目的とした「保健指導検討会」等を実施しています。

中長期目標と実績

KAO 健康2020

2017年、花王は健康に関する中期計画「KAO 健康2020」を策定しました。健康経営のさらなるレベルアップ、「GENKI 社員」の育成をめざします。

KAO健康2020



変化を先導する元気な社員づくりと安全安心職場の基盤強化で、健康経営のさらなるレベルアップをめざす

※ プレゼンティズム
何らかの疾患や症状を抱えながら出勤し、業務遂行能力や労働生産性が低下している状態

2017年の実績

社員の健康づくり推進状況

項目	2017年実績
定期健診受診率	100%
健診有所見者の再検査受診率	84%
朝食を週3回以上食べる社員	24.3%
運動を週1回以上する社員	42.4%
睡眠で十分な休息がとれている社員	64.0%
たばこを吸わない社員	75.8%
メタボリックシンドローム該当者予備軍	男性30.9%、女性6.4% (2016年 男性31%、女性6%)
特定保健指導対象者	男性19.1%、女性6.9% (2016年 男性19.0%、女性6.9%)
特定保健指導実施率	60.5%(2016年)

ステークホルダーとの協働

健康サービスの社会・地域への波及

花王で開発した効果的な健康サービスを外部の職域や地域にも提供し、メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)やロコモティブシンドローム(運動器症候群)などの社会的健康課題の予防に役立てていただいています。

たとえば、内臓脂肪を測り生活習慣改善への気づきを提供するサービスを、地域・職域を通じてご提供しています。2017年はのべ約100カ所、13,000人の方にご利用いただきました。

- ・内臓脂肪みえる化ステーション(日本肥満症予防協会と連携した内臓脂肪測定会):
社外27回 約5,600人参加
- ・生活習慣測定会:
社外55カ所、社内25カ所、約7,100人参加

また、しっかり食べて内臓脂肪をためない食事法「スマート和食®」の普及にも取り組んでいます。

- ・保健師・栄養士など専門職向けの講習会:
社外5回130人参加
- ・社員食堂でのスマート和食®昼食の提供:
社内8カ所、社外2カ所

身体活動とコミュニケーションの向上につながるプログラムでは、花王オリジナルの歩行計「ホコタッチ」の配布や、歩行の「質」を詳細に分析する「歩行基礎力測定会」を実施しています。

- ・ホコタッチ:
契約先13カ所、スポット数260カ所(約14,000人参加)
- ・歩行基礎力測定会(社内2回、約120人参加)

他企業健保との情報交換

他企業健保との情報交換としては、一般社団法人保険者機能を推進する会主催の会議・研究会にて、参加健保間での情報交換を実施し、各健保の抱える課題の抽出、検討、改善事例の紹介などの意見交換を、参加健保間で行なっています。その成果は、年1回の保険者機能推進全国大会において発表・報告しています。

健康管理支援ツールWeb-QUPiO®利用者の健康度改善状況

Web-QUPiO利用の有無(他社・花王を含む)で肥満度の変化を比較したところ、体重や生活習慣改善の取り組みなどを記録している利用者は、未ログイン者よりも優位に肥満度の減少が見られ、特にBMI \geq 25(肥満群)ではその差が顕著に表れています。

※ QUPiO
100万人分に及ぶ経年の健診データの集積と、東京大学との共同研究で得られた知見をもとに、健康増進・生活習慣病予防をサポートするためのプログラム。

具体的な取り組み

GENKIプロジェクトの推進

中期経営計画「K20」推進プロジェクトの一つとして「社員と家族の健康維持」プロジェクト(通称「GENKIプロジェクト」)を開始しました。花王グループのヘルシアの知見や技術・製品を健康ソリューションとして社員やその家族に提供しています。

イベント活動

スマート和食*

「スマート和食*」は、花王が研究した内臓脂肪をためにくい食事法です。食事の量ではなく、①たんぱく質/脂質の比、②食物繊維/糖質の比、③オメガ3/脂質の比という3つのポイント(質)にこだわることで、ごはんを楽しくしっかり食べながら、内臓脂肪がたまりにくい食事ができるというものです。

- ・「スマート和食*」を国内7事業場の食堂でお昼ご飯のメニューとして提供
- ・スマート和食*マスター講座を産業医・看護職が受講。37名がスマート和食*マスターに。今後社員向けの保健指導や健康教育に活用
- ・冊子「スマート和食*」を1,083名に提供。社員にもスマート和食*メソッドを知ってもらおう活動を実施



「スマート和食*」を提供している社員食堂

生活習慣測定会

自分の内臓脂肪面積を知り、今後の生活習慣改善に役立てています。

- ・国内22事業場1,108名が生活習慣測定会に参加

歩行測定会・ホコタッチ

歩き方を分析して「歩行年齢」や将来の「生活機能リスク」を知ることができる歩行測定会や、日々の生活習慣改善を促す花王オリジナルの歩行計「ホコタッチ」の貸し出しを行なっています。

- ・国内4事業場で歩行測定会を実施。890名が歩行測定に参加
- ・ホコタッチを30事業場4,135名に貸し出し。継続利用者は2,773名で、うち42%が歩数も歩行スピードも多いAランクをマークした

ヘルシアを用いた健康イベント

国内事業場で運動や健康にまつわるイベント参加を推奨しています。イベント参加者にはヘルシアを1本進呈しています。

- ・70事業場、70イベントで6,699名が参加

キャンペーン・広報活動

健康的な職場風土づくりのため、健康にまつわる全社キャンペーンを推進しています。

減量チャレンジ

2月1日～3月14日の42日間で2kgの減量に取り組むキャンペーン(BMI19未満対象外)です。

- ・1,702名参加(参加率7.6%)、マイナス2kg達成者は506名(29.7%)
- ・キャンペーンと同時に冊子「スマート和食*」を希望者872名に配布。スマート和食*生活の実践推奨

ヘルシアウォーキングチャレンジ

4月1日～6月30日までの91日間、1日1本のヘルシアを飲みながらウォーキングを実践するキャンペーンです。

- ・3,593名参加(参加率13.2%)、体重減少者29.5%、歩くことが習慣化した者84.5%

あなたの減量チャレンジ

(2016年の特定保健指導対象者限定)

健診2カ月前から42日間の減量に取り組むキャンペーンです。

- ・計5回実施、439名参加、減量効果のあった者59名

女性の健康支援

女性特有の疾患の予防や、悩みを相談できるプログラムを用意しています。

- ・「SUKOYAKA Women's News」を10月に全女性従業員に向け配信
- ・女性の健康相談窓口を開設
- ・不定愁訴対策として健康相談室で症状に応じたヘルスケア関連製品を提供

生産性・プレゼンティズム調査

- ・社員のパフォーマンス発揮度とプレゼンティズム要因調査を実施。
- 生産性の発揮を阻害するプレゼンティズム要因を追求し、対応策を検討する。

メンタルヘルスケア(こころの健康)

より予防的なメンタルヘルス対策推進のため、ストレスチェックを実施し、事後フォローや面談勧奨に努めています。

また、ストレスチェックの集団分析を踏まえた職場環境改善の取り組みにも着手しました。

複数の相談窓口(外部EAP(従業員支援プログラム)、社内カウンセラー、各事業場・支社の健康相談室等)により、さまざまな相談に対応しています。管理者向けやセルフケア等の研修も計画的に実施しています。

全社メンタルヘルスケア活動展開

項目	2017年実績
ストレスチェック	97.4%が受診
高ストレス者率	0.9%減少
ストレスチェック集団分析指標見方研修	3回開催
管理者向け研修	16回開催
セルフケア研修	7回開催
外部EAPの利用率(件数/対象社員)	5.6%
社内カウンセラーによるカウンセリング(キャリア面談中心)	11,008人

安全安心職場の基盤強化

健康経営の基盤を支える安全安心職場を実現するための取り組みを推進しています。

禁煙推進

2016年5月に発信された花王グループ「禁煙への取り組み」方針に基づき、2018年1月から就業時間内禁煙を推進しています。

- ・社員の声も取り入れて就業時間内禁煙を実現するため、各事業場で分科会を開催
- ・就業時間内禁煙に向けた講演会を開催
- ・花王グループ禁煙マラソンを2017年1月と5月に実施。計273人参加(うち禁煙達成者114人)(参加者前年比112%増)
- ・花王健康保険組合より禁煙達成者への禁煙治療費用補助を47人に対して実施
- ・イントラネットで禁煙動画5回配信
- ・禁煙ポスター8種類を喫煙所に掲示
- ・各事業場にて禁煙相談会を開催



就業時間内禁煙告知ポスター

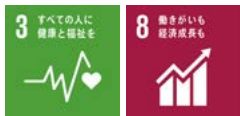
花王のアプローチ

従業員が安心して働くことができる職場環境を整備するため、労働安全衛生活動に関する基本的事項を定めています。また、従業員の安全・健康を確保する活動を行なっています。

社会的課題と花王が提供する価値

労働災害防止や健康増進が叫ばれている中で、花王では、花王レスポンシブル・ケア(RC)方針に「労働安全衛生」の活動方針を定め、作業・機械・化学物質のリスクアセスメント活動、健康診断の確実な実施とフォロー、メンタルヘルス対策に注力して活動し、従業員の安全・健康の確保に努めます。

貢献するSDGs



方針

花王は「労働安全衛生」の活動方針を、花王レスポンシブル・ケア(RC)方針にて「労働災害の撲滅、潜在的危険性の低減を図るとともに、快適な職場環境の形成と従業員の健康増進に努める」と明確に定めています。事業活動に伴う事故や災害から社員を守り、安全で安定した操業を維持するため、事故・災害の発生状況や原因

を把握・分析し、分析内容はグループ全体で共有し、再発防止につなげています。



→花王レスポンシブル・ケア方針
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html>

体制

花王レスポンシブル・ケア方針および推進体制や活動については、下記のページに掲載しています。



→P184「ガバナンス>レスポンシブル・ケア活動」

教育と浸透

各事業場で社員・派遣社員を対象に労働安全衛生に関する教育計画を立て、実施しています。入社時・配転時の配転先での安全衛生教育は必ず行なっています。また、特別教育の必要な業務をリストアップし、必要な教育を実施しています。

教育を行なうことで、職場での安全衛生に関する情報を共有し、安全衛生の目標に向けて活動することができます。

さらに毎年、社長からの安全メッセージと安全ポスターを発行し、安全意識の向上を図っています。



→P171「コーポレート・カルチャー>保安防災/教育と浸透」

ステークホルダーとの協働

生産・研究の事業場や物流拠点では、協力会社の社員の安全も確保するため、協力会社とともに安全や防災行事を行なっています。また、毎月、協力会社との間で、花王グループ内の労働災害事故事例とその対策などの安全に関する情報を共有し、協働で安全活動を推進しています。

また、花王ロジスティクス部門でも毎月、拠点の配送委託会社との間で安全・品質の会議を開催しています。さらに、毎年全国の配送委託会社が参加する情報交換会を開催し、交通事故撲滅活動にご協力いただいています。

中長期目標と実績

主な目標

花王は2020年にグローバルでトップレベルの安全衛生を満す企業になることをめざしています。

社員、協力会社共に、死亡・機能損失災害「ゼロ人」、休業度数率「0.10以下」、業務上交通事故については、過失100%人身事故件数「ゼロ件」を2020年目標としています。

2017年の目標と実績

「労働災害の撲滅」「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」の2つの視点から活動を推進しました。

具体的には「労働災害の撲滅」として、既存設備に対する作業・機械のリスクアセスメントの推進、ヒヤリハット提案による改善の推進、新設設備の稼動前リスクアセスメントと安全検収、設備安全対策とルールの周知・遵守による設備災害の防止、階段などでの転倒転落

防止、業務上の交通事故の防止などに注力しました。

「快適な職場環境の形成と従業員の健康増進」としては、作業環境管理強化、健康診断の確実な実施とフォロー、健康促進の活動、ストレスチェック、化学物質のリスクアセスメントを推進しました。

また、各事業場で定期的に行なう安全衛生委員会で、活動の予定や実績を報告し、従業員に周知しています。

2017年 目標と実績(花王グループ)

項目	指標	対象	2015年	2016年	2017年		
			実績	実績	目標	実績	
労働災害	死亡、機能損失災害※1 (人)	社員 + 派遣社員(花王グループ)	0	0	ゼロ	1	
		内訳	日本	0	0	—	1
			アジア	0	0	—	0
			米州	0	0	—	0
			欧州	0	0	—	0
		協力会社(花王グループ)		0	0	ゼロ	0
		内訳	日本	0	0	—	0
			アジア	0	0	—	0
			米州	0	0	—	0
			欧州	0	0	—	0
	休業度数率※2	社員 + 派遣社員(花王グループ) <input checked="" type="checkbox"/>		0.61	0.67	0.26以下	0.55
		内訳	日本	0.30	0.47	—	0.36
			アジア	1.10	0.31	—	0.34
			米州	3.61	3.20	—	3.57
			欧州	2.53	4.12	—	2.79
		参考:日本化学工業協会加盟会社 社員 + 派遣社員		0.29	0.35	—	—
協力会社(花王グループ) <input checked="" type="checkbox"/>		0.82	0.56	0.26以下	0.41		
内訳		日本	0.40	0.65	—	0.55	
	アジア	1.12	0.13	—	0.10		
	米州	0.00	0.00	—	0.00		
	欧州	4.30	5.81	—	4.21		
参考:日本化学工業協会加盟会社 協力会社		0.50	0.54	—	—		

※1 機能損失災害: 負傷が治った時に障がい(障害等級5級以上)が残る災害

※2 休業度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

2017年 目標と実績(花王グループ)

項目	指標	対象	2015年	2016年	2017年		
			実績	実績	目標	実績	
労働災害	全災害度数率 ^{※3}	社員+派遣社員(花王グループ)	2.03	1.96	1.34以下	1.87	
		内訳	日本	1.63	1.93	—	1.70
			アジア	1.69	0.80	—	1.02
			米州	7.23	4.79	—	5.95
			欧州	7.59	6.33	—	6.15
		協会会社(花王グループ)	2.18	1.32	0.81以下	1.18	
		内訳	日本	2.09	1.49	—	1.18
			アジア	2.23	0.77	—	0.71
			米州	0.00	0.00	—	0.00
			欧州	4.30	7.75	—	12.62
	強度率 ^{※4}	社員+派遣社員(花王グループ)	0.01	0.02	—	0.10	
		内訳	日本	0.01	0.01	—	0.13
			アジア	0.02	0.01	—	0.01
			米州	0.09	0.10	—	0.08
			欧州	0.02	0.06	—	0.04
		参考:日本化学工業協会加盟会社 社員+派遣社員	0.01	0.01	—	—	
		協会会社(花王グループ)	0.01	0.03	—	0.01	
		内訳	日本	0.01	0.05	—	0.02
アジア	0.01		0.01	—	0.00		
米州	0.00		0.00	—	0.00		
欧州	0.10		0.05	—	0.06		
参考:日本化学工業協会加盟会社 協会会社	0.14	0.10	—	—			
交通事故	過失100%人身事故(件)	販売・配送(日本)	14	24	0件	11	
	過失0%以外百台率 ^{※5}		7.75	7.10	5.5以下	7.64	

※3 全災害度数率:100万のべ実労働時間当たりの労働災害によるすべての被災者数(不休業災害を含む)

※4 強度率:損失日数/のべ実労働時間×1000

※5 過失0%以外百台率:過失0%以外の交通事故件数(件)/保有車両台数(台)×100

2018年の目標

2018年の目標は、花王グループの目標のみとし、事故・災害の発生防止に努めます。なお、交通事故のうち過失0%以外百台率についての目標は海外の状況を確認後、設定します。

2018年の目標(花王グループ)

項目	対象	指標	2018年目標
労働災害	社員・派遣社員	死亡、機能損失災害 ^{※1} (人)	ゼロ
		休業度数率 ^{※2}	0.20以下
		全災害度数率 ^{※3}	1.08以下
	協会会社社員	死亡、機能損失災害 ^{※1} (人)	ゼロ
		休業度数率 ^{※2}	0.20以下
交通事故	販売・配送	全災害度数率 ^{※3}	0.74以下
		過失100%人身事故(件)	ゼロ
		過失0%以外百台率 ^{※4}	—

※1 機能損失災害: 負傷が治った時に障がい(障害等級5級以上)が残る災害

※2 休業度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数(休業1日以上および体の一部または機能を失ったもの)

※3 全災害度数率: 100万のべ実労働時間当たりの労働災害によるすべての被災者数(不休業災害を含む)

※4 過失0%以外百台率: 過失0%以外の交通事故件数(件)/保有車両台数(台)×100

具体的な取り組み

労働災害発生状況

2017年の社員・派遣社員および協力会社の労働災害による死亡が1人(派遣社員)発生しました。

生産工場での原料受入作業時、運転手と作業者との連絡・確認不足によるトレーラーの車輪への巻き込まれによる事故です。このような重篤災害の再発を防ぐため、作業および作業マニュアルの見直しと教育および管理者の現場パトロール強化を実施しました。

社員・派遣社員の労働災害による被災者数は160人で、そのうち休業被災者数は47人(死亡1名含む)でした。

災害の主な要因は、不注意や確認不足による「転倒・転落」53人、次いで「切れこすれ」によるものが20人、「動作反動」によるものが19人でした。「転倒・転落」災害が最も多いことから、転倒・転落災害の対策を中心に、活動を推進していきます。

協力会社社員の労働災害による被災者数は26人で、そのうち休業被災者数は9人でした。

化学物質のリスクアセスメント

花王の生産工場では多くの種類の化学物質を取り扱っていることから、自然環境汚染リスクはゼロではありません。そこで、既存設備が人や環境に及ぼす影響評価を完了し、リスク低減のための措置を行なっています。また、設備を増改築する際、事前に人や環境に及ぼす影響を評価しています。

国内では、2017年に労働安全衛生法に追加された27物質のリスクアセスメントを実施しました。なお、これらはSAICMプロジェクトにて対応しています。

休業無災害表彰制度による安全意識の向上

2016年に休業無災害表彰制度を、さらなる安全意識向上を図るために海外の工場まで対象を拡大しました。

2017年は、国内3工場と海外2工場が表彰されました。

休業無災害表彰(2017年)

地域	社名・工場名	ステージ
日本	花王(株)富士工場	ステージ2(5年)
	花王(株)和歌山工場	ステージ2(540万時間)
	花王(株)栃木工場	ステージ5(15年)
中国	花王(合肥)	ステージ2(5年)
	上海花王	ステージ1(3年)

表彰基準

ステージ	表彰基準
1	3年
2	5年もしくは540万時間
3	7年もしくは810万時間
4	10年もしくは1,220万時間
5	15年もしくは1,830万時間
6	25年もしくは3,000万時間



休業無災害表彰記念トロフィー



(左) 栃木工場のステージ5達成の表彰式
(右) 中国:花王(合肥)のステージ2達成の表彰式

労働安全衛生

従業員の快適な職場環境

すべての職場を快適な職場環境にするよう努めるとともに、各国の作業環境基準を遵守するため、定期的に作業環境を測定し、職場環境の改善・維持管理を行なっています。

グローバルで安全スローガンを共有

グローバルでの安全意識の向上を目的に、2017年は日本語の安全ポスター標語を、海外拠点の協力で11の現地語に翻訳。社長が登場する安全ポスターを国内・海外拠点に展開し、グローバルで安全スローガンを共有しました。



社長が登場する安全ポスターを11カ国語で展開(左から日本語、英語、タイ語、中国語(簡体字))

Topic 栃木工場が厚生労働省から無災害記録証第5種を授与

栃木工場は、死亡災害および休業1日以上の無災害記録のべ1,520万時間(2002年9月1日～2017年6月28日)を達成し、2017年10月19日、厚生労働省から無災害記録証第5種が授与されました。

栃木工場では安全衛生委員会の下部組織として安全衛生推進連絡会を設け、複数グループで活動を推進し、社員だけでなく派遣社員等を含めて工場一体となり、全員参加で安全衛生活動に取り組んでいます。主な活動は①安全提案・ヒヤリハット等の提案制度と安全ルール遵守風土づくり②作業・機械設備の観点から実施しているリスクアセスメントの推進③非常作業前に実施する準備や作業内容などの事前チェックシートの活用④全員を対象とする3年サイクルの安全教育や新人、配転者を対象とした災害ビデオによる安全教育等の4つで、約15年の間、安全衛生活動に取り組んだ結果です。

今後も、事故・災害ゼロの安全衛生活動を継続し、無災害25年をめざします。



栃木工場の無災害記録証第5種

花王のアプローチ

事故を防止し、緊急事態への対応やセキュリティ強化に関する事項を定め、社員の安全の確保と安定な操業を維持することを目的として保安防災活動を行なっています。こうした活動により事故ゼロをめざします。

社会的課題と花王が提供する価値

化学プラントでの事故が相次ぎ、自然災害も多く発生している昨今、大規模化学プラントを有する花王に対する安全操業への要求はますます高まってきています。

花王では、地域住民や社員の安全を確保するため、保安監査や保安訓練を徹底し、防災訓練を定期的に行なうことで、事故発生リスクの抑制と、事故が発生した場合の適切かつ迅速な対応を常に検討し、事故ゼロに努めています。

貢献する SDGs



方針

花王は「保安防災」の活動方針を、花王レスポンスブル・ケア(RC)方針に「火災、爆発および化学物質漏えいを防止し、安全で安定な操業を維持するとともに、自然災害やセキュリティ強化に配慮して、設備対応と定期的訓練を行ない、緊急時に備える」と明確に定めています。この方針に沿って事故の防止に努めています。

体制

日常の保安防災活動は、RC推進体制に基づいて行なっています。事故・災害が発生した場合には、グローバルな緊急事態連絡網を通じて発生を把握するしくみを構築しています。さらに、事故・災害が事業活動に重大な支障を及ぼすと予想される際には、社長を本部長とする緊急事態対策組織を即時に立ち上げ、人命を第一とした初動対応をはじめ、事業継続計画(BCP)[※]に沿った対応などをグループ一丸となって行ないます。

[※]事業継続計画(BCP)

さまざまな事象とその要因により事業活動の中断や停止が引き起こされる場合を想定し、その状況に応じてどの業務・機能をどのような方法で維持・継続させるかを事前に決めておき、会社としての重要業務を継続させるための計画。



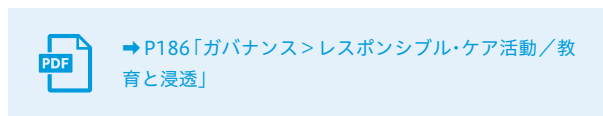
→ P184「ガバナンス>レスポンスブル・ケア活動」

教育と浸透

花王は“よきモノづくり”をグローバルに、永続的に
行なっていくため、さまざまなプログラムを通じて保
安防災教育を行なっています。その中の「モノづくり
技術・技能伝承センター」では、生産現場を担う若い技
術者が、さまざまなトラブルや危険な状況の疑似体験
を通して必要な知識・技能を学び、技術の伝承に努めて
います。

また、国内外の次世代リーダーの育成に向け、和歌山
工場内で8カ月にわたり、生産技術や“よきモノづくり”
の精神を学ぶ「グローバルテクノスクール」を開校し、
保安防災を含めたさまざまな研修を実施しています。

さらに、毎年、防災メッセージを提示し、地震防災手
帳を発行することで、防災の意識向上を図るとともに、
過去の事故発生日を「安全の日」と定め過去の教訓を風
化させないよう努めています。



ステークホルダーとの協働

- ・発生した事故・災害の被害を最小限に抑えるため、消
防署や地域の企業等との合同訓練を定期的に行なっ
ています。
- ・海外生産拠点においては、必要に応じて、テロを想定
した訓練を地元の警察と合同で行なっています。

スマート保安事例集

産業保安のスマート化に先行的に取り組む企業を紹
介する「スマート保安事例集」(発行:経済産業省保安課)
に和歌山工場のプラント最適運転支援システムが掲載
されました。

このシステムは、総光熱費の最適化を図り、システム
導入前に対し1.2%の改善を実現するものです。システ
ムによって導出された最適な設備の稼働と、実際にオペ
レータによって行なわれた稼働の差を毎朝議論し、
若手社員にその原因を考察させ、熟練社員の見解を伝
えるなど、運転技術の向上や技術伝承の場としても活
用しています。

今後は他の工場にも展開し、データの一元管理を図っ
ていきます。



「スマート保安事例集」における和歌山工場の取り組みの紹介

中長期目標と実績

中長期目標

場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えいゼロを目標に活動しています。

目標と実績

2017年、花王は「安全で安定な操業の維持」のため、保安上の事故撲滅に向けて変更管理※の徹底、化学設備のセーフティアセスメント、定期点検、パトロール強化を実施しました。また、防災活動として防災訓練の充実とセキュリティ強化を目標に掲げ、各部門においてさらに詳細な実行内容と計画を策定して活動しました。

2018年も引き続き場内火災、爆発事故、漏えい事故、物流漏えい事故ゼロを目標に活動します。

※ 変更管理

変更に伴うリスクを事前に想定して対策を講じ、障害や不具合、事故などを防止するマネジメント活動のこと。

目標と実績

項目	対象	指標	2016年	2017年		2018年
			実績	目標	実績	目標
事故	花王グループ	火災・爆発・漏えいなど(件)	3	ゼロ	6	ゼロ
		物流漏えい※(件)	0	ゼロ	0	ゼロ

※ 物流漏えい
製品等の輸送中における漏えい事故

2017年の事故の概要は以下の通りです。2017年の漏えい(場内)・物流漏えいはありませんでした。

事故種類	小規模な火災:5件	爆発:1件
事故概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ収集コンテナ内での発火。 ・熱油残液の発火。 ・養生不備の熱風漏れによる木材発火。 ・研究の薬品不活性化処理中での発火。 ・研究室の恒温器冷凍機ユニット周辺の発火。 	タンク内掃除のため内容物をほぼ抜き出した状態のタンクが、爆発・炎上しました。(人的被害はなし、近隣会社で窓ガラスの破損あり) 推定原因:タンク内に発生した沈殿物が、タンク内を空にしたために気化・凝縮が進み温度上昇(発火)し、爆発・炎上
今後の対策	棄試薬の対応ルール、作業処理、工事の管理・徹底を実施します。	推定した原因から、一からタンク内掃除の工程の見直しを行ない再発防止に努めます。

具体的な取り組み

大規模災害に備えた緊急事態対応訓練

花王グループでは、各事業場単位での消防訓練・避難訓練以外に、大規模災害に備えてグループ全体で訓練を実施しています。

安否確認訓練

2017年は花王グループの全社員を対象に、安否確認システムへの入力訓練を、3月は従来通りの2日間、9月は1日(24時間)の設定で実施、入力率はいずれも100%を達成しました。2014年9月の訓練より7回連続の100%入力を維持しており、これからも訓練を継続していきます。

地震を想定した全社通報連絡訓練

花王グループは、首都圏での地震により本社が被災することも想定し、東西に対策組織を整えています。

2017年は、5月には三陸沖地震を想定した東北・北海道エリアの訓練を、11月には首都直下地震を想定した訓練を実施しました。

2017年は訓練想定を休日・夜間での在宅時間とし、主要対策組織には、新たな連絡手段(IP無線)を導入し、連絡方法の検証を行ないました。

被災拠点は人的および物的被害状況を衛星携帯電話や社内災害用電子掲示板およびウェブサイトを使用した会議システムで対策組織に迅速に伝達し、対策組織は情報に基づき必要な対応を行ないました。これまでの訓練で得た反省点をもとに、訓練内容の見直しを随時行なっています。

工場見学者を想定した避難訓練

国内で工場見学を実施している9工場では、見学時の地震発生を想定して防災ずきんを準備したほか、見学者を安全な場所へ迅速に誘導できるよう、社員を見学者にみため、避難訓練を実施しています。

今後も、見学時のさまざまなシーンを想定した訓練を年間の訓練計画に組み込んでいきます。



社員を見学者にみため避難訓練を実施



→ P191「ガバナンス>リスクと危機の管理」

防災の監査

2017年は、監査対象にアメリカ、メキシコの2工場を加え、6カ国8工場から8カ国10工場に活動を広げました。2017年の監査実施工場はアメリカ、メキシコ、マレーシア、インドネシア、フィリピンの5工場でした。監査内容は、防災業務の実施状況、安全防災の課題改善状況で、指摘があった事項への対応を行なっています。

また、各工場からの監査員が他の工場の監査を行なう取り組みも継続するなど、監査を通じ、各工場における安全防災レベルの向上を図っています。

保安・防災の強化

SCM部門では、化学設備のリスクマネジメントの強化として潜在危険の抽出および対応、地震対策を引き続き推進しています。

2017年も化学設備のセーフティアセスメントにより潜在危険として抽出された、低引火物質の火災防止対策、粉塵爆発対策、自然発火対策、重合・発熱反応設備の安全対策と設備の変更管理強化を継続的行なっています。地震対策では、建屋や設備架台の耐震診断・補強、液状化対策、津波対策を推進しました。

高圧ガス保安検査・監査・査察

和歌山工場では、高圧ガス保安法の認定保安検査実施者※の認定を受けており、2017年は、8月に保安管理部門の保安監査、10月に保安管理の長である社長のもと保安査察を実施し、保安活動について問題がないことを確認しました。

他事業場の高圧ガス設備は、外部の検査機関による保安検査を実施しています。保安監査・保安査察は自社で実施し、安全操業に努めています。



和歌山工場の高圧ガス保安検査

※ 認定保安検査実施者

高圧ガス保安法に基づき、特定施設が技術上の基準に適合しているか否かについて、運転を停止することなく自ら保安検査を行なうことができる者または運転を停止して自ら保安検査を行なうことができる者として、経済産業大臣が認定した者

2017年の活動報告

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス	176
レスポンシブル・ケア活動	184
リスクと危機の管理	191
情報開示	195
情報セキュリティ	200
知的財産の保護と権利活用	207

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

花王は2030年までに達成したい姿として、グローバルで存在感のある会社「Kao」を掲げています。企業が持続的に成長するためには、業績をはじめとした財務的な戦略・取り組みだけでなく、非財務的な戦略・取り組みも強化し、これらがお互いに作用しあうことが必要です。

そのため、花王はESGへの取り組みを、コストではなく将来への成長投資ととらえ進めていくことを宣言しています。コーポレート・ガバナンスは、その目標達成を強力に推進する前提となるドライバーと考えています。変化に素早く対応でき、効率的で、健全かつ公正で透明性の高い経営を実現し、企業価値の継続的な増大を実現するために、経営体制および内部統制システムを整備・運用し、必要な施策を適時に実施するとともに説明責任を果たしていくことが、当社のコーポレート・ガバナンスに関する取り組みの基本であり、経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。そのため、ステークホルダーの声を聞く活動に積極的に取り組むとともに社会動向などを踏まえて随時コーポレート・ガバナンスの在り方の検証を行ない、適宜必要な施策・改善を実施しています。

コーポレート・ガバナンス体制

当社は、監査役会設置会社を選択しています。監査役会設置会社では、監査役は取締役会において議決権を有しないため、過去の決定に縛られ保守的になることなく取締役会の決定・取締役の職務執行について客観的な監査が可能であると考えています。

取締役の選任・報酬決定手続きの透明性、妥当性を補完するため、全社外役員のみを委員とする取締役選任審査委員会と全社外役員および代表取締役を委員とする取締役・執行役員報酬諮問委員会を任意に設置しています。

当社は、取締役7名のうち3名が独立社外取締役という高い客観性を維持するとともに、監査、報酬、選任審査を担当する機関が取締役会を支える体制により、高い実効性をもって経営を監督・監査できるしくみを構築しています。

コーポレート・ガバナンス強化に向けたこれまでの取り組み

2002年	・執行役員制度を導入 ・社外取締役制度を導入
2003年	・「選任審査委員会」(対象は会長・社長)と「報酬諮問委員会」を設置
2010年	・社外役員の独立性の基準を制定
2012年	・社外取締役を1名増員し、3名体制に ・取締役人員を15名から10名に減少 ・取締役の任期を1年に短縮
2013年	・社外監査役を1名増員し、3名体制に
2014年	・社内取締役と社外取締役を同数に ・取締役会議長を独立社外取締役に
2015年	・取締役会の実効性評価を開始
2016年	・監査役会の実効性評価を開始 ・社内取締役を1名増員し、4名体制に

コーポレート・ガバナンス体制

機関設計の形態	監査役会設置会社
取締役の人数(うち、独立社外取締役の人数)	7名(3名)
監査役の数(うち、独立社外監査役の人数)	5名(3名)
取締役の任期	1年
執行役員制度の採用	有
取締役会の権限委譲機関	経営会議など
取締役会の任意諮問機関	選任審査委員会・報酬諮問委員会
会計監査人	有限責任監査法人 トーマツ

透明性・公正性確保のために

取締役および取締役会

取締役会は、経営戦略等の策定や具体的執行の監督を適切に行なうために知識・経験・能力のバランスと多様性を確保しています。社外取締役については、社内取締役だけでは得られないような多様な経験や知識・見識、たとえば、グローバルな経験を含む、当社と異なる分野の製品・サービスを提供する会社の経営経験者およびコンサルタントや学識経験者等が有する経験並びにこれらの経験から得られる知識および高い見識を有していることを重視して指名しています。また、取締役以外に会計や人事の担当執行役員を陪席させるなど、議論の実効性を高めるための工夫を行なっています。

会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促すため、主に経営戦略等の中長期的な経営の方向性についてリスク評価を含めて多面的に審議・決定しています。また、社内取締役より経営戦略の進捗状況、達成への課題とその対応等について報告を受けることで、社外取締役および社外監査役の多面的な視点からの評価を含めて経営戦略が適切に執行されているかを監督しています。さらに、内部統制システムやリスク管理体制を整備することで、リスクを峻別して攻めの経営ができる環境整備を行なっています。

なお、当社は、各部門の最高責任者を執行役員とする執行役員制度を導入し監督と執行の分離を進め、また常務執行役員以上を主なメンバーとする経営会議に執行権限を幅広く委ねることにより、意思決定および執行の迅速化を図っています。

取締役会の実効性評価

少なくとも毎年1回、取締役会の実効性評価を実施し、実効性を高めるための改善につなげています。取締役会の役割・責務は取締役会全体で共有する必要があるという考えの下、取締役会に参加している監査役を含めたメンバー全員が自ら意見を述べ、自由闊達な議論を行なうことによって評価を実施することが有効であると考えており、現時点では社外の第三者の起用はせず、取締役会参加メンバー自身による自己評価により実効性の評価を行なっています。

2017年度についての評価では、2018年1月度取締役会における自己評価の意見交換に先立ち、取締役全7名および監査役全5名に対しアンケートを実施し、結果を事前にフィードバックしたうえで取締役会において評価・意見交換を行ないました。評価の内容は次の通りです。

1. 2016年度の実効性評価で指摘された課題への取り組み

- ・グローバル人財の活用に加え、消費者の購買モデル、流通モデルの大変革に対応した多様な人財の確保をさらにスピード感をもって進めることが必要。
- ・花王グループの強みである「花王ウェイ」の共有による全社一丸となったスピード感ある組織運営を継続する一方、人財の多様化を推進する過程において、この強みと多様性との調和をいかにバランスよく進めていくかが重要。
- ・海外を含め、経営から目の届きにくい子会社・孫会社、

また新しく花王グループに加わった会社・社員への内部統制整備、コンプライアンス意識の浸透を一層強化していくことが必要。

2. コーポレートガバナンス・コードにおいて特に取締役会に期待されている視点

①企業戦略等の大きな方向性の議論、②経営陣幹部による適切なリスクテイクを支える環境整備、③独立した客観的な立場からの経営陣・取締役に対する実効性の高い監督、④コンプライアンスや財務報告に係る内部統制やリスク管理体制を適切に整備し、その運用が有効に行なわれているかの監督、⑤株主・投資家との建設的な対話について、すべて有効、適切に行なわれていると評価する。

3. 取締役会の運営全般(議事進行、議題、報告、資料、審議等)

取締役会の開催前に資料が配布され、必要に応じて取締役会事務局より説明が行なわれている。発表時間は全体の半分以下に抑え、質疑や議論の時間を確保するよう議事進行がなされている。

4. 取締役会における今後の課題

グローバルな事業拡大や事業環境の急激な変化に対応する人財戦略、非財務活動(ESG活動)を含めた事業戦略に関する一層の議論が必要である。内部統制については、体制の整備に加え、引き続き適切な運用確保のための監督が重要である。

監査役および監査役会

社外監査役には高い専門性と豊富な監査経験・知識を有する公認会計士や弁護士を選任し、社内の事情に通じた常勤の社内監査役による社内情報収集とあいまって、客観的かつ深い議論が可能になり、実効性のある監査を実現しています。

監査役は、代表取締役との定期的な意見交換会、取締役会、経営会議等の重要会議への出席、国内グループ会社の監査役との定例連絡会議のほか、内部監査部門および会計監査人との情報交換、さらに社内各部門および子会社などへのヒアリングを定期的および必要に応じて適時に行なっています。また、監査役は取締役会においては、業務や会計に関する適法性・妥当性の観点からの発言に加え、経営の戦略的な方向づけを含む経営者への助言を広く行なっています。

監査役会の実効性評価

花王では、監査役会においても、毎年1回監査の実効性についての評価を実施しています。

2017年度については、2018年2月に開催された監査役会において、すべての監査役が2017年度の監査役の活動について自ら意見を述べ、それに基づき出席者間で議論し、評価を行ないました。また、次の内容については取締役会への報告を行ないました。

1. 現況

- ・ 監査役と代表取締役との定例の意見交換会に加え、社外取締役との定例意見交換会を設置した。
- ・ 会計監査人との連携を深めるため、当社の会計監査人である監査法人とのグローバル会合を定期的に開催し、必要に応じて海外子会社を担当する会計士と個別に意見交換を実施した。
- ・ 経営監査室との連携がさらに深まり、監査の精度・効率向上につながった。
- ・ 三様監査の体制が徐々に整備され、よい連携がとれるようになってきた。

2. 今後の課題

グループ統制に資するため、国内関係会社の監査役とのコミュニケーションの機会を増やし、また海外関係会社の情報を適切に把握するため、会計監査人および経営監査室をはじめとする内部監査部門等との連携をさらに強化する必要がある。

選任審査委員会・報酬諮問委員会

当社は、役員人事や役員報酬の決定における公正性・透明性を徹底するために、取締役選任審査委員会と取締役・執行役員報酬諮問委員会を任意に設置しています。

取締役選任審査委員会は、独立社外取締役3名と独立社外監査役3名で構成し、取締役会の諮問に対して、社長および取締役の候補者について意見具申しています。さらに、取締役候補者の適正さの審査に加え、取締役会の規模、構成や多様性、社長執行役員や取締役に必要な資質についての議論を行ない、その審査結果について取締役会に報告を行なっています。

取締役・執行役員報酬諮問委員会は、代表取締役3名、独立社外取締役3名および独立社外監査役3名で構成し、会社からの報酬案に関する諮問に対して、取締役および執行役員の報酬制度や報酬水準について意見具申しています。

取締役会、監査役会、委員会出席メンバー

区分	氏名	取締役会	監査役会	選任審査委員会	報酬諮問委員会
取締役	澤田 道隆	○			○
	吉田 勝彦	○			○
	竹内 俊昭	○			○
	長谷部 佳宏	○			
	門永 宗之助	◎		◎	◎
	奥 正之	○		○	○
監査役	篠辺 修	○		○	○
	沼田 敏晴	○	◎		
	藤居 勝也	○	○		
	井上 寅喜	○	○	○	○
	天野 秀樹	○	○	○	○
	岡 伸治	○	○	○	○

◎は議長、○は出席メンバーを示しています。

独立役員

当社の経営判断が会社内部者の論理に偏ることがないよう、「花王株式会社社外役員の独立性に関する基準」(以下「独立基準」)を満たす適切な数の独立役員が当社の経営陣から独立した中立な立場で取締役会の審議状況を牽制する体制としています。

取締役7名中3名の社外取締役全員、監査役5名中3名の社外監査役全員が独立基準を満たしています。

現体制においては、取締役会の中立性、独立性をより高めるための方策として、独立社外取締役が取締役会議長を務めています。

また、独立社外役員は、多様な視点での議論を図るために、取締役会の合間、また別の機会を設けて、独立社外役員だけの会合を自主的に開催し、当社の経営や取締役会の活動に関する課題、将来の経営陣幹部の育成等について、情報交換、認識の共有を図っています。



→詳細は「社外役員の独立性に関する基準」
http://www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/about/pdf/governance_002.pdf

株主との対話

企業価値の向上のためには、株主との対話を通して、双方の考えや立場についての理解を深め、適切に対応することが重要と考えています。そのため、株主との積極的な対話を促進するための体制を整備し、個人株主や国内外の機関投資家との対話の機会を積極的に設けています。対話の際には、株主の意見等を適切に経営に反映させるため、できる限り経営陣が参加することとしています。

株主向けの会社概況説明会

例年実施している工場見学会等のほか、2017年8月には東京での株主総会に出席することが難しい株主との対話を目的とした、会社概況説明会を大阪で初めて開催しました。

社長執行役員の澤田から2017年の業績進捗、花王グループ中期経営計画「K20」に込めた思い、本質研究の深化、展開について説明した後、参加者からのご質問にお答えしました。

2017年度施設見学会、会社概況説明会実施状況

実施場所	実施回数	参加者のべ人数
川崎工場(神奈川)	4回	161名
花王ミュージアム(東京)	6回	224名
花王エコラボミュージアム(和歌山)	2回	78名
会社概況説明会(大阪)	1回	85名

企業価値増大への貢献意識を高めるための取締役、執行役員の報酬制度

花王の役員報酬は、(1)競争優位の構築と向上のため、多様で優秀な人財を獲得し、保持すること、(2)永続的な企業価値増大への重点的な取り組みを促進すること、(3)株主との利害の共有を図ることを目的としています。

当社は、2017年度より社外取締役を除く取締役および執行役員を対象に、当社の中長期的な業績の向上と企業価値の増大への貢献意識を高めることを目的として、会社業績との連動性が高く、かつ透明性・客観性の高い役員報酬制度として業績連動型株式報酬制度を導入しました。

取締役、執行役員、監査役の報酬制度

(i)基本報酬

取締役および執行役員としての役割と役位に応じて金額を決定し、月額固定報酬として支給します。

(ii)短期インセンティブ報酬としての賞与

賞与支給率が100%のときの賞与額は、社長執行役員においては基本報酬の50%、役付執行役員(社長執行役員を除く)においては基本報酬の40%、その他の執行役員においては基本報酬の30%となります。

賞与支給率は、連結売上高・利益(売上総利益から販

売費及び一般管理費を控除した利益)の目標達成度並びに前年度からの改善度、および資本コストを考慮した当社が重視する経営指標であるEVA(経済的付加価値)の目標達成度に応じて0~200%の範囲で決定されます。

(iii)長期インセンティブ報酬としての

業績連動型株式報酬

当社の中期経営計画の対象となる2017年から2020年までの4事業年度を対象として、中期経営計画の業績目標の達成度等に応じて、当社株式等を交付します。本制度は、中期経営計画の業績目標の達成度等に応じて当社株式等を交付する「業績連動部分」と毎年一定数の当社株式等を交付する「固定部分」から構成されます。業績連動部分は当社中期経営計画の達成に向けた動機づけおよび中長期の業績と役員報酬の連動強化を、固定部分は株式の保有促進を通じた、株主との利害共有の強化を目的としており、各部分の構成割合は、業績連動部分:固定部分=70%:30%としています。業績連動部分における業績連動係数が100%のとき、1事業年度当たりの株式報酬額は各役位の基本報酬の40~50%程度となります。

取締役および執行役員の報酬制度や報酬水準につい

ては、決定プロセスの客観性・透明性を確保する観点から、取締役・執行役員報酬諮問委員会において審査し、取締役会の決議により決定しています。取締役・執行役員報酬諮問委員会は、取締役会会長、全代表取締役、全社外取締役および全社外監査役より構成すると定め、独立社外役員が委員の過半を占める体制としています。

業務執行から独立した立場である社外取締役の報酬は、(i)の月額固定報酬のみとし、(ii)(iii)のインセンティブ報酬の対象とはしていません。

監査役の報酬については、月額固定報酬のみとしています。報酬水準については監査役会にて決定しています。

取締役および執行役員並びに監査役の報酬水準については、毎年、外部調査機関による役員報酬調査データにて、当社と規模や業種・業態の類似する大手製造業の水準を確認したうえで、決定しています。

なお、取締役および監査役について、退職慰労金の制度はありません。

ESG 活動推進のために

花王は、環境と社会に関しては「花王サステナビリティ ステートメント」で指針を示し、それを強力なガバナンス体制のもと、推進しています。内部統制委員会とサステナビリティ委員会を設置し、両委員会の活動が適切に行なわれているかを取締役会が監督しています。これらを精緻に運用し、目標に近づけていきます。

経営会議

取締役会において、主に経営戦略などの中長期的な経営の方向性等の審議・決定を行ない、その執行については、主要な事業や部門の責任者で、事業の執行経験を豊富に有する常務執行役員以上等を主なメンバーとする経営会議に幅広い権限を委ねることにより、執行の意思決定および経営の迅速化を図っています。

サステナビリティ委員会

花王のサステナビリティに関する活動の方向性を定め、推進することによって、すべてのステークホルダーの支持と信頼を獲得し、会社と社会の持続的発展に寄与することをねらいとしてサステナビリティ委員会を設置しています。

2017年度の役員報酬の実績

取締役	8名	501百万円 (うち社外取締役:4名 60百万円)
監査役	7名	78百万円 (うち社外監査役:4名 30百万円)

(注) 1. 上記の員数には、2017年3月21日開催の第111期定時株主総会終結の時をもって退任した社外取締役1名、監査役1名および社外監査役1名が含まれています。

2. 取締役の報酬等の総額には、以下のものも含まれています。

- (1) 役員賞与として支給予定の額
取締役:4名 145百万円
- (2) 業績連動型株式報酬として費用計上した額
取締役:4名 105百万円

3. 報酬等の限度額は、次の通りです。

- (1) 取締役の報酬等の限度額
年額 630百万円
(2007年6月28日開催の第101期定時株主総会決議)
社外取締役分の年額100百万円(2016年3月25日開催の第110期定時株主総会決議)が含まれており、使用人兼務取締役の使用人分の給与等は含まれません。

(ご参考)

2017年3月21日開催の第111期定時株主総会決議により、上記の取締役の報酬等の限度額とは別枠で、当社取締役(社外取締役を除く)および執行役員を対象とした業績連動型株式報酬制度を導入しています。本制度は、当社が掲げる中期経営計画の対象となる事業年度(当初の対象期間は2017年から2020年までの4事業年度)に対して、上限額を1,850百万円として信託金を抛出し、当社株式が信託を通じて取得され、中期経営計画の業績目標の達成度等に応じて当該信託を通じて当社株式等の交付等を行なう株式報酬制度です。

- (2) 監査役の報酬等の限度額
年額 85百万円
(1984年6月29日開催の第78期定時株主総会決議)

役員ごとの報酬等の総額等

澤田 道隆(取締役)	報酬等の総額 183百万円 (基本報酬81百万円 賞与67百万円 業績連動型株式報酬35百万円)
------------	--

(注) 報酬等の総額が1億円以上の者に限定して記載しています。

内部統制委員会

花王グループ全体の内部統制を方向づけるとともに、コンプライアンス、リスクマネジメント、内部監査、情報開示、品質保証、環境安全などの内部統制に関する機能を横断的に統合し、財務報告の正確性と業務活動の質の向上をねらいとして、内部統制委員会を設置しています。

グループ会社へのガバナンス

花王グループでは、グループ会社各社において経営の透明性を維持し、各グループ会社における適正かつ迅速な経営を確保することを目的として、各グループ会社への権限委譲と花王本社への報告、承認事項を定めたポリシーマニュアルを導入しています。

また当社は、国内外のグループ会社がポリシーマニュアルの適正な運用を行なっているかを定期的に確認しています。



→より詳細な内容は「コーポレート・ガバナンス」のサイトをご覧ください。

<http://www.kao.com/jp/corporate/about/policies/corporate-governance/>

Topic 「企業価値向上表彰」で大賞を受賞

花王は2017年1月、株式会社東京証券取引所(以下、「東証」)が実施している第5回(2016年度)「企業価値向上表彰」において、大賞を受賞しました。

本表彰は、東証が市場開設者としての立場から望ましいと考える企業価値の向上をめざした経営の普及・促進を図ることを目的として、2012年度に創設されました。東証市場の全上場会社(約3,500社)を対象に、資本コストをはじめ投資者の視点を深く組み込んで企業価値の向上をめざすなど、東証市場の魅力向上に資すると認められる経営を実践している上場会社を表彰するものです。

このたびの受賞は、花王グループが投下資本コストを考慮した「真の利益」を表すEVA[®]を継続的に増加させていくことが企業価値の増大につながり、株主だけでなくすべてのステークホルダーの長期的利益とも合致するものと考えてきた企業価値向上経営が評価されたものと認識しています。



東証で行なわれた
企業価値向上表彰
式での打鐘

※ EVA[®]
米国コンサルティング会社のスターン・スチュワート社の登録商標。資本コストを加味し、企業価値と密接な関係にある経営指標。

花王のアプローチ

日々の安全確保と環境保全を図るため、化学に携わる企業の自主管理活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

製品の安定供給や品質・安全性の確保、安全で衛生的な労働環境の提供および事業活動による環境負荷の低減は、国内外に拠点を設け、幅広い産業界に多種多様な素材・製品・システムを提供する化学メーカーとして、果たすべき重要な社会的責任です。

こうした考えのもと、花王は、化学産業界の自主的な環境・健康・安全を確保する活動である「レスポンシブル・ケア(RC)活動」を推進することで、社会との信頼関係の構築を通じた持続可能な社会づくりをめざしています。

貢献するSDGs



方針

花王は、製品の開発・生産・物流・使用・廃棄・リサイクルまでの事業の全段階において、人の安全と環境の保全に十分配慮し、サステナブルな社会の実現に貢献していくことを理念に掲げています。

1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立当初から「レスポンシブル・ケア(RC)活動」に参加しており、2008年には当時の尾崎社長が「RC世界憲章」の支持宣言書に、さらに2014年には澤田社長が改訂された「RC世界憲章」にそれぞれ署名を行ない、RC活動を花王グループ全体で推進していくことをコミットしています。

化学産業界の「環境・安全・健康」に関する自主管理活動「レスポンシブル・ケア(RC)活動」の基本項目※の考え方に則った「花王レスポンシブル・ケア方針」を定め、協力会社を含めた花王グループ全体で毎年目標を策定し、年間計画に基づいた活動を継続的に行なっています。

※ レスポンシブル・ケア(RC)活動の基本項目
「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」「物流安全」の5つの推進項目と「社会とのコミュニケーション」



→花王レスポンシブル・ケア方針
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/statement-policy/policy/responsible-care.html>



→P165「コーポレート・カルチャー」>労働安全衛生」

体制

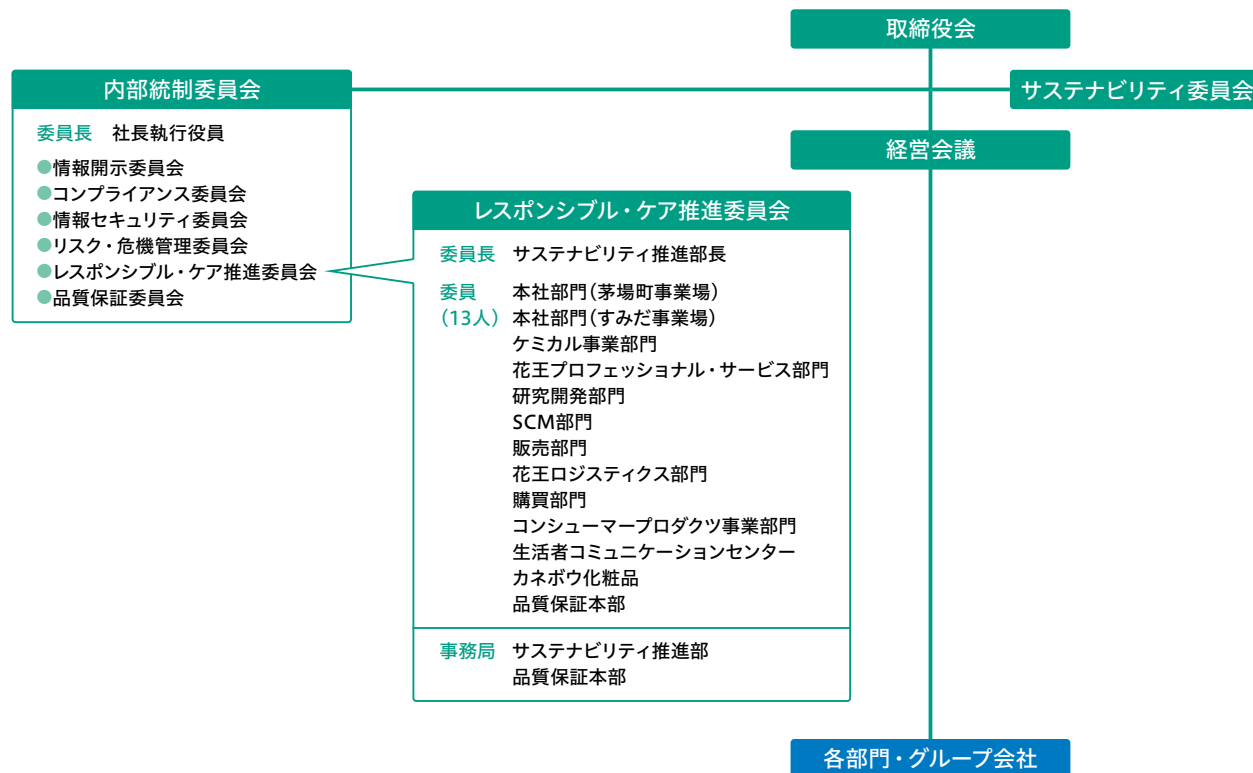
レスポンシブル・ケア推進委員会は、社長が委員長を務める内部統制委員会内の一委員会として位置づけられています。委員長をサステナビリティ推進部長が務め、日本国内の8つの推進部門*の代表に加え、4部門の代表と品質保証本部の担当を加えた委員14人で構成しており、毎年1回開催しています。事務局はサステナビリティ推進部 RC 推進グループと品質保証本部が務めています。

花王(株)を含む花王グループ内各ケミカル会社は、各国の化学工業会に参画しRC活動を推進しています。

※ 8推進部門

本社部門(茅場町事業場)、本社部門(すみだ事業場)、ケミカル事業部門、花王プロフェッショナル・サービス部門、研究開発部門、SCM部門、販売部門、花王ロジスティクス部門

レスポンシブル・ケア推進体制



※2017年12月現在

レスポンシブル・ケア活動 103-1,103-2,103-3,404-2

教育と浸透

RC推進事務局や各推進部門のRC担当者は、社員や協力会社の社員を対象に、環境や労働安全衛生活動などのRC教育を定期的実施しています。

2017年にRC推進事務局が社員を対象に実施したRCの集合教育は50回、のべ756人(国内26回、625人/海外24回、131人)が参加しました。

2015年には、日本花王グループ社員を対象にRCの基礎知識について教育を実施しており、その後の新入社員や中途入社社員約1,700人に対しても同様の内容でeラーニングを実施しました。

中長期目標と実績

花王は2020年にグローバルでトップレベルの安全確保と環境保全を満たす企業になるべく、日々のRC活動を推進しています。

そのために、目標設定の際は世界の化学会社の環境や安全に関する数値目標を確認し、最高レベルの自社目標を設定しています。

2017年の実績

2017年は9月19日に「花王グループRC推進委員会」、11月6・7日に「グローバルRCミーティング」、12月6日に「日本RCミーティング」をそれぞれ開催しました。

また、7月～8月にかけて「RC事務局監査」をグローバルの各会社、推進部門に対し実施しました。



→ P187「具体的な取り組み:RC活動の標準化」

→ P189「具体的な取り組み:RC事務局監査実施状況」

花王のアプローチ

具体的な取り組み

ステークホルダーとの協働

花王グループ各社はRC活動の基本項目の一つである「社会とのコミュニケーション」に則り、積極的にステークホルダーとの交流等、さまざまな活動を実施しています。



→ 詳細は P108「コミュニティ>社会貢献活動」

具体的な取り組み

RC活動の標準化

日本国内の8推進部門およびすべての海外関係会社は、RC推進委員会で決定された花王RC目標をもとに、それぞれの業務内容や業種・業態に応じた活動計画を立案し、RC活動を推進しています。

花王グループ各社はこのような推進体制で、RC活動のPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルの確認、向上を図っています。

毎年9月に開催する「花王グループRC推進委員会」では、活動方針の徹底やマネジメント体制の強化に関する施策を討議するほか、花王グループの中期目標と8月に行なうRC事務局監査の結果をもとに、次年の数値目標と活動目標を審議します。

10月～11月に開催する「グローバルRCミーティング」では、RC推進事務局から「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの中期および次年目標の説明を行ない、各社に次年の目標と計画の策定を依頼し

ます。各社からはRC活動状況を発表し、グループ間での情報の共有を図ります。

12月に開催する「日本RCミーティング」では、「花王グループRC推進委員会」で決められた花王グループの数値目標と活動目標をもとに、各推進部門のRC推進委員が次年の計画案を発表し、一つひとつ審議します。この会議で承認された内容は、RC推進委員が各推進部門に持ち帰り、推進部門ごとにより細かく設けた活動ユニットへ伝えることで、現場に密着した活動の継続的な改善・レベルアップを図っています。

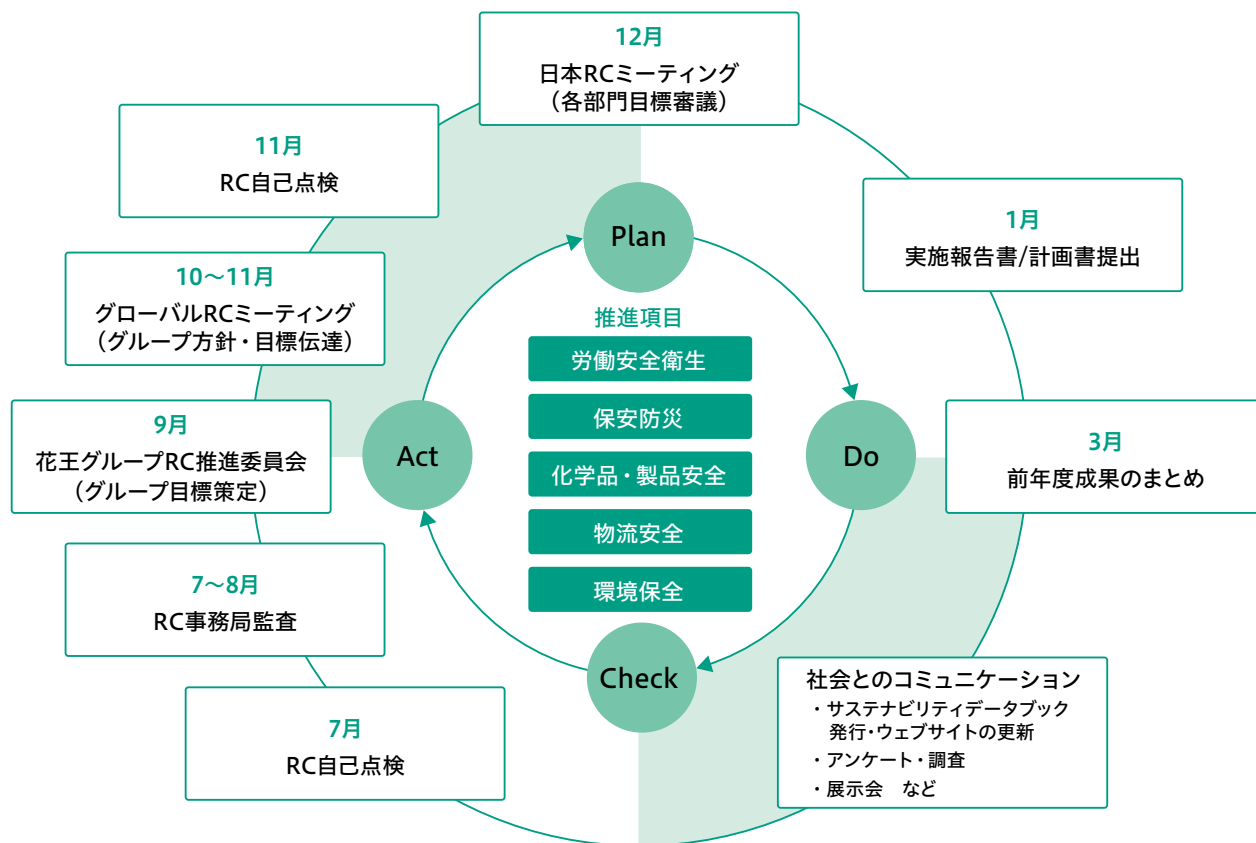
2017年は9月19日に「花王グループRC推進委員会」を開催しました。事務局からは2017年のRC目標に対する花王グループ全体の上半期の実績やRC事務局監査結果を報告しました。また、推進部門から各部門での推進活動状況を発表し、最後に審議事項として、2018年の花王グループRC目標が承認されました。

11月6、7日には「グローバルRCミーティング」を本社で開催し、日本以外では12のグループ会社(前年13会社)から15人が参加しました。会議では花王グループのRC活動方針の理解を深め、2018年の目標の確認を行なうとともに、RC活動の活性化とレベルアップを目的に各社のRC活動の状況確認とアドバイス、強み弱みの理解、ベストプラクティスの共有、グローバルRCメンバーのコミュニケーション強化を図りました。また、2017年は初となるグループディスカッションを実施し、各社での課題について話し合うとともに情報の共有化を図りました。

12月6日の「日本RCミーティング」では、各推進部門のRC推進委員が2018年の計画案を発表し、審議・承認されました。また事務局から2017年の環境・安全の実績報告を行ないました。

レスポンスブル・ケア活動 103-1,103-2,103-3

RC活動の年間サイクル



花王のアプローチ 具体的な取り組み

環境・安全データベースなどを活用

花王は、環境負荷の低減や労働災害・事故発生数の低減を図るための環境・安全データベースである「環知安システム」※を構築して運用しています。

このシステムでは、花王全体の温室効果ガスの排出量や労働災害の発生度数率・強度率などを自動算出することができ、環境負荷低減や労働災害防止に活用しています。

グループでより効率的に環境・安全データを利用するために、新しいシステムへの移行を検討しており、2017年は情報システム部門とともに具体的なシステムの検討を行ないました。2019年からの移行をめざしています。

※ 環知安システム

エネルギー使用量、温室効果ガス排出量、ばい煙排出量、水使用量、排水量、排水濃度測定結果、土壌・地下水測定結果、PRTR法対象化学物質の取扱量および排出量・移動量、廃棄物等の発生量・排出量・最終埋立処分量、労働災害統計、交通事故統計など、多様なデータを共有している。

エコロジ

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

レスポンスブル・ケア活動

RC事務局監査実施状況

花王は、RC活動の進捗状況や課題を把握するために、7月に各推進部門が活動ユニットに対してRC自己点検を、8月にRC推進事務局が国内の各推進部門および海外グループ会社に対して、RC推進委員会事務局より選出された監査チームが監査を実施しています。

また、これらの結果を9月の「花王グループRC推進委員会」および「グローバルRCミーティング」で報告するとともに、翌年の数値目標や活動目標の策定に活かしています。

2017年は7月から8月にかけて、国内8推進部門、海外は安全と環境面の影響度を配慮して工場を持つグループ会社20社※に対して、チェックシートを用いて

RC事務局監査を実施しました。2017年は従来のチェックシートに併せて新たに環境、安全の活動内容が確認できるチェックシートも用いて監査を実施しました。

日本については、各推進部門と対面で法的要求事項・基準等の遵守状況、計画の進捗状況や数値目標の達成状況などを確認しました。海外については、チェックシートを送付し、その回答結果について書類監査を実施しました。併せて今回の監査で2016年の監査時の指摘事項についてはすべて対応済みであることも確認しました。

2017年のRC事務局監査の結果について、日本では

全8推進部門で評価平均点が4.5点以上を獲得しRC推進体制が整ってきたことが確認できましたが、継続観察が必要な項目として労働安全に関する指摘が多くみられたため、さらなるレベルアップを依頼しました。海外では半数以上の会社で2016年より評価点数の改善がみられました(下表参照)。

※ 上海花王、上海佳麗宝化粧品、花王(合肥)、上海花王化学、花王(上海)化工、花王葫芦島錦星鑄造材料、花王(台湾)、花王(ベトナム)、ピリピナス花王、花王インダストリアル(タイランド)、ファティケミカル(マレーシア)、花王(インドネシア)、花王インドネシア化学、花王USA、花王スペシャルティーズアメリカズ、キミ花王、花王マニュファクチュアリングジャーマニー、ドイツ花王化学、モルトンブラウン、花王コーポレーション(スペイン)

RC事務局監査実績(2017年)

	SCM部門	研究開発部門	事業部門	コーポレート部門	国内グループ会社※1	海外グループ会社※2
設問数	151	124	184	251	410	3,262
継続観察が必要な項目	2	4	2	8	8	—
評価平均点【5点満点】※3	4.88 (4.87)	4.94 (4.96)	4.82 (4.73)	4.88 (4.38)	4.84 (4.51)	4.30 (4.16)

※1 国内グループ会社

花王プロフェッショナル・サービス(株)、花王グループカスタマーマーケティング(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、カネボウ化粧品販売(株)、花王ロジスティクス(株)

※2 海外グループ会社

20社(アジア13、欧米7)

※3 ()内は2016年の結果

レスポンシブル・ケア活動

国際マネジメントシステム認証状況

花王は、RCマネジメントシステムを全拠点を対象に導入していますが、環境の国際規格であるISO14001、労働安全衛生の規格であるOHSAS18001の認証や各国の認証も受けています。

環境に関する認証取得状況(ISO14001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。

活動の標準化・高度化をめざし、個別工場で取得している認証の統合を実施しており、日本とアジアの15工場で完了しました。今後、2015年版への移行や統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

労働安全衛生に関する認証取得状況(OHSAS18001等)

労働安全衛生のマネジメント規格は、国内と比較して労働災害が多く、労働管理の強化が必要な海外の工場を取得を推進しており、その割合は35%です(総生産量重量基準)。

今までは個別工場で認証を取得していましたが、活

動の標準化・高度化をめざし、アジアの5工場で統合化に向けた活動を実施しています。今後、ISO45001への移行や統合する工場を増やすなど、認証取得拠点の拡大を実施していきます。

品質に関する認証取得状況(ISO9001等)

外部認証を受けている工場の割合は95%です(総生産量重量基準)。今後、認証取得工場を拡大していきます。

外部認証取得一覧



→「ISO等認証取得一覧」

<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/environment/activity-data/certification.html>

Topic 和歌山工場が「レスポンシブル・ケア(RC)」の優秀賞を受賞

一般社団法人日本化学工業協会(日化協)より、レスポンシブル・ケアのさらなる発展、拡大を図るため、優れた功績・貢献をした事業所などが表彰される日化協RC賞の「優秀賞」に和歌山工場が選ばれました。

今回「RC優秀賞」を受賞したのは和歌山工場の「保安力強化プロジェクトチーム」で、化学プラント設備の保安力強化として危険源管理(変更管理体制・設計Know-Why伝承・異常現象時の行動マニュアル)の3つのしくみに焦点をあてた安全・安定操業への貢献活動が高く評価されました。



表彰式

花王のアプローチ

花王は、事業活動全般にわたり生じ得るさまざまなリスクに対して、リスクの顕在化の防止と、万一リスクが顕在化した場合にも被害・損害を極小化することを目的に、事業環境の変化に適切かつ迅速に対応できるリスクと危機の管理を進めています。

社会的課題と花王が提供する価値

事業のグローバル化に伴い、経営環境の複雑性、不確実性が増えています。また、ソーシャルメディアなどの発展に伴い、リスクが顕在化した場合の事業活動への影響は、その規模、スピード共に増大する傾向にあります。

このような現状を踏まえ、花王は、2015年から主要リスクに対して、「業務運営リスクだけでなく、戦略リスクも含めた管理領域の拡大」「コーポレートリスクの選定と管理体制の導入」「危機発生時の対応体制の強化と危機意識の醸成」を推進することで、事業環境の変化に適切かつ迅速に対応できるリスクと危機の管理を実践し、お客さまにより良い製品・サービスを提供し続けていくことをめざしています。

主要リスク

- ・ 消費者・顧客ニーズの変化への対応の遅れ
- ・ 重大な品質トラブルや製品の安全と安心に対する懸念の発生
- ・ 自然災害・感染症の蔓延・事故等による製品供給への支障
- ・ 重大な法令違反や法規制の変更・追加による事業活動の制約
- ・ 機密情報や個人情報の漏洩など

貢献する SDGs



方針

花王は、経営目標、事業活動に悪影響を与える可能性を「リスク」、この「リスク」が顕在化することを「危機」とし、「リスク及び危機管理に関する基本方針」に基づいて、花王グループの事業活動全般にわたり生じ得るさまざまなリスクと危機を適切に管理します。

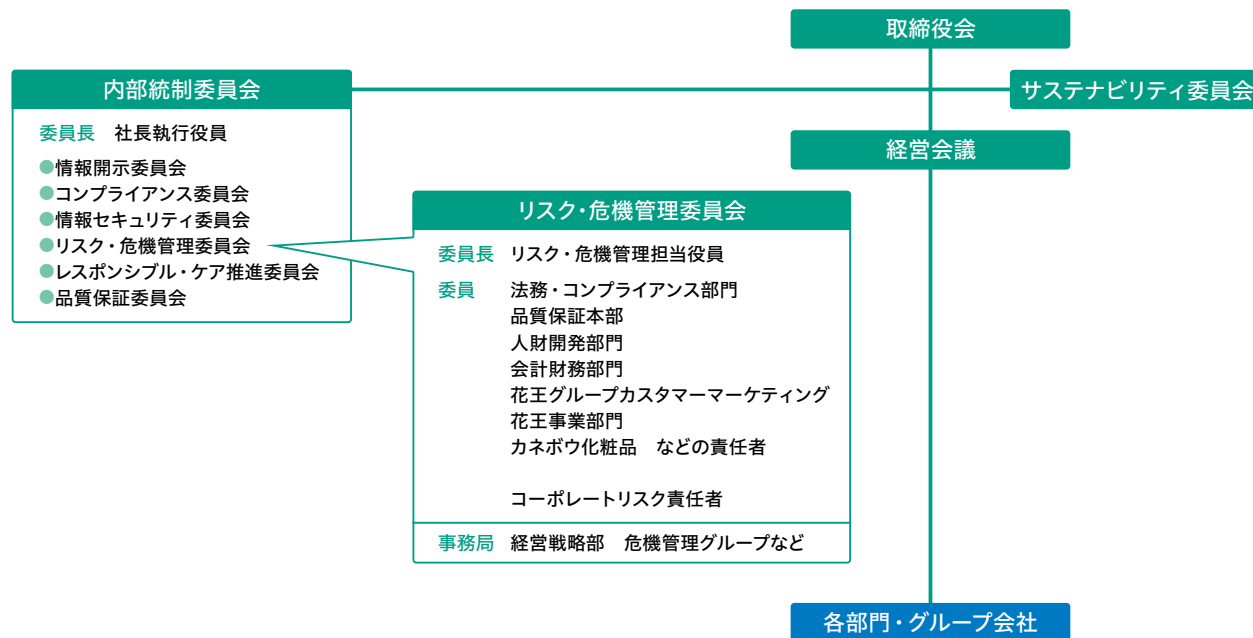
体制

花王グループでは、リスクと危機の管理を担当する執行役員を委員長とする「リスク・危機管理委員会」において、管理体制と運用計画を定めています。部門、子会社、関係会社は、この運用計画に基づいて、リスクを把握・評価し、対応策を策定・実行することでリスクを管理します。また、経営会議において、花王への影響が大きく、経営上重要なリスクを「コーポレートリスク」と定め、指名された責任者（執行役員）が対応策を策定・実行することで、全社的なリスクに対して対応の強化を図っています。

なお、危機発生時には、コーポレートリスクについてはその責任者が、その他リスクについては所管する部門または子会社、関係会社を中心となって対応組織を立ち上げます。さらに、グループ全体への影響の重大さに応じて、代表取締役 社長執行役員などを本部長とする対策本部を設置し、被害、損害をできるかぎり小さくするために迅速に対応します。

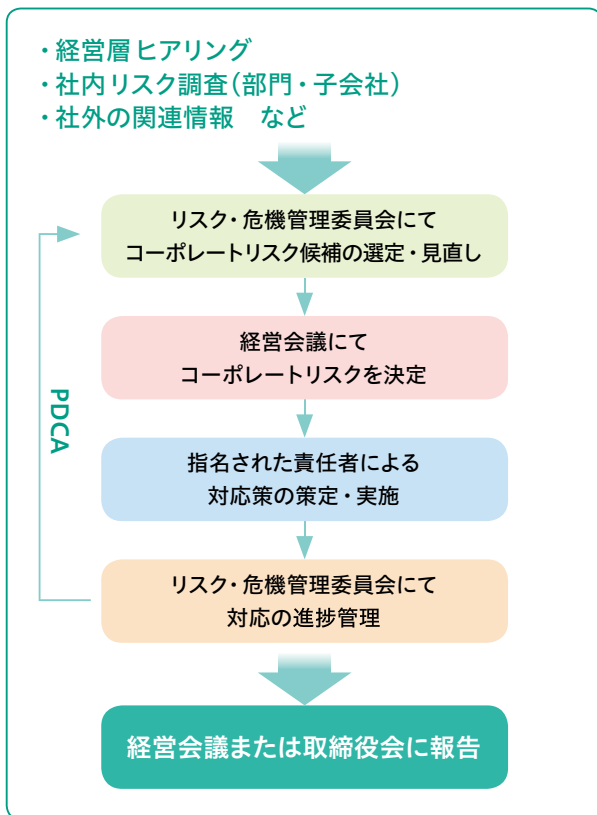
リスクと危機の管理の有効性については、内部統制委員会で確認しています。また、上記の活動については、定期的および必要の都度、経営会議または社外取締役を含む取締役会において報告・審議を行なっています。

リスクと危機の管理体制

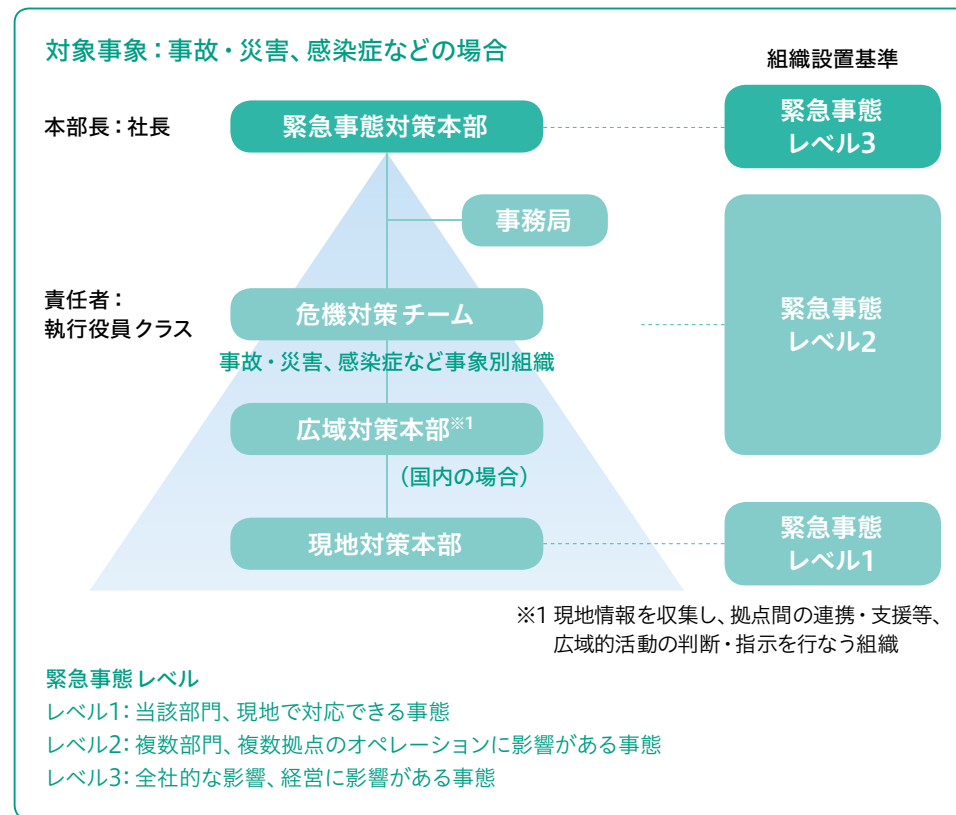


※2017年12月現在

コーポレートリスクの運営



危機発生時の体制(一例)*



* 危機発生時の体制

花王グループでは、発生事象の花王グループに及ぼす影響の重大さから、危機対策チームの責任者が緊急事態レベルを評価し(事故・災害、感染症などの事象発生時にはレベル1~3で評価)、レベルに応じた組織を設置して発生事象に対応します。

教育と浸透

部門、子会社、関係会社のリスク管理については、リスク・危機管理委員会で決められた、主要リスクの管理体制と対応方針を各組織に周知し、また、各組織に対してリスク調査を実施することで、定期的に重要リスクの洗い出しと、対応策の策定と見直しを進め、リスク管理の定着を図っています。

社内ポータルサイトなどを用いて、主要リスクが顕在化した際の緊急連絡先や対応体制を示すと共に、海外安全、感染症、情報セキュリティなどに関して、定期的に情報提供を行ない、また、必要に応じて注意喚起を行なうことで、危機意識を高め、リスクカルチャーの醸成を図っています。

一方、危機発生時の対応力を向上するために、緊急事態対応訓練、総合防災訓練、安否確認訓練、社外対応訓練などを実施しています。

これらの啓発活動と訓練は、社員だけでなく経営層も対象として実施しており、得られた課題と事業環境の変化を踏まえて、内容を見直し、危機管理能力の向上に努めています。

中長期目標と実績

花王グループ中期経営計画「K20」を推進する上で、リスクと危機の管理を、一段高いレベルで進めることが求められます。

このため、コーポレートリスク対応の実践力の強化、

2017年の実績

2017年は、リスク・危機管理委員会での進捗管理のもと、コーポレートリスク対応の実践力の強化を進めました。コーポレートリスクには、大規模地震などの自然災害やパンデミックなどの事業継続に影響を与えるリスクだけでなく、経営戦略にかかわるリスクなども含まれています。

海外の子会社・関係会社のリスク対応の強化としては、新たに各社の重要リスクを選定し、各社経営層が対応策のPDCAを推進する体制を整えました。

危機発生時の対応力の強化としては、コーポレートリスクを含む重要リスクについては、ガイドライン、行動計画の策定と見直しを行ない、社内への周知と運用体制の整備を進めました。また、情報の収集体制と分析力を高めるとともに、危機発生時の対応訓練を実施することで、対応力の強化を図りました。

啓発活動としては、社内ポータルサイトを用いて、社

海外の子会社・関係会社のリスク対応の推進、および危機発生時の対応力の強化により、実効性の高いリスクと危機の管理をめざします。

員の危機意識の醸成に努めました。具体的には顕在化したリスクへの注意喚起を行なうだけでなく、リスクに関する正しい理解と危機発生時に適切かつ迅速に対応できることを目的に、「危機管理通信」を月1回掲載し、テロ、大規模地震、パンデミックへの対応、ソーシャルメディア使用時の注意点などの情報を提供しました。

2017年の主な訓練

- ・総合防災訓練(国内外の主要工場で実施)
- ・大規模地震を想定した、緊急事態対応訓練(国内2回実施)
- ・大規模地震を想定した、安否確認訓練(国内グループ全社員を対象に2回実施)
- ・海外拠点から日本本社への緊急時通報訓練(海外25拠点にて実施)

花王のアプローチ

花王は、社会から信頼され、支持される企業となることをめざし、株主・投資家をはじめとするすべてのステークホルダーの皆さまに適時正確かつ公平に情報を開示します。また、会社法、金融商品取引法、東京証券取引所の定める規則、その他会社情報の開示に関する法令・規則等を遵守し、これらに従って情報を迅速に開示するほか、花王グループに関する社会的に有用な情報についても、積極的に開示します。

方針

情報開示

情報開示に関しては、「情報開示指針」に則り、適時正確かつ公平に情報開示することを基本方針としています。株式会社東京証券取引所の「有価証券上場規程」に基づき、開示義務のある情報を日英両文でTDnet※を通じて公開するとともに、フェア・ディスクロージャー観点から、株主や投資家に有用な情報を当社ウェブサイト上の「投資家情報」ページに掲載しています。

今後も経営トップのメッセージ発信の強化、国内外の機関投資家との対話強化など、戦略的な情報発信の強化を図り、持続的な企業価値向上をめざします。

※ TDnet (Timely Disclosure network)

適時開示情報伝達システム。上場会社の情報を投資者などにリアルタイムで配信する東京証券取引所のサービス。



→詳細は「投資家情報」

<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations.html>

→情報開示指針

<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/management-information/disclosure.html>

株主や機関投資家との対話

企業価値の向上のためには、株主や機関投資家との対話を通じて、双方の考えや立場についての理解を深め、適切に対応することが重要と考えています。そのため、株主との積極的な対話を促進するための体制を整備し、個人株主や国内外の機関投資家との対話の機会を積極的に設けています。対話の際には、株主の意見等を適切に経営に反映させるため、できる限り経営陣が参加することとしています。

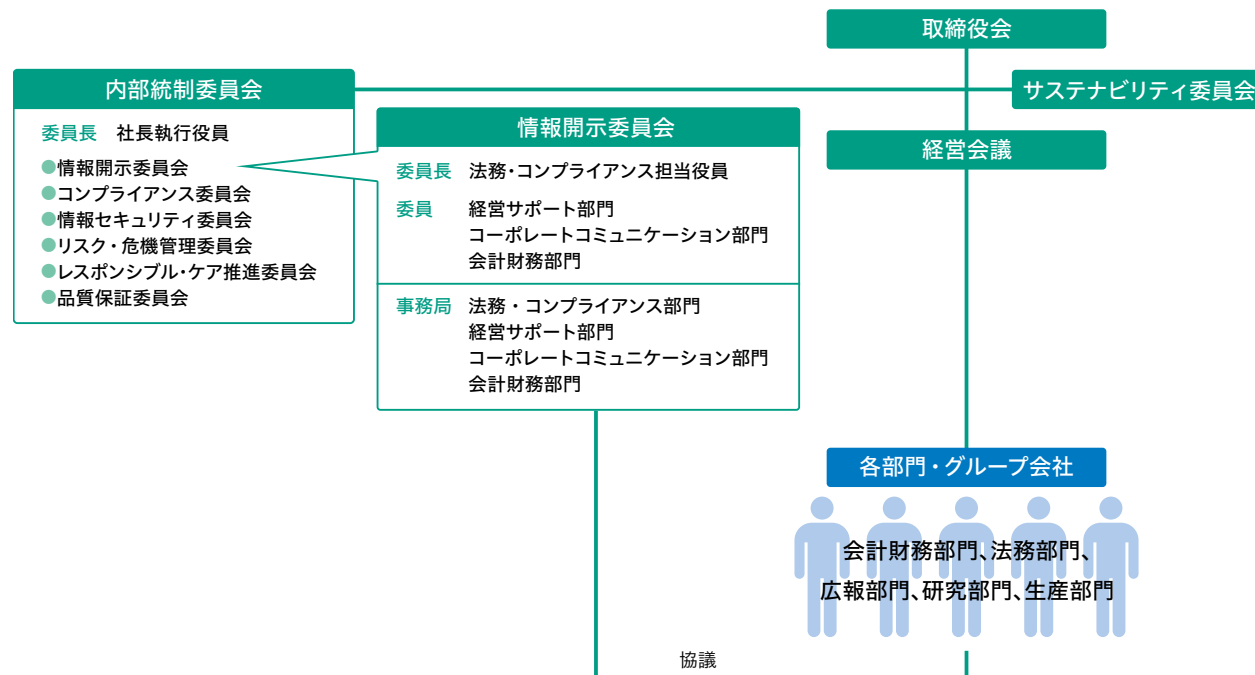
また、個人投資家に向けては、主にウェブサイトを実施させることで、正確かつ公平な情報開示を行なっています。

体制

重要な会社情報は、子会社に関わる情報も含めて決定事実、発生事実および決算情報のいずれの場合も、情報開示委員会事務局のもとで一元管理する体制をとっています。情報開示委員会は、重要な会社情報について、会計財務、法務、広報、研究および生産等の関連部門と協議のうえ、適時開示情報に該当するか否かの判断を東京証券取引所の「有価証券上場規程」に従って行ない、代表取締役社長執行役員（不在の場合は他の代表取締役および東京証券取引所に当社の情報取扱責任者として届け出ている役職員）の承認を得て、その公表の内容、時期および方法について決定します。

この決定を受けて、情報開示は原則として、代表取締役またはその委任を受けた者が行ない、当社の広報を担当する部門がこれを管理しています。公表の方法は、TDnetへの登録および必要に応じて記者会見、資料投函などの方法をとっています。なお、TDnetに登録した情報は、すべて当社ウェブサイトにも掲載しています。

情報開示の管理体制



教育と浸透

2017年は、インサイダー取引規制・事前届出対象者に、インサイダー取引に関する正しい知識を身につけてもらうことを目的として、日本取引所グループが監修・制作したインサイダー取引規制に関するeラーニングを実施しました。

中長期目標と実績

2017年の実績

1. 適時正確かつ公平な情報開示

- ・TDnetおよび当社ウェブサイト上の「投資家情報」での掲載や、必要に応じて記者会見や資料投函等による情報開示を行ないました。
- ・東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」の各原則の実施状況を記載した「コーポレート・ガバナンスに関する報告書」を3回更新しました。

2. 株主・投資家との対話の強化

- ・株主向け会社施設見学会(12回)
- ・株主向け会社概況説明会(1回)
- ・アナリスト・機関投資家向け説明会(2回)
- ・ESGについての意見交換(21回)
- ・ガバナンスをテーマにしたロードショー(米国)
- ・決算説明会(上期決算発表日・年度決算発表日)
- ・海外ロードショー(米国・欧州・アジア)
- ・社長スモールミーティング(2回)
- ・取材(国内・海外約310件)
- ・ウェブサイト上での情報開示
- ・上半期・期末「株主のみなさまへ」(日本語)の発行
- ・統合レポートの発行
- ・ファイナンシャルレポート(英語)のPDF版のウェブサイトでの開示

具体的な取り組み

株主総会の活性化と議決権行使の円滑化を推進

株主の皆さまが株主総会の議案を十分に審議していただけるよう、花王は毎年、招集通知の早期発送に努めています。さらに、招集通知の発送に先駆け、TDnetおよび当社ウェブサイトにて議案を掲載し、全株式の半数近くを所有する外国人株主の皆さまに対しても迅速かつ公平に情報開示を行なうため、英訳(要約)も同時に掲載しています。

また、より多くの株主に議決権を行使していただくため、インターネットおよび株式会社ICJが運営する機関投資家向け議決権電子行使プラットフォームを含む電磁的方法による議決権行使を導入しています。

招集通知については、法定記載事項のみならず、株主が適切な判断を行なうことに資すると考えられる情報を積極的に盛り込むべく常に見直しを行ない、記載内容の充実を図るよう努めています。また、招集通知の記載内容は必要に応じて機関投資家等との対話を通じて説明を行なっています。

株主総会の議場では、映像資料を用いて、事業報告の概要や重要課題、中長期の展望について株主にわかり

やすく説明し、丁寧な質疑応答を行なっています。また、株主総会終了後に、希望する株主と役員との懇談の機会を設けています。

株主総会終了後には、当社ウェブサイトにて議場での説明内容や議決権行使結果を和英両文で掲載しています。

第112期定時株主総会(2018年3月開催)

出席株主数2,027人

個人株主との対話の促進

2017年は、6月に株主向け「花王ミュージアム見学会」「川崎工場見学会」「花王エコラボミュージアム(和歌山)見学会」を計7日間開催し、463人の方々にご参加いただきました。

見学会では1時間程度の施設見学のア後に、当社の執行役員から業績および2017年度の取り組みと花王グループ中期経営計画「K20」の方向性、株主還元状況等の説明を行ない、その後質問に答えました。見学会に出席された皆さまからは、「今後めざすもの、方向性がよく理解できた」「花王の商品を使いエコ活動にも協力していきたい」など好意的なご意見を数多くいただきました。

また、8月に大阪で初めて会社説明会を開催しました。これは、東京で開催される株主総会への出席が難しい地域のお住まいの株主と経営幹部が直接対話することを目的としたものです。たくさんの応募があり、株主の皆さまの関心が高いことを実感しました。当日は社長から中期経営計画や、花王の研究開発について説明し、その後、総勢7名の執行役員が質問に答えました。参加者からは「普段会えない経営者の話が聞けて良か

った」「商品の科学的根拠などを説明してもらい参考になった」等のお声をいただきました。

今後も株主の皆さまのご意見を取り入れながら、さらにご満足いただける企画を立案・実施していきます。

機関投資家との対話の促進

第1・第3四半期に決算電話会議を実施

2017年は上期と年度の決算説明会に加え、新たに第1四半期と第3四半期に電話会議を実施し、会計財務部門を担当する執行役員と管理部長による決算の概要説明と質疑応答を行ないました。従来はウェブサイトのみの開示にとどまっていたが、双方向のコミュニケーションの機会を設けたことで、機関投資家・アナリストから、より一層の理解が深まったとの評価を受けました。

また、フェア・ディスクロージャーの観点から、決算発表後速やかに質疑応答の要旨を日英両文で開示し、広く情報発信を行ないました。



→決算電話会議資料と質疑応答要旨
<http://www.kao.com/jp/corporate/investor-relations/library/presentations/>

ESGをテーマとした意見交換を実施

花王では、複数の国内機関投資家とESGの考え方や情報開示について、IR担当者、法務担当者、サステナビリティ推進担当者が一緒に意見交換を行なっています。花王は、これを機関投資家のご意見を直接聞く機会として重要なミーティングと位置づけています。2017年のミーティングでは、花王の人権やパーム油関連の取り組みなどについて評価をいただきました。これらを通じて得られたフィードバックや知見をもとに、さらにESGの取り組みや情報開示の改善を実施し、対話の深化に努めていきます。

また、コーポレート・ガバナンスを担当する執行役員が米国の機関投資家を訪問し、意見交換を行ないました。花王のコーポレート・ガバナンスの考え方、体制などについて対面で説明を行ない、欧米では馴染みの薄い監査役制度を中心に、より一層の理解を深めていただきました。一方で、監査役など日本特有の制度が海外へ十分に届いていないという課題も見つかったため、各団体とより緊密に協力しながら情報発信を行なっています。

花王のアプローチ

花王グループでは情報セキュリティポリシーのもと、機密情報(トレードシークレット)・個人情報およびハードウェア・ソフトウェア・各種データファイル等の情報資産の保護を目的とした情報セキュリティ委員会を設けています。委員会での議論を踏まえ、社内ルールの制定や内部管理の徹底と遵守のための管理体制を整備し、社員への啓発活動を実施しています。

社会的課題と花王が提供する価値

企業は機密情報や個人情報を活用し、自社の独自性を発揮することで事業活動を行なっています。また、ITを活用し受発注・売上計上業務や決算プロセス、研究開発・生産活動等の事業活動を行なっています。そのため、内部犯行による情報漏洩やサイバー攻撃に対する対策が重要な経営課題となっています。

花王では内部犯行による情報漏洩の防止策として、企業理念の「花王ウェイ」の実践、企業行動規範である「花王 ビジネス コンダクト ガイドライン」の周知徹底、マネジメント層からのメッセージ発信、モニタリングによる牽制、不正競争防止法等を含めた啓発活動を行なっています。

外部犯行に対しては、社会問題化しているサイバー攻撃に対して、技術的・人的対策を講じています。

貢献する SDGs



方針

花王は、法令や各省庁・委員会のガイドラインを遵守するために「情報セキュリティポリシー」「機密情報取扱いガイドライン」「個人情報取扱いガイドライン」「ITセキュリティガイドライン」を制定しています。

機密情報保護に関しては、営業秘密として法的保護を受けることができるように経済産業省の指針やハンドブック等に沿ってルールの規定とそれに基づく管理を行ない、定期的に自己点検を実施しています。

個人情報保護に関しては、所管の個人情報保護委員会等のガイドラインに則り厳格に管理しています。個人情報に関する業務を外部に委託する場合には、委託先に対して契約・個人情報取扱いに関する覚書の締結、監査の実施などを徹底しています。従業員の個人情報保護についても、監督省庁・委員会のガイドラインに則り適切に管理しています。

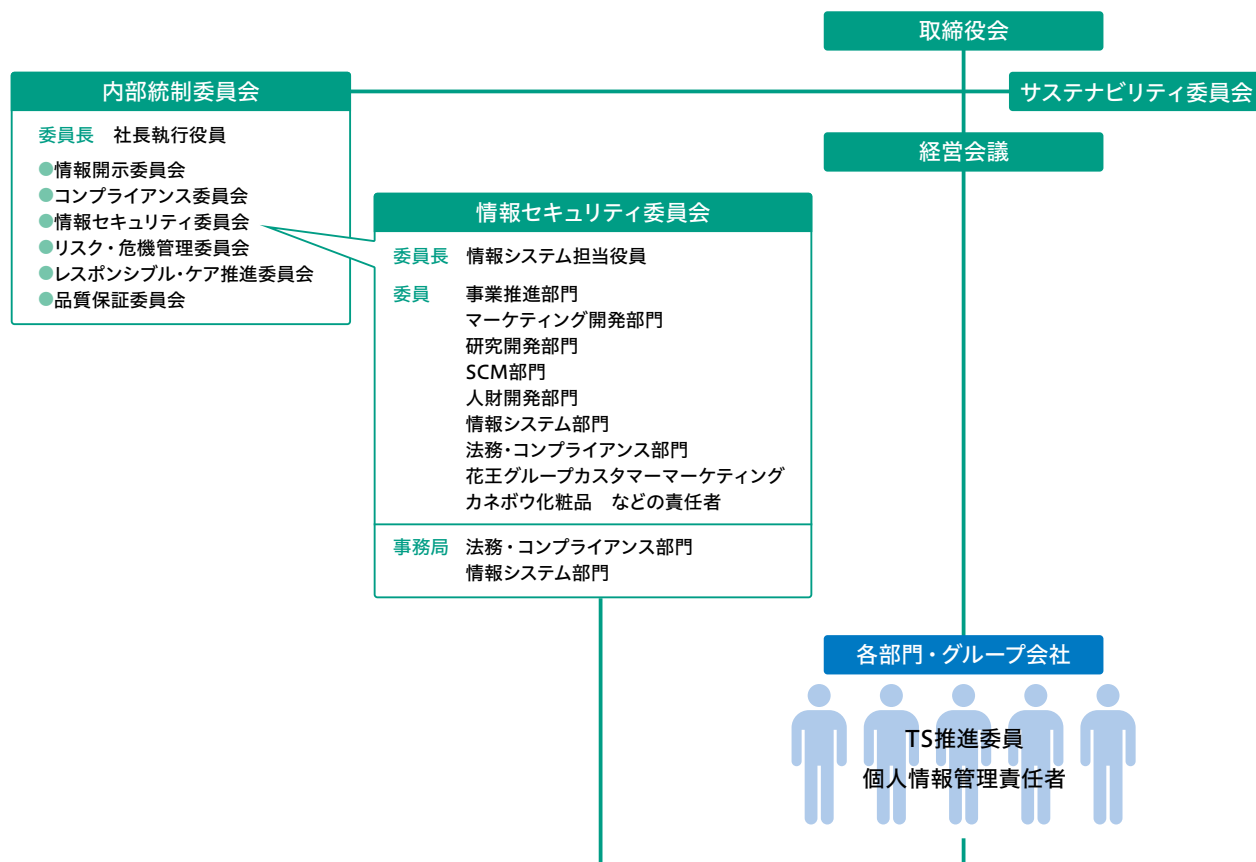
体制

経済産業省が2016年2月に公表した「秘密情報の保護ハンドブック」によると、経営層が率先して社内体制の構築に関与するとともに知的財産、人事・労務、情報セキュリティ、法務など多様な観点からの対策が必要であるとされています。そして、秘密情報はすべての部門に存在することが考えられるとされています。

花王では、情報セキュリティ委員会委員長と委員長代行に経営層を配置し、人財開発、情報システム、マーケティング、知的財産、生産技術、法務・コンプライアンス等の多様な部門から委員と事務局を選出し、多様な観点で社内ルールの制定や管理体制を整備、啓発活動を実施しています。

また、各部門でトレードシークレット(TS)推進委員、個人情報管理責任者を任命し、啓発活動や自己点検を中心にPDCAサイクルによる機密情報や個人情報の保護活動を行なっています。

情報セキュリティの管理体制



※2017年12月現在

教育と浸透

社内教育は各部門での実施を基本としています。そのため、機密情報や個人情報の保護推進の徹底のためにトレードシークレット(TS)推進委員や個人情報管理責任者に対して外部講師による講演や最新動向の周知を行なっています。また、各部門での教育のための啓発資料をTS推進委員や個人情報管理責任者に提供しています。全社員向けには社内ポータルサイトによる注意喚起や啓発も行なっています。

さらに、社内教育の浸透度を測るために、自己点検によるチェックを行なっています。自己点検によるチェックで課題を抽出し、改善目標を設定、改善活動を推進しています。

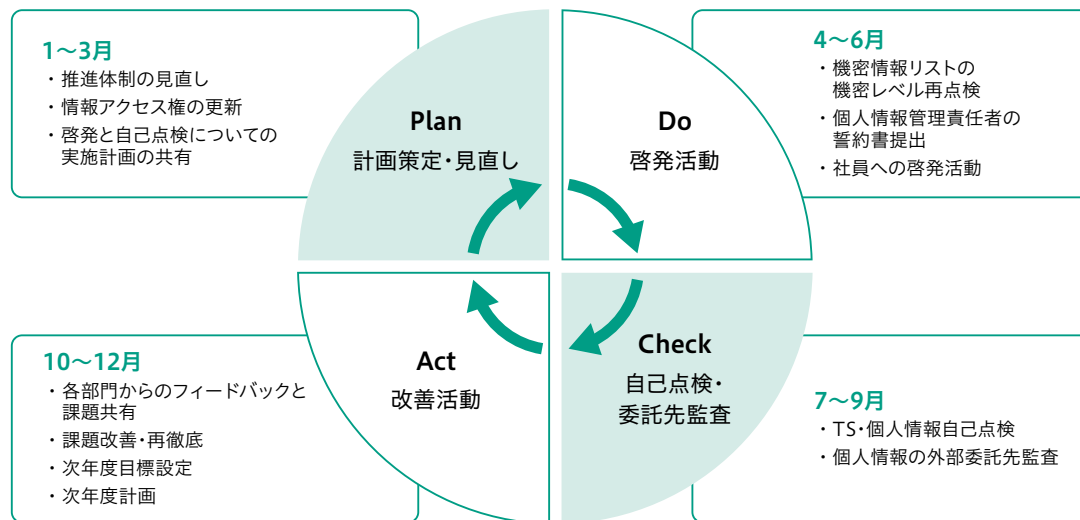
中長期目標と実績

日本では、サイバー攻撃に対する対策、機密情報・個人情報保護の保護、PC・スマートフォン・ネットワーク等の適正利用を情報セキュリティのマネジメントサイクルとして標準化して推進しています。第1四半期：計画策定・見直し、第2四半期：啓発活動、第3四半期：自己点検・委託先監査、第4四半期：改善活動という四半期サイクルです。

このPDCAサイクルで活動することにより、サイバー攻撃や機密情報・個人情報の事故等のインシデントの発生を未然に防げる体質に変革していきます。また、もしインシデントが発生した場合でも、適切に対応できるようにインシデント発生時の対応体制や対応プロセスを構築していきます。

一方、アジア・米州・欧州各国の法律に対応した規程や体制の整備支援も進めています。また、サイバー攻撃対策については、ITセキュリティのアセスメントを実施し、現状を把握し、課題を抽出し、改善を進め、グローバルでの情報セキュリティのレベルアップをめざします。

情報セキュリティ活動のPDCA



2017年の実績

情報セキュリティのマネジメントサイクルとして以下の活動を実施しました。

第1四半期:計画策定・見直し

- ・「個人情報取扱いガイドライン」改定
(2017年5月30日の改正個人情報保護法全面施行に対応)
- ・体制・情報アクセス権見直し:
組織変更や人事異動による役割変更に伴って、新体制での活動を円滑に行なえるように、トレードシークレット(TS)推進委員40名、個人情報管理責任者47名、情報セキュリティ委員会委員2名の情報アクセス権を設定。

第2四半期:啓発活動

- ・個人情報取扱いガイドライン改定説明会の実施
(653名参加)
- ・情報セキュリティ啓発資料の発行

第3四半期:自己点検・委託先監査

- ・機密情報の「自主パトロール」で自己点検を実施
- ・個人情報の「自主パトロール」で自己点検を実施
- ・個人情報委託先書面監査を実施

第4四半期:改善活動

- ・「第24回TS・個人情報保護推進会議」を開催
2017年の機密情報・個人情報に関する事故報告および「自主パトロール」のフィードバックと改善目標の設定
- ・「海外セキュリティアセスメント」の再開

ステークホルダーとの協働

化学製品製造業者等により構成される業界団体である一般社団法人日本化学工業協会の「情報セキュリティ対応部会」に参加することで、化学業界での情報セキュリティの向上に貢献しています。

また、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が主催する「サイバー情報共有イニシアティブ(J-CSIP)」と警察庁が主催する「サイバーインテリジェンス情報共有ネットワーク」の2つのサイバー攻撃に対する情報共有ネットワークに加えて、2017年からJPCERT コーディネーションセンターが提供する「早期警戒情報」にも参加しました。これらの情報共有ネットワークからソフトウェアの脆弱性情報やサイバー攻撃の情報を入手するだけでなく、花王が受けたサイバー攻撃の情報を開示・共有することで日本のサイバーセキュリティ対策に貢献しています。

具体的な取り組み

第1四半期：計画策定・見直し

「個人情報取扱いガイドライン」改定

日本では2016年の「マイナンバー制度」の導入に引き続き、2017年5月30日から「改正個人情報保護法」が全面施行されました。この対応として2017年3月14日に花王の「個人情報取扱いガイドライン」を改定しました。

改定のポイントは、個人情報の定義(氏名・性別・生年月日等に加え、特定の個人が識別できるDNA、指紋、静脈等も含まれる)、要配慮個人情報(人種・民族・思想・信仰・病歴・犯罪歴等)、第三者提供(記録の保存)、匿名加工情報の取り扱いです。

個人情報漏洩時対応

日本では、2016年にコーポレートリスクとして個人情報漏洩時対応に取り組みました。情報セキュリティ委員会事務局が中心となって、対応体制の構築、インシデント発生時の対応フローを作成しました。これにより、情報セキュリティ委員会委員長への報告ルートを含めた個人情報漏洩時対応フローが整備されています。また、過去の大きな個人情報漏洩事件を題材に机上シミュレーション訓練を行ないました。

2017年には、花王グループでの事故発生シナリオを作成し、机上シミュレーション訓練を行ないました。

第2四半期：啓発活動

個人情報取扱いガイドライン改定説明会

2017年3月14日の社内規程の「個人情報取扱いガイドライン」の改定承認を受けて、個人情報を扱う部門がある日本の事業場を中心に「個人情報取扱いガイドライン改定説明会」を実施しました。

茅場町事業場3回、すみだ事業場2回、栃木事業場・小田原事業場各1回の合計7回の実施で、ウェブ会議での参加者を含めて653名の参加となりました。改定のポイントを具体的なビジネスシーンに落とし込んだ説明を行ないました。説明会では多数の質問があり、個別のケースにも十分な説明ができました。この説明会により改正個人情報保護法への対応準備が整いました。

第2四半期：啓発活動

情報セキュリティ啓発資料の発行

花王グループの日本で使用する従業員向けの情報セキュリティ啓発資料を2017年5月に発行しました。情報セキュリティに関する規程の「機密情報取扱いガイドライン」「個人情報取扱いガイドライン」「ITセキュリティガイドライン」のポイントをわかりやすく説明することで、規程に対する理解を深めることが目的です。左側に説明を簡潔に記述し、右側にイメージ図を掲載してわかりやすく解説しています。

当資料は社内ポータルサイトで公開し、トレードシークレット(TS)推進委員や個人情報管理責任者にメールで案内を行ない、各部門での啓発活動に活用できるようにしました。



従業員向け情報セキュリティ啓発資料

第3四半期：自己点検・委託先監査

機密情報と個人情報の「自主パトロール」で自己点検を実施

情報セキュリティ啓発資料発行に伴い、機密情報と個人情報の「自主パトロール」の設問を大幅に見直しました。啓発資料の内容が理解され、実践されることが重要なので、啓発資料の内容を確認する設問に変更しました。

個人情報委託先書面監査を実施

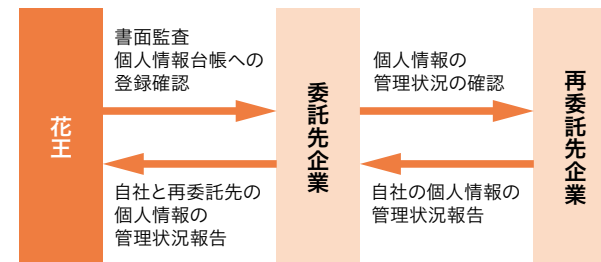
個人情報に関する業務を外部に委託している場合、委託先の管理・監督義務があります。日本花王グループでは、個人情報保護法を遵守して、毎年、書面監査にて委託先を管理・監督しています。2017年は162社に対して委託先書面監査を実施し、個人情報の管理状況を確認しました。また、2017年から再委託先以降とその委託業務内容を記述してもらい、再委託先以降の把握も行なっています。

2016年から実施している、委託先で保存している個人情報の台帳への登録確認も継続して行なうことで管理を強化しています。

花王のアプローチ

具体的な取り組み

個人情報委託先監査



第4四半期:改善活動

「第24回トレードシークレット(TS)・個人情報保護推進会議」を開催

2017年11月14日に「第24回TS・個人情報保護推進会議」を開催しました。目的はTS推進委員や個人情報管理責任者に外部講演により新たな知見を身に付けてもらうこと、2017年の事故発生状況の確認、「自主パトロール」のフィードバックと課題抽出、課題に対する改善目標の設定です。

GDPR対応プロジェクト

EUの一般データ保護規則(GDPR: General Data Protection Regulation)が2018年5月25日に施行されます。GDPRは個人データの処理と移転に関する法律で、厳しい規制と罰則が特徴となっています。

花王グループではGDPRの対応を欧州花王グループが中心となって法務・人財開発・情報システム等のさまざまな部門がプロジェクト体制を編成して推進しています。

GDPRではEEA(欧州経済領域)から域外への個人データの移転は原則禁止となっています。そのため、花王グループは標準契約条項(Standard Contract Clauses)を利用して対応を進めています。

中国サイバーセキュリティ法対応

2017年6月1日に中国で施行された「中国サイバーセキュリティ法」では、越境移転の有無にかかわらず中国で収集した個人データは中国国内での保存が義務付けられています。花王グループでは、化粧品事業を中心に顧客データを保有しているため対応が必要です。顧客データのデータベースは日本に設置しているため、新たに中国にデータベースを設置します。中国国内で収集した顧客データはこのデータベースに保管します。この対応への猶予期間は2018年12月31日までとなっているため、2018年中に対応を完了する必要があります。

「海外セキュリティアセスメント」の再開

花王グループでは、2000年代までITのセキュリティアセスメントを行なっていました。近年、サイバー攻撃が世界中で猛威を振るっているため、海外セキュリティアセスメントを再開し、花王グループ全体のセキュリティ対策を強化していきます。チェック項目は158項目で、外部のIT安全性評価を参考に作成しています。

花王のアプローチ

花王では、「知的財産(知財)を通じた事業貢献」を実現すべく、知的財産部と各研究所との協働により研究開発成果の保護と権利活用に取り組んでいます。

社会的課題と花王が提供する価値

研究開発のグローバル化の進展に伴って、花王(株)および国内外グループ会社での一体となった知財活動が従来以上に求められており、それに応えるべく知財活動における連携を強化しています。

また、知財戦略に基づくオープンイノベーションの加速を担保すべく、技術契約の支援機能を強化しています。

貢献するSDGs



方針

花王では、研究開発の成果やブランド等の象徴として考えたネーミングを、特許権、意匠権、商標権などの「産業財産権」として確保し、事業活動を推進しています。

アジア・米州・欧州でも積極的な権利取得を進め、国内外共に他社による権利の侵害があった場合は、法令に則り厳正に対処しています。近年は、アジア地域を中心とした模倣品対策にも注力しています。

一方で、研究開発の初期段階から他社の産業財産権を侵害しないように開発を進める、新製品の発売前に再度、他社特許等を確認し、必要に応じて対応するなど、他社の権利を尊重し、侵害しないしくみをグローバルで強化しています。

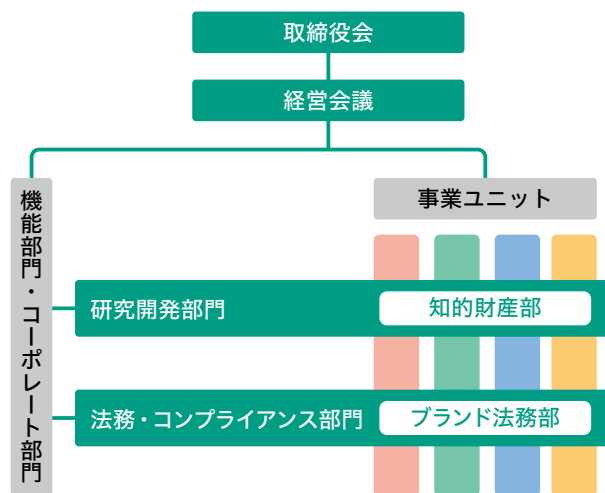
体制

研究開発部門の知的財産部と法務・コンプライアンス部門のブランド法務部とが両輪となって、事業分野の知的財産権を横断的に管理しています。

技術開発力の観点から企業価値の指標となる特許権および技術に基づく意匠権については、知的財産部が中心となり、幅広い分野で戦略的出願を進めています。

デザインに基づく意匠権および商標権については、ブランド法務部が事業部門と密接に協力し、費用対効果を勘案しながら出願や管理を担当しています。

産業財産権管理体制



※2017年12月現在

教育と浸透

研究員が主体的に知財活動に参加できるよう、経験年数・役割などに応じたきめ細かい知財教育プログラムを用意し、継続的に改善を加えています。2017年にはのべ約750人の研究員が知財教育プログラムに参加しました。

また、教育効率の向上のためにeラーニングを活用しており、アジア・米州・欧州の研究員には知財教育のツールとしてオンライン学習を取り入れました。

中長期目標と実績

主な目標

- ・量と質との両面で最適化された自社特許ポートフォリオを構築し続け、戦略的に活用する。
- ・第三者との知財トラブルの発生防止を効果的・効率的に担保する。

2017年の実績

積極的な発明発掘により、2017年の新規特許出願は前年を上回る出願数となりました。実施許諾による特許ライセンス収入も前年比で増加しました。

Collins Inkjet Corporation (現 花王コリンズ社)、Chimigraf Holding, S.L. (現 花王チミグラフ社)の特許・ノウハウ等を譲渡により取得し、事業の自由度を拡大しました。

ステークホルダーとの協働

知財行政の最新動向を把握するため、日本国特許庁、欧州特許庁、および新興国の管理職と直接対話の機会を持っています。2017年は、インドネシア特許・商標局長との意見交換を行ないました。

また、グローバルな知財実務の理解を深めるため、主要国・地域(欧州・米州・中国・韓国・台湾)および複数の新興国の特許代理人と直接対話の機会を持っています。

具体的な取り組み

他企業との知的財産問題への対応

特許などの知的財産権を重要な経営資源と位置づけ、効果的かつ戦略的な活用に努めています。また、他企業との知財問題については、可能な範囲で話し合いによる解決に努め、必要により特許ライセンス契約による解決を行なっています。

職務発明の報奨

職務発明についての報奨制度は、自社研究員に対して、事業に貢献した重要な発明の創出をたたえ、さらなる発明活動へのモチベーションとする観点から重視しています。報奨の内容は、自社で実施して優れた成果を上げた特許等について与えられる社内実施報奨と、第三者にライセンス供与することで大きな収入が得られた特許等について与えられるライセンス収入報奨からなります。

2017年も発明の社内実施およびライセンス収入に基づく報奨を行ない、花王(株)として制度開始以来18年連続で社内実施およびライセンス収入についての報奨実施を行ないました。報奨授与の式典では毎年、対象発明者に対して社長自ら感謝と激励の言葉をかけています。

なお、職務発明制度は国別に対応しており、アジア・米州・欧州におけるグループ会社での報奨制度の整備も継続して進めました。

産業財産権管理の推進

グローバルでの研究開発の成果を適切な産業財産権として確保することは、“よきモノづくり”をグローバルに実現し、現地の生活者・顧客のニーズに応えるための重要なステップと考えています。そのため、各国の研究員の知財教育をはじめとする、知財活動の支援に注力するとともに、花王(株)および国内外グループ会社の知財担当者間の交流と相互啓発の場を積極的に設け、また共同で仕事を進めるしくみを取り入れています。

グループ会社の増加および各国での発明活動の活発化に伴い、より緊密に各国と連携しつつ知財活動を進めています。2017年には、日本以外では5カ国のグループ会社から新たな特許出願が多数ありました。

新興国での模倣品問題への対応

新興国での事業展開においては、現地で受け入れられる製品ほど、模倣品が急速に広まるリスクがあり、模倣品の実態を把握し適切な対策をとることが重要な課題となります。模倣品の中には安全性が懸念される製品もあり、そのような場合、模倣対象となった花王製品のブランド価値を保護するだけでなく、現地の生活者の健康や安全を守るうえでも、対策が急がれます。

特に、日本と比べて知財関連訴訟の件数が多く、訴訟社会ともいわれる中国においては、模倣品問題の解決のためには訴訟によって毅然とした態度をとることも必要です。模倣品対策の一環として、北京および上海の知識産権法院(知財専門の裁判所)において、花王の保有する特許権が侵害されたことを理由に、現地メーカーに対する差し止め・損害賠償などを求める特許権侵害訴訟を行ないました。

また、模倣品の国内輸入を防止するため、税関の真偽識別研修に講師として参加して模倣品を識別するポイントを税関職員に伝えるなど、輸入される模倣品の摘発(いわゆる水際対策)にも積極的に取り組んでいます。

商標、意匠の管理

花王では、商標権と意匠権(意匠権の一部は知的財産部)については、法務・コンプライアンス部門に属するブランド法務部が担当しています。新規のネーミングやデザインについて、他社の権利を侵害しないよう事前調査を十分に行なうとともに、当社のブランド価値を守るため、より広い権利の確保に努めています。

特に商標業務の機能は事業部門との連携が重要です。そのため、花王(株)本社のほか欧米3カ所に拠点を置き、事業部門との円滑なコミュニケーションをグローバルに図っています。また、開発スケジュールに従いタイムリーにネーミングを決定できるよう、ネーミング創作の開始から商標出願、決定に至るまでの全体スケジュールの立案と進捗の管理も行なっています。

近年増加する模倣品に対しては、ECサイトなど市場の監視を強化するとともに、行政当局やECサイト運営者、業界各社との連携を図り、早期に排除する体制を整えています。

外部表彰

社会のサステナビリティへの貢献をめざす花王グループのさまざまな取り組みは、高い評価を受けています。

エコロジ

受賞年月	表彰対象	表彰名・内容	実施団体
2017/02	花王(株)	化学品管理の自主活動「GPS/JIPS」で顕著な取り組みを行った企業を表彰する制度「JIPS賞」で、最多の「安全性要約書(GSS)」を公開した点が評価され大賞を受賞	一般社団法人 日本化学工業協会
2017/03	花王(株) 和歌山工場	SEGES(社会・環境貢献緑地評価システム)「そだてる緑」において、認定レベルとして5段階評価における最高位である「Superlative Stage」を取得	公益財団法人 都市緑化機構
2017/05	花王(株)	高機能特殊増粘剤「ビスコトップ」が、社会全体の発展や環境の改善に大きく寄与した革新的な科学技術や製品として「第49回技術賞 技術特別賞」を受賞	一般社団法人 日本化学工業協会
2017/06	花王(株)	「水性インクジェット用顔料インクLUNAJET(ルナジェット)」の特許が、水性インクでは難しかったフィルム印刷での高画質化と、サステナブル社会に向けた新市場創出の可能性を評価され、平成29年度全国発明表彰において「発明賞」を受賞	公益社団法人 発明協会
2017/07	花王(株)	「人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学」への貢献が評価され、「紙ベース casting 湯道管の開発」が第16回グリーン・サステナブル ケミストリー賞において「経済産業大臣賞」を受賞	公益社団法人 新化学技術推進協会
2017/08	花王(株)	花王、味の素、イースクエアの3者で活動している「食とくらしのサステナブル・ライフスタイル研究会」と川崎市が共同で開発し、小学生とその保護者を対象に実施した体験型環境教育プログラムが「第11回キッズデザイン賞」を受賞	特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会
2017/08	花王インダストリアル (タイランド)	14項目ある Eco Factory 基準で、80%以上のスコアを獲得したことにより、「Eco Factory Award」を受賞	Ministry of Industry of Thailand
2017/09	花王インダストリアル (タイランド)	IEAT 基準に基づく廃棄物管理で、最高ランクであるプラチナを取得したことにより、「Amata Best Waste Management Awards 2017」を受賞	Industrial Estate Authority of Thailand (IEAT)
2017/09	花王(株) 鹿島工場	「社員の森づくり活動」において、埋立地に生物多様性に富んだ「地域の森」を復活させたこと、森の育成と植樹活動の継続、環境コミュニケーション活動への取り組みが評価され、クールアースいばらき2017大会で「最優秀賞」を受賞	一般社団法人 茨城県環境管理協会
2017/11	花王(株)川崎 工場	「カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略(低炭素社会の構築)」に基づき、CO ₂ 削減への取り組みを表彰する「第6回スマートライフスタイル大賞」において「優秀賞」を受賞	川崎市

コミュニティ

受賞年月	表彰対象	表彰名・内容	実施団体
2017/01	花王(株)	つめかえ用ラクラク eco パックが「誰にでもわかりやすくつめかえやすい」「環境への配慮」を両立した革新的な容器と高く評価され「2016年日優秀製品・サービス賞 優秀賞(日経MJ賞)」を受賞	日本経済新聞社
2017/03	花王(株)	近代化粧品工業の発祥を示す資料として花王石鹸の調合帳と分析証明書が、「第8回化学遺産認定」において、「化学遺産」第042号に認定	公益社団法人 日本化学会
2017/05	花王(株)	環境に配慮し、誰でも簡単につめかえできる点が評価され「ラクラク eco パック」が、品質・使い勝手・つめかえやすさに優れている点で柔軟剤の「フレア フレグランス」が、「ワールドスター賞」を受賞	世界包装機構
2017/08	花王(株)	包装におけるデザイン性、環境適合性、保護・安全性などが評価され、2017日本パッケージングコンテスト「化粧品包装部門賞」「トイレタリー包装部門賞」「日用品・雑貨包装部門賞」を受賞	公益社団法人 日本包装技術協会
2017/09	花王(株)	e コマース「ロハコ」限定の衣類・布・空間用 消臭剤「リセッション」リラックスリネンデザインボトルが、商品ストーリーを感じさせ、暮らしに寄り添うデザイン提案として「Pentaward 2017」で、「Bronze Pentaward 2017」を受賞	Pentaward

エコロジ

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

外部表彰

コーポレート・カルチャー

受賞年月	表彰対象	表彰名・内容	実施団体
2017/02	花王(株)	従業員などの健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業として「健康経営銘柄」に選定	経済産業省および東京証券取引所
2017/02	花王(株)	保険者と連携して優良な健康経営を実践している法人として「健康経営優良法人(ホワイト500)」に選定	経済産業省および日本健康会議
2017/03	花王(株)	企業倫理、ガバナンス、社会的責任、市民活動、企業風土の観点から、倫理的に優れた企業を顕彰する「世界で最も倫理的な企業2017」に11年連続選定	Ethisphere Institute
2017/03	花王(株)	PDCAサイクルで社員の健康度を上げていく取り組みや、健康課題の改善に向けて社内外の協力体制を構築していることが評価され「DBJ健康経営(ヘルスマネジメント)格付」で二度目の最高ランクを取得	日本政策投資銀行(DBJ)
2017/05	花王(株)	女性をはじめとした多くの社員が働きやすい環境が評価され、「女性が活躍する会社BEST100」総合4位、ダイバーシティ浸透度1位に	『日経WOMAN』および日本経済新聞社グループ
2017/08	ピリピナス花王(フィリピン)	工場周辺地域での火災の際に自衛消防隊が出動し消火の援助を実施したことにより、「Volunteer Fire Brigade Company」賞を受賞	Bureau of Fire Protection, Regional Headquarters-10, Cagayan de Oro City
2017/08	花王(合肥)	2012年に合肥工場が稼働して以来、日本同様の品質管理技術を伝承するとともに、積極的な人材の育成を実施することにより経済開発区の発展に大きく貢献したことが評価され「第一回経済技術開発区友好賞」を受賞	安徽省合肥市経済技術開発区労働局
2017/10	花王(株)和歌山工場	グローバル人材育成のための教育システムの整備や、そのシステムをグローバルの教育拠点として機能させている点が高く評価され、「GOOD FACTORY賞」の「ものづくり人材育成貢献賞」を受賞	一般社団法人日本能率協会
2017/10	花王ロジスティクス(株)	生産性向上、物流コストの低減の実現の結果、社員の作業環境改善と継続した運営の実現が評価され、「2017年度ロジスティクス大賞」において「奨励賞」を受賞	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ガバナンス

受賞年月	表彰対象	表彰名・内容	実施団体
2017/01	花王(株)	投資者の視点を深く組み込んで企業価値の向上をめざすなど、東証市場の魅力向上に資すると認められる経営を実践しているとして、第5回「企業価値向上表彰」で大賞を受賞	東京証券取引所
2017/02	花王(株)	コーポレートガバナンスというしくみを上手に使い、自社をインベティブに改革し、健全な成長を実現していることが評価され「コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2016」を受賞	日本取締役協会
2017/05	花王(株)和歌山工場	化学プラント設備の保安力強化として危険源管理のしくみに焦点をあてた安全・安定操業への貢献活動が高く評価され、「第11回レスポンシブル・ケア賞 優秀賞」を受賞	一般社団法人日本化学工業協会
2017/09	花王製紙富士(株)	火災発生時に迅速かつ確実な初期対応ができるように、初期消火技術の向上と防火意識を高め、自主防災体制の確立を図ることを目的とする消火技術競技大会において、屋内消火栓操法 男子の部で3位受賞	静岡県富士市
2017/10	花王(株)栃木工場	死亡災害および休業1日以上は無災害記録のべ1,520万時間(2002年9月1日~2017年6月28日)を達成し、厚生労働省から無災害記録証第5種を授与	厚生労働省
2017/12	花王インダストリアル(タイランド)	すべての項目を包含したRC自己点検で高得点を取得するとともに、継続したKPIの報告により「Responsible Care Silver Award」を受賞	Responsible Care Management Committee of Thailand (RCMCT)

SRI インデックスへの組み入れおよび評価

最新の組み入れ状況はウェブサイトでご確認いただけます。



→ SRI インデックスへの組み入れおよび評価(随時更新します)
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/recognition/>

社会への宣言

社会への宣言はウェブサイトでご確認いただけます。




→ 社会への宣言
<http://www.kao.com/jp/corporate/sustainability/declaration/>

エ
コ
ロ
ジ
ー

コ
ミ
ュ
ニ
ティ

コ
ー
ポ
レ
ー
ト
・
カ
ル
チ
ャ
ー

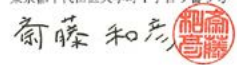
ガ
バ
ナ
ン
ス



独立した第三者保証報告書

2018年4月2日

花王株式会社
代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆 殿

KPMG あずさサステナビリティ株式会社
東京都千代田区大手町1丁目9番5号
代表取締役 

当社は、花王株式会社(以下、「会社」という。)からの委嘱に基づき、会社が作成した花王サステナビリティデータブック2018(以下、「データブック」という。)に記載されている2017年1月1日から2017年12月31日までを対象としたGマークの付されている環境・社会パフォーマンス指標(以下、「指標」という。)に対して限定的保証業務を実施した。

会社の責任
会社が定めた指標の算定・報告基準(以下、「会社の定める基準」という。)データブックに記載。)に従って指標を算定し、表示する責任は会社にある。

当社の責任
当社の責任は、限定的保証業務を実施し、実施した手続に基づいて結論を表明することにある。当社は、国際監査・保証基準審議会の国際保証業務基準 (ISAE)3000「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」、ISAE3410「温室効果ガス情報に対する保証業務」及びサステナビリティ情報審査協会のサステナビリティ情報審査実務指針に準拠して限定的保証業務を実施した。

本保証業務は限定的保証業務であり、主としてデータブック上の開示情報の作成に責任を有するもの等に対する質問、分析的手続等の保証手続を通じて実施され、合理的保証業務における手続と比べて、その種類は異なり、実施の程度は狭く、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。当社の実施した保証手続には以下の手続が含まれる。

- データブックの作成・開示方針についての質問及び会社の定める基準の検討
- 指標に関する算定方法並びに内部統制の整備状況に関する質問
- 集計データに対する分析的手続の実施
- 会社の定める基準に従って指標が把握、集計、開示されているかについて、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施
- リスク分析に基づき選定した愛媛工場及び Kao Corporation Shanghai における現地往査
- 指標の表示の妥当性に関する検討

結論
上述の保証手続の結果、データブックに記載されている指標が、すべての重要な点において、会社の定める基準に従って算定され、表示されていないと認められる事項は発見されなかった。

当社の独立性と品質管理
当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく独立性及びその他の要件を含む、国際会計士倫理基準審議会の公表した「職業会計士の倫理規程」を遵守した。

当社は、国際品質管理基準第 1号に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

以上

本データブックは環境関連データと労働安全衛生関連データに関して、より高い透明性を確保して情報公開を行なうためにKPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。なお、保証対象指標には G マークを表示しています。

保証範囲

花王株式会社および子会社を集計範囲としています。集計範囲が異なる場合は、グラフの注釈および文中に明記しています。

保証対象データ

カテゴリー	データ	該当ページ
CO ₂	エネルギー使用量の推移(全拠点)	P29
	製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の推移(花王グループ)	P29
	温室効果ガス排出量の推移(全拠点)	P29
	製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の推移(日本花王グループ)	P30
	スコープ1 CO ₂ 排出量の推移(千t-CO ₂ e)	P30
	スコープ2 CO ₂ 排出量の推移(千t-CO ₂ e)	P30
	スコープ3 CO ₂ 排出量の推移(千t-CO ₂ e) ※1,4,11,12のみ	P30
	輸送時のCO ₂ 排出量の推移(国内)	P34
水	水使用量(取水量)の推移(全拠点)	P39
	製品使用時の水使用量の推移(日本花王グループ)	P39
	製品ライフサイクル全体の水使用量の推移(花王グループ)	P39
化学物質管理	COD汚濁負荷量の推移(全生産拠点)	P40
	VOC(揮発性有機化合物)排出量(日本花王グループ)	P54
廃棄物	NOx排出量の推移	P54
	廃棄物等のうち再使用・リサイクルされた量	P62
製品ライフサイクルと環境負荷	廃棄物等発生量の推移(全拠点)	P62
	OUTPUT: 原材料購入-CO ₂ 排出量	P71
	OUTPUT: 開発・生産-温室効果ガス排出量	
	OUTPUT: 物流・販売(施設および営業車)-温室効果ガス排出量	
	OUTPUT: 輸送-CO ₂ 排出量	
	OUTPUT: 使用-CO ₂ 排出量	
OUTPUT: 廃棄・リサイクル-CO ₂ 排出量		
労働安全衛生	社員+派遣社員(花王グループ)の休業度数率	P166
	協力会社(花王グループ)の休業度数率	P166

GRI Standards 対照表 102-55

本データブックはGRI サステナビリティ・レポート・スタンダードを参照しています。

一般開示事項

100: 共通スタンダード			
GRI 102: 一般開示事項 2016			
1. 組織のプロフィール			サステナビリティ データブック2018での該当箇所
102-1	組織の名称		●花王グループ概要(レポート外) —
102-2	活動、ブランド、製品、サービス		●花王グループの事業分野(レポート外) —
102-3	本社の所在地		●花王グループ概要(レポート外) —
102-4	事業所の所在地		●花王グループ概要(レポート外) —
102-5	所有形態および法人格		●花王グループ概要(レポート外) —
102-6	参入市場		●花王グループ会社一覧(レポート外) —
102-7	組織の規模		●花王グループ概要(レポート外) —
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報		●ダイバーシティ&インクルージョン:多様な人財の活躍支援 P150
102-9	サプライチェーン		— —
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化		— —
102-11	予防原則または予防的アプローチ		●花王サステナビリティ ステートメント:具体的な活動 ●化学物質管理:社会的課題と花王が提供する価値/方針 ●化学物質管理:化学物質総合管理システム ●化学物質管理:中長期目標と実績 ●法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業):中長期目標と実績 ●保安防災:方針/体制 ●保安防災:防災の監査/保安・防災の強化 ●レスポンス・ケア活動:方針 ●情報セキュリティ:方針/体制 P9 P43 P45 P47 P100 P170 P174 P184 P200
102-12	外部イニシアティブ		●花王サステナビリティ ステートメント:SDGs への貢献 ●各報告の「花王のアプローチ:貢献する SDGs」 P9
102-13	団体の会員資格		— —
2. 戦略			
102-14	上級意思決定者の声明		●トップメッセージ P5
102-15	重要なインパクト、リスク、機会		●花王サステナビリティ ステートメント:サステナビリティ活動を支える理念 P8 ●CO ₂ :社会的課題と花王が提供する価値 P27 ●水:社会的課題と花王が提供する価値 P36 ●化学物質管理:化学物質総合管理システム P45 ●保安防災:方針/体制 P170 ●保安防災:具体的な取り組み P173-174 ●リスクと危機の管理:花王のアプローチ P191-193
3. 倫理と誠実性			
102-16	価値観、理念、行動基準・規範		●花王サステナビリティ ステートメント:サステナビリティ活動を支える理念 P8 ●企業理念の実践のために:方針 P117 ●企業理念の実践のために:具体的な取り組み P120 ●インテグリティ P121-127
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度		●インテグリティ:体制/中長期目標と実績 P122-125 ●インテグリティ:コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用 P127-128

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

GRI Standards 対照表 102-55

100: 共通スタンダード			
GRI 102: 一般開示事項 2016			
4. ガバナンス		サステナビリティ データブック2018での該当箇所	
102-18	ガバナンス構造	●花王サステナビリティ ステートメント: サステナビリティ 推進体制 ●コーポレート・ガバナンス: 取締役および取締役会 ●コーポレート・ガバナンス: ESG 活動推進のために	P12 P177 P182
102-19	権限移譲	●花王サステナビリティ ステートメント: サステナビリティ 推進体制 ●コーポレート・ガバナンス: ESG 活動推進のために	P12 P182
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	●花王サステナビリティ ステートメント: サステナビリティ 推進体制 ●コーポレート・ガバナンス: ESG 活動推進のために	P12 P182
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	—	—
102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	●コーポレート・ガバナンス: コーポレート・ガバナンス/透明性・公正性確保のために	P176-180
102-23	最高ガバナンス機関の議長	●コーポレート・ガバナンス: 選任審査委員会・報酬諮問委員会/独立役員	P179-180
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	●コーポレート・ガバナンス: 選任審査委員会・報酬諮問委員会	P179
102-25	利益相反	●インテグリティ: コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用 ●コーポレート・ガバナンス: 監査役および監査役会	P127 P178
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	●花王サステナビリティ ステートメント: サステナビリティ 推進体制 ●コーポレート・ガバナンス: コーポレート・ガバナンス体制/取締役および取締役会/監査役および監査役会	P12 P176-178
102-27	最高ガバナンス機関の集会的知見	—	—
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	●コーポレート・ガバナンス: 取締役会の実効性評価	P177
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	●花王サステナビリティ ステートメント: 重点取り組みテーマ選定 ●リスクと危機の管理: 体制	P10 P192-193
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	●リスクと危機の管理: 体制	P192-193
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	—	—
102-32	サステナビリティ 報告における最高ガバナンス機関の役割	—	—
102-33	重大な懸念事項の伝達	●リスクと危機の管理: 体制	P192-193
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	●保安防災: 防災の監査	P174 (該当なし)
102-35	報酬方針	●コーポレート・ガバナンス: 企業価値向上への貢献意識を高めるための取締役、執行役員の報酬制度/2017年度の役員報酬の実績	P181-182
102-36	報酬の決定プロセス	●コーポレート・ガバナンス: 企業価値向上への貢献意識を高めるための取締役、執行役員の報酬制度/2017年度の役員報酬の実績	P181-182
102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	●コーポレート・ガバナンス: 企業価値向上への貢献意識を高めるための取締役、執行役員の報酬制度/2017年度の役員報酬の実績	P181-182
102-38	年間報酬総額の比率	—	—
102-39	年間報酬総額比率の増加率	—	—

エ
コ
ロ
ジ
ー

コ
ミ
ュ
ニ
ティ

コ
ー
ポ
レ
ー
ト
・
カ
ル
チ
ャ
ー

ガ
バ
ナ
ン
ス

GRI Standards 対照表 102-55

100: 共通スタンダード				
GRI 102: 一般開示事項 2016				
5. ステークホルダー・エンゲージメント			サステナビリティ データブック2018での該当箇所	
	102-40	ステークホルダー・グループのリスト	●花王サステナビリティ ステートメント:ステークホルダーコミュニケーション	P14
	102-41	団体交渉協定	—	—
	102-42	ステークホルダーの特定および選定	—	—
	102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	●花王サステナビリティ ステートメント:ステークホルダーコミュニケーション	P14
	102-44	提起された重要な項目および懸念	●消費者とのコミュニケーション ●法人顧客とのコミュニケーション(コンシューマープロダクツ事業):中長期目標と実績 ●法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業):中長期目標と実績 ●法人顧客とのコミュニケーション(ケミカル事業):販売代理店との連携 ●社員との対話 ●情報開示	P88-93 P96 P100 P102 P155-157 P195-199
6. 報告実務				
	102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	●花王グループ会社一覧(レポート外)	—
	102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	●花王サステナビリティ ステートメント:重点取り組みテーマ選定	P10
	102-47	マテリアルな項目のリスト	●花王サステナビリティ ステートメント:重要項目マトリックス	P11
	102-48	情報の再記述	●編集方針	P4
	102-49	報告における変更	—	—
	102-50	報告期間	●編集方針	P4
	102-51	前回発行した報告書の日付	●編集方針	P4
	102-52	報告サイクル	●編集方針	P4
	102-53	報告書に関する質問の窓口	—	裏表紙
	102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	—(本データブックはGRIスタンダードを参照しています)	—
	102-55	GRI内容索引	●GRI Standards 対照表	P214
	102-56	外部保証	●編集方針 ●独立保証報告書	P4 P213
GRI103: マネジメント手法 2016				
	103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	●各報告の「花王のアプローチ」	—
	103-2	マネジメント手法とその要素	●主なサステナビリティ指標 ●各報告の「花王のアプローチ」	P15-16
	103-3	マネジメント手法の評価	●主なサステナビリティ指標 ●各報告の「花王のアプローチ」	P15-16

エコロジ

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

GRI Standards 対照表 102-55

マテリアルな項目

200:経済に関するスタンダード					
経済パフォーマンス			サステナビリティ データブック2018での該当箇所		第三者保証 対象指標 (☑)
GRI 201: 経済パフォーマンス 2016	201-1	創出、分配した直接的経済価値	—	—	
	201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	●CO ₂ : 社会的課題と花王が提供する価値	P27	
	201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—	—	
	201-4	政府から受けた資金援助	—	—	
地域経済での存在感					
GRI 202: 地域経済での存在感 2016	202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	—	—	
	202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—	—	
間接的な経済的インパクト					
GRI 203: 間接的な経済的インパクト 2016	203-1	インフラ投資および支援サービス	●環境への取り組み ●社会貢献活動	P25 P110-114	
	203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—	—	
調達慣行					
GRI 204: 調達慣行 2016	204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—	—	
腐敗防止					
GRI 205: 腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—	—	
	205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	●インテグリティ:体制 ●インテグリティ:コンプライアンス通報・相談窓口を設置運用	P122-123 P127	
	205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—	—	
反競争的行為					
GRI 206: 反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—	—	
300:環境に関するスタンダード					
原材料			サステナビリティ データブック2018での該当箇所		第三者保証 対象指標 (☑)
GRI 301: 原材料 2016	301-1	使用原材料の重量または体積	●容器包装:2017年の実績 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P68 P71-72	
	301-2	使用したリサイクル材料	●廃棄物:廃棄物削減(発生量削減と再利用推進)の取り組みを推進 ●容器包装:具体的な取り組み	P64-65 P69-70	
	301-3	再生利用された製品と梱包材	●容器包装:Recycle:再生材料の導入	P70	
エネルギー					
GRI 302: エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	●CO ₂ :2017年の実績 ●製品ライフサイクルと環境負荷	P29 P71-72	☑
	302-2	組織外のエネルギー消費量	—	—	
	302-3	エネルギー原単位	●CO ₂ :2017年の実績	P29	
	302-4	エネルギー消費量の削減	●CO ₂ :2017年の実績 ●CO ₂ :ムダなエネルギーの排除	P29-30 P33	
	302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	●CO ₂ :2017年の実績	P29	

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

GRI Standards 対照表 102-55

300:環境に関するスタンダード					
水		サステナビリティ データブック2018での該当箇所		第三者保証 対象指標 (Z)	
GRI 303: 水 2016	303-1	水源別の取水量	●水:2017年の実績	P39-40 <input checked="" type="checkbox"/>	
	303-2	取水によって著しい影響を受ける水源	●水:方針	P37	
	303-3	リサイクル・リユースした水	—	—	
生物多様性					
GRI 304: 生物多様性 2016	304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、賃借、管理している事業サイト	●生物多様性:具体的な取り組み	P59	
	304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	●生物多様性:社会的課題と花王が提供する価値	P55	
	304-3	生息地の保護・復元	●生物多様性:具体的な取り組み	P59	
	304-4	事業の影響を受ける地域に生息する IUCN レッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—	—	
大気への排出					
GRI 305: 大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1)	●CO ₂ :スコープ1 CO ₂ 排出量の推移 (千t-CO ₂ e)	P30 <input checked="" type="checkbox"/>	
			●CO ₂ :生産(工場・事務所・ロジスティクスセンター)における取り組み	P33	
	305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ2)	●製品ライフサイクルと環境負荷	P71-72 <input checked="" type="checkbox"/>	
			●CO ₂ :スコープ2 CO ₂ 排出量の推移 (千t-CO ₂ e)	P30 <input checked="" type="checkbox"/>	
	305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ3)	●CO ₂ :生産(工場・事務所・ロジスティクスセンター)における取り組み	P33 <input checked="" type="checkbox"/>	
			●製品ライフサイクルと環境負荷	P71-72 <input checked="" type="checkbox"/>	
	305-4	温室効果ガス (GHG) 排出原単位	●CO ₂ :2017年の実績	P29-31 <input checked="" type="checkbox"/>	
●容器包装:2017年の実績			P68		
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	●容器包装:Reuse:つめかえ・つけかえ製品の推進	P70		
		●CO ₂ :2017年の実績	P29-31 <input checked="" type="checkbox"/>		
305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量	●容器包装:2017年の実績	P68		
		●容器包装:具体的な取り組み	P69-70		
305-7	窒素酸化物 (NOx)、硫黄酸化物 (SOx)、およびその他の重大な大気排出物	●CO ₂ :3. 冷媒等の温室効果ガス漏えい量の削減	P33		
排水および廃棄物					
GRI 306: 排水および廃棄物 2016	306-1	排水の水質および排出先	●水:2017年の実績	P40	
	306-2	種類別および処分方法別の廃棄物	●製品ライフサイクルと環境負荷	P71-72	
			●廃棄物:2017年の実績	P62 <input checked="" type="checkbox"/>	
	306-3	重大な漏出	●製品ライフサイクルと環境負荷	P71-72	
	306-4	有害廃棄物の輸送	●水:環境法規制の遵守	P41	
306-5	排水や表面流水によって影響を受ける水域	●廃棄物:2017年の実績	P62		
環境コンプライアンス	GRI 307: 環境コンプライアンス 2016	307-1	環境法規制の違反	●水:開発・生産・販売における取り組み	P41
				●水:製品使用後の排水への取り組み	P42
●水:環境法規制の遵守					

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

GRI Standards 対照表 102-55

300:環境に関するスタンダード				
サプライヤーの環境面のアセスメント			サステナビリティ データブック2018での該当箇所	第三者保証 対象指標 (☑)
GRI 308: サプライヤーの環境面のアセスメント 2016	308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	—	—
	308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂: 原材料購入における取り組み ●水: 原材料購入における取り組み ●水: 製品使用後の排水への取り組み ●廃棄物: 原材料調達における取り組み ●容器包装: 2017年の実績 ●持続可能で責任ある調達 	P32 P41 P42 P64 P68 P134-141
400:社会に関するスタンダード				
雇用			サステナビリティ データブック2018での該当箇所	第三者保証 対象指標 (☑)
GRI 401: 雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	●ダイバーシティ&インクルージョン: 多様な人財の活躍支援	P150
	401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	—	—
	401-3	育児休暇	●ダイバーシティ&インクルージョン: 就業制度の利用状況 (花王(株))	P153
労使関係				
GRI 402: 労使関係 2016	402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	—	—
労働安全衛生				
GRI 403: 労働安全衛生 2016	403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加	—	—
	403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生: 中長期目標と実績 ●保安防災: 中長期目標と実績 	P166-168 P172 ☑(一部データ)
	403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者	—	—
	403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項	—	—
研修と教育				
GRI 404: 研修と教育 2016	404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	●人財育成: 2017年の実績	P147
	404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント: 社員への啓発 ●各報告の「花王のアプローチ: 教育と浸透」 ●人財育成 ●ダイバーシティ&インクルージョン: 花王のアプローチ 	P13 P145-147 P148-149
	404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	—	—
ダイバーシティと機会均等				
GRI 405: ダイバーシティと機会均等 2016	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	●ダイバーシティ&インクルージョン: 多様な人財の活躍支援	P150-151
	405-2	基本給と報酬総額の男女比	—	—
非差別				
GRI 406: 非差別 2016	406-1	差別事例と実施した救済措置	—	—
結社の自由と団体交渉				
GRI 407: 結社の自由と団体交渉 2016	407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	—	—
児童労働				
GRI 408: 児童労働 2016	408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
強制労働				
GRI 409: 強制労働 2016	409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

GRI Standards 対照表 102-55

400:社会に関するスタンダード				
保安慣行			サステナビリティ データブック2018での該当箇所	第三者保証 対象指標 (Z)
GRI 410: 保安慣行 2016	410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—	—
先住民族の権利				
GRI 411: 先住民族の権利 2016	411-1	先住民族の権利を侵害した事例	—	—
人権アセスメント				
GRI 412: 人権アセスメント 2016	412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	●人権:2017年の実績 ●人権:人権デュー・ディリジェンス プロセス	P132 P133
	412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	●インテグリティ:具体的な取り組み ●インテグリティ:2017年の実績	P126-128 P132
	412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約	●インテグリティ:2017年の実績	P132
地域コミュニティ				
GRI 413: 地域コミュニティ 2016	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	●環境への取り組み:さまざまなステークホルダーと協働で消費者(お客さま)への環境啓発を実施	P23-26
	413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所	—	—
サプライヤーの社会面のアセスメント				
GRI 414: サプライヤーの社会面のアセスメント 2016	414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	—	—
	414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	●人権:人権デュー・ディリジェンス プロセス ●持続可能で責任ある調達	P133 P134-141
公共政策				
GRI 415: 公共政策 2016	415-1	政治献金	●インテグリティ	P127 (該当なし)
顧客の安全衛生				
GRI 416: 顧客の安全衛生 2016	416-1	製品およびサービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	●品質保証:具体的な取り組み ●ユニバーサルデザイン:2017年の実績 ●ユニバーサルデザイン:新しい製品安全図記号の開発に貢献 ●法人顧客とのコミュニケーション(プロフェッショナル・サービス事業):具体的な取り組み	P80-81 P84 P87 P106-107
	416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	●品質保証:具体的な取り組み	P80-81
マーケティングとラベリング				
GRI 417: マーケティングとラベリング 2016	417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	●環境への取り組み:2017年の実績 ●環境への取り組み:環境に配慮した製品の設計 ●CO ₂ :開発・生産・販売における取り組み ●ユニバーサルデザイン:2017年の実績 ●ユニバーサルデザイン:「つめかえ用ラクラク ecoバック」の広がり ●消費者とのコミュニケーション:体制 ●消費者とのコミュニケーション:中長期目標と実績 ●消費者とのコミュニケーション:ウェブサイトを活用した情報の発信	P21 P22 P32 P84 P85 P89 P90 P92
	417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	—	—
	417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—	—
顧客プライバシー				
GRI 418: 顧客プライバシー 2016	418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	—	—
社会経済面のコンプライアンス				
GRI 419: 社会経済面のコンプライアンス 2016	419-1	社会経済分野の法規制違反	●インテグリティ:コンプライアンス違反時の対応および2017年の法令違反について	P128 (該当なし)

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

ISO26000対照表

中核主題と課題	サステナビリティ データブック2018での該当箇所
6.2 組織統治	<ul style="list-style-type: none"> ●トップメッセージ ●花王サステナビリティ ステートメント ●消費者とのコミュニケーション ●法人顧客とのコミュニケーション ●持続可能で責任ある調達 ●人財開発の全体像 ●人財育成 ●ガバナンス P5 P8-14 P88-93 P94-107 P134-142 P143-144 P145-147 P175-210
6.3 人権	<ul style="list-style-type: none"> ●人権 ●花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(BCG)(レポート外) P130-133 —
6.3.3 デューデリジェンス	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント ●インテグリティ ●人権 ●持続可能で責任ある調達 ●ダイバーシティ&インクルージョン P8-14 P121-129 P130-133 P134-142 P148-154
6.3.4 人権に関する危機的状況	<ul style="list-style-type: none"> ●人権 ●ダイバーシティ&インクルージョン P130-133 P148-154
6.3.5 加担の回避	<ul style="list-style-type: none"> ●人権 ●持続可能で責任ある調達 ●ダイバーシティ&インクルージョン P130-133 P134-142 P148-154
6.3.6 苦情解決	<ul style="list-style-type: none"> ●インテグリティ ●消費者とのコミュニケーション P121-129 P88-93
6.3.7 差別及び社会的弱者	<ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献活動 ●ダイバーシティ&インクルージョン P108-115 P148-154
6.3.8 市民的及び政治的権利	<ul style="list-style-type: none"> ●インテグリティ ●社員との対話 P121-129 P155-157
6.3.9 経済的・社会的及び文化的権利	<ul style="list-style-type: none"> ●社会貢献活動 ●インテグリティ ●ダイバーシティ&インクルージョン P108-115 P121-129 P148-154
6.3.10 労働における基本的原則及び権利	<ul style="list-style-type: none"> ●インテグリティ ●人財開発の全体像 ●人財育成 P121-129 P143-144 P145-147

中核主題と課題	サステナビリティ データブック2018での該当箇所
6.4 労働慣行	
6.4.3 雇用及び雇用関係	<ul style="list-style-type: none"> ●インテグリティ ●ダイバーシティ&インクルージョン P121-129 P148-154
6.4.4 労働条件及び社会的保護	<ul style="list-style-type: none"> ●社員との対話 P155-157
6.4.5 社会対話	<ul style="list-style-type: none"> ●社員との対話 P155-157
6.4.6 労働における安全衛生	<ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生 ●保安防災 ●レスポンス・ケア活動 P165-169 P170-174 P184-190
6.4.7 職場における人材育成及び訓練	<ul style="list-style-type: none"> ●人財育成 P145-147
6.5 環境	
6.5.3 汚染の予防	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント ●環境への取り組み ●水 ●化学物質管理 ●廃棄物 P8-14 P19-26 P36-42 P43-54 P60-65
6.5.4 持続可能な資源の利用	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント ●環境への取り組み ●水 ●生物多様性 ●持続可能で責任ある調達 P8-14 P19-26 P36-42 P55-59 P134-142
6.5.5 気候変動緩和及び適応	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント ●環境への取り組み ●CO₂ P8-14 P19-26 P27-35
6.5.6 環境保護・生物多様性・及び自然生息地の回復	<ul style="list-style-type: none"> ●花王サステナビリティ ステートメント ●環境への取り組み ●生物多様性 ●持続可能で責任ある調達 P8-14 P19-26 P55-59 P134-142

エ
コ
ロ
ジ
ー

コ
ミ
ュ
ニ
ティ

コ
ー
ポ
レ
ー
ト
・
カ
ル
チ
ャ
ー

ガ
バ
ナ
ン
ス

ISO26000対照表

中核主題と課題	サステナビリティ データブック2018での該当箇所	
6.6 公正な事業慣行		
6.6.3 汚職防止	●インテグリティ ●コーポレート・ガバナンス	P121-129 P176-183
6.6.4 責任ある政治的関与	●インテグリティ	P121-129
6.6.5 公正な競争	●インテグリティ ●コーポレート・ガバナンス	P121-129 P176-183
6.6.6 バリューチェーンにおける社会的責任の推進	●消費者とのコミュニケーション ●法人顧客とのコミュニケーション ●インテグリティ ●持続可能で責任ある調達 ●コーポレート・ガバナンス	P88-93 P94-107 P121-129 P134-142 P176-183
6.6.7 財産権の尊重	●インテグリティ ●知的財産の保護と権利活用	P121-129 P207-210
6.7 消費者課題		
6.7.3 公正なマーケティング・事実即ち偏りのない情報・及び公正な契約慣行	●消費者とのコミュニケーション ●法人顧客とのコミュニケーション ●持続可能で責任ある調達	P88-93 P94-107 P134-142
6.7.4 消費者の安全衛生の保護	●品質保証 ●消費者とのコミュニケーション	P76-81 P88-93
6.7.5 持続可能な消費	●心地よく過ごすことがecoにつながる、未来の容器 ●エコロジー ●容器包装 ●消費者とのコミュニケーション ●法人顧客とのコミュニケーション	P6-7 P18-74 P66-70 P88-93 P94-107
6.7.6 消費者に対するサービス・支援・並びに苦情及び紛争の解決	●品質保証 ●消費者とのコミュニケーション	P76-81 P88-93

中核主題と課題	サステナビリティ データブック2018での該当箇所	
6.7.7 消費者データ保護及びプライバシー	●インテグリティ ●情報セキュリティ	P121-129 P200-206
6.7.8 必要不可欠なサービスへのアクセス	●消費者とのコミュニケーション	P88-93
6.7.9 教育及び意識向上	●環境への取り組み ●品質保証 ●消費者とのコミュニケーション ●社会貢献活動	P19-26 P76-81 P88-93 P108-115
6.8 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展		
6.8.3 コミュニティへの参画	●花王サステナビリティ ステートメント ●エコロジー ●コミュニティ ●コーポレート・カルチャー ●環境への取り組み ●生物多様性	P8-14 P18-74 P75-115 P116-174 P19-26 P55-59
6.8.4 教育及び文化	●コミュニティ ●環境への取り組み ●生物多様性 ●社会貢献活動	P75-115 P19-26 P55-59 P108-115
6.8.5 雇用創出及び技能開発	●法人顧客とのコミュニケーション	P94-107
6.8.6 技術の開発及び技術へのアクセス	●エコロジー ●コミュニティ	P18-74 P75-115
6.8.7 富及び所得の創出	●コミュニティ ●コーポレート・カルチャー	P75-115 P116-174
6.8.8 健康	●社会貢献活動 ●健康	P108-115 P158-164
6.8.9 社会的投資	●エコロジー ●コミュニティ ●コーポレート・カルチャー	P18-74 P75-115 P116-174

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

調査用インデックス

方針・規定・基準名

カテゴリー	方針・規定・基準名	PDF
花王サステナビリティ ステートメント	花王ウェイ	P8
	花王サステナビリティステートメント	P8
	9つの重点取り組みテーマと貢献するSDGs	P9
	9つの重点取り組みテーマに対する具体的な活動項目	P9
	重点取り組みテーマの選定プロセス	P10
エコロジー	重要項目マトリックス	P11
	4つの重要課題	P19
	環境宣言 中期目標(リンク)	P19
	環境・安全の基本理念と基本方針(リンク)	P20
	環境宣言(リンク)	P20
	環境適合設計要領	P22
	“いっしょにeco”マーク表示基準	P22
	CO ₂ :リスクと機会	P27
	エネルギーと温室効果ガスに関する目標	P29
	水:リスクと機会	P36-37
	水に関する目標	P39
	SAICM推進の基本方針	P43
	生物多様性保全の基本方針(リンク)	P55
	生物多様性保全の行動指針と活動事例(リンク)	P55
廃棄物に関する目標	P62	
コミュニティ	品質保証活動の基本方針	P76
	家庭品の花王安全基準(リンク)	P81
	化粧品の花王安全基準(リンク)	P81
	食品の花王安全基準(リンク)	P81
	動物実験に対する方針	P81
	花王ユニバーサルデザイン指針	P82
	消費者志向宣言	P88
	社会貢献活動方針	P108
コーポレート・ カルチャー	花王人権方針(リンク)	P130
	花王 ビジネス コンダクト ガイドライン(花王企業行動方針)(リンク)	P130
	調達基本方針(リンク)	P130
	調達先ガイドライン(リンク)	P130
	英国法“Modern Slavery Act 2015”への対応(リンク)	P132
	原材料調達ガイドライン(リンク)	P134
	「持続可能なパーム油」の調達ガイドライン	P138
	「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドライン	P139
	人財開発基本方針	P144
	人財開発のビジョン	P144
ガバナンス	花王グループ健康宣言	P158
	KAO 健康2020	P161
	休業無災害表彰基準	P168
	社外役員の独立性に関する基準(リンク)	P180
	役員の報酬等の額の決定に関する方針	P181
	花王レスポンシブル・ケア方針(リンク)	P184
情報開示指針(リンク)	P195	

体制・仕組み

カテゴリー	体制・仕組み	PDF
花王サステナビリティ ステートメント	サステナビリティ推進体制	P12
	ステークホルダーコミュニケーション	P14
エコロジー	CO ₂ :製品ライフサイクル別の管理部門と関連するステークホルダー	P28
	水:製品ライフサイクル別の管理部門と関連するステークホルダー	P38
	SAICM推進体制	P44
	花王化学物質総合管理システム	P45
	容器包装開発推進体制	P66
	品質保証体制	P77
コミュニティ	ユニバーサルデザイン推進プロジェクトの体制	P83
	生活者の声を製品に活かすしくみ	P89
	コンシューマープロダクツ事業:コミュニケーション体制	P95
	ケミカル事業:「グリーン・イノベーション」と「エコ・テクノロジーソリューション」	P98
	プロフェッショナル・サービス事業:推進体制	P103
	社会貢献活動の全体像	P109
	社会貢献活動推進体制	P109
	花王ウェイ活動の推進体制	P118
	コンプライアンス活動のPDCA	P121
	コンプライアンスの推進体制	P122
コーポレート・ カルチャー	花王 グローバル共通プログラム・部門専門プログラム	P145
	仕事と育児・介護の両立支援の主な取り組み	P152
	多様な働き方のための主な就業制度(花王(株))	P153
	社員の対話に関する体制	P156
	組織力向上のRPDCA	P157
	「Find」の調査項目	P157
	健康づくりマネジメントシステム	P159
	健康づくり推進体制	P160
	コーポレート・ガバナンス体制	P176
	取締役会、監査役会、委員会出席メンバー	P179
ガバナンス	レスポンシブル・ケア推進体制	P185
	レスポンシブル・ケア活動の年間サイクル	P188
	リスクと危機の管理体制	P192
	コーポレートリスクの運営	P193
	危機発生時の体制(一例)	P193
	情報開示の管理体制	P196
	情報セキュリティの管理体制	P200-201
	情報セキュリティ活動のPDCA	P202
	個人情報委託先監査	P205
	産業財産権管理体制	P208

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

調査用インデックス

パフォーマンスデータ

カテゴリー	パフォーマンスデータ	PDF
主なサステナビリティ指標	エコロジーの指標と実績	P15
	コミュニティの指標と実績	P16
	コーポレート・カルチャーの指標と実績	P16
エコロジー	“いっしょにeCO”マーク表示製品売上比率(国内消費者向け製品)	P21
	CDPによる評価	P21
	花王の製品ライフサイクル各段階で排出されるCO ₂ の割合	P28
	エネルギー使用量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (全拠点)	P29
	製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (花王グループ)	P29
	温室効果ガス排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (全拠点)	P29
	製品ライフサイクル全体のCO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (日本花王グループ)	P30
	スコープ1 CO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/>	P30
	スコープ2 CO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/>	P30
	電気・蒸気等購入量の推移	P30
	燃料種別消費量の推移	P30
	スコープ3 CO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (注:1,4,11,12)	P30
	輸送時のCO ₂ 排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (国内)	P34
	洗たく1回当たりに使用する洗剤のCO ₂ 排出量の比較	P35
	花王の製品ライフサイクル各段階で使用される水の割合	P37
	水使用量(取水)の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (全拠点)	P39
	製品使用時の水使用量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (日本花王グループ)	P39
	製品ライフサイクル全体の水使用量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (花王グループ)	P39
	COD汚濁負荷量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (全生産拠点)	P40
	水源別取水量の推移	P40
	放流先別排水量の推移	P40
	環境法規制 遵守状況	P41
	PRTR法対象化学物質の総排出量の推移	P53
	VOC(揮発性有機化合物)取扱量と排出量 <input checked="" type="checkbox"/>	P54
	NOx排出量の推移 <input checked="" type="checkbox"/>	P54
	SOx排出量の推移	P54
	廃棄物等発生量の推移 <input checked="" type="checkbox"/> (全拠点)	P62
容器包装材料使用量の推移	P68	
つめかえ・つけかえ製品のあるカテゴリーのプラスチック使用量と削減量の推移	P70	
2017年事業活動と環境負荷 <input checked="" type="checkbox"/> (注:一部データ)	P71	
2017年の環境会計報告	P73-74	
コミュニティ	直近3年間のリコール状況	P80
	プロフェッショナル・サービス事業:衛生講習会実施回数	P106
	プロフェッショナル・サービス事業:ワーキンググループ活動	P107
コーポレート・カルチャー	社員へのコンプライアンス教育啓発の目標と実績	P124
	2017年の花王グループにおける法令違反	P128
	2017年に法令エキスパートにより改正の対応がされた法令等	P128
	2017年12月末現在の「法令エキスパート」登録法令数、社内規程登録数の状況	P128
	「持続可能なパーム油」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績	P138
	花王グループの認証油購入実績	P139

カテゴリー	パフォーマンスデータ	PDF
コーポレート・カルチャー	「持続可能な紙・パルプ」の調達ガイドラインにおける目標と2017年実績	P139
	社会面 モニタリング企業数と基準を達成している企業比率	P140
	環境面 モニタリング工場数と基準を達成している工場比率	P140
	ベンダーサミット出席会社数	P141
	社員1人当たり平均研修時間 2017年実績(連結)	P147
	社員1人当たり教育訓練費(連結)	P147
	花王グループ社員数(正社員)	P150
	花王(株)の状況(正社員)	P150
	花王グループ 女性社員の状況	P150
	花王(株)再雇用者数	P150
	花王グループ 障がい者雇用率	P151
	就業制度の利用状況(花王(株))	P153
	全社健康推進活動展開 2017年実績	P160
	各事業所での健康推進活動展開 2017年実績	P160
	社員の健康づくり推進状況 2017年実績	P161
	全社メンタルヘルスケア活動展開 2017年実績	P164
	2017年の労働安全衛生の目標と実績(花王グループ) <input checked="" type="checkbox"/> (注:一部データ)	P166
	2018年の労働安全衛生の目標(花王グループ)	P167
	休業無災害表彰(2017年)	P168
	保安防災の目標と実績(花王グループ)	P172
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス強化に向けたこれまでの取り組み	P176
	2017年度 施設見学会、会社概況説明会実施状況	P180
	2017年度の役員報酬の実績	P182
	レスポンスシブル・ケア事務局監査実績(2017年)	P189
	国際マネジメントシステム認証状況	P190
	株主・投資家との対話(2017年)	P197
	第112期定時株主総会(2018年3月開催)出席株主数	P198
	2017年1月~12月の外部表彰一覧	P211-212
外部評価	SRI インデックスへの組み入れおよび評価(リンク)	P212

エコロジー

コミュニティ

コーポレート・カルチャー

ガバナンス

KaO

自然と調和する ころ豊かな毎日をめざして

花王株式会社

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町 1-14-10

<http://www.kao.com>

2018年4月発行

UD
FONT
by HIRAGINO